

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウソフィア ジョウチガクイン 学校法人 上智学院							
フリガナ大学の名称	ジョウチガク 上智大学 (Sophia University)							
大学本部の位置	東京都千代田区紀尾井町7番1号							
大学の目的	<p>本学は、カトリックの伝統を受け継ぎ、キリスト教ヒューマニズムに基づき、学術の中心として、真理を探究し、広い知識と深い専門の学芸を教授し、知的、道徳的及び応用的能力の展開による人間形成につとめ、有能な社会の先導者を育成するとともに、文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>神学部および理工学部は、過去数年間にわたり、安定的に志願者を確保している。 また、本学が輩出する人材についても安定的に社会に受け入れられており、本学への進学意欲や人材養成に対する期待は高い。神学部は、堅固な価値観を養い、その実現の方策を探ることを通して現代社会のために貢献できる人材養成を、理工学部は、科学技術や多様化する社会対応する力（複合知）と専門分野を習得し、「科学・技術の発展」に貢献できる人材養成を目指している。 これらの人材を養成することにより、社会の要請に応え、建学の理念や人材養成の目的を実現することを企図し、入学定員を増員するものである。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	神学部 【Faculty of Theology】	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	神学科 【Department of Theology】	4	50 (40)	3年次 8	216 (176)	学士（神学） 【Bachelor of Arts In Theology】	令和5年4月 第1年次	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	文学部 【Faculty of Humanities】							
	哲学科 【Department of Philosophy】	4	60	-	240	学士（哲学） 【Bachelor of Arts In Philosophy】	昭和23年4月 第1年次	同上
	史学科 【Department of History】	4	70	-	280	学士（史学） 【Bachelor of Arts In History】	昭和23年4月 第1年次	同上
	国文学科 【Department of Japanese Literature】	4	60	-	240	学士（文学） 【Bachelor of Arts In Literature】	昭和34年4月 第1年次	同上
	英文学科 【Department of English Literature】	4	100	-	400	学士（文学） 【Bachelor of Arts In Literature】	昭和23年4月 第1年次	同上
	ドイツ文学科 【Department of German Literature】	4	50	-	200	学士（文学） 【Bachelor of Arts In Literature】	昭和23年4月 第1年次	同上
フランス文学科 【Department of French Literature】	4	50	-	200	学士（文学） 【Bachelor of Arts In Literature】	昭和41年4月 第1年次	同上	
新聞学科 【Department of Journalism】	4	120	-	480	学士（新聞学） 【Bachelor of Arts In Journalism】	昭和23年4月 第1年次	同上	

新設学部等の概要	総合人間科学部 【Faculty of Human Sciences】								
	教育学科 【Department of Education】	4	60	-	240	学士(教育学) 【Bachelor of Arts In Education】	平成17年4月 第1年次	同上	
	心理学科 【Department of Psychology】	4	55	-	220	学士(心理学) 【Bachelor of Arts In Psychology】	平成17年4月 第1年次	同上	
	社会学科 【Department of Sociology】	4	60	-	240	学士(社会学) 【Bachelor of Arts In Sociology】	平成17年4月 第1年次	同上	
	社会福祉学科 【Department of Social Services】	4	60	-	240	学士(社会福祉学) 【Bachelor of Arts In Social Services】	平成17年4月 第1年次	同上	
	看護学科 【Department of Nursing】	4	70	-	280	学士(看護学) 【Bachelor of Nursing】	平成23年度4月 第1年次	東京都千代田区紀尾井町7番1号(1年~4年) 東京都新宿区下落合4丁目16番11号(2年~4年)	
	法学部 【Faculty of Law】								
	法律学科 【Department of Law】	4	160	-	640	学士(法学) 【Bachelor of Arts In Law】	昭和32年4月 第1年次	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
	国際関係法学科 【Department of International Legal Studies】	4	100	-	400	学士(法学) 【Bachelor of Arts In Law】	昭和55年4月 第1年次	同上	
	地球環境法学科 【Department of Legal Studies of the Global Environment】	4	70	-	280	学士(法学) 【Bachelor of Arts In Law】	平成9年4月 第1年次	同上	
	経済学部 【Faculty of Economics】								
	経済学科 【Department of Economics】	4	165	-	660	学士(経済学) 【Bachelor of Arts In Economics】	昭和23年4月 第1年次	同上	
	経営学科 【Department of Management】	4	165	-	660	学士(経営学) 【Bachelor of Arts In Management】	昭和23年4月 第1年次	同上	
	外国語学部 【Faculty of Foreign Studies】								
	英語学科 【Department of English Studies】	4	180	-	720	学士(外国研究) 【Bachelor of Arts In Foreign Studies】	昭和33年4月 第1年次	同上	
	ドイツ語学科 【Department of German Studies】	4	60	-	240	学士(外国研究) 【Bachelor of Arts In Foreign Studies】	昭和33年4月 第1年次	同上	
	フランス語学科 【Department of French Studies】	4	70	-	280	学士(外国研究) 【Bachelor of Arts In Foreign Studies】	昭和33年4月 第1年次	同上	
	イスペイン語学科 【Department of Hispanic Studies】	4	70	-	280	学士(外国研究) 【Bachelor of Arts In Foreign Studies】	昭和33年4月 第1年次	同上	
	ロシア語学科 【Department of Russian Studies】	4	60	-	240	学士(外国研究) 【Bachelor of Arts In Foreign Studies】	昭和33年4月 第1年次	同上	
	ポルトガル語学科 【Department of Luso-Brazilian Studies】	4	60	-	240	学士(外国研究) 【Bachelor of Arts In Foreign Studies】	昭和39年4月 第1年次	同上	

新設学部等の概要	総合グローバル学部 【Faculty of Global Studies】 総合グローバル学科 【Department of Global Studies】	4	220	-	880	学士（国際関係論） 【Bachelor of Arts In International Relations】 学士（地域研究） 【Bachelor of Arts In Area Studies】	平成26年4月 第1年次	同上
	国際教養学部 【Faculty of Liberal Arts】 国際教養学科 【Department of Liberal Arts】	4	186	-	744	学士（国際教養） 【Bachelor of Arts In Liberal Arts】	平成18年4月 第1年次	同上
	理工学部【Faculty of Science and Technology】 物質生命理工学科 【Department of Materials and Life Sciences】	4	137 (125)	-	548 (500)	学士（理工学） 【Bachelor of Science In Materials and Life Sciences】	令和5年4月 第1年次	同上
	機能創造理工学科 【Department of Engineering and Applied Sciences】	4	137 (125)	-	548 (500)	学士（理工学） 【Bachelor of Science In Engineering and Applied Sciences】	令和5年4月 第1年次	同上
	情報理工学科 【Department of Information and Communication Sciences】	4	136 (130)	-	544 (520)	学士（理工学） 【Bachelor of Science In Information and Communication Sciences】	令和5年4月 第1年次	同上
計		2,841 (2,801)	8	11,380 (11,220)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>上智社会福祉専門学校 社会福祉専門課程 社会福祉士・児童指導員科 (△40) 介護福祉士科 (△40) ※令和3年4月学生募集停止</p> <p>上智大学 神学部 神学科 [定員増] (10) 理工学部 物質生命理工学科 [定員増] (12) (令和5年4月) 機能創造理工学科 [定員増] (12) (令和5年4月) 情報理工学科 [定員増] (6) (令和5年4月)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	-	一科目	一科目	一科目	一科目	-単位		

	学部等の名称	専任教員等					助手	兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計			
教 員 組 織 の 概 要 分	新	神学部 神学科	9 (9)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	13 (13)
		文学部	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	7 (7)
		哲学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	14 (14)
		史学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	18 (18)
		国文学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	10 (10)
		英文学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	13 (13)
		ドイツ文学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	6 (6)
		フランス文学科	6 (6)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	11 (11)
		新聞学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	14 (14)
		総合人間科学部	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	21 (21)
		心理学科	9 (9)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	14 (14)
		社会学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	11 (11)
		社会福祉学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)
		看護学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	19 (19)	15 (15)	35 (35)
		法学部 法律学科	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)
		国際関係法学科	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
		地球環境法学科	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	18 (18)
		経済学部 経済学科	12 (12)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	26 (26)
		経営学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	19 (19)
		外国語学部	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	46 (46)
		英語学科	13 (13)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	15 (15)
		ドイツ語学科	6 (6)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	14 (14)

教 員 組 織 の 分	新 設	フランス語学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	16 (16)
		イスパニア語学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	10 (10)
		ロシア語学科	4 (4)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	8 (8)
		ポルトガル語学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	8 (8)
		総合グローバル学部 総合グローバル学科	21 (21)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	18 (18)
		国際教養学部 国際教養学科	14 (14)	18 (18)	0 (0)	1 (1)	33 (33)	0 (0)	26 (26)
		理工学部	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)
		理工学部 物質生命理工学科	23 (23)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	33 (33)	0 (0)	4 (4)
		機能創造理工学科	24 (24)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	36 (36)	0 (0)	4 (4)
		情報理工学科	17 (17)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	29 (29)	0 (0)	26 (26)
	計	271 (271)	108 (108)	6 (6)	39 (39)	424 (424)	15 (15)	— (—)	
概 要	既 設 分	基盤教育センター	3 (3)	3 (3)	4 (4)	11 (11)	21 (21)	0 (0)	34 (34)
		言語教育研究センター	8 (8)	11 (11)	24 (24)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	215 (215)
		グローバル教育センター	6 (6)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	15 (15)
		小計	17 (17)	14 (14)	30 (30)	12 (12)	73 (73)	0 (0)	— (—)
		合計	288 (288)	122 (122)	36 (36)	51 (51)	497 (497)	15 (15)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		416 (416)		7 (7)		423 (423)		
	技 術 職 員		4 (4)		0 (0)		4 (4)		
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		422 (422)		7 (7)		429 (429)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	<他の学校との共用部分> ・泰野キャンパス運動 場用地は上智大学短期 大学部と共用 (収容定員：500名)				
	校 舎 敷 地	206,794.58 m ²	0 m ²	21,947 m ²	228,741.58 m ²	<借用地> ・四谷運動場 (借用面積： 23,972.87m ²) (貸与者：東京都) (借用期間：平成21 年10月28日から平成41 年10月27日まで。その 後も継続して契約予 定。)				
	運 動 場 用 地	23,972.87 m ²	82,867 m ²	0 m ²	106,839.87 m ²	・四谷キャンパス一部 (借用面積：4,260 m ²) (貸与者：宗教法人 カトリック イエズス会) (借用期間：平成28 年6月1日 から令和8年5月31 日まで。その後も継続 して契約予定。)				
	小 計	230,767.45 m ²	82,867 m ²	21,947 m ²	335,581.45 m ²	・石神井キャンパス (借用面積：1,600.8 m ²) (貸与者：宗教法 人カトリック イエズス会) (借用期間：平成28 年6月1日から令和8年 5月31日まで。その後も 継続して契約予定。)				
	そ の 他	22,458.84 m ²	0 m ²	4,768 m ²	27,226.84 m ²					
	合 計	253,226.29 m ²	82,867 m ²	26,715 m ²	362,808.29 m ²					
校 舎	専 用	177,211.04m ²	0m ²	0m ²	177,211.04m ²	<借用> ・大阪サテライトキャン パス (借用面積：664.50 m ²) (貸与者：宗教法人 カトリック 大阪大司教区) (借用期間：平成23年4 月1日から令和13年3月 31日まで。その後も継 続して契約予定。)				
	(177,211.04m ²)	(0m ²)	(0m ²)	(0m ²)	(177,211.04m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	119 室	134 室	223 室	8 室 (補助職員 0人)	10 室 (補助職員 34人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	大学全体			691 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本			
	大学全体	1,128,528 [487,709] (1,126,128 [487,309])	60,714 [55,536] (60,714 [55,536])	49,437 [49,437] (49,437 [49,437])	18,472 (18,472)	0 (0)	0 (0)			
	計	1,128,528 [487,709] (1,126,128 [487,309])	60,714 [55,536] (60,714 [55,536])	49,437 [49,437] (49,437 [49,437])	18,472 (18,472)	0 (0)	0 (0)			
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	20,709m ²	1,951		2,022,000						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	3,253.53 m ²									
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費にはオンライン 資料、データベース (オンライン検 索)使用料、AV関連 資料を含む。
		教員1人当り研究費等		530千円	530千円	530千円	530千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費		30,624千円	30,624千円	30,624千円	30,624千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費		323,043千円	323,043千円	323,043千円	323,043千円	— 千円	— 千円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		神学部・文学部(新聞学科除 く)・総合人間科学部(心 理・看護除く)・法学部・経 済学部・外国語学部・総合グ ローバル学部	1,270千円	1,070千円	1,070千円	1,070千円	— 千円	— 千円		
		文学部 新聞学科	1,310千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	— 千円	— 千円		
		総合人間科学部 心理学科	1,347千円	1,147千円	1,147千円	1,147千円	— 千円	— 千円		
		総合人間科学部 看護学科	1,814千円	1,614千円	1,614千円	1,614千円	— 千円	— 千円		
理工学部		1,812千円	1,612千円	1,612千円	1,612千円	— 千円	— 千円			
国際教養学部	1,488千円	1,288千円	1,288千円	1,288千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入等								

大学等の名称	上智大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	神学部			3年次			1.03		
	神学科	4	40	8	176	学士(神学)	1.03	昭和33年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	文学部						1.01		
	哲学科	4	60	—	240	学士(哲学)	1.01	昭和23年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	史学科	4	70	—	280	学士(史学)	1.05	同上	同上
	国文学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.01	昭和34年度	同上
	英文学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.02	昭和23年度	同上
	ドイツ文学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.00	同上	同上
	フランス文学科	4	50	—	200	学士(文学)	0.99	昭和41年度	同上
	新聞学科	4	120	—	480	学士(新聞学)	1.03	昭和23年度	同上
	総合人間科学部						1.01		
	教育学科	4	60	—	240	学士(教育学)	1.03	平成17年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	心理学科	4	55	—	220	学士(心理学)	1.00	同上	同上
	社会学科	4	60	—	240	学士(社会学)	1.03	同上	同上
	社会福祉学科	4	60	—	240	学士(社会福祉学)	1.02	同上	同上
	看護学科	4	70	—	280	学士(看護学)	0.99	平成23年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号 (1年～4年) 東京都新宿区下落合4丁目16番11号 (2年～4年)
	法学部						1.01		
	法律学科	4	160	—	640	学士(法学)	1.01	昭和32年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	国際関係法学科	4	100	—	400	学士(法学)	1.01	昭和55年度	同上
	地球環境法学科	4	70	—	280	学士(法学)	1.01	平成9年度	同上
	経済学部						1.01		
	経済学科	4	165	—	660	学士(経済学)	1.01	昭和23年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	経営学科	4	165	—	660	学士(経営学)	1.01	同上	同上
	外国語学部						1.01		
	英語学科	4	180	—	720	学士(外国研究)	1.01	昭和33年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	ドイツ語学科	4	60	—	240	学士(外国研究)	1.01	同上	同上
	フランス語学科	4	70	—	280	学士(外国研究)	1.00	同上	同上
	イスパニア語学科	4	70	—	280	学士(外国研究)	1.00	同上	同上
	ロシア語学科	4	60	—	240	学士(外国研究)	1.01	同上	同上
	ポルトガル語学科	4	60	—	240	学士(外国研究)	1.01	昭和39年度	同上
	総合グローバル学部						1.02		
	総合グローバル学科	4	220	—	880	学士(国際関係論) 学士(地域研究)	1.02	平成26年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	国際教養学部						1.04		
国際教養学科	4	186	—	744	学士(国際教養)	1.04	平成18年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
理工学部						1.01			
物質生命理工学科	4	125	—	500	学士(理工学)	0.99	平成20年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
機能創造理工学科	4	125	—	500	学士(理工学)	1.01	同上	同上	
情報理工学科	4	130	—	520	学士(理工学)	1.01	同上	同上	

大学等の名称	上智大学大学院				学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員					
	年	人	年次人	人		倍			
神学研究科									
神学専攻									
(博士前期課程)	2	20	—	40	修士(神学)	0.15	昭和26年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
組織神学専攻									
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(神学)	0.41	昭和30年度	同上	
哲学研究科									
哲学専攻									
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(哲学)	—	昭和26年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	※平成28年度より学生募集停止(哲学専攻(博士前期課程、博士後期課程))
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(哲学)	—	昭和30年度	同上	
文学研究科									
哲学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(哲学)	0.70	平成28年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(哲学)	0.33	平成28年度	同上	
史学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(史学)	0.40	昭和41年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(史学)	0.22	昭和46年度	同上	
国文学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.30	昭和43年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	昭和45年度	同上	
英米文学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.35	昭和41年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.00	同上	同上	
ドイツ文学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.50	昭和41年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	同上	同上	
フランス文学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.05	昭和43年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	昭和46年度	同上	
新聞学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(新聞学)	0.40	昭和46年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(新聞学)	0.44	昭和49年度	同上	
文化交渉学専攻									
(博士前期課程)	2	16	—	32	修士(文学)	0.28	平成23年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	同上	同上	
実践宗教学研究科									
死生学専攻									
(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.90	平成28年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	1.10	平成29年度	同上	

既設大学等の状況

既設大学等の状況	総合人間科学研究科								
	教育学専攻								
	(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(教育学)	0.95	平成17年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(教育学)	0.73	同上	同上
	心理学専攻								
	(博士前期課程)	2	20	—	40	修士(心理学)	0.97	平成17年度	同上
	(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(心理学)	0.73	同上	同上
	社会学専攻								
	(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(社会学)	0.60	平成17年度	同上
	(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(社会学)	0.11	同上	同上
	社会福祉学専攻								
	(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(社会福祉学)	0.40	平成17年度	同上
	(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(社会福祉学)	0.22	同上	同上
	看護学専攻								
	(修士課程)	2	9	—	18	修士(看護学)	0.44	平成23年度	同上
	法学研究科								
	法律学専攻								
	(博士前期課程)	2	20	—	40	修士(法学)	0.37	昭和41年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(法学)	0.00	昭和43年度	同上
	法曹養成専攻								
	(専門職学位課程)	3	40	—	120	法務博士(専門職)	0.57	平成16年度	同上
	経済学研究科								
	経済学専攻								
(博士前期課程)	2	15	—	30	修士(経済学)	0.39	昭和26年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(経済学)	1.00	平成19年度	同上	
経営学専攻									
(博士前期課程)	2	15	—	30	修士(経営学)	0.56	平成19年度	同上	
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(経営学)	0.16	同上	同上	
言語科学研究科									
言語学専攻									
(博士前期課程)	2	33	—	66	修士(言語学)	0.81	昭和45年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号	
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(言語学)	1.20	昭和48年度	同上	

既設大学等の状況	グローバル・スタディーズ 研究科											
	国際関係論専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(国際関係論)	0.56	平成18年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号			
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(国際関係論)	0.10	同上	同上			
	地域研究専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(地域研究)	0.26	平成18年度	同上			
	(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(地域研究)	0.40	同上	同上			
	グローバル社会専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(比較日本研究)	1.28	平成18年度	同上			
	(博士後期課程)	3	3	—	9	修士(国際経営開発学) 修士(グローバル社会研究) 博士(比較日本研究) 博士(グローバル社会研究)	0.55	同上	同上			
	国際協力学専攻 (修士課程)	2	10	—	10	修士(国際協力学)	0.30	令和3年度	同上			
	理工学研究科 理工学専攻 (博士前期課程)	2	250	—	500	修士(理学) 修士(工学)	0.72	平成20年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号			
	(博士後期課程)	3	20	—	60	博士(理学) 博士(工学)	0.64	同上	同上			
	地球環境学研究科 地球環境学専攻 (博士前期課程)	2	60	—	120	修士(環境学)	1.33	平成17年度	東京都千代田区紀尾井町7番1号			
	(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(環境学)	0.80	同上	同上			
	大 学 の 名 称	上智大学短期大学部										
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
英語科	2年	250人	—年次人	500人	短期大学士(英語)	0.71倍	昭和48年度	神奈川県秦野市上大槻山王台999番地				
附属施設の概要	該当なし											

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行うとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行うとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

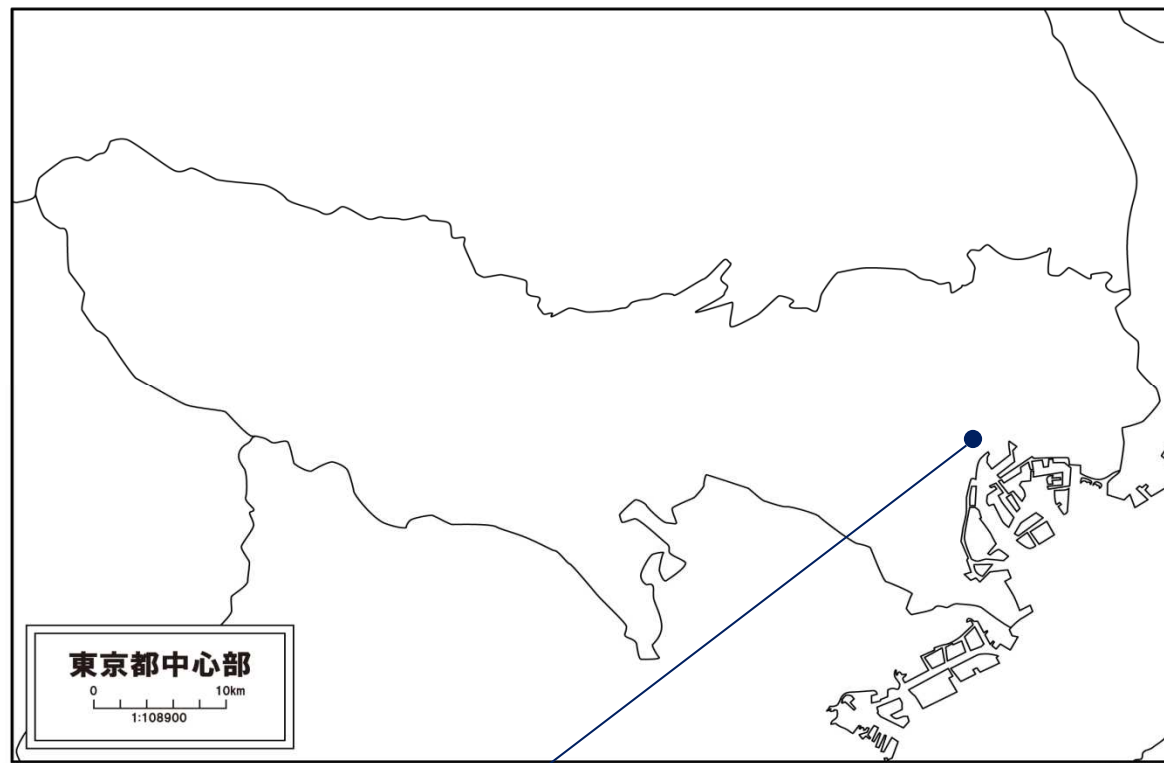
学校法人上智学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入 学	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
上智大学				上智大学				
神学部		3年次		神学部		3年次		
神学科	40	8	176	神学科	50	8	216	定員変更 (10)
文学部				文学部				
哲学科	60	-	240	哲学科	60	-	240	
史学科	70	-	280	史学科	70	-	280	
国文学科	60	-	240	国文学科	60	-	240	
英文学科	100	-	400	英文学科	100	-	400	
ドイツ文学科	50	-	200	ドイツ文学科	50	-	200	
フランス文学科	50	-	200	フランス文学科	50	-	200	
新聞学科	120	-	480	新聞学科	120	-	480	
総合人間科学部				総合人間科学部				
教育学科	60	-	240	教育学科	60	-	240	
心理学科	55	-	220	心理学科	55	-	220	
社会学科	60	-	240	社会学科	60	-	240	
社会福祉学科	60	-	240	社会福祉学科	60	-	240	
看護学科	70	-	280	看護学科	70	-	280	
法学部				法学部				
法律学科	160	-	640	法律学科	160	-	640	
国際関係法学科	100	-	400	国際関係法学科	100	-	400	
地球環境法学科	70	-	280	地球環境法学科	70	-	280	
経済学部				経済学部				
経済学科	165	-	660	経済学科	165	-	660	
経営学科	165	-	660	経営学科	165	-	660	
外国語学部				外国語学部				
英語学科	180	-	720	英語学科	180	-	720	
ドイツ語学科	60	-	240	ドイツ語学科	60	-	240	
フランス語学科	70	-	280	フランス語学科	70	-	280	
イスパニア語学科	70	-	280	イスパニア語学科	70	-	280	
ロシア語学科	60	-	240	ロシア語学科	60	-	240	
ポルトガル語学科	60	-	240	ポルトガル語学科	60	-	240	
総合グローバル学部				総合グローバル学部				
総合グローバル学科	220	-	880	総合グローバル学科	220	-	880	
国際教養学部				国際教養学部				
国際教養学科	186	-	744	国際教養学科	186	-	744	
理工学部				理工学部				
物質生命理工学科	125	-	500	物質生命理工学科	137	-	548	定員変更 (12)
機能創造理工学科	125	-	500	機能創造理工学科	137	-	548	定員変更 (12)
情報理工学科	130	-	520	情報理工学科	136	-	544	定員変更 (6)
計	2,801	8	11,220	計	2,841	8	11,380	
上智大学大学院				上智大学大学院				
神学研究科				神学研究科				
神学専攻 (M)	20	-	40	神学専攻 (M)	20	-	40	
組織神学専攻 (D)	4	-	12	組織神学専攻 (D)	4	-	12	
文学研究科				文学研究科				
哲学専攻 (M)	10	-	20	哲学専攻 (M)	10	-	20	
哲学専攻 (D)	3	-	9	哲学専攻 (D)	3	-	9	
史学専攻 (M)	10	-	20	史学専攻 (M)	10	-	20	
史学専攻 (D)	3	-	9	史学専攻 (D)	3	-	9	
国文学専攻 (M)	10	-	20	国文学専攻 (M)	10	-	20	
国文学専攻 (D)	3	-	9	国文学専攻 (D)	3	-	9	
英米文学専攻 (M)	10	-	20	英米文学専攻 (M)	10	-	20	
英米文学専攻 (D)	3	-	9	英米文学専攻 (D)	3	-	9	
ドイツ文学専攻 (M)	10	-	20	ドイツ文学専攻 (M)	10	-	20	
ドイツ文学専攻 (D)	3	-	9	ドイツ文学専攻 (D)	3	-	9	
フランス文学専攻 (M)	10	-	20	フランス文学専攻 (M)	10	-	20	
フランス文学専攻 (D)	3	-	9	フランス文学専攻 (D)	3	-	9	
新聞学専攻 (M)	10	-	20	新聞学専攻 (M)	10	-	20	
新聞学専攻 (D)	3	-	9	新聞学専攻 (D)	3	-	9	
文化交渉学専攻 (M)	16	-	32	文化交渉学専攻 (M)	16	-	32	
文化交渉学専攻 (D)	3	-	9	文化交渉学専攻 (D)	3	-	9	
実践宗教学研究科				実践宗教学研究科				
死生学専攻 (M)	10	-	20	死生学専攻 (M)	10	-	20	
死生学専攻 (D)	3	-	9	死生学専攻 (D)	3	-	9	

学校法人上智学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入 学	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
総合人間科学研究科				総合人間科学研究科				
教育学専攻 (M)	10	-	20	教育学専攻 (M)	10	-	20	
教育学専攻 (D)	5	-	15	教育学専攻 (D)	5	-	15	
心理学専攻 (M)	20	-	40	心理学専攻 (M)	20	-	40	
心理学専攻 (D)	5	-	15	心理学専攻 (D)	5	-	15	
社会学専攻 (M)	10	-	20	社会学専攻 (M)	10	-	20	
社会学専攻 (D)	3	-	9	社会学専攻 (D)	3	-	9	
社会福祉学専攻 (M)	10	-	20	社会福祉学専攻 (M)	10	-	20	
社会福祉学専攻 (D)	3	-	9	社会福祉学専攻 (D)	3	-	9	
看護学専攻 (M)	9	-	18	看護学専攻 (M)	9	-	18	
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻 (M)	20	-	40	法律学専攻 (M)	20	-	40	
法律学専攻 (D)	4	-	12	法律学専攻 (D)	4	-	12	
法曹養成専攻 (P)	40	-	120	法曹養成専攻 (P)	40	-	120	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻 (M)	15	-	30	経済学専攻 (M)	15	-	30	
経済学専攻 (D)	2	-	6	経済学専攻 (D)	2	-	6	
経営学専攻 (M)	15	-	30	経営学専攻 (M)	15	-	30	
経営学専攻 (D)	2	-	6	経営学専攻 (D)	2	-	6	
言語科学研究科				言語科学研究科				
言語学専攻 (M)	33	-	66	言語学専攻 (M)	33	-	66	
言語学専攻 (D)	5	-	15	言語学専攻 (D)	5	-	15	
グローバル・スタディーズ研究科				グローバル・スタディーズ研究科				
国際関係論専攻 (M)	15	-	30	国際関係論専攻 (M)	15	-	30	
国際関係論専攻 (D)	6	-	18	国際関係論専攻 (D)	6	-	18	
地域研究専攻 (M)	15	-	30	地域研究専攻 (M)	15	-	30	
地域研究専攻 (D)	5	-	15	地域研究専攻 (D)	5	-	15	
グローバル社会専攻 (M)	30	-	60	グローバル社会専攻 (M)	30	-	60	
グローバル社会専攻 (D)	3	-	9	グローバル社会専攻 (D)	3	-	9	
国際協力学専攻 (M)	10	-	20	国際協力学専攻 (M)	10	-	20	
理工学研究科				理工学研究科				
理工学専攻 (M)	250	-	500	理工学専攻 (M)	200	-	400	定員変更 (△50)
理工学専攻 (D)	20	-	60	理工学専攻 (D)	20	-	60	
地球環境学研究科				地球環境学研究科				
地球環境学専攻 (M)	60	-	120	地球環境学専攻 (M)	60	-	120	
地球環境学専攻 (D)	10	-	30	地球環境学専攻 (D)	10	-	30	
				応用データサイエンス学位 プログラム (M)	50	-	100	研究科等連係課程実施基本組 織の開設 (認可又は届出)
計	782	-	1,708	計	782	-	1,708	
上智大学短期大学部				上智大学短期大学部				
英語科	250	-	500	英語科	250	-	500	
計	250	-	500	計	250	-	500	

(1) 都道府県内における位置関係の図面



上智大学四谷キャンパス
東京都千代田区紀尾井町 7-1

(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面







四谷キャンパス

JR中央線／東京地下鉄丸ノ内線・南北線

「四ッ谷」駅から徒歩3分

東京地下鉄有楽町線「麹町」駅から徒歩5分

(3) 校舎、運動場等の配置図(完成年度)

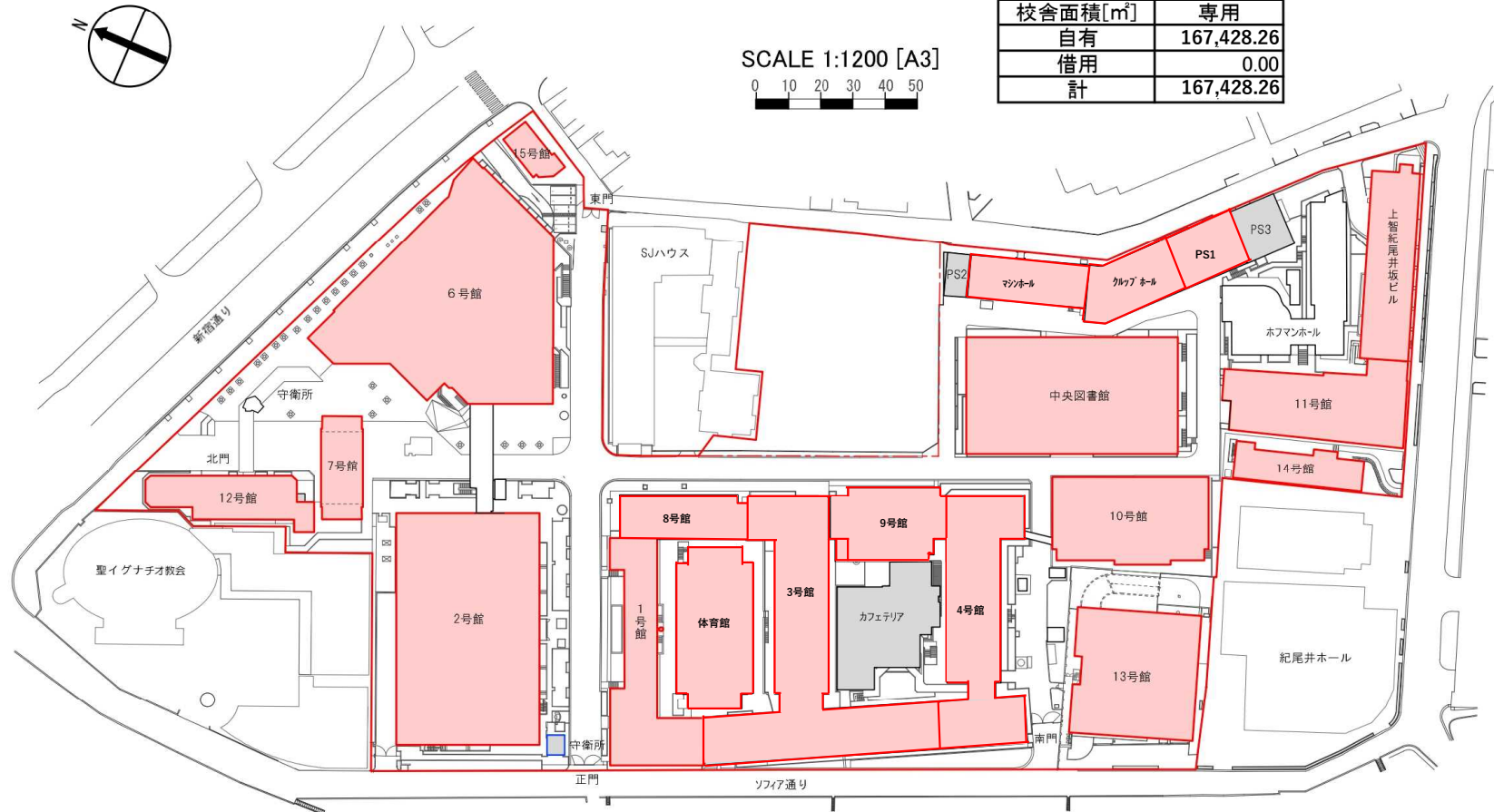
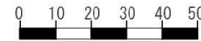
-  校地、運動場等
-  神学部・理工学部が使用する校舎
-  他の校舎
-  校舎以外

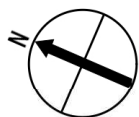
上智大学 四谷キャンパス
(東京都千代田区紀尾井町7-1)

校地面積[m ²]	校舎敷地	運動場敷地	計
自有	47,501.14	0.00	47,501.14
借用	4,260.00	23,972.87	28,232.87
計	51,761.14	23,972.87	75,734.01

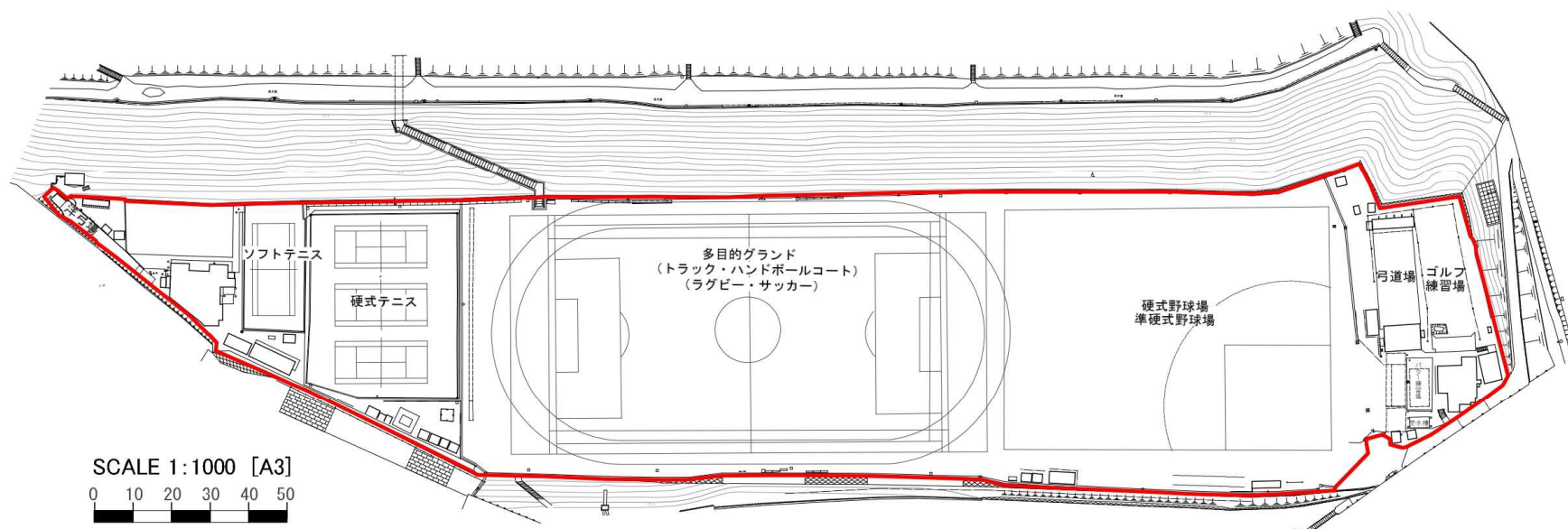
校舎面積[m ²]	専用
自有	167,428.26
借用	0.00
計	167,428.26

SCALE 1:1200 [A3]





上智大学 四谷キャンパスグラウンド (東京都千代田区紀尾井町7-1)



校地面積[m ²]	校舎敷地	運動場敷地	計
自有	47,501.14	0.00	47,501.14
借用	4,260.00	23,972.87	28,232.87
計	51,761.14	23,972.87	75,734.01

上智大学学則（案）

第1章 設立目的及び使命

第1条 上智大学（以下「本学」という。）は、イエズス会の設立にかかり、その法的設置者は学校法人上智学院である。

第2条 本学は、カトリックの伝統を受け継ぎ、キリスト教ヒューマニズムに基づき、学術の中心として、真理を探究し、広い知識と深い専門の学芸を教授し、知的、道徳的及び応用的能力の展開による人間形成につとめ、有能な社会の先導者を育成するとともに、文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

第3条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自己点検及び評価を実施し、絶えず教育研究活動の質の改善・向上に取り組むものとする。

2 教育研究活動の質保証に関する事項については、別に定める。

3 自己点検及び評価の実施体制並びに方法については、別に定める。

4 前三項に基づき、第三者評価機関による評価を受けるものとする。

5 本学は、教授法や授業運営などの改善や教育活動にかかる知識・技能・能力の獲得又は向上を組織的に支援するためにファカルティ・ディベロップメント活動を実施するものとする。

6 ファカルティ・ディベロップメント活動の実施体制並びに方法については、別に定める。

第2章 大学の組織

第4条 教育研究上の基本組織として、本学に次の学部学科を置く。

神学部 神学科

文学部 哲学科、史学科、国文学科、英文学科、ドイツ文学科、フランス文学科、新聞学科

総合人間科学部 教育学科、心理学科、社会学科、社会福祉学科、看護学科

法学部 法律学科、国際関係法学科、地球環境法学科

経済学部 経済学科、経営学科

外国語学部 英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科、スペイン語学科、

ロシア語学科、ポルトガル語学科

総合グローバル学部 総合グローバル学科

国際教養学部 国際教養学科

理工学部 物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科

2 学生の履修上の区分に応じて、副専攻及び研究室等を置くことができる。これに関する事項については、別に定める。

3 全学共通教育の企画・編成・運営のために、基盤教育センターを置く。基盤教育センターに関する事項については別に定める。

4 各学部に通ずる言語教育を行うために、言語教育研究センターを置く。言語教育研究センターに関する事項については別に定める。

5 本学の教育のグローバル化を促進するため、グローバル教育センターを置く。グローバル教育センターに関する事項については、別に定める。

6 第1項に定める学部及び学科ごとの教育研究上の目的及び人材の養成に関する目的については、第2条に定める各学部共通の目的のほか、各学部の設置趣旨に基づき、別に定める。

第5条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

第6条 本学に図書館、研究機構、センターその他の附属教育研究機関を置く。これに関する事項については、別に定める。

第3章 定員

第7条 本学の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部名	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員
神学部	神学科	50	8	186
文学部	哲学科	60	—	240
	史学科	70	—	280

	国文学科	60	—	240
	英文学科	100	—	400
	ドイツ文学科	50	—	200
	フランス文学科	50	—	200
	新聞学科	120	—	480
	計	510	—	2,040
総合人間科学部	教育学科	60	—	240
	心理学科	55	—	220
	社会学科	60	—	240
	社会福祉学科	60	—	240
	看護学科	70	—	280
	計	305	—	1,220
法学部	法律学科	160	—	640
	国際関係法学科	100	—	400
	地球環境法学科	70	—	280
	計	330	—	1320
経済学部	経済学科	165	—	660
	経営学科	165	—	660
	計	330	—	1320
外国語学部	英語学科	180	—	720
	ドイツ語学科	60	—	240
	フランス語学科	70	—	280
	イスパニア語学科	70	—	280
	ロシア語学科	60	—	240
	ポルトガル語学科	60	—	240
	計	500	—	2000
総合グローバル学部	総合グローバル学科	220	—	880
国際教養学部	国際教養学科	186	—	744
理工学部	物質生命理工学科	137	—	512
	機能創造理工学科	137	—	512
	情報理工学科	136	—	526
	計	410	—	1,550
合	計	2,841	8	11,260

2 神学部の編入学定員は、第3年次編入学定員とする。

第4章 教職員組織

第8条 本学に学長を置く。

2 学長は、本学を代表し、大学の校務全般を統括する。

3 学長を補佐し、命を受けて校務をつかさどるために副学長を置く。

第9条 学長の下に教員及び職員を置く。

第10条 本学の職制については、別に定める。

第5章 学部長会議及び教授会

第11条 本学に、大学全般にわたる教育研究の向上を目的として、学部長会議を置く。

2 学部長会議の構成及び運営は、別に定める。

第12条 本学各学部及び言語教育研究センターに教授会を置く。

2 教授会は、次に掲げる専任教員をもって組織する。

(1) 教授

(2) 准教授

(3) 講師

3 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり、意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4 教授会は、前項に規定するもののほか、教授会の置かれる組織の教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

5 教授会の運営に関する事項は、各教授会が定める。

6 各教授会は、別に定めるところによりその他の専任教員を審議に参加させることができる。

第6章 修業年限、学年、学期及び休業日

第13条 本学の修業年限は、本規程に特別の定めのある場合を除いては4年とする。

第14条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第15条 学期（セメスター）は、学年を分けて、春学期及び秋学期とし、それぞれの始期及び終期は次のとおりとする。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期（セメスター）を二つの期間（以下「クォーター」という。）に分け、春学期のクォーターを第1クォーター及び第2クォーターとし、並びに秋学期のクォーターを第3クォーター及び第4クォーターとする。

3 前項のクォーターの始期及び終期については、第1項に定めるものを除き、学長が定める。

第16条 削除

第17条 授業休業日は、次のとおりとする。

ただし、第6号から第8号の授業休業期間の始期及び終期は、年度により別に定める。

(1) 土曜日

(2) 日曜日

(3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(4) 創立記念日（11月1日）

(5) 聖ザビエルの祝日（12月3日）

(6) 春期休業

(7) 夏期休業

(8) 冬期休業

2 学長は必要に応じ、前項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。

3 学長は必要に応じ、第1項各号に定める授業休業日を、授業日（補講日及び集中講義期間を含む）とすることができる。

第18条 削除

第7章 授業科目及び単位

第19条 授業科目の種類は、全学共通科目、語学科目及び学科科目とし、各々を必修科目、選択科目及び自由科目に区分する。

2 授業科目の編成は、別に定める。

3 前項で定めるもののほか、学長は臨時に授業科目を開設することができる。

第19条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項の授業方法により修得する単位数は、60 単位を超えないものとする。

4 第1項の授業（第2項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合を含む）を、外国において履修させることができる。

第20条 授業科目を履修する場合、その授業に出席し、かつ、試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

2 授業科目の単位は、別に定める。

第21条 削除

第22条 授業科目の単位数は、1 単位履修に45時間の学修を要することを標準とし、次の基準によって授業時間に対応した単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1 単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価し、単位を付与することが適切と認められた場合にはこれらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 1 単位の計算基礎となる授業時間については、学長がこれを決定する。

第8章 入学、編入学、転部科、休学、留学、退学及び再入学

第23条 入学時期は、学期の始めとする。

2 入学できる学期については、学部又は学科ごとに個別に定める。

第24条 本学は、次の各号の一に該当する者につき選考の上、入学を許可する。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(7) その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると 本学が認めた者

2 入学の許可は、学長がこれを決定する。

第25条 本学への入学を志願する者は、所定の入学検定料を納入し、入学願書に次の書類を添えて、指定の期日までに願出しなければならない。

(1) 出身高等学校長から提出される調査書又は成績証明書、認定試験合格者はその合格証明書及び合格成績証明書、国際バカロレア資格を有する者は、IBディプロマ及び成績評価証明書

(2) その他必要書類

2 既納の入学検定料は、返還しない。

第26条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

第27条 前条に基づき入学を許可された者は、次の書類に入学納付金を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。

(1) 保証人連署の誓約書

(2) 地方自治体の発行する「住民票の写し」

(3) 出身高等学校等の卒業（修了）証明書

(4) その他必要書類

第28条 保証人は、日本国内に居住し、一家計を立てる成年者で、入学者の学費と一身上に関する一切の責任を負うことができる者で、原則として父母とする。ただし、日本国籍を有さない者については、国外に居住する者でも許可する。

第29条 本学を卒業又は中途退学し、再び入学しようとする者については、別に定める。

第30条 他の大学等（外国の大学、短期大学等を含む。）から本学に編入学を希望する者については、選考によって入学を許可することができる。

2 編入学者に関する事項については、別に定める。

第31条 他学部、他学科への転部科を希望する者については、選考によって許可することができる。

2 転部科に関する事項は別に定める。

第32条 病気その他のやむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を詳記した休学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。この場合において、病気のために休学する者は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間は、1クォーターを単位とし、連続2年、通算4年を超えることができない。

3 許可された休学期間が満了した場合は、復学となる。ただし、病気によって休学の許可を受けた者は、医師の診断書を添えた所定の復学届を提出しなければならない。

4 休学期間中に休学の事由がやみ、復学しようとする者は、所定の復学届を提出しなければならない。

第33条 本学との間に協定がある国外大学か、又は学位授与権をもつ国外大学に留学を希望する者がある場合、審査の上、本人の教育上有益であると認められたときは、学長は、これを許可することができる。

2 留学に関する事項は別に定める。

3 留学期間中に修得した単位の換算及び認定については別に定める。

第34条 本学が教育上有益と認めるときは、在学中に他の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位（留学中に修得した単位を含む。）及び文部科学大臣が別に定める学修のうち、本学の授業科目に相当すると認められる単位を、40単位を超えない範囲で本学において修得したものとみなすことができる。

2 本学が教育上有益と認めるときは、本学へ入学前に大学若しくは短期大学等において履修した授業科目について修得した単位及び文部科学大臣が別に定める学修のうち、本学の授業科目に相当すると認められる単位を、編入学の場合を除き、30単位を超えない範囲で本学において修得したものとみなすことができる。

3 前2項により、本学において修得したものとみなすことができる単位は、60単位を超えないものとする。

4 第1項及び第2項において、上智社会福祉専門学校において修得した単位を本学において修得したものとみなすことができる。

5 他の大学及び短期大学等並びに上智社会福祉専門学校での履修及び修得した単位の認定については別に定める。

第35条 削除

第36条 削除

第37条 削除

第38条 本学に在学する期間は、休学期間を除き8年を超えることができない。

2 前項にかかわらず、次の各号の全てに該当する者の本学に在学する期間は、8年3ヶ月を超えることができない。

(1) 第15条に定める学期（セメスター）末の時点において、在学年数が7年9ヶ月である者

(2) 第13条及び第57条に定める卒業に必要な要件を満たしていない者

第38条の2 第13条の修業年限、第32条の休学期間及び前条の在学期間を算定するにあたっては、第15条第2項に定めるクォーターは、3ヶ月と計算する。

第39条 退学しようとする者は、所定の様式による退学願を学生証とともに提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 退学を願い出る者は、その時期までの授業料等を完納しなければならない。

第40条 連続する2か年において、学部学科が指定する授業科目を含む32単位以上を修得できない者については、学長が退学を決定する。

第9章 履修及び登録

第41条 全学共通科目については、8単位を必修とし、合計26単位を修得しなければならない。

2 削除

3 第1項にかかわらず、文学部英文学科及び外国語学部英語学科にあつては8単位、国際教養学部にあつては4単位を必修とし、いずれも合計22単位を修得しなければならない。

4 全学共通科目は、必修単位を除き、学科により教育上必要があるときは、学長の決定により、学科科目の単位に充当することができる。ただし、国際教養学部を除く学部にあつては、充当できる単位の上限を12単位とする。

5 学科科目のうち、所定の学科科目については、全学共通科目（必修を除く）の単位に充当することができる。ただし、国際教養学部を除く学部にあつては、充当できる単位の上限を4単位とする。

第41条の2 語学科目は、外国語（英語）4単位を必修とする。ただし、文学部英文学科、外国語学部英語学科及び国際教養学部にあつては、外国語8単位を必修とする。

- 2 語学科目は、必修単位を除き、全学共通科目（必修を除く）の単位に充当することができる。ただし、国際教養学部を除く学部にあつては、充当できる単位の上限を8単位とする。
- 3 語学科目は、必修単位を除き、学科により教育上必要があるときは、学長の決定により、学科科目の単位に充当することができる。

4 削除

第41条の3 学科により教育上必要があるときは、大学院研究科が指定した科目の範囲内で、別に定めるところにより大学院開設科目の履修を認めることがある。この場合において、当該科目の修得単位は卒業に必要な単位としては算入できないものとする。

第42条 学科科目については、各学科所定の最低基準以上の単位を修得しなければならない。

- 2 前項の最低基準は、必修科目及び選択科目をあわせて94単位以上でなければならない。
- 3 前項の科目のうち、各学科所定の範囲内における単位を、他学科で開講される学科科目の単位で代えることができる。

第43条 削除

第44条 削除

第45条 教員の資格を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）にのっとり、別に定める教職課程所定の科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

- 2 本学の学部、学科において取得できる教育職員免許状の種類は、別に定めるところによる。

第46条 教職に関する科目の単位（ただし、教育実習を除く。）は、あらかじめ各学部学科の定めるところに従い、学科科目における選択科目の単位として計算することができる。

第47条 学芸員の資格を得ようとする者は、別に定める学芸員課程所定の科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

- 2 学芸員に関する科目の単位（ただし、博物館実習を除く。）は、あらかじめ各学部学科の定めるところに従い、学科科目における選択科目の単位として計算することができる。

第48条 削除

第49条 卒業論文については、あらかじめ各学部学科の定めるところに従い、期日までに提出しなければならない。

第50条 履修しようとする授業科目は、所定の期間に登録しなければならない。

第51条 削除

第10章 試験及び卒業

第52条 定期試験は大学が定める期間に行う。

第53条 削除

第54条 病気その他やむをえない事情で定期試験を受けることができなかつたと認められる者は、別に定める追試験料を納付の上、追試験を受けることができる。

第55条 授業科目の成績評価は、上位よりA(100～90点)、B(89～80点)、C(79～70点)、D(69～60点)、F(59点以下)、P、X、Iの評語をもって表示し、A、B、C、D、Pを合格、F及びXを不合格、Iを評価保留とする。

- 2 前項にかかわらず、履修中止科目をW、認定科目をNと表示する。
- 3 第1項の成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点（いわゆるGrade Point Averageに相当するもの。以下「GPA」という。）を用いる。
- 4 前項に定めるGPAは、成績評価のうち、Aにつき4.0、Bにつき3.0、Cにつき2.0、Dにつき1.0、Fにつき0をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、登録科目（W、N、P、X、Iとして表示された科目を除く）の総単位数で除して算出する。

第56条 削除

第57条 第13条に定める修業年限を満了し、卒業に必要な所定の授業科目の単位を修得した者については、学長が卒業を認定する。

- 2 卒業の期日は、毎年3月31日又は9月20日とする。
- 3 卒業に必要な単位は、124単位を下限として、学部学科別に次のとおりとする。

学部	学科	全学共通科目		語学 科目	学科科目		合計
		必修	選択	必修	必修	選択	
神学部	神学科	8	18	4	30	64	124

文学部	哲学科	8	18	4	28	66	124
	史学科	8	18	4	14	80	124
	国文学科	8	18	4	28	66	124
	英文学科	8	14	8	44	50	124
	ドイツ文学科	8	18	4	42	52	124
	フランス文学科	8	18	4	42	52	124
	新聞学科	8	18	4	14	80	124
総合人間科学部	教育学科	8	18	4	23	71	124
	心理学科	8	18	4	36	58	124
	社会学科	8	18	4	22	72	124
	社会福祉学科	8	18	4	26	68	124
	看護学科	8	18	4	90	8	128
法学部	法律学科	8	18	4	24	72	126
	国際関係法学科	8	18	4	25	72	127
	地球環境法学科	8	18	4	26	70	126
経済学部	経済学科	8	18	4	8	86	124
	経営学科	8	18	4	4	90	124
外国語学部	英語学科	8	14	8	16	78	124
	ドイツ語学科	8	18	4	32	62	124
	フランス語学科	8	18	4	32	62	124
	イスパニア語学科	8	18	4	32	62	124
	ロシア語学科	8	18	4	30	64	124
	ポルトガル語学科	8	18	4	34	60	124
総合グローバル学部	総合グローバル学科	8	18	4	12	82	124
国際教養学部	国際教養学科	4	18	8	16	78	124
理工学部	物質生命理工学科	8	18	4	29	65	124
	機能創造理工学科	8	18	4	26	68	124
	情報理工学科	8	18	4	34	60	124

第57条の2 本学に3年以上在学し、前条第1項に定める単位を修得し、かつ当該単位を優秀な成績をもって修得した者が第13条に定める修業年限に満たない卒業（以下、「早期卒業」という）を希望する場合は、学長が卒業を認定することができる。

2 早期卒業の有無及び早期卒業に関し必要な事項は、学部ないし学科ごとに別に定める。

3 前条第2項は、早期卒業についてもこれを準用する。

第58条 学長は、前2条の規定により卒業を認定した者に対し、学士の学位を授与する。

2 学位には学部学科別に次の専攻分野の名称を付記する。

学 部	学 科	専攻分野
神学部	神学科	神学
文学部	哲学科	哲学
	史学科	史学
	国文学科	文学
	英文学科	文学
	ドイツ文学科	文学
	フランス文学科	文学
	新聞学科	新聞学
総合人間科学部	教育学科	教育学
	心理学科	心理学
	社会学科	社会学
	社会福祉学科	社会福祉学
	看護学科	看護学
法学部	法律学科	法学
	国際関係法学科	法学
	地球環境法学科	法学
経済学部	経済学科	経済学
	経営学科	経営学
外国語学部	英語学科	外国研究
	ドイツ語学科	外国研究
	フランス語学科	外国研究
	イスパニア語学科	外国研究
	ロシア語学科	外国研究
	ポルトガル語学科	外国研究
総合グローバル学部	総合グローバル学科	国際関係論、地域研究
国際教養学部	国際教養学科	国際教養
理工学部	物質生命理工学科	理工学
	機能創造理工学科	理工学
	情報理工学科	理工学

第11章 賞罰

第59条 人物及び学術優秀な学生は、選考によって学長が授賞する。

第60条 本学学生としてその本分に反した行為があったと認められたときは、その軽重に従い、退学、停学

又は訓告処分とする。

2 前項の処分は、学長が行う。

3 前二項に定めるもののほか、学生の処分に必要な事項は別に定める。

第61条 次の各号のいずれかに該当する者は、学長の決定により退学させる。

(1) 著しく性行不良で改善の見込みがないと認められた者

(2) 学内の秩序を乱した者

(3) 大学の名誉を著しく毀損した者

(4) その他本学に在学させることが不相当と認められた者

2 前項に定めるもののほか、学生の退学に必要な事項は別に定める。

第12章 入学納付金及び授業料等納付金

第62条 第27条に定める入学に必要な納付金は、別に定める。

第63条 学生は、別に定める授業料等納付金を所定の期限内に全納しなければならない。

第64条 前条の授業料等納付金を所定の期日までに納付しない者は、退学させる。

第65条 休学、留学等の授業料等納付金については、別に定める。

第66条 既納の授業料等諸納付金は、返還しない。

第13章 奨学

第67条 本学は、学資金を給与又は貸与し、若しくは授業料の全額又は一部を免除することがある。

2 奨学制度に関する事項は、別に定める。

第68条 在学生及び卒業生から選抜した者を奨学生として海外に留学させることがある。

第14章 交換留学生、交流学生、科目等履修生及び聴講生

第69条 本学は、国外大学との学生交流協定に基づき、交換留学生の受入を許可することができる。

第70条 本学は、国内大学との単位互換協定に基づき、交流学生の受入を許可することができる。

第71条 本学は、本学に在学する者以外で一又は複数の授業科目を履修する者（以下「科目等履修生」という。）の受入を許可し、単位を与えることができる。

2 科目等履修生の受入許可及び単位の付与については、別に定める。

第72条 本学所定の授業科目中一又は複数の授業科目の聴講を願ひ出る者があるときは、一般の授業に支障のない場合に限り選考の上、聴講生として聴講を許可することができる。

2 聴講に関する事項は、別に定める。

第15章 削除

第73条 削除

第74条 削除

第75条 削除

第76条 削除

第16章 学生の生活指導と課程外教育及び健康管理

第77条 本学は、学生の個人及び集団の生活指導と課程外の教育とのための諸機関を設ける。

第78条 本学は、学生及び教職員の健康を管理するためウェルネスセンターを置く。

2 ウェルネスセンターに関する事項は、別に定める。

第79条 学生は、学年ごとにウェルネスセンターにおいて健康診断を受けなければならない。

第80条 学生は、傷病の際、ウェルネスセンターを利用することができる。

第17章 学生寮

第81条 本学は、本学の教育理念にのっとり、共同生活を通じ学生を訓育するため、附属学生寮を置く。

2 学生寮に関する事項は、別に定める。

第18章 公開講座及び各種講習会等

第82条 本学は、文化向上、成人教育その他の諸研究教育活動のために、公開講座、講習会等を開設することができる。

2 前項に関する事項は、別に定める。

第19章 助産学専攻科

(設置)

第83条 本学に、助産学専攻科（以下「専攻科」という。）をおく。

(目的・資格)

第84条 専攻科は、本学教育理念のもと、4年制大学における看護基礎教育の上に、助産に関する最新の知識と技術を教授、研究し、もって母子保健の発展向上に寄与することのできる助産師を育成することを目的とする。

2 専攻科において取得できる資格は次のとおりとする。

助産師国家試験受験資格

(学生定員)

第85条 専攻科の学生定員は、次のとおりとする。

入学定員 10名

収容定員 10名

(専攻科主任)

第86条 専攻科に専攻科主任をおく。

(修業年限)

第87条 専攻科の修業年限は、1年とする。

(在学年限)

第88条 専攻科学生は、2年を超えて在学することはできない。

(入学資格)

第89条 専攻科に入学することができる者は、看護師資格を有するまたは看護師国家試験受験資格を有する者で、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）

(入学の出願)

第90条 入学を志願する者は、指定の期日までに入学検定料を納付し、本学所定の書類を提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

2 既納の入学検定料は、返還しない。

(入学手続き及び入学許可)

第91条 前条の選考に基づき合格の通知を受けた者は所定の期日までに誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、入学に必要な所定の納付金を納めなければならない。

(教育課程及び履修方法)

第92条 専攻科の授業科目及びその単位数並びに履修方法については、別に定める。

(休学期間)

第93条 専攻科の休学期間は、1年を超えることはできない。

2 休学期間は、第88条の在学年限に算入しない。

(修了)

第94条 本学の専攻科に1年以上在学し、別に定めるところにより35単位以上を修得した学生については、教授会の議を経て、学長が修了を認定する。

2 学長は、前項の規定により修了を認定された者に、修了証書を授与する。

3 修了の期日は、毎年3月31日とする。

(専攻科の入学金、授業料その他の費用)

第95条 第91条に定める入学に必要な納付金については、別に定める。

(規定の準用)

第96条 専攻科に関し本章に定めるもののほか次の規定を準用する。

14条、15条、17条、20条、22条、第23条、第28条、第32条1項、3項、4項、第39条、第50条、第52条、第54条、第55条、第11章、63条から67条、16章、17章。

第20章 雑則

第97条 本学則に掲げる諸条項を実施するに当たり、必要ある場合は、細則を別に定めることができる。

附 則

本学則は、昭和23年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和27年4月1日から改正、施行する。
〔文学部教育学科設置〕

附 則

本学則は、昭和30年4月1日から改正、施行する。
〔文学部外国語学科（英・独・仏・西語の4専攻）設置〕

附 則

本学則は、昭和32年4月1日から改正、施行する。
〔法学部法律学科、文学部外国語学科（ロシア語専攻）設置〕

附 則

本学則は、昭和33年4月1日から改正、施行する。
〔神学部神学科設置〕
〔外国語学部（英・独・仏・西・露語の5学科）設置〕
〔文学部外国語学科廃止〕

附 則

本学則は、昭和34年4月1日から改正、施行する。
〔文学部国文学科設置〕

附 則

本学則は、昭和37年4月1日から改正、施行する。
〔理工学部（機械工学、電気・電子工学、物理学、化学の4学科）設置〕

附 則

本学則は、昭和39年4月1日から改正、施行する。
〔外国語学部ポルトガル語学科設置〕

附 則

本学則は、昭和40年4月1日から改正、施行する。
〔理工学部数学科設置〕

附 則

本学則は、昭和41年4月1日から改正、施行する。
〔文学部社会学科、フランス文学科設置〕
〔一部条文整理〕

附 則

本学則は、昭和42年4月1日から改正、施行する、
〔法学部法律学科入学定員変更〕
〔文学部国文学科（書道）免許認定〕

附 則

本学則は、昭和43年4月1日から改正、施行する。
〔経済学部商学科名称変更〕
〔教授会、評議会その他条文整理〕

附 則

本学則は、昭和45年4月1日から改正、施行する。
〔文学部教育学科教育学専攻、心理学専攻両課程設置〕

附 則

本学則は、昭和46年4月1日から改正、施行する。
〔文学部国文学科学科目（司書）改正〕

附 則

本学則は、昭和49年4月1日から改正、施行する。
〔文学部国文学科学科目（司書教諭）改正〕

附 則

本学則は、昭和50年4月1日から改正、施行する。
〔外国語学部日本語・日本文化学科設置〕

附 則

本学則は、昭和51年4月1日から改正、施行する。
〔文学部心理学科、社会福祉学科設置、定員増、その他条文整理〕

附 則

本学則は、昭和52年4月1日から改正、施行する。
〔外国語学部日本語・日本文化学科名称変更〕
〔一部条文整理〕

附 則

本学則は、昭和54年9月1日から改正、施行する。
〔比較文化学科特例規則の一部条文整理〕

附 則

本学則は、昭和55年4月1日から改正、施行する。
〔一部条文及び別表整備〕
〔留学生別科廃止〕

附 則

本学則は、昭和56年4月1日から改正、施行する。
〔比較文化学科定員増、その他の条文整備〕

附 則

本学則は、昭和59年10月1日から改正、施行する。
〔比較文化学科の学期区分の変更、その他条文整理〕

附 則

本学則は、昭和60年4月1日から改正、施行する。
〔学費改定〕

附 則

本学則は、昭和61年4月1日から改正、施行する。
〔学費改定〕

附 則

本学則は、昭和62年4月1日から改正、施行する。ただし、この改正前の外国語学部比較文化学科の学生については、なお従前の例による。又、第7条の規定にかかわらず、昭和62年度から昭和67年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部名	学科名	入学定員	総定員
神学部	神学科	25	100
文学部	哲学科	50	200
	教育学科	50	200
	心理学科	50	200
	史学科	60	240
	国文学科	50	200
	英文学科	100	400
	ドイツ文学科	50	200
	フランス文学科	50	200
	新聞学科	60	240
	社会学科	50	200
	社会福祉学科	50	200
	計	620	2,480
法学部	法律学科	200	800
	国際関係法学科	100	400
	計	300	1,200
経済学部	経済学科	160	640
	経営学科	160	640
	計	320	1,280
外国語学部	英語学科	160	640
	ドイツ語学科	50	200
	フランス語学科	60	240
	イスパニア語学科	60	240
	ロシア語学科	50	200
	ポルトガル語学科	50	200
	計	430	1,720
比較文化学部	比較文化学科	130	520
	日本語・日本文化学科	40	160
	計	170	680
理工学部	機械工学科	90	360
	電気・電子工学科	80	320
	数学科	40	160
	物理学科	50	200
	化学科		
	化学専攻	45	180

	応用化学専攻	45	180
	計	350	1,400
合	計	2,215	8,860

[比較文化学部比較文化学科、日本語・日本文化学科設置]
[法学部国際関係法学科、経済学部、経済学科、経営学科臨時入学定員変更]

附 則

本学則は、昭和63年4月1日から改正、施行する。
[別表第2改正（比較文化学部比較文化学科教育職員免許状）]

附 則

本学則は、昭和63年10月1日から改正、施行する。
[別表第2改正（比較文化学部比較文化学科教育職員免許状）]

附 則

本学則は、平成元年4月1日から改正、施行する。
[学費改定]

附 則

本学則は、平成2年4月1日から改正、施行する。
[学費改定]

附 則

本学則は、平成3年4月1日から改正、施行する。ただし、この改正前の学生については、なお従前の例による。

[大学評議会組織]
[学部学科別卒業所要単位表改正]
[教育職員免許状授与の所要資格を得させるための再課程認定に係わる条文整理等]
[学費改定]

附 則

- 2 1 本学則は、平成4年4月1日から改正、施行する。ただし、第58条の規定は平成3年7月1日以降の卒業生について遡及適用する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
[学費改定]
[学部学科別卒業所要単位表改正]
[大学設置基準の一部を改正する省令（平成3年文部省令第24号）]

附 則

- 1 本学則は、平成5年4月1日から改正、施行し、1993年度（平成5年度）入学者から適用する。ただし、入学定員については本学則第7条の規定にかかわらず、平成5年度から平成11年度までの期間、法学部国際関係法学科100人、経済学部経済学科及び経営学科についてはそれぞれ160人とする。
- 2 前項にかかわらず、1992年度（平成4年度）以前の入学者については、本学則第34条第1項、第41条第3項、第62条、第63条及び第65条の規定を適用する。ただし、その他の条項に関する規定については、なお、従前の例による。
[学費改定]
[大学設置基準の一部を改正する省令（平成3年文部省令第24号）]

附 則

本学則は、平成6年4月1日から改正、施行する。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から改正、施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成8年4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔学費改定〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕

附 則

- 1 この学則は、平成9年4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔法学部地球環境法学科設置〕
〔法学部法律学科定員減〕
〔学費改定〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕

附 則

- 1 本学則は、1998年（平成10年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔学費改定〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕

附 則

- 1 本学則は、1999年（平成11年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔学費改定〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕

附 則

- 1 この学則は、2000年（平成12年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔法学部国際関係法学科、経済学部経済学科、経済学部経営学科の入学定員数、収容定員数変更〕
〔一部条文整理〕
〔学費改定〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔教育職員免許状授与の所要資格を得させるための再課程認定による別表2（学部、学科において取得できる教育職員免許状の種類）の改正〕
〔別表第4（平成12年度以降の臨時的定員の廃止に伴う恒常的定員の増加に係る平成16年度までの入学定員数並びに収容定員数の計画数）の追加〕

附 則

- 1 本学則は、2001年（平成13年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔法学部国際関係法学科、経済学部経済学科、経営学科の入学定員数、収容定員数変更〕
〔休業日の追加〕
〔全学共通科目カリキュラム変更に伴う条文改正〕
〔学費改定〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕

附 則

- 1 本学則は、2002年（平成14年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第55条及び第57条の適用については、なお従前の例による。
〔法学部国際関係法学科、経済学部経済学科、経営学科の入学定員数、収容定員数変更〕
〔早期卒業制度導入に伴う条文改正〕

[単位認定の変更に伴う条文改正]
 [成績評価制度改定に伴う条文改正]
 [全学共通科目カリキュラム変更に伴う条文改正]
 [学部学科別卒業所要単位表改正]
 [学費改定]

附 則

- 1 本学則は、2003年（平成15年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
 [法学部国際関係法学科、経済学部経済学科、経営学科の入学定員数、収容定員数変更]
 [学部学科別卒業所要単位表改正]
 [学費改定]

附 則

- 1 本学則は、2004年（平成16年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条及び第58条の適用については、なお従前の例による。
- 3 附則1の改正施行日以後において、第29条及び第30条により入学、又は、第31条により学籍異動したものに係る第58条の適用は別に定める。
 [法学部国際関係法学科、経済学部経済学科、経営学科の入学定員数、収容定員数変更]
 [比較文化学部における成績不良退学規定の削除]
 [学部学科別卒業所要単位表改正]
 [学部学科別学位（学士）の専攻分野の変更]
 [学費改定]

附 則

- 1 本学則は、2005年（平成17年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条及び第58条の適用については、なお従前の例による。
 [総合人間科学部の設置]
 [法学部国際関係法学科、経済学部経済学科、経営学科の収容定員数変更、別表4の削除]

平成12年度以降の臨時的定員の廃止に伴う恒常的定員の増加に係る平成16年度までの入学定員数ならびに収容定員数の計画数

年 度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
学部・学科名		入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
法 学 部	法律 学科	150	600	150	600	150	600	150	600	150	600
	国際 関係 法学科	95	395	90	385	85	370	80	350	75	330
	地球 環境 法学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	計	305	1,235	300	1,225	295	1,210	290	1,190	285	1,170
経 済 学 部	経済 学科	156	636	152	628	148	616	144	600	140	584
	経営 学科	156	636	152	628	148	616	144	600	140	584

	計	312	1,272	304	1,256	296	1,232	288	1,200	280	1,168
大学合計		2,212	8,887	2,199	8,861	2,186	8,822	2,173	8,770	2,160	8,718

[ファカルティ・ディベロップメントにかかる活動の実施]

[大学評議会の組織の改正]

[入学手続書類の変更]

[学費改定]

附 則

- 1 本学則は、2006年（平成18年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条及び第58条の適用については、なお従前の例による。

[国際教養学部を設置]

[法学部国際関係法学科、経済学部経済学科及び経営学科の収容定員数変更]

[大学評議会の構成員変更]

[入学資格の改正]

[学費改定]

附 則

本学則は、2007年（平成19年）1月1日から改正、施行する。

ただし、第12条の改正については、2007年（平成19年）4月1日から施行する。

[教授会教員組織の変更]

[検定料の取扱いの変更]

[入学手続書類の一部改正]

[授業料等納付金の取扱いの変更]

附 則

- 1 本学則は、2007年（平成19年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。

[収容定員の変更]

[Semester制導入に伴う学期名称の変更]

[授業休業日及び臨時授業日に関する条文改正]

[授業科目の種類の変更]

[大学院開設科目の履修]

[成績評価の評語の追加に伴う条文改正]

[学部学科別卒業所要単位表改正]

[学費改定]

附 則

- 1 本学則は、2008年（平成20年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。

[理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科設置]

[教育研究上の目的及び人材養成に関する目的の規定化に伴う条文改正]

[春学期の終期及び秋学期の始期の変更に伴う条文改正]

[国際教養学部単位修得数の最低基準明記に伴う条文改正]

[成績評価の評語の変更に伴う条文改正]

[卒業期日の変更に伴う条文改正]

[学部学科別卒業所要単位数表改正]

[学費改定]

[授業料等納付金の取扱いの変更]

附 則

- 1 本学則は、2009年（平成21年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。

[神学部神学科の入学定員及び収容定員の変更、並びに編入学定員の設定]
[学部学科別卒業所要単位数表改正]
[学費改定]
[文学部社会学科廃止]

附 則

- 1 本学則は、2009年（平成21年）9月21日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
[文学部教育学科廃止]

附 則

- 1 本学則は、2010年（平成22年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
[収容定員の変更]
[学部学科別卒業所要単位数表改正]
[学費改定]
[文学部心理学科廃止]
[比較文化学部日本語・日本文化学科廃止]

附 則

- 1 本学則は、2011年（平成23年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
[総合人間科学部看護学科の設置]
[学部・学科の教育研究上の目的及び人材養成の目的の明示]
[収容定員の変更]
[全学共通科目カリキュラム変更に伴う条文改正]
[学部学科別卒業所要単位数表改正]
[学費改定]
[文学部社会福祉学科廃止]

附 則

- 1 本学則は、2012（平成24年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
[収容定員の変更]
[入学に関わる保証人の取り扱い変更]
[全学共通科目カリキュラム変更に伴う条文改正]
[学部学科別卒業所要単位数表改正]
[学費改定]
[比較文化学部比較文化学科廃止]

附 則

- 1 本学則は、2012年（平成24年）9月21日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第41条及び第57条の適用については、なお従前の例による。
[入学時期の変更]
[法令改正に伴う日本国籍以外の者の入学時提出書類の名称変更]
[全学共通科目カリキュラム変更に伴う条文改正]
[学部学科別卒業所要単位数表改正]

附 則

- 1 本学則は2013年（平成25年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第41条及び第57条の適用については、なお従前の例による。
[理工学部物理学科、化学科の廃止]
[言語教育研究センター設置に伴う条文改正]
[収容定員の変更]
[入学時提出書類の変更]

[全学共通科目カリキュラム変更に伴う条文改正]
[学部学科別卒業所要単位表改正]
[学費改定]

附 則

- 1 本学則は、2013年（平成25年）9月21日から改正、施行する。
〔理工学部機械工学科の廃止〕

附 則

- 1 本学則は、2014年（平成26年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第41条及び第57条の適用については、なお従前の例による。
〔総合グローバル学部総合グローバル学科の設置〕
〔収容定員の変更〕
〔授業科目の種類変更に伴う条文改正〕
〔全学共通カリキュラム変更に伴う条文改正〕
〔語学カリキュラム変更に伴う条文改正〕
〔条文整理〕
〔試験に関する条文改正〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔学費改定〕

附 則

- 1 本学則は、2015年（平成27年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔グローバル教育センターの設置〕
〔収容定員の変更〕
〔理工学部数学科の廃止〕
〔助産学専攻科の設置〕
〔条文整理〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔学費改定〕

〔学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律（平成26年法律第88号）及び学校教育法施行規則及び国立大学法人法施行規則の一部を改正する省令（平成26年文部科学省令第25号）に伴う改正〕

附 則

- 1 本学則は、2016年（平成28年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔収容定員の変更〕
〔理工学部電気・電子工学科の廃止〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔学費改定〕
〔授業科目の編成を別に定めることに伴う別表第2の削除並びに別表第3及び第4の繰上げ〕

附 則

- 1 本学則は、2017年（平成29年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第41条及び第57条の適用については、なお従前の例による。
〔収容定員の変更〕
〔総合人間科学部看護学科全学共通科目卒業所要単位数変更〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔学部・学科の教育研究上の目的及び人材養成の目的の改正〕
〔特別聴講生の名称変更〕
〔学費改定〕

附 則

- 1 本学則は、2018年（平成30年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔収容定員の変更〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔学部・学科の教育研究上の目的及び人材養成の目的の改正〕
〔学費改定〕

附 則

- 1 本学則は、2019年（平成31年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔収容定員の変更〕
〔大学評議会廃止に伴う改正〕
〔学部長会議の明示〕
〔セメスター・クォーター併用制導入に伴う条文の整理及び一部改正〕
〔授業方法の追加〕
〔在学年数の変更〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔学部、学科において取得できる教育職員免許状の種類の変更〕
〔学費改定〕

附 則

- 1 本学則は、2020年（令和2年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔入学時期の変更〕
〔入学手続書類の一部変更〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔入学納付金及び授業料等納付金を別に定めることに伴う別表第3の削除〕
〔学部、学科の教育研究上の目的及び人材養成の目的の改正〕

附 則

- 1 本学則は、2021年（令和3年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第57条の適用については、なお従前の例による。
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕
〔条文整理〕

附 則

本学則は、2021年（令和3年）12月1日から改正、施行し、2021年（令和3年）4月1日から適用する。
〔附則の改正〕

附 則

- 1 本学則は、2022年（令和4年）4月1日から改正、施行する。
- 2 この改正前の学生に係わる第41条および第57条の適用については、なお従前の例による。
〔大学の目的の改正〕
〔教育研究活動の質保証及び第三者評価機関による評価に関する規定の追加〕
〔基盤教育センターの設置に伴う改正〕
〔全学共通カリキュラム変更に伴う条文改正〕
〔学部学科別卒業所要単位表改正〕

〔ウェルネスセンターの設置に伴う改正〕

〔助産学専攻科修了要件の改正〕

別表第1 教育研究上の目的及び人材養成の目的

別表第2 教職

附 則

1 本学則は、2023年（令和5年）4月1日から改正、施行する。

〔神学部神学科、理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科の入学定員数、収容定員数変更〕

別表第1 教育研究上の目的及び人材養成の目的

<p>神学部 神学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 神学を中核とし、キリスト教倫理並びにキリスト教文化を包括するカトリシズムをその歴史的変遷を踏まえて教育し、キリスト教的価値観の創造的発展に寄与すること 〔人材養成の目的〕 カトリック教会と国際社会に貢献するために、キリスト教的価値観に基づく教養を備えた地球市民の人材や聖職者・教職者を養成すること</p>
<p>文学部</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 高度な専門教育と質の高い学術研究に基づいて、人文教養の本質である人間探究を行い、もって人類の精神的遺産を将来に継承し、世界と人間を真に理解する力を養うこと 〔人材養成の目的〕 分析力・理解力・表現力の陶冶に基づいて、世界と人間の本質を洞察する根源的な知性を養い、自己実現の自覚をもちつつ主体的に思考し、世界に寄与する自律的人間を養成すること</p>
<p>哲学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 建学の精神である上智の探求 philosophia に基づき、古今の哲学思想や哲学的問題をその本質から学ぶことによって、優れた思考力・理解力・表現力を養うこと 〔人材養成の目的〕 哲学・倫理・美学・宗教等の研究者及び教育者を育成するとともに、他者のために、他者とともに生きる自律的な人格を育成すること</p>
<p>史学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 歴史学の理論や方法を学ぶことによって、種々の出来事や社会現象に対する鋭い調査能力や真偽鑑定能力、さらに社会や時代を多元的・総合的に評価できる力を養うこと 〔人材養成の目的〕 過去への探求によって、人間社会の問題点の歴史的起源を理解し、現状改革のために自分の考察結果を広く社会に発信して、未来への指針を示すことのできる人材を養成すること</p>
<p>国文学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 日本文化研究の中核を担う学科として、国文学・国語学・漢文学の有機的連関のもと、古典学を教育・研究の基盤にすえ、読解力・思考力・表現力を鍛えながら、人間・社会・文化の本質を問う学識と見識を養うこと 〔人材養成の目的〕 専門性と学際性を兼ね備えた多角的な思考方法の養成を重視し、教育・研究の世界をはじめ、国際化のなかで貢献しうる人材を養成すること</p>
<p>英文学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 英米の文学、思想、文化の知見を広めるとともに、体系的かつ批判的な視点から問題を見つけ、調査・分析によって得た結果を日英両言語で論理的に伝達する能力を身につけること 〔人材養成の目的〕 言語、文化、思想、歴史、社会の深い理解に基づく見識と高度なコミュニケーション能力を用い、国際社会において現実に起こりうる未知の諸問題に対処できる人材を養成すること</p>
<p>ドイツ文学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 総合的なドイツ語運用能力を習得し、古典から現代にいたるドイツ語圏の文学、思想、美術、音楽などを歴史的・文化的文脈のなかで考察する能力を養うこと 〔人材養成の目的〕 ドイツ語圏の文学・文化を広い視野において考察することを通じて、複眼的な視点、柔軟な判断力、高度な言語表現能力をもつ人材を養成すること</p>

フランス文学科	<p>〔教育研究上の目的〕 読む・書く・聞く・話すという4つのフランス語運用能力を総合的に習得させるとともに、文学を中心に、フランス文化に関する深い教養を身につけさせること</p> <p>〔人材養成の目的〕 高度なフランス語運用能力とフランス文化に関する教養を備え、複眼的思考と異質なものへの寛容さを身につけた、国際的な場でも活躍できる人材を養成すること</p>
新聞学科	<p>〔教育研究上の目的〕 ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション全般を対象に、その社会的役割や機能、影響過程など、報道やメディアに関わる諸問題を幅広く考察すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 社会人に必要なコミュニケーションに関する教養を備え、高度なコミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につけた人材を養成すること</p>
総合人間科学部	<p>〔教育研究上の目的〕 ヒューマン・サイエンス、ポリシー・マネジメント、ヒューマン・ケアの三つの知を柱とする科学的思考を養うとともに理論・実践・臨床に関する学際的教育・研究を行うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 人間の尊厳を重視する精神を育み、人間支援の実践・臨床、運営に関するデザイン・政策形成に貢献し、全人的教養教育に根ざした人間の尊厳実現に貢献できる人材を養成すること</p>
教育学科	<p>〔教育研究上の目的〕 人間と教育をめぐる諸問題を教育学的観点から総合的・多角的に考究し、人間尊重の教育を実現する力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 人間の尊厳を基底に置く、人間性と専門性に優れた教員や研究者を養成するとともに、国際社会でも活躍できる自立性と教育学的教養を備えた人材を養成すること</p>
心理学科	<p>〔教育研究上の目的〕 人間の「心」に関する科学的アプローチを通じて、人間がよりよく生きるために必要な、自らの心を的確に把握し、他者の心の動きを冷静にしかし暖かなまなざしをもって見つめる視点を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 時代が求める「心」を探求する力を涵養し、人の「心」をとらえるための総合的視野を持つ人材を養成すること</p>
社会学科	<p>〔教育研究上の目的〕 社会に関する問題関心を養い、社会現象に社会学的視点からアプローチし、実証的な方法を用いて分析し、そのメカニズムを理解する能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 社会的な思考法と方法論を習得し、実践的な場面で、国際的な視野と人道的な立場から問題解決について提言できる人材を養成すること</p>
社会福祉学科	<p>〔教育研究上の目的〕 人間の尊厳が実現される社会を構築するための、新しい福祉社会を構想し、それを実現するための政策・運営管理を行う能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 新しい福祉のあり方を福祉の実践現場、地域社会、行政で実現するために、その指導的役割を担うことができる人材を養成すること</p>
看護学科	<p>〔教育研究上の目的〕 総合的教養教育と専門職業教育の融合（プラクティカル・リベラルアート）という視点にたつて、基本的看護実践力、自己学習推進力、ヒューマンケアリングの実践と人格と叡智の涵養に資する研究、教育を行うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 多様な分野で貢献できる人材の養成を目指し、ヒューマンケアに関する理論・実践・研究を発展させ、他領域の知見・学術を学び、政策・サービスマネジメントなどを含めて広い視点に立脚した、リーダーシップを内外で発揮しうる看護人材を養成すること</p>

法学部	<p>〔教育研究上の目的〕 法律学及びその関連科目を広く学ぶことを通じて、社会に生起するさまざまな問題について法的に考える力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 現代社会に対応できるような法的思考能力や問題分析能力を有し、かつ国内だけでなく国際社会でも活躍できる人材を養成すること</p>
法律学科	<p>〔教育研究上の目的〕 法的判断枠組みの基本構造、実社会と法制度の関わりを重点的に学び、法律学の基礎的素養である問題解決能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 法律学に特有の利益調整方法や問題の発見方法を習得し、これを活用しうるような法的思考能力を備えた人材を養成すること</p>
国際関係法学科	<p>〔教育研究上の目的〕 法学・政治学を基礎とした国際関係の分析力とともに、国際舞台で不可欠な語学力や幅広い教養を身につけさせること</p> <p>〔人材養成の目的〕 国連職員や外交官、その他一般企業において国際性ある職域をめざす者、国際的、渉外的な法律実務を考える者、さらに活発化する国際学術交流に貢献する研究者を養成すること</p>
地球環境法学科	<p>〔教育研究上の目的〕 環境問題にかかわる世界と日本の法システムに関する素養を身につけ、環境問題を法的観点から総合的・多角的に検討する能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 環境法研究者、企業活動に係る環境法のエキスパート、環境法の知見を有する実務家や環境NGOで活躍しうる人材、環境法の専門家として母国で活躍できる人材を養成すること</p>
経済学部	<p>〔教育研究上の目的〕 経済学と経営学及びその関連科目の幅広い学習を通じて、現代社会における経済的活動と社会的問題について論理的に考える力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 グローバル社会に即した感覚と社会的責任や倫理を備え、経済学と経営学の幅広い基礎的知識と専門的知識を基盤とする高度な問題解決能力を有し、国内外で活躍できる人材を養成すること</p>
経済学科	<p>〔教育研究上の目的〕 演習・英語による講義などの少人数教育及びミクロ・マクロ経済学などの基礎教育において、経済理論の基礎知識を深く掘り下げながら習得し、現代社会の経済課題について論理的・実証的に分析すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 日々の社会問題・現象を経済学的な視点から分析し、自前の概念装置により社会を評価する能力を国際的な場で活かせる人材を養成すること</p>
経営学科	<p>〔教育研究上の目的〕 高度な専門知識及び幅広い教養を身につけ、社会とのかかわりにおいて多様な視角から経営を理解し、実践していく能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 ローカル及びグローバルな社会との関連で経営を理解し、専門知識に基づいた合理的な意思決定を行うことによって、企業経営だけでなく、地域社会・国際社会などに貢献できる人材を養成すること</p>

<p>外国語学部</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 外国語の高度な運用能力を養い、それをもとに、9つの研究コースにおいて、各専攻語が使用されている地域に関する地域研究、また言語研究、国際政治論研究、市民社会・国際協力論研究を行うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 各専攻語の運用能力、専門研究を通じて獲得した知識と複眼的な視点を基盤として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、また言語研究、国際政治論研究、市民社会・国際協力論研究の専門家を養成すること</p>
<p>英語学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 卓越した英語運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（言語学、人文・社会科学、英語圏に関する基礎知識）を修得すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 英語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること</p>
<p>ドイツ語学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 ドイツ語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ドイツ語圏に関する基礎知識）を修得すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 ドイツ語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること</p>
<p>フランス語学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 フランス語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、フランス語圏に関する基礎知識）を修得すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 フランス語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること</p>
<p>イスパニア語学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 イスパニア語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、イスパニア語圏に関する基礎知識）を修得すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 イスパニア語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること</p>
<p>ロシア語学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 ロシア語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ロシア・ユーラシア地域に関する基礎知識）を修得すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 ロシア語の高度な運用能力を基礎として、国際社会に貢献しうる人材、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること</p>
<p>ポルトガル語学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 ポルトガル語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ポルトガル語圏に関する基礎知識）を修得すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 ポルトガル語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること</p>

<p>総合グローバル学部 総合グローバル学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 国際関係論と地域研究の二つに大別された科目群の双方を体系的に履修することで、1) グローバリティの理解、2) ローカリティの理解、3) 複言語（英語、地域言語）の運用能力、4) 倫理観に裏付けられた交渉能力を習得させる</p> <p>〔人材養成の目的〕 グローバル化の正負の側面に対処して、世界の人々が共に歩む共生社会の構築に貢献しようとする国際的公共知識人を養成すること</p>
<p>国際教養学部 国際教養学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 英語で行われる教養教育を通じ、比較文化・社会科学・国際経営経済の各専門分野の科目を隣接領域と有機的に関連させつつ学ぶことで、高度な語学力、多文化対応発信能力、及び柔軟な思考力を養うこと。また、学際的な研究を通じてグローバル社会の理解と問題解決に寄与すること</p> <p>〔人材養成の目的〕 十分な国際感覚、言語運用能力、及び柔軟な思考力を養い、グローバル化に対応し多様な文化間の架け橋として活躍できる人材を養成すること</p>
<p>理工学部</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 基盤となる専門分野の知識を習得するとともに、多様化した現代社会が抱える諸問題の解決に資するため、文理融合教育によって異分野を客観的に見ることのできる幅広い教養、すなわち「複合知」を身につけること</p> <p>〔人材養成の目的〕 専門分野とともに「複合知」を習得し、多様化した現代社会が抱える諸問題を解決するために、幅広い視野から「科学・技術の発展」に貢献できる人材を養成すること</p>
<p>物質生命理工学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 物理学、化学、生物学、環境学、材料科学などの学問分野を融合的に学び、原子・分子から高分子、生命現象にわたる物質の基礎を理解し、応用・展開する能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 新しい概念の物質や技術の創成に貢献するために、新しい物質観と生命観を備え、かつ、地球環境と科学技術の永続的な融和を担える人材を養成すること</p>
<p>機能創造理工学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 物理学、数学への深い理解を基礎に、材料、デバイス、エネルギー、機械、システムに関する知識を習得することによって、まったく新しい価値や機能を生み出す能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 科学技術上の諸問題の解決に貢献するために、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを応用・発展させることのできる人材を養成すること</p>
<p>情報理工学科</p>	<p>〔教育研究上の目的〕 情報科学、電子情報学、数学、生物学を基礎とし、人間・コミュニケーション・社会・数理の情報分野を学び、文理の学際的視点も併せもち、情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養うこと</p> <p>〔人材養成の目的〕 人間や社会に役立つ情報の体系やシステム、新しい情報技術の創成に貢献するために、人間、社会が築いてきた情報、知識、概念を理解・蓄積し、これらを情報技術の活用でより発展させることのできる人材を養成すること</p>

別表第2

学部、学科において取得できる教育職員免許状の種類

学 部	学 科	教育職員免許状の種類	教 科
神学部	神学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	宗教・社会 宗教・公民
文学部	哲学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	社会 公民
	史学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	社会 地理歴史・公民
	国文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	国語 国語
	英文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	英語 英語
	ドイツ文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	ドイツ語 ドイツ語
	フランス文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	フランス語 フランス語
	新聞学科	高等学校教諭1種免許状	公民
総合人間科学部	教育学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	社会 地理歴史・公民
	心理学科	高等学校教諭1種免許状	公民
	社会学科	高等学校教諭1種免許状	公民
	社会福祉学科	高等学校教諭1種免許状	公民・福祉
	看護学科	養護教諭1種免許状	—
経済学部	経済学科	高等学校教諭1種免許状	公民・商業
	経営学科	高等学校教諭1種免許状	商業
外国語学部	英語学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	英語 英語
	ドイツ語学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	ドイツ語 ドイツ語
	フランス語学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	フランス語 フランス語
	スペイン語学科	高等学校教諭1種免許状	スペイン語
	ロシア語学科	高等学校教諭1種免許状	ロシア語
	ポルトガル語学科	高等学校教諭1種免許状	ポルトガル語
総合グローバル学部	総合グローバル学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	社会 公民
国際教養学部 (注)	国際教養学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	英語 英語
理工学部	物質生命理工学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	理科 理科
	機能創造理工学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	理科・数学 理科・数学・工業
	情報理工学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	数学 数学・情報

(注) 国際教養学部国際教養学科に所属する学生のうち、2019年度以後の入学者は教育職員免許状を取得することができない。

変更事項を記載した書類

1. 第7条の表中、神学部神学科、理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科の入学定員及び収容定員を変更する。
2. 附則として、次の附則を加える。

附 則

- 1 本学則は、2023年（令和5年）4月1日から改正、施行する。

[神学部神学科、理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科の入学定員数、収容定員数変更]

以 上

上智大学学則 新旧対照表

新					旧				
第7条 本学の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。					第7条 本学の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。				
学部名	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員	学部名	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員
神学部	神学科	<u>50</u>	8	<u>186</u>	神学部	神学科	<u>40</u>	8	<u>176</u>
(略)					(略)				
理工学部	物質生命理工学科	<u>137</u>	—	<u>512</u>	理工学部	物質生命理工学科	<u>125</u>	—	<u>500</u>
	機能創造理工学科	<u>137</u>	—	<u>512</u>		機能創造理工学科	<u>125</u>	—	<u>500</u>
	情報理工学科	<u>136</u>	—	<u>526</u>		情報理工学科	<u>130</u>	—	<u>520</u>
	計	<u>410</u>	—	<u>1,550</u>		計	<u>380</u>	—	<u>1,520</u>
合	計	<u>2,841</u>	8	<u>11,260</u>	合	計	<u>2,801</u>	8	<u>11,220</u>
2 (略)					2 (略)				
<p>附 則</p> <p>1 本学則は、2023年（令和5年）4月1日から改正、施行する。 <u>[神学部神学科、理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科の入学定員数、収容定員数変更]</u></p>					<p><u>(追加)</u></p>				

学則の変更の趣旨等を記載した書類

本学は、“地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律”第13条第1項第1号により、2022年3月に閉校となった上智社会福祉専門学校介護福祉士の入学定員40人をもって、上智大学神学部神学科及び理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科及び情報理工学科の収容定員変更の認可申請をする。

なお、“地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令”第4条第1項に基づく文部科学大臣への届出は、実施済である。(資料1、2参照)

学則の変更の趣旨等については、神学部と理工学部それぞれ分けて次のとおり記載する。

1. 神学部

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

神学部神学科は、2023年（令和5年）4月から表1とおりの収容定員を変更する。

表1 神学部神学科の収容定員変更状況

学科	現行		変更後		定員増加数	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
神学科	40	176※	50	216※	10	40
計	40	176※	50	216※	10	40

※編入学の収容定員16名を含む

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

近年の神学部入学志願者の動向を、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」で確認すると、安定的に1,000人以上の志願者を集めていたが、経済不況や少子化といった社会情勢と新型コロナウイルス感染症の影響があるのか令和3年度の志願者数は落ち込んでいる。（表2参照）

表2 神学部の入学者及び志願者の動向

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
集計学部数	6	6	6	6	6
入学定員(人)	180	183	183	181	181
志願者数(人)	1,101	1,052	1,298	1,030	728
入学者数(人)	186	165	181	177	164
入学定員充足率(%)	103.3%	90.2%	98.9%	97.8%	90.6%

(出典) 日本私立学校振興・共済事業団
私立大学・短期大学等入学志願動向

一方、本学、神学部神学科の1年次入学定員は40名であるが、次の表3「入学試験状況(神学部神学科 過去5年)」にあるように、例年一定以上の志願者数と入学者数を確保している。

表3 入学試験状況(神学部神学科 過去5年)

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	40	137	3.42	41
2019年度	40	168	4.20	40
2020年度	40	161	4.02	42
2021年度	40	135	3.37	41
2022年度	40	160	4.00	42

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

本学は、2021年度入試から入試制度改革を行い、一般入試においてはより理解力、考察力を求めるために①事前に受験したTEAP、または、TEAP CBTのスコアと、上智大学独自の教科・科目試験の結果で、総合的に合否判定を行う「TEAPスコア利用型(全学統一日程入試)」、②大学入学共通テスト(任意提出した外国語外部検定試験結果含む)と上智大学独自の学部学科試験結果で、総合的に合否判定を行う「学部学科試験・共通テスト併用型」、③大学入学共通テストのみで合否判定を行う「共通テスト利用型」の3方式に変更した。

入試制度改革により、全学的には受験生数が減少しているが、神学科は2022年度に志願者数が増員となった。

神学は、2000年にわたるキリスト教の歴史の中で発展し、さまざまな学問の根底にある真理を追究する学問として、キリスト教世界の文化や社会に大きな影響を及ぼしてきた。また、神学は、聖書とキリスト教の伝統を体系的に学び、それらが神についてまた人間と

世界について何を教えているかを研究し、その知識を基に人間の生きる意味、世界の存在の意味、歴史の意味について思索することにある。

現代世界はグローバル化するとともに価値の多様化、相対化が進み、科学技術の進歩の一方で精神を病む人間や社会を憂う状況の中であり、人間性そのものとその根源にある文化、宗教に関する深い省察によって現代にふさわしい倫理的価値を再建することが課題となっている。また、世界は、限りない発展の可能性と同時に環境破壊や経済格差の拡大、激化する民族抗争、背景にある宗教などの深刻な問題に直面させられている。この現状に対し、カトリックの宗教的価値観を基底とする本学科は、2000年におよぶキリスト教の伝統と歴史的経験の上に現代の課題に取り組む使命を担っている。

本学の神学部神学科は日本で唯一のカトリック神学科であるが、人間と社会の真のあるべき姿を問い、堅固な価値観を養い、その実現の方策を探ることを通して、国際社会に寄与する、つまり現代社会のために貢献できる人材の養成を目指していきたい。さらに、安定的に存在する志願者の要求に応えるための入学定員の増加をしたい。このことによって、キリスト教的価値観に裏付けられた倫理的判断力により人間の尊厳を追求できる人材を養成することにより、本学、本学科としての責務を果していきたい。

以上のような状況を高等教育機関の使命という普遍的観点から考慮するに、本学神学部神学科は社会により広く教育を受ける機会を提供し、社会への人的貢献を拡充することが現況の社会的要請に応えるものであると考えており、入学定員が40名から50名に増員となっても選抜に問題のない志願者数を確保できると判断している。

カリキュラムの維持によって現在の教育効果を維持し、国内外の学界、教育界や実業界における本学の影響力を高め、本学の建学理念を実践していくためにも、有為の人材となる学生数を今後も継続的に一定数確保していく必要がある。

次の表4「神学部神学科の就職状況」に示されるとおり、卒業生の多くは一般企業へ就職し就職先業種は多様に亘っており、広く社会全般にその教育力が認知・評価されていることが見受けられる。

表4 神学部神学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	計
就職 (A)	32	30	37	26	26	151
進学 (B)	10	10	12	12	6	50
その他(就職・進学以外) (C)	5	4	5	13	9	36
就職活動継続 (D)	0	1	2	3	2	8
就職率 A/A+D	100.0%	96.8%	94.9%	89.7%	92.9%	95.0%

こうした状況に鑑み、入学定員を増加することによって社会の発展に寄与するより多くの人材を輩出していくことは、本学神学部神学科に課された社会的使命の一つであると認識している。さらに一般企業のみならず、大学院を有し、国内外の学界・教育界に多数の人材を供給している学部・研究科として、神学分野における研究者・教育者を養成するためにも、一定数の学生の母集団を確保する必要がある。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

神学部神学科の教育課程は次のような特色を有している。

神学部神学科は、日本で唯一のカトリック神学を学ぶ学科である。カトリック教会の長い伝統を受け継いだ世界のカトリック大学のネットワークの中で、キリスト教を本格的に学ぶことができる。キリスト教の深い理解を身につけ、さまざまな分野で活躍する人材を養成することを目指している。

神学は、聖書、教義、倫理などの多岐な分野からなる総合的な学問である。哲学や歴史学などのさまざまな方法論をフルに活用して、キリスト教に学問的なアプローチで取り組むが、神学科ではキリスト教の教義を学ぶばかりでなく、キリスト教の美術や文学などの文化的なものや現社会的諸問題にキリスト教的視点から取り組む。国際政治から文化まで、キリスト教に係わる分野は多岐にわたるため、キリスト教の知識をもつことは大きな助けとなる。

カリキュラムは、1年次に「旧約聖書概説」、「新約聖書概説」により旧約聖書と新約聖書を、「キリスト教学入門」によりキリスト教の教義の基礎を、2年次に「キリスト教と哲学」と「キリスト教と歴史」でキリスト教と哲学と歴史の関係を学び、1、2年生で神学科共通の基礎科目を学ぶ。3年次からは、神学系（カトリック神学を専門的に学び神学を専門的に深めたい学生）、キリスト教倫理系（人間のいのちや社会正義などの分野をキリスト教的価値観に立脚して学び、倫理問題への取り組みをとおしてキリスト教的教養を身につけたい学生）、キリスト教文化系（思想・芸術の分野で、キリスト教文化の歴史的歩みと現代的意味を学び、キリスト教文化の学びをとおして、キリスト教的教養を身につけたい学生）、宣教実務系（自己のキリスト教信仰を客観的・批判的に顧み、ミッションスクールや教会での奉仕を目ざしたい学生）の履修区分を参考に履修し、自らの研究課題を見出して研究内容をより深める。

神学系では哲学・教義学に係る科目、キリスト教倫理系では社会倫理に係る科目、キリスト教文化系では思想、芸術に係る科目、及び宣教実務系では聖書に係る科目が多く設けられている。また、選択科目として、ラテン語、ギリシア語、ヒブル語が語学科目として

開設されているが、「キリスト教ラテン語」、「聖書ギリシア語」、「聖書ヒブル語」などの聖書言語の履修が勧められている。

このように、神学部神学科は、神学を中核とし、キリスト教倫理並びにキリスト教文化を包括するカトリシズムをその歴史の変遷を踏まえて教育し、キリスト教的価値観の創造的發展に寄与することを目的として、少人数制による演習、卒業論文指導など、個性を尊重し個々の能力を引き出す授業科目と教育指導を大切にしている。

また、カトリック教会と国際社会に貢献するために、キリスト教的価値観に基づく教養を備えた地球市民の人材や聖職者・教職者の養成を目指しているために、積極的に教育課程の少人数化を図りきめ細かな教育の実践を押し進めており、そのカリキュラムを維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えている。収容定員の変更を行っても現状の教育課程で十分に対応可能であると考えている。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

神学部神学科は、上記「教育課程の変更内容」で述べたとおり、少人数制によるきめ細やかな教育により学生一人ひとりを大切にする教育を実践することを目指し、教育研究が行われている。神学部神学科では、必修科目として4年次に「卒業論文」が課されているが、「卒業論文」は学生にとって大学における履修上の総決算の意味があり、神学科では特にこれに全力を傾注することによって、自分の修めてきた学問の意味を自覚的に把握することが期待されている。各自がその研究テーマに応じて専任教員の指導・助言のもと、論文を完成させることになる。各教員が卒業論文を指導する学生数については、収容定員変更後も4人程度に抑えられ低水準にあると考えている。

収容定員増加後においても、そのカリキュラムを維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えているため、教育方法や履修指導方法の変更は行わない。

(ウ) 教員組織の変更内容

神学部神学科の教員数は、表5のとおりである。

表5 神学部神学科教員数

学科名	教授	准教授	講師	助教	合計
神学	9	2	1	2	14

神学部神学科の教員数は、14名である。

収容定員変更後における大学設置基準で定められる教員数は 8 名（教授数 4 名）となるが、収容定員変更後においても大学設置基準を満たす教員数を神学部神学科は有している。

神学科の教員一人あたりの学生数（S/T 比）については、現行の入学定員と変更後の入学定員で比較すると、12.6 名から 15.4 名になる。

学生数は増加するが、定員変更の影響はわずかなものであり、既存の教員組織で十分に対応できるものとする。

（エ）施設・設備の変更内容

①校地、運動場について

上智大学は、東京都千代田区に四谷キャンパス、練馬区に石神井キャンパス、新宿区に目白聖母キャンパス、神奈川県秦野市に秦野キャンパス、大阪府大阪市に大阪サテライトキャンパスを構えている。

本学は、新たな教育プログラムに対応するための教育研究施設とするために、本学四谷キャンパスに隣接する土地 320.29 m²を 2016 年 3 月に取得した。また、2019 年 1 月にも隣地 783.00 m²を取得した。この結果、上智大学の校舎等敷地 206,794.58 m²、運動場敷地 106,839.87 m²（上智大学短期大学部との共用面積 82,867.00 m²を含む）の合計 313,634.45 m²となり、大学設置基準第 37 条の規定により算出する（収容定員上の学生 1 人あたり 10 m²）校地面積 113,800 m²を十分に満たしている。

②校舎について

上智大学は、建設工事における環境負荷が少なく CO2 排出量の削減と森林資源の循環利用推進の観点から木造建築を採用した 15 号館（478.35 m²）を 2022 年 4 月に四谷キャンパスに竣工した。15 号館 1 階には、学生のアメニティースペースとしてのカフェを開設し、2 階及び 3 階に教室を整備した。

15 号館の竣工より、本学の校舎面積合計は 177,211.04 m²となったが、大学設置基準第 37 条の 2 別表第 3 により算出される収容定員増加後の基準校舎面積 66,738 m²に対し約 2.65 倍の面積を持ち、十分な校舎面積を保有している。

③図書館について

図書館は、面積 20,709 m²、閲覧座席数 1,951 席、収容可能冊数 2,022,000 冊の規模となっている。蔵書については 2022 年 5 月現在で、図書 1,126,128 冊、学術雑誌 11,277 種類、電子ジャーナル 49,437 種、視聴覚資料 18,472 点となっている。

設備としては、グループで学習するためのグループ学習室が図書館の地下 1 階に 3 部屋

設けられている。定員は10名で最大2時間までの利用ができる。各部屋に設置してあるホワイトボードは電子黒板の機能を有し、パソコンを持ち込めばUSBに入ったデータを写し出し、専用の電子ペンで書込み・保存も可能となっている。

ラーニングコモンズも用意されている。ラーニングコモンズは、従来の講義を受けて知識を得る「受身」型から「問題解決」型へと学習方法の変化に合わせた環境を整えている。図書・雑誌ばかりでなくデータベース・電子ジャーナル等の学術資源も活用して、多目的学習スペースとして利用することができる。ラーニングコモンズは、グループワークエリアとプレゼンテーションエリアに分かれているが、グループワークエリアにはグループ学習席が40席ある。ラーニングコモンズ内の机・椅子は可動式で人数に合わせて自由に組み合わせ使用できる。プレゼンテーションエリアでは、ノートパソコン・スクリーンを利用してプレゼンテーション準備、ゼミ発表のリハーサル等が可能となっている。また、ラーニングコモンズには、学習支援席が設けられている。学習支援席では、大学院生スタッフに学習に関するさまざまな質問をすることができ、質問例としてはレポート・論文の書き方、情報収集の方法、プレゼンテーションの方法等の学習に関することの相談が可能である。

④大学として設備について

上智大学では、2020年度から2021年度にかけて四谷キャンパスで使用する電気を再生エネルギー100%の電気に変更した。また、上智大学の設置者である学校法人上智学院は、2021年度に四谷キャンパス及び目白聖母キャンパスの都市ガスをカーボンニュートラルLNGに変更している。これにより、一部の施設を除き電気の使用に伴う二酸化炭素の排出を無くすことができ、都市ガスの使用に伴い排出される二酸化炭素の大幅な削減に寄与している。このように環境に配慮した、サステナブルなキャンパスづくりを大学としての重要課題と考えている。

学生にとってもこのサステナビリティの観点を意識してもらうよう、2021年度からウォーターサーバーの設置数を増やし、学生が所有する水筒を活用することで、廃プラスチックの動きに繋げる取り組みを進めている。

また、サステナビリティ推進においてはダイバーシティ推進の考え方も特に重要となるが、現在バリアフリー化の推進や学内サインの統一、オールジェンダートイレの設置などをキャンパス内で進め、障がいの有無や性差別のないキャンパス環境づくりに向けて、設備面の更新につとめている。

2. 理工学部

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科は、令和5年（2023年）4月から表6のとおり収容定員を変更する。

表6 理工学部の収容定員変更状況

学科	現行		変更後		定員増加数	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
物質生命理工学科	125	500	137	548	12	48
機能創造理工学科	125	500	137	548	12	48
情報理工学科	130	520	136	544	6	24
計	380	1,520	410	1,640	30	120

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

近年の理工学部入学志願者の動向を、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」で確認すると、例年志願者数が増加していたが、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響があるのか減員しているが、過去5年間の志願倍率は約14倍を超過している。（表7参照）

表7 理工学部の入学者及び志願者の動向

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
集計学部数	30	30	29	30	29
入学定員(人)	18,545	18,681	18,441	18,581	18,040
志願者数(人)	258,262	265,201	275,555	292,296	253,201
入学者数(人)	19,333	18,570	18,318	18,496	18,055
入学定員充足率(%)	104.2%	99.4%	99.3%	99.5%	100.1%

（出典）日本私立学校振興・共済事業団
私立大学・短期大学等入学志願動向

理工学部の1年次入学定員は、物質生命理工学科・機能創造理工学科・情報理工学科の3学科を合わせて380名であるが、次の表8、9、10「入学試験状況（理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科 過去5年）」にあるように、例年一定以上の志願者数と入学者数を確保している。

表8 入学試験状況（理工学部物質生命理工学科）

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	125	1,530	12.24	118
2019年度	125	1,236	9.88	124
2020年度	125	1,225	9.80	122
2021年度	125	1,381	11.04	121
2022年度	125	1,296	10.36	118

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

表9 入学試験状況（理工学部機能創造理工理工学科）

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	125	1,498	11.98	121
2019年度	125	1,242	9.94	121
2020年度	125	1,132	9.06	121
2021年度	125	1,369	10.95	120
2022年度	125	1,203	9.62	131

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

表10 入学試験状況（理工学部情報理工学科）

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	130	1,791	13.78	131
2019年度	130	1,571	12.08	134
2020年度	130	1,380	10.62	131
2021年度	130	1,819	13.99	131
2022年度	130	1,677	12.90	135

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

急速な変貌を遂げている科学技術、多様化する社会、それらに対応する力こそ本学理工学部が提唱する「複合知」であり、専門を超えていく能力のことである。自分の関心ある分野に対して確固たる専門性をもち、それを足場に専門を超えていくことで、将来研究者や技術者になったとき、関連する分野を連結させていく能力が開花する。

「複合知」は、諸問題の解決に資するため、文理融合教育によって異分野を客観的に見

ることのできる幅広い教養とも言える。知識基盤型社会が到来している中で、活力ある社会が持続的に発展して行くためには、優れた科学技術者が求められている。

本学理工学部は、専門分野とともに「複合知」を習得し、地球規模で起きている環境破壊などのグローバルな視点から問題の多様化した現代社会が抱える諸問題を解決するために、人間の尊厳、環境問題、情報技術などの幅広い視野から「科学・技術の発展」に貢献できる人材を養成することを目指している。

また、理工学部の各学科は、次の目的を有している。

物質生命理工学科は、物理学、化学、生物学、環境学、材料科学などの学問分野を融合的に学び、原子・分子から高分子、生命現象にわたる物質の基礎を理解し、応用・展開する能力を養い、新しい概念の物質や技術の創成に貢献するために、新しい物質観と生命観を備え、かつ、地球環境と科学技術の永続的な融和を担える人材を輩出することを目指している。

機能創造理工学科は、物理学、数学への深い理解を基礎に、材料、デバイス、エネルギー、機械、システムに関する知識を習得することによって、まったく新しい価値や機能を生み出す能力を養い、科学技術上の諸問題の解決に貢献するために、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを応用・発展させることのできる人材を輩出することを目指している。

情報理工学科は、情報科学、電子情報学、数学、生物学を基礎とし、人間・通信・社会・数理の情報分野を学び、文理の学際的視点も併せもち、情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養い、人間や社会に役立つ情報の体系やシステム、新しい情報技術の創成に貢献するために、人間、社会が築いてきた情報、知識、概念を理解・蓄積し、これらを情報技術の活用でより発展させることのできる人材を輩出することを目指している。

理工学部は2008年に5学科（機械工学科、電気・電子工学科、数学科、物理学科、化学科）から、現在の3学科に再編した。これは、専門を究めつつ、専門を超えて関連する分野を自在に連結させ、統合できる感性・知識・能力を備え、さらには、理系と文系といった垣根を越えて自在に思考し、現代社会が問いかける複雑な課題の解決に貢献できる能力「複合知」を修得した人材を輩出しようとの考えによるものである。

理工学部各学科の5年間の志願者倍率平均は、いずれの学科も約10倍を超えており、これは受験生からの本学理工学部へのニーズの現れと捉えられる。各学科は、今後も安定的な志願者を確保できることが予測され、入学定員を物質生命理工学科12名、機能創造理工学科12名、情報理工学科6名の合計30名増加しても、入学者を選抜するのに問題ない志願者数を今後も確保できると考えている。

また、卒業生の進路状況も安定的で、学部の特性から進学者が約5割を占めるが、就職

先としては製造業、情報・調査サービス業などを中心に様々な業種へと就職しており（「2021年度 卒業・修了者進路状況報告書」（資料3）参照）、産業界からのニーズも高い。受験者層からの旺盛な進学需要および産業界からの社会的要請を考慮し、入学定員を現員より30名増加することを決定した。（表11～13参照）

表11 理工学部物質生命理工学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
就職 (A)	66	56	57	65	58	302
進学 (B)	74	55	61	54	62	306
その他(就職・進学以外) (C)	2	1	2	3	6	14
就職活動継続 (D)	2	1	1	0	1	5
就職率 A/A+D	97.1%	98.2%	98.3%	100.0%	98.3%	98.4%

表12 理工学部機能創造理工学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
就職 (A)	40	54	64	59	41	258
進学 (B)	74	79	64	71	78	366
その他(就職・進学以外) (C)	0	1	1	1	4	7
就職活動継続 (D)	3	1	2	3	2	11
就職率 A/A+D	93.0%	98.2%	97.0%	95.2%	95.3%	95.9%

表13 理工学部情報理工学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
就職 (A)	71	96	103	79	99	448
進学 (B)	49	31	43	46	37	206
その他(就職・進学以外) (C)	4	1	0	4	3	12
就職活動継続 (D)	0	0	3	5	3	11
就職率 A/A+D	100.0%	100.0%	97.2%	94.0%	97.1%	97.6%

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容

理工学部の各学科の教育課程はそれぞれ次のような特色を有している。

物質生命理工学科は、自然界にある「物質と生命」を探究 (=Science) し、新物質の創成、資源の循環利用、新しい物性・機能の構築を目指す。ここでは物理学、化学、生物学、環境科学、材料工学など既存の学問分野を包括的・複合的に融合して学ぶ。原子、分子から高分子・生命現象におよぶ物質の基礎を学び、そのうえで「物質のナノテクノロジー」「環境と姓名の調和」「高機能材料の創成」をキーテーマとするカリキュラムを設け、理

工融合による「複合知」を目指した専門教育を行う。自然と融合した新しい物質観と生命観を身につけ、産業の高度化や環境保全に役立て、さらに科学技術英語教育により国際競争力がある科学者、技術者を輩出する。

学科科目としては、物理学、化学、生物学、環境科学などの専門性を重視しつつ、それらを融合させた「複合知」の習得を目指す。1年次に基礎科目を修得し、2年次から物質生命理工学を学びはじめ、加えて多彩な分野の実習・演習を行う。3、4年次の専門分野は上述の3つのキーテーマの中に、「化学・応用化学系」「環境・生命系」「材料・分子科学系」の学問系統を設け、学生の関心に合わせ重点的に履修する教育課程を編成している。

機能創造理工学科は、人間・環境への支援を基盤とし、新しい物理現象の発見や応用の可能性を考え、そこから新しい機能の創造、創出を探究する学科である。物理学、数学などの理学と材料、デバイス、電子機器、エネルギー、機会システムなどの工学を融合的に学び、産業技術との調和ある発展を推進できる創造性豊かな人材を養成します。そのため、機械工学、電気・電子工学、物理学の3つの学問分野と「エネルギーの創出と利用」「物質の理解と材料・デバイスの創成」「ものづくりとシステムの創造」というキーテーマを結合し、幅広い分野に適応できる専門教育を行う。

学科科目としては、1年次に広範な基礎科学と科学技術への見識を身につけ、2年次からは「理工基礎科目」をベースに、主に物理学・機械工学・電気電子工学の基礎を学ぶ。併せて科学技術に関する英語習得にも注力する。その後、2年次の秋学期に6つのコースから専門を選択し、3年次から専門性の高い演習や実験などに進展し、4年次から各研究室に所属し、具体的なテーマの研究に取り組む教育課程を編成している。

情報理工学科は、「情報」を基盤として人間と社会を複合的により深く理解する能力、人間や社会が蓄積してきた知識・知恵・経験を発展できる創造力、そして誰もが安心して暮らせる未来を構築しうる能力を養成する。また、自然科学を基礎に人文・社会科学と連携した学際的視点を重視する。数学・物理・化学・生物・情報など理工学の基礎教育を徹底して行う一方、専門分野として「人間情報」「情報通信」「社会情報」「数理情報」をキーテーマとするカリキュラムを設けることで、理工融合の「複合知」に基づく幅広い分野に適応しつつ、将来の基盤を確立するための専門教育を行う。「複合知」を身につけることで安心して利用できるシステムを構築する人材を養成するとともに、科学技術英語教育により国際的に活躍できる科学者・技術者や、確かな基礎を身につけてそれを次世代に伝えていくことのできる教育者を養成する。

学科科目としては、学部共通の専門科目で理工学全般に関係する「基礎教育の徹底」を図り、学科の専門科目で「横断的で柔軟な教育」を目指す。3～4年次の学科専門科目群では、上述の4つのキーテーマから興味のある1つを選択し、選択以外の科目も履修可能と

なる。また、学生全員がプログラミング演習、電気・電子・デジタル回路実験、数学演習を行い、実習実験授業を通じて分野を横断する知識を獲得する教育課程を編成している。

本理工学部の教育・研究システムは、理学と工学を一体化して学ぶ「理工融合型」と同時に、文系学部と同じキャンパスで人間・環境支援の基礎教育を学べる「文理融合型」の側面ももっている。理系・文系の枠を越えて自在に思考することによって、多様化する現代社会が問いかける複雑な課題を、解決へ導く力を育むことを目指している。

3 学科の科目は相互に履修可能となっており、自身の基盤となる理工学分野について確固たる専門性をもちながら、多様な分野を客観的に見つけ、文系も含めた関連分野を連携させていける幅広い教養＝「複合知」を身につけることを目指す。

科学技術の急速な発展、社会の多様化に適応する力を育むためには、知識の伝授だけではなく、創造性を開発する教育が必要となる。本理工学部では、機械工学、電気・電子工学、数学、物理、化学などの伝統的知識体系を活かしつつ、関連する学問領域を融合的に学ぶ 3 学科を設置し、幅広い見識を備えた人材を養成する。また、国際競争力のある科学者養成のため、英語教育にも力を入れており、そのカリキュラムを維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えている。収容定員の変更を行っても現状の教育課程で十分に対応可能であると考えている。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

理工学部の各学科は、少人数教育を徹底し、学生一人ひとりを親身にサポートする、例えば、履修科目の選択やどの専門分野を選ぶかという進路決定なども教員と相談しながら進めることができる。また、1、2 年次の必須科目を 3 学科共通で実施し、さらにクラス分けを行うことで、きめ細やかな指導を行う。教員とのコミュニケーションを重視し、実験や演習も充実させ基礎教育の徹底をはかっているが、教育課程を維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えている。なお、全ての学科の必修科目として 4 年次に「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」が課されているが、「卒業研究」は各自が研究テーマを定めて専任教員の指導と助言のもと研究を遂行し、その成果について研究報告を行い、その過程を通じて学生が研究分野の学識を深めることとなる。

学生定員の変更を行っても、各教員が卒業研究を指導する学生数は、収容定員変更前と同様に凡そ 4 人程度に抑えることができるため、教育方法及び履修指導方法の転換は行わない。

(ウ) 教員組織の変更内容

理工学部の各学科の教員数は、表 14 のとおりである。

表 1 4 理工学部各学科の教員数

学科名	教授	准教授	助教	合計
物質生命理工	23	8	2	33
機能創造理工	24	7	5	36
情報理工	17	9	3	29
合計	64	24	10	98

現在の理工学部各学科の教員数は、物質生命理工学科が 33 名、機能創造理工学科が 36 名、情報理工学科が 29 名の合計 98 名である。

収容定員変更後における大学設置基準で定められる教員数は、物質生命理工学科が 10 名、機能創造理工学科が 10 名、情報理工学科が 10 名となるが、収容定員変更後においても大学設置基準を満たす教員数を理工学部各学科は有している。

各学科の教員一人あたりの学生数（S/T 比）については、現行の入学定員と変更後の入学定員で比較すると、物質生命理工学科が 15.2 名から 16.6 名、機能創造理工学科が 13.9 名から 15.2 名、情報理工学科は 17.9 名から 18.8 名となる。学生数は増加するが、定員変更の影響はわずかなものであり、既存の教員組織で十分に対応できるものとする。

（エ）施設・設備の変更内容

①校地、②校舎、③図書館、④大学の設備については、神学部の「施設・設備の変更内容」で記載と同様であるが、理工学部としては次の設備の追加を行う。

近年の科学技術は、細分化、専門化されており理工学部の卒業生にはその専門分野における高度な知識と技術が求められている。一方で、学際的な視点も身につけなければならないため、理工学部は 3 学科共通で、自然科学の基礎的な分野である物理学、化学、生物学、情報科学の 4 つの分野の実験と演習からなる「理工基礎実験・演習」を 1 年次の必修科目としている。今般の収容定員増に伴い、実験で使用する機器を追加で準備するが、具体的にはフィンピペット、生物顕微鏡、ボックスタイプコンテナ、分析天秤、電子の比電荷測定器、直流電圧計、直流電流計、分光計を購入する。

以 上

資料目次

資料1 上智大学神学部および理工学部特定地域内学部収容定員増加届出書

資料2 上智大学理工学部特定地域内学部収容定員増加届出書

資料3 2021年度卒業・修了者進路状況報告書

資料4 教育課程等の概要（神学部）

資料5 教育課程等の概要（理工学部）

別記様式第1号

(用紙 日本産業規格A4縦型)

上智大学神学部および理工学部
特定地域内学部収容定員増加 届出書

令和3年3月30日

文 部 科 学 大 臣 殿

学校法人上智学院 理事長
佐久間 勤
〔公印省略〕

このたび、上智大学神学部および理工学部の特定地域内学部収容定員を増加させることについて、地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令第4条第1項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

適用を受けようとする除外規定及びその適用を受けることができる理由の概要	<p><適用を受けようとする除外規定> 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律第13条第1号</p> <p><適用を受けることができる理由の概要> 東京都千代田区紀尾井町7番地1号に所在する上智社会福祉専門学校の廃止により、当該学校の収容定員のうち昼間課程である介護福祉士科を減少させることと併せて、政令で定めるところにより算定した数の範囲内で上智大学の特定地域内学部収容定員を増加させるため。</p>			
特定地域内学部収容定員の変更の状況		学部等の名称	変更前	変更後
	増加させる学部等	上智大学 神学部 神学科 (修業年限4年)	176人 176人	216人 216人
		上智大学 理工学部 物質生命理工学科 (修業年限4年)	1,520人 500人	1,560人 540人
	大学全体	-	11,220人	11,300人
特定地域内学部収容定員を増加させる時期	令和5年4月1日			
校舎の所在地	東京都千代田区紀尾井町7番地1号			
学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況	令和4年4月認可申請予定			

(注)

- 1 記載内容を証する書類を添付すること。
- 2 特定地域外から特定地域内への校舎の移転その他学校教育法第4条第1項の規定により文部科学大臣の認可を受けなければならないこととされている事項以外の事項によって、特定地域内学部収容定員を増加させる場合は、同法の規定により届け出なければならない事項の例に準じて内容の分かる書類を添付すること。

法第13条第1号・第2号 説明書

特定地域内学部等 収容定員を減少させる学部等	大学の名称	上智社会福祉専門学校					
	学部等の名称	修業年限	入学定員 (編入学定員)	減少前の特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	減少させる特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	減少後の特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	校舎の所在地
	社会福祉専門課程介護福祉士科	2年	40人(0人)	80人(80人)	80人(80人)	0人(0人)	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	減少させる事由	長年にわたり福祉実務家養成教育には一定の貢献を果たしてきたが、支出超過が続く社会福祉専門学校の経営そのものの存続が困難であるとの判断に至った。特に、介護福祉に関する高等教育機関の定員充足率は国内全体で見ても5割を下回る状況が続いており、外国人留学生の受け入れを強化するとしても日本語教育を含めた更なる指導体制の充実が不可避であり、現在の資源(教員、教室、組織体制等)では対応できないため、介護福祉士科について廃止を決定した。					
	予定時期	令和3年4月1日					
特定地域内学部 収容定員を増加させる学部等	大学の名称	上智大学					
	学部等の名称	修業年限	入学定員 (編入学定員)	増加前の特定地域内学部収容定員 (収容定員)	増加させる特定地域内学部収容定員 (収容定員)	増加後の特定地域内学部収容定員 (収容定員)	校舎の所在地
	神学部 神学科	4年	40人 (8人) 40人 (8人)	176人 (176人) 176人 (176人)	40人 (40人) 40人 (40人)	216人 (216人) 216人 (216人)	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	理工学部 物質生命理工学科	4年	380人 (0人) 125人 (0人)	1,520人 (1,520人) 500人 (500人)	40人 (40人) 40人 (40人)	1,560人 (1,560人) 540人 (540人)	
	増加させる事由	<p>(神学部) 本学部は、キリスト教価値観を身に付けた教養人・専門家として、国際社会とキリスト教界に貢献する人の育成を掲げており、今後特にカトリック系初中等教育機関で活躍する宗教科・社会科の教員養成や、カトリック教会での奉仕を旨とする宣教実務者養成の強化が求められる中、新入生・編入生の志願者ともに増加傾向にあり、日本で最大のカトリック大学としてこうした社会からの要請に応えるため。</p> <p>(理工学部) 柔軟な教育・研究環境で他分野と連携できる「複合知」を備えた人材育成を目標とする本学部の「理工融合教育」は、急速な変貌を遂げている科学技術、ならびにそれに基つき多様化する社会への対応にあたって特に貢献可能であり、現在外国人学生の入学者数も増加が続いていることから、時代の要請に合致すると考えられるため。</p>					
予定時期	令和5年4月1日						
法第13条第2号の	合併・統廃合等、 共同教育課程の別	<input type="checkbox"/> 合併・統廃合等 <input type="checkbox"/> 共同教育課程					

規定の適用を受ける場合のみ	協議の内容	
---------------	-------	--

令和3年3月30日

文 部 科 学 大 臣 殿

学校法人上智学院 理事長
佐久間 勤
〔公印省略〕

除外規定の適用を受けることができることを証する書類について

「同一設置者内でのスクラップ&ビルド（法第13条第1号）」による届出にあたって、下記の通り「除外規定の適用を受けることができることを証する書類」を提出いたします。また、添付した書類に関しましては、記載内容に間違いのないことを証明いたします。

記

①専門学校の定員を減少させることを証する書類

学則変更（学生募集停止に伴い、令和3年4月1日より定員が減少すること）に係る理事会付議資料と当該議案議事録を添付します。

②以下（i）～（iii）の要件に当て嵌まることを証する書類

（i）平成32年1月1日以降に増加した生徒総定員はないこと

総定員数に変化がないことを示すため、令和元年5月1日現在の定員ならびに令和2年5月1日現在の定員を示す表を添付いたします。

本情報は、学校法人上智学院の公式ウェブサイトにて公開されております。

（URL：<https://www.sophia-sc.jp/info/data.html>）

（ii）特定地域内学部等収容定員の減少の日6月以内において授業を行っていること

令和2年度後学期の学事日程、時間割、シラバスを添付いたします。

（iii）専任の教員の数を満たしていること

上智社会福祉専門学校は学生総定員数80名（40名×2学年）、専任の教員数3名により運営されております。

「専修学校設置基準」の「第三十九条別表一」に基づき、教育・社会福祉関係の学科かつ生徒総定員数80名以内の場合は教員数3名と定められており、基準を満たしております。

また、「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」の「第五条の四」と「別表第二（第三条—第七条の二関係）」に基づき、生徒の総定員数80名の場合は専任教員3名と定められており、指定規則上も基準を満たしております。

また、この3名につきましては、「特定地域内学部収容定員の抑制等に関する命令」（平成30年内閣府・文部科学省令第1号）第五条三に定める「一週間に担当する授業時数が六単位以上の者」であることを以下の通り証します。

(1) 堀米 史一 ※左が令和2年度前期、右が令和2年度後期の担当科目

No.	科目名	単位数
1	介護過程 A	2
2	介護総合演習 I	1
3	介護の基本 A	2
4	コミュニケーション技術 A	1
5	介護福祉研究	2
6	介護の基本 E	2
	合計	10

No.	科目名	単位数
1	介護の基本 B	2
2	生活支援技術 A	1
3	生活支援技術 B	1
4	生活支援技術 C	1
5	介護福祉研究	2
6	生活支援技術 D	1
	合計	8

(2) 三浦 虎彦 ※左が令和2年度前期、右が令和2年度後期の担当科目

No.	科目名	単位数
1	生活と福祉	2
2	介護総合演習Ⅲ	1
3	介護過程 C	2
4	介護福祉研究	2
	合計	7

No.	科目名	単位数
1	介護総合演習Ⅱ	1
2	介護福祉研究	2
3	生活支援技術 I	2
4	介護総合演習Ⅳ	1
5	介護過程 D	1
	合計	7

(3) 大石 恵子 ※左が令和2年度前期、右が令和2年度後期の担当科目

No.	科目名	単位数
1	介護の基本 F	2
2	介護総合演習 I	1
3	エンド・オブ・ライフにおける心身の理解	2
4	介護福祉研究	2
5	医療的ケアⅡ	4
	合計	11

No.	科目名	単位数
1	医療的ケア I	2
2	生活支援技術 B	1
3	介護福祉研究	2
4	生活支援技術 I	2
5	生活支援技術 D	1
	合計	8

上述3名の教員については、あわせて「在職証明書」を添付いたします。教員情報は、上智社会福祉専門学校の公式ウェブサイトにて公開されております。

(URL : <http://www.sophia-sw.jp/teacher#teacher003>)

あわせて、上述の担当科目が正式に学則上規定されている科目であることを証するため、「上智社会福祉専門学校学則」も添付いたします。

以上

2021年2月24日開催理事会議事録及び資料（pp.8～21）は、略

上智社会福祉専門学校 / Sophia School of Social Welfare

学生数 / Students

2020年5月1日現在

課程・科 / Dept・Course	収容定員	1年次 / Freshman			2年次 / Sophomore			3年次 / Junior			合計 / Total		
		男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T
社会福祉専門課程 Social Welfare	80	10	13	23	4	17	21	/			14	30	44
社会福祉専門課程 Social Welfare	80	4	9	13	13	12	25	/			17	21	38
精神保健福祉士通信課程(短期) Correspondence Course of Psychiatric Social	80	15	63	78	/			/			15	63	78
合計 / Total	280	29	85	114	17	29	46	0	0	0	46	114	160

教員数 / Faculty

2020年5月1日現在

		教員 Teacher	非常勤講師 part-time Lecture	計 Total
保育専門課程 Nursery School Teachers	男/M	4	35	39
社会福祉専門課程 Social Welfare	女/F	3	29	32
精神保健福祉士通信課程 Correspondence Course of Psychiatric Social				
合計 / Total		7	64	71

国籍別教員数(非常勤を除く) / Nationality of Faculty (Full-time only)

2020年5月1日現在

国籍	人数
日本 Japan	7
合計/Total	7

職員数 / Staff

2020年5月1日現在

	男/M	女/F	合計 Total
上智社会福祉専門学校 Sophia School of Social Welfare	2	2	4

(ii) 特定地域内学部等収容定員の減少の日6月以内において授業を行っていることを証する書類
(学事日程)

2020年度社専学年暦・学事日程

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10月

日	月	火	水	木	金	土
				2	1	2
4	2	5	3	6	3	7
11	3	12	4	13	4	14
18	4	19	5	20	5	21
25	5	26	6	27	6	28
				6	29	6
				6	30	×
						×

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	ガ	22
24	1	25	1	26	1	27
31						30

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	×	2	×	3	×	4
8	6	9	7	10	7	11
15	7	16	8	17	8	18
22	8	23	9	24	9	25
29	9	30				

6月

日	月	火	水	木	金	土
	2	1	2	2	3	2
7	3	8	3	9	3	10
14	4	15	4	16	4	17
21	5	22	5	23	5	24
28	6	29	6	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

7月

日	月	火	水	木	金	土
			6	1	6	2
5	7	6	7	7	7	10
12	8	13	8	14	8	15
19	9	20	9	21	9	22
26	10	27	10	28	10	29

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	10	5	10	6	11
10	×	11	11	12	11	13
×	17	10	18	12	19	12
24	11	25	13	26	13	27
31						

8月

日	月	火	水	木	金	土
						10
2	11	3	11	4	11	5
9	12	10	12	11	12	12
16	13	17	13	18	13	19
23	14	24	14	25	14	26
30	15	31	15	27	15	28

2月

日	月	火	水	木	金	土
	12	1	×	2	×	3
×	7	13	8	14	9	14
14	14	15	15	16	15	17
21	15	22	補	23	補	24
28						

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	1	28	2	29	2	30

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	卒	25	26
28	29	30	31			

【2020年度 学年暦】

《前学期》 4月1日～9月21日
授業(補講日含む) 5月25日(月)～8月29日(土)

《後学期》 9月22日～3月31日
授業Ⅰ 9月22日(火)～11月30日(月)
授業Ⅱ(補講日含む) 1月5日(火)～2月27日(土)
卒業式 3月25日(木)

創立記念日 11月1日(日)
先哲祭 11月2日(月)
ザビエル祭 12月3日(木)
実習期間 8月、9月、12月、3月

2020年度前学期授業回数：14回
後学期授業回数：15回

(ii) 特定地域内学部等取寄せ定員の減少の日6月以内において授業を行っていることを証する書類(時間割)

2020年度 上智社会福祉専門学校(後学期) 時間割表 【※100分授業】

社会福祉士・児童指導員科(後期)

年	時限	月	火	水	木	金	土、補講日等
1年	1時限 17:50 ↓ 19:30	心理的支援 心理的支援 (岡田奈緒子)	愛とケアの人間学 (佐久間節子)竹内修一 (藤本三之)久保文彦 (栗田あまほ)(金崎子) (吉川まほ)	児童学領域に対する支援と 児童・家庭福祉制度 (奥田晃久)	社会学論と 社会システム (向 由子)	養護原理 (橋原真也)	【集中講義】 保健医療 サービス (柳田千尋)
	2時限 19:40 ↓ 21:20	相談援助演習 (竹沢昌子)	聴く用者に対する支援と 生活保護制度 (常教英昭)	相談援助実習指導 (寺田 誠) (根本貴子) (竹沢昌子)	相談援助演習 (根本貴子)	権利擁護と 成年後見制度 (小嶋珠実)	
2年	1時限 17:50 ↓ 19:30	地域福祉の 理論と方法 (梅澤 稔)	社会保障 (寺田 誠)	相談援助の 基礎と専門職 (柳田千尋)	高齢者に対する支援と 介護保険制度 (三浦虎彦) (根本貴子)	相談援助実習指導 (寺田 誠) (根本貴子) (竹沢昌子)	
	2時限 19:40 ↓ 21:20	上下層 療育支援 サービス 提供 制度 ※前中絶 (根本和也) (須賀智美)	福祉行政と 福祉計画 (野村健三)	相談援助の 理論と方法 (柳田千尋)	家族ソーシャル ワーク論 (坂井隆之)	相談援助演習 (寺田 誠) (根本貴子) (竹沢昌子)	

介護福祉士科(後期)

年	時限	月	火	水	木	金	土
1年	1時限 13:30 ↓ 15:10	生活者行為における 心身の理解A (石井紀子)	発達と老化の理解A (井伊陽子)	介護の基本B (藤本史一)(根本貴子) (御園文男)(浦江千尋)	介護の 基本A (大石恵子)	生活支援 技術A (堀米史一)	生活支援技術A (堀米史一)
	2時限 15:25 ↓ 17:05	介護における 尊厳と自立 (柳本一三郎)	社会保障制度と 介護保険制度 (大塚 晃)	医療的ケアI (大石恵子)	生活支援 技術B (堀米史一) (佐野重太郎)	障害の理解A (小長谷百絵) (石田 徹)	
	3時限 17:20 ↓ 19:00	現代社会の理解 (金崎一郎)	★愛とケアの人間学 (佐久間節子)竹内修一 (藤本三之)(久保文彦) (栗田あまほ)(金崎子) (吉川まほ)	介護総合演習II (三浦虎彦)	介護総合演習I (三浦虎彦)	生活支援 技術C (堀米史一)	介護過程B (藤林慶子) (中村浩士)
2年	1時限 13:30 ↓ 15:10	介護福祉研究 (堀米史一) (三浦虎彦) (大石恵子)	生活支援技術I	生活支援技術I (三浦虎彦)(外山誠) (濱野登一)(大石恵子) (根本和也)(吉川龍彦)	介護総合演習IV (三浦虎彦)	医療的 ケアIII (大石恵子)	生活支援 技術D (堀米史一) (大石恵子)
	2時限 15:25 ↓ 17:05	生活支援技術II (谷 千春)	介護総合演習III (三浦虎彦)	介護総合演習III (三浦虎彦)	介護総合演習III (大石恵子)		
	3時限 17:20 ↓ 19:00	介護実務英語 (選択) (加藤万紀子)	介護の基本D (伊藤朱子)	介護総合演習III (三浦虎彦)	介護総合演習III (三浦虎彦)	介護総合演習III (大石恵子)	介護総合演習III (大石恵子)

★印 ⇒ 17:50~19:30 の授業になります。

必修	生活諸行為における 心身の理解 A	石井 紀子	成績評価方法	小テスト①、② (50%)
	対象	介護福祉士科 1年		課題レポート①、② (50%)

概要

介護を必要とする人の『こころとからだのしくみ』（基本的な知識）を習得する。

こころとからだを働かせて生きていくしくみを理解することや、人が生活に感じる快適さのしくみを学ぶ。

活動やコミュニケーションのしくみと、その機能低下が及ぼす影響を理解し、その人らしい生活支援に生かすことができる。

授業は ZOOM を用いてのオンライン授業と moodle から配布する資料、および課題提出で実施します。ZOOM の ID 及びパスワードは moodle に掲載します。

※moodle のコース登録 <https://moodle.cc.sophia.ac.jp/>から「I」→「ISHII,NORIKO 石井紀子(社専)」→「生活諸行為における心身の理解A (2020 年度後期)」

授業計画

1. 「生きている」しくみの理解

授業 1 回目(9/28)：からだの成り立ち、恒常性のしくみ

授業 2 回目(10/5)：内臓機能と自律神経のはたらき

授業 3 回目(10/12)：ストレスに対応するしくみ

2. こころのしくみの理解

授業 4 回目(10/19)：脳のはたらき、こころと脳のつながり

授業 5 回目(10/26)：人間行動を引き起こすこころのしくみ

授業 6 回目(11/9)：こころの発達、適応機制

授業 7 回目(11/16)：小テスト①、課題レポート①

3. 「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ

授業 8 回目(11/23)：感覚器のしくみ

授業 9 回目(11/30)：身じたくに関連した清潔のしくみ

授業 10 回目(1/18)：機能低下・障害が及ぼす身じたくへの影響

4. 「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ

授業 11 回目(1/25)：骨・関節・筋肉・神経のはたらき

授業 12 回目(2/1)：活動・移動に必要な姿勢と動作

授業 13 回目(2/8)：機能低下・障害が及ぼす活動、移動への影響

授業 14 回目(2/15)：小テスト②、課題レポート②

※課題レポートは、7 回目、14 回目の授業内で事例を提示し、その事例に対して対応などを考えて記述し moodle に提出します。詳細は、初回の授業で説明します。

テキスト

小板橋 喜久代・松田 たみ子編集：最新介護福祉全書 第 12 巻 こころしからのしくみ、メヂカルフレンド社、2013.

参考書

介護福祉士養成講座編集委員会，新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ 第 3 版，中央法規，2014.

必修	介護における尊厳と自立	橋本一三郎
	対象	介護福祉士科 1年

成績評価方法

出席、授業への参加態度、レポート等提出物の提出状況、提出物の内容等を総合して評価する。

概要

まずは、世間で言われている介護の仕事や介護福祉士についてそれが本当の姿を示すものなのか、世間に誤解は無いのか？この授業を通じて、誇りをもって介護福祉士の仕事ができるように、介護の仕事についての誤解を解くとともに介護福祉士がとて有用であることを論じます。その際、学者や研究者が論じていることについて学術的にその議論についても説明していきます。また、アジアにおける介護人材の質の向上のための取り組みについて東アジアに例などを紹介しつつ、日本のアドバンテージについて論じます。

そのうえで、人に援助する場合、そもそも人間とはどのような存在なのか考えるていきます。援助職としてこのことを考えることはとても大切で、実際のサービスにも影響してきます。哲学的、人文科学的、人間科学や社会科学からと、さまざまな見方や考え方があります。そのような人間への人類の歴史の中で形成された『人間とは』という事理解抜きに、人間の尊厳と自立といっても、浅い理解やいわゆる社会福祉で論じられているレベルの理解にとどまってしまう。浅い理解では、たとえば社会福祉の援助技術論で言われている人間理解や援助の考え方について、結局弱者への援助論となってしまいます。またそのような浅い理解では対人援助職として人間を操作的に見る援助となりがちです。『福祉倫理学』の内容噛み砕きながら説明し、いままで知らなかったような人間への多角的、重層的な理解を得ることを目的とします。人間として、職業人として、またケアの専門職としても将来意味のある知識、そして考えるきっかけとなるでしょう。

「人間の全体性」ということについて考え、そのうえで、規範的倫理学、宗教的倫理、医療倫理や生命倫理、そして医師や法律家、宗教者の倫理などプロフェッショナルの倫理についても学びます。なお、社会回廊についても説明します。デカルトの2元論から、脳機能論から見た人間とその意識について「意志」についても論じます。

このことが分かってくると、プロフェッショナルの専門性の構造が見えてきます。その領域の専門的知識とスキルの習得ということが今まで言われてきた専門性を持っているという事でした。しかし、それは専門性の構造の一部でしかありません。向上心や自己研鑽への責務、強い意志、そして誇りと責任感を持っているという事が専門家としてとても大切です。それは医者や弁護士を眺めたらわかってくるでしょう。

皆さんが学び始めた介護、そして介護の世界について今課題があるとしたら何かを明らかにしたうえで、我々介護福祉士自身がそのような世界を変えるのだ、介護の世界を変えるのは介護福祉士自らでということ、自信をもって言えるようにする。これが授業の最終の目標です。

毎回の講義は常にディスカッションを含みます。また時事的な事柄についてもせっかくの機会ですでお話しします。

時に、テレビのニュースや海外取材によるNHKの特番、ドラマの録画を見て、議論し皆で考えてみる。また通常の視聴者と介護福祉士の専門家として見た場合、専門家であったら、どこに着目しなければいけないかといったことも議論します。それが専門性ですから。

新しい知識、認知症へのケア、ユマニチュード、身体拘束についてといったことについても論じていきます。

授業計画

以下の内容は必要に応じて変更を加えながら進めることとする。

1. 介護福祉士養成課程におけるこの科目の位置づけ [講義]
2. 介護福祉士と介護サービス、その範囲 [講義]
3. 倫理とは、科学とは [講義]
4. 人間理解 1 (そもそも人間存在とは) [講義]
5. 人間理解 2 (人間に対する想像力と社会に対する想像力) [講義]
6. 人間理解 3 (デカルト的二元論について考える。脳機能論から) [講義]
7. 人間理解 4 (人間の全体性とは、人間は機械ではない) [講義]
8. 尊厳とは (ヒューマンディグニティとヒューマンライツ) [講義]
9. 介護の基本的な視点と意義 1 (現在・過去・未来を今、ここで同時に体験し生きている人間) [講義]
11. 介護の基本的な視点と意義 2 (自己決定と思考権) [講義]
12. 介護の基本的な視点と意義 3 (自分の生活世界と他者の生活世界) [講義]
13. 福祉の支援と専門職の責任とは 誤った理解。自己決定とパートナーリズム、
14. 総括(総合評価) 豊かな人による援助と希望

テキスト

『新しい視点で学ぶ社会福祉』(光生館)

参考書

授業時に紹介します。

必修	現代社会の理解	金崎 一郎	成績評価 方法
対象	介護福祉士科 1年		

概要

現代社会を理解する上で必要とされる社会学の基本的な前提や概念を紹介しながら、社会的な<ものの見方>を学習し、更に応用として、日常生活における相互作用についての理解を深める。なお、授業はオンラインで行い、成績はレポートによる平常点で評価する。

授業計画	
<p>第1回 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の概要、進め方、予習・復習についての説明 社会科学の用語法(1) 定義と認識 科学言語の構成 理論構成のタイプ <p>第2回 社会科学の用語法(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学と価値判断 価値自由と社会的責任 <p>第3回 社会学の前提</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学はどのように<人間>を捉えるか 社会学の「人間観」について 経済学との対比 <社会的存在>としての人間 自己現象からみる人間の<社会性> 知覚からみる人間の<社会性> 「自明性」からみる人間の<社会性> <p>第4回 自己現象からみる人間の<社会性></p> <ul style="list-style-type: none"> Cooleyの「鏡映自己」 G.H.Meadの「役割取得」、「IとMe」 吉田民人の「自己包絡図式」 <p>第5回 知覚からみる人間の<社会性></p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚と他の知覚について Bruner&Goodmanの「過大視実験」 Sherifの「規範形成実験」 <p>第6回 「自明性」からみる人間の<社会性></p> <ul style="list-style-type: none"> 性に関わるアイデンティティと文化の拘束 文化と価値 生物の進化段階と文化 丸山圭三郎の「見分け」と「言分け」 言語について 意味と価値 	<p>第7回 集団と個人</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代・前近代における集団との関わり 個人主義の歴史の変容 欲望の個人主義の登場 Girardの「欲望の三角形」 Mertonの「準拠集団」 <p>第8回 DurkheimとWeberにみる社会学の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> Durkheimの捉えた<自殺と社会>の関係 『自殺論』から 集合意識と自殺 <p>第9回 Weberの捉えた「宗教と資本主義」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から Weber vs. Marxについて 資本主義の精神 (ethos) <p>第10回 対面的状況での相互行為について</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動としての行為と表出としての行為 Goffmanの演出論的 sociologyの視点 <p>第11回 「パフォーマンス(performance)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 外面(front) 劇的具象化(dramatization) 理想化(idealization)など <p>第12回 「チーム(team)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> チームのメンバーの関係性 チーム単位で行うパフォーマンスの方針 <p>第13回 「局域(region)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互行為の場・空間 「表局域」と「裏局域」 「局域」のコントロール <p>第14回 「分裂的役割(discrepant roles)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「秘密(secret)の類型」 様々な分裂的役割について

テキスト

井上俊・大村英昭、社会学入門、日本放送出版協会

参考書

授業にて指示する。

必修科目 発達と老化の理解 A 井伊 陽子

対象 介護福祉士科 1年生 (後期)

成績評価方法 第1回目の課題から第14回目の課題まで 全ての課題

概要

1. 人間の発達を支えるものは何かという視点から発達心理学を学び、人間なるものへの理解を深める。
2. 現代心理学を広く展望し、その見識を介護の実践に役立てる。

<お願い>

1. 授業は Moodle に掲載します。
Moodle のコースに登録をお願いいたします。

Moodle のコース登録

<https://moodle.cc.sophia.ac.jp/> から

コースを検索する

コース

「I」から「II,YOKO 井伊 陽子」から「発達と老化の理解 A (2020年度 後期)」

2. Moodle に第1回目のトピックから第14回目のトピックをそれぞれ掲載するタイミングで、Moodle のメッセージ欄に第1回目の課題から第14回目の課題を出題していきますので、これに対応してください。(課題提出は Moodle のメッセージ欄、または、sophia メールを使用)
3. Moodle を介さずに直接メール交換もできるよう、下記のアドレスまで、氏名と現住所と生年月日をメールしてください。
y-ii-2n6@sophia.ac.jp
4. 授業、メール、メッセージはすべてスマホで見ることができますので、sophia メールをスマホのアカウントに追加してください。
5. テキストとして使用するプリントを2部、郵送しますので、保管し、授業を聴く時、ご覧ください。

授業計画

1	9月22日	1章 発達とは何か	1. 成熟
2	9月29日		2. 環境・経験・学習・教育
3	10月6日		3. 初期経験・初期学習
4	10月13日	2章 社会化(パーソナリティの形成)	1. 親の世話としつけ
5	10月20日		1. 親の世話としつけ
6	10月27日		2. 同一視
7	11月10日		3. モデリング 4. 認知発達
8	11月17日	3章 思考の発達	4章 青年期
9	11月24日	5章 動機づけ	1. 外発的動機づけと内発的動機づけ
10	1月5日		2. 強化子をめぐって 3. 愛着をめぐって
11	1月12日	6章 言語の発達	1. 行動理論による説明 2. 生得的言語獲得説
12	1月19日		3. 言語発達に関する事実 4. 環境の役割
13	1月26日		4. 環境の役割
14	2月9日		5. 失語症

テキスト オリジナルプリント 2部

参考書 授業中に紹介します

以上

必修	社会保障制度と介護保険制度	大塚 晃	成績評価方法 出席点と授業評価、レポートの点数を総合し、評価する。
	対象	介護福祉士科1年生（前期）	

概要

社会保障制度全体の構成と現状を理解するとともに、特に介護に関係の深い介護保険制度の概要を理解する。また、介護に関連するその他の諸制度についても概要を把握する。

授業計画

- 1 社会保障、社会保険、社会福祉
- 2 年金保険
- 3 医療保険
- 4 介護保険（社会保険の1つとして概説）
- 5 雇用保険・労災保険
- 6 今後の社会保障
- 7 （課題を示す）
- 8 介護保険制度成立の背景と意義
- 9 介護保険制度の基本的なしくみ
- 10 介護サービスの種類と内容（1）
- 11 介護サービスの種類と内容（2）
- 12 介護サービスの利用と諸問題（1）
- 13 介護サービスの利用と諸問題（2）
- 14 今後の介護保険制度

テキスト

授業時に提示する資料。

参考書

授業時に紹介。

上智社会福祉専門学校

2020年度 共通科目 「愛とケアの人間学」

- 講義概要： 「愛とケアの人間学」は本学のコア科目であり、人間の癒しとケアについて、上智社会福祉専門学校の教育理念に基づき、神学・哲学・倫理学・教育学・宗教音楽などさまざまな視点から考察する。授業は、それぞれの分野を専門とする講師の輪講形式で行う
- 開講期： 後期
- 開講曜限： 火曜・社児科1限・介護科3限（17:50～19:30）
- 講義方法： 遠隔授業でおこなう。講義で使用する手段（Zoom、Moodle等）は、各担当教員に委ねる
- 評価基準： 各担当講師の評価を合算して全体の評価とする。
- コーディネーター： 上智社会福祉専門学校長

スケジュール（2020年度）

①	9月22日（火）	オリエンテーション	コーディネーター
②	9月29日（火）	旧約聖書に見る癒し	コーディネーター
③	10月6日（火）	人間形成とケア	武田なほみ（上智大学神学部）
④	10月13日（火）	新約聖書に見る癒し	武田なほみ
⑤	10月20日（火）	ナザレのイエスが教える正義と愛（1）	久保文彦（上智大学神学部）
⑥	10月27日（火）	ナザレのイエスが教える正義と愛（2）	久保文彦
⑦	11月10日（火）	古代社会と音楽の癒しの力	森裕子（上智大学神学部）
⑧	11月17日（火）	現代社会と音楽の癒しの力	森裕子
⑨	11月24日（火）	いのちを整える（1）	竹内修一（上智大学神学部）
⑩	1月5日（火）	いのちを整える（2）	竹内修一
⑪	1月12日（火）	愛とケアの全人性（1）	瀬本正之（上智大学神学部）
⑫	1月19日（火）	愛とケアの全人性（2）	瀬本正之
⑬	1月26日（火）	人間と環境保護（1）	吉川まみ（上智大学神学部）
⑭	2月9日（火）	人間と環境保護（2）	吉川まみ

○オンライン授業の方法

社専の授業は、2020 年度秋学期も原則オンライン授業となります。各担当の先生方の授業方法を一覧にまとめます。各先生の Moodle での掲示にも注意してください。

[輪講担当順]

佐久間	<p>■Zoom 会議システムを使用しての 100 分授業 トピック: 愛とケアの人間学 https://sophia-ac-jp.zoom.us/j/98107479003 ミーティング ID : 981 0747 9003 パスコード : 581774</p> <p>■授業ごとにリアクションペーパーを Moodle に提出 Moodle のコース名 : 「S」 > SAKUMA, TSUTOMU 佐久間 > 愛とケアの人間学 (佐久間)</p>
武田先生	<p>■Zoom 会議システムを使用しての 100 分授業 トピック : 社専「愛とケアの人間学」第 3 回・第 4 回 https://sophia-ac-jp.zoom.us/j/92485504454 ミーティング ID: 924 8550 4454 パスコード: 484901</p> <p>■授業ごとにリアクションペーパーを Moodle に提出 Moodle のコース名 : 「T」 > TAKEDA, NAHOMI 武田 > 社専「愛とケアの人間学」2020</p>
久保先生	<p>■Moodle を使用してのオンデマンド授業 (コース名は以下に)</p> <p>■授業ごとにリアクションペーパーを Moodle に提出 Moodle のコース名 : 「K」 > KUBO, TOSHIHIKO 久保 ></p>
森先生	<p>■Zoom 会議システムを使用しての 100 分授業 トピック: 社専「愛とケアの人間学」第 7 回と第 8 回授業 https://sophia-ac-jp.zoom.us/j/96578558021 ミーティング ID : 965 7855 8021 パスコード : 140661</p> <p>■授業ごとにリアクションペーパーを Moodle に提出 Moodle のコース名 : 「M」 > MORI, HIROKO 森 > 2020 秋 (社専) : 愛とケアの人間学</p>

竹内先生	<p>■Zoom 会議システムを使用しての 100 分授業 トピック：いのちを整える（１）＆（２） https://sophia-ac-jp.zoom.us/j/95566911343 ミーティング ID： 955 6691 1343 パスコード： 656387</p> <p>■授業ごとにリアクションペーパーを Moodle に提出 Moodle のコース名：「T」>TAKEUCHI, OSAMU 竹内>（社専）愛とケアの人間学>いのちを整える（１）＆（２）</p>
瀬本先生	<p>■Zoom 会議システムと Moodle（コース名は以下に）を併用しての 100 分授業 トピック：愛とケアの全人性（1）＆（2） https://sophia-ac-jp.zoom.us/j/92588248525 ミーティング ID： 925 8824 8525 パスコード： 762025</p> <p>■授業ごとにリアクションペーパーを Moodle に提出 Moodle のコース名：「S」>SEMOTO, MASAYUKI 瀬本>2020_秋_愛とケアの全人性（1）＆（2）</p>
吉川先生	<p>■Zoom 会議システムを使用しての 100 分授業 場合によっては Moodle を使用してのオンデマンド授業に切り換える可能性もあり Zoom の入室方法は Moodle に掲載する（コース名は以下に） 質疑応答は Moodle に Q & A を掲載する</p> <p>■授業ごとにリアクションペーパーを Moodle に提出 Moodle のコース名：「Y」>YOSHIKAWA, MAMI 吉川>（20秋・社専）愛とケアの人間学</p>

[以上]

必修	介護の基本B	師岡 文男 浦江 千幸 根本 貴子 堀米 史一	成績評価方法	出席、授業態度、課題等も勘案して、総合的に評価を行う。
	対象	介護福祉士科 1年		

概要

介護福祉士実践にとって必要な社会福祉援助技術を理解し、社会福祉援助技術の方法及び内容について理解を深める。

また、他の専門職種とのチームワークの大切さとチームメンバーとしての自覚を高めるとともに、ケースワーク、グループワークについての理解を深める。

授業は基本的に ZOOM を用いてオンライン授業を行う。ZOOM の ID 及びパスワードは moodle に掲載する。

※moodle へのアクセス

<https://moodle.cc.sophia.ac.jp/>から「H」→「HORIGOME,FUMIKAZU 堀米史一」
→「介護の基本 B」

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、コンピテンス教育とSW専門職(担当:堀米・根本)
- 第2回 SWにおけるコンピテンスの概念整理と枠組みの紹介(担当:根本)
- 第3回 SWと社会的・経済的正義(担当:根本)
- 第4回 人権の基礎知識(担当:根本)
- 第5回 エージズムの考え方(担当:根本)
- 第6回 対人援とパワーの問題(担当:根本)
- 第7回 ケースワークの基本(担当:根本)
- 第8回 介護におけるコミュニケーションツールとしてのダンス(担当:浦江)
- 第9回 福祉的なダンスの実際(担当:浦江)
- 第10回 介護福祉研究とは(担当:堀米)
- 第11回 介護におけるレクリエーションの意義と機能(担当:師岡)
- 第12回 コミュニケーションスキル:バリエーション他(担当:師岡)
- 第13回 ホスピタリティとアセスメント(担当:師岡)
- 第14回 グループワーク・トレーニング(担当:師岡)

テキスト

指定しない

授業時に資料を配布する

参考書

中央法規 新介護福祉士養成講座 2、3 介護の基本 I・II

必修	医療的ケア I	大石 恵子	成績評価方法 出席状況・授業態度50% 期末レポート50%
	対象	介護福祉士科 1年(後期)	

概要

医療的ケアを安全に実施するために必要な基礎知識について学ぶ。

授業計画

単元	授業日	内容
第1回	9/23(水) 2時限 Zoom	医療的ケアとは
第2回	9/30(水) 2時限 Zoom	健康状態の把握のしかた
第3回	10/7(水) 2時限 Zoom	感染予防の基礎知識
第4回	10/15(木) 1時限 対面	健康状態の把握のしかた・感染予防の基礎知識 の演習
第5回	10/21(水) 2時限 Zoom	医療の倫理
第6回	10/28(水) 2時限 Zoom	リスクマネジメントの考え方
第7回	11/11(水) 2時限 Zoom	呼吸器系のしくみとはたらき
第8回	11/18(水) 2時限 Zoom	痰を出しやすくするケア
第9回	11/25(水) 2時限 Zoom	喀痰吸引が必要な状態について
第10回	1/6(水) 2時限 Zoom	第1～9回のふりかえり、補足
第11回	1/13(水) 2時限 Zoom	消化器系のしくみとはたらき
第12回	1/20(水) 2時限 Zoom	摂食・嚥下障害がある方の経口摂取支援
第13回	1/27(水) 2時限 Zoom	経管栄養が必要な状態
第14回	2/10(水) 2時限 Zoom	まとめ

※Moodle 大石恵子→『2020 後期 介護1年 医療的ケアI』に登録して下さい。

※Zoom ミーティングID: 935 9514 9882 パスコード: 654838

※状況により、変更・修正する場合があります。

テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編：「最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」,
中央法規株式会社, 2019

参考書

随時紹介する

必修	介護総合演習Ⅱ	三浦虎彦	成績評価方法	出席と授業態度及び提出物
	対象	介護福祉士科 1年		

概要

前期に行ったⅠ段階実習の振り返りから授業を進め、12月のⅡ段階実習の事前学習、中間反省会、事後学習、さらに、3月のⅢ段階実習A（訪問介護実習）の事前学習までを行う。各段階における目標設定及び個人の課題設定、実習施設との連絡調整や、実習ノートの一部作成作業、オリエンテーションの準備に加え、専門科目等で学んだ内容を、実習で役立てるために本授業における演習によって再度統合する。また、Ⅱ段階実習期間中に中間反省会として、実習における情報交換や意見交換、実習課題の確認と必要な調整作業、教員からのアドバイスを通じた振り返りを行う。

授業計画

以下に大まかなスケジュールを示す。状況に応じて変更もある。その場合、授業の中で告知する。

① 9月23日(水)	Ⅰ段階実習状況の確認、Ⅱ段階実習の説明、Ⅱ段階実習希望調査(moodle提出)
② 9月30日(水)	Ⅰ段階A実習学内反省会(Ⅱ段階実習配置案の調整)
③ 10月7日(水)	Ⅰ段階B実習学内反省会(Ⅱ段階実習配置案の調整)
④ 10月14日(水)	Ⅱ段階事前学習1)実習配置確定、実習目標の確認、実習における介護過程の実施(情報収集について)、実習個人票配布、
⑤ 10月21日(水)	Ⅱ段階事前学習2)実習ノートの配布、実習個人票回収
⑥ 10月28日(水)	Ⅱ段階実習事前学習3)実習施設の概要を調べる、細菌検査キット配布、
11月11日(水)	(休講)
⑦ 11月18日(水)	Ⅱ段階実習事前学習4)実習施設の概要と実習目標等の共有、細菌検査結果と「実習に向けて」の提出(moodle)
⑧ 11月25日(水)	実習直前チェック
⑨ 12月9日(水)	実習中間反省会①
⑩ 12月9日(水)	実習中間反省会②
⑪ 1月6日(水)	Ⅱ段階実習学内反省会、Ⅲ段階A実習希望調査
⑫ 1月13日(水)	Ⅱ段階実習レポート作成、Ⅱ段階実習ノート提出、Ⅲ段階A実習希望調査提出
⑬ 1月20日(水)	Ⅲ段階A実習配置確定、Ⅲ段階A実習事前学習①訪問介護実習の進め方、訪問介護実習事業所の理解
⑭ 1月27日(水)	Ⅲ段階A実習事前学習②訪問介護実習における注意事項確認
3月(時期調整中)	Ⅲ段階A実習(5日間)

テキスト

・授業時のプリント、介護実習要項(前期に配布したもの)、各段階実習ノート(登校日に配布)。

参考書

適宜、授業中に提示する。

必修	生活支援技術 A	堀米史一	成績評価方法 出席、授業態度、授業中のレポート課題等も勘案して、総合的に評価を行う。
	対象	介護福祉士科1年（後期）	

概要

現在、介護福祉においては「質」が問われている。専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹となる新しい介護の考え方である「尊厳の保持」、「自立支援」について学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えていく。また、介護実践を単なる行為としてだけでなく、人と人との関わりの実践と位置づけ、演習等を通して他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。

本授業は木曜および金曜日に開講し、Zoomを使用した同時双方向と通学による対面型授業で実施する。ミーティングIDおよび使用教室については追ってmoodleの「生活支援技術A・B・C」掲示する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ベッドメイキング
- 第3回 移動介助の基本①
- 第4回 移動介助の基本②
- 第5回 ボディメカニクスの考え方①
- 第6回 ボディメカニクスの考え方②
- 第7回 まとめ

テキスト

指定しない
授業時に資料を配布する

参考書

中央法規 新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 I・II

必修	介護の基本F 災害・緊急時における介護	大石 恵子	成績評価方法 出席（課題提出）状況70% 授業態度30%
	対象	介護福祉士科1年	

概要

介護現場で日常的に起こりやすい事故とその予防、事故発生時の対処方法、および、自然災害発生時に起こりやすい健康問題とその対処方法について学び、災害・緊急時における介護福祉士の役割を理解する。

授業計画

【前期に実施した内容】

第1回	身近にある「危険なこと」について考える
第2回	感染予防の基礎知識
第3回	介護現場で起こりやすい主な事故とその予防
第4回	防災の基礎知識
第5回	災害時に起こりやすい健康問題とその対策
第6回	被災地で活動するときの心構え
第7回	災害時における生活支援
第8回	応急手当の基礎知識
第9回	心肺蘇生法の基礎知識

【後期の予定】 ※資料等はMoodleに掲載する。 ※状況により変更・修正する場合があります。

単元	授業日	内容
第10回	10/14(水) 2時限 Zoom	前期で学んだことの振り返り 後期のオリエンテーション
第11・12回	10/24(土)午後 ・麹町消防署に 12:50集合 ・講習会は 13:00~16:00	・東京消防庁『普通救命講習』を受講し、心肺蘇生法、AED、異物除去、止血法等を学びます。 ・救命技能認定証が発行されます。 ・受講費（教材費）1,500円です。
第13・14回	10/29(木)午後 ・本所防災館に 12:50集合 ・体験ツアーは 13:00~14:45	・本所防災館に行き、防災体験ツアーに参加します。 ・シアター、地震、煙、消火、都市型水害の体験ツアーに参加します。 ・終了後、課題提出があります。

テキスト

授業で配布する（Moodleに掲載する）資料

参考書

随時紹介する

必修	生活支援技術B	堀米史一 大石恵子 佐野亜花里	成績評価方法	出席、授業態度、授業中のレポート課題等も勘案して、総合的に評価を行う。
	対象	介護福祉士科 1年		

概要

現在介護福祉においては「質」が問われている。専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹となる新しい介護の考え方である「尊厳の保持」、「自立支援」について学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えていく。また、介護実践を単なる行為としてだけでなく、人と人との関わりの実践と位置づけ、演習等を通して他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。

本授業は通学による対面型授業で実施する。使用教室については追って掲示する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 移動・移乗の介助
- 第3回 着脱の介助
- 第4回 排せつの介助
- 第5回 VR体験授業①
- 第6回 VR体験授業②
- 第7回 摂食・嚥下について①
- 第8回 摂食・嚥下について②

テキスト

指定しない
授業時に資料を配布する

参考書

中央法規 新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 I・II

必修	生活支援技術C	堀米史一
	対象	介護福祉士科 1年

成績評価方法	出席、授業態度、実技試験、授業中のレポート課題等も勘案して、総合的に評価を行う。
---------------	--

概要

現在介護福祉においては「質」が問われている。専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹となる新しい介護の考え方である「尊厳の保持」、「自立支援」について学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えていく。また、介護実践を単なる行為としてだけでなく、人と人との関わりの実践と位置づけ、演習等を通して他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。

本授業は通学による対面型授業で実施する。使用教室については追って掲示する。

授業計画

- 第1回 身じたくの介助
- 第2回 入浴の介助
- 第3回 移動移乗の介助
- 第4回 着脱の介助
- 第5回 排せつの介助
- 第6回 事例検討
- 第7回 試験
- 第8回 まとめ

テキスト

指定しない
授業時に資料を配布する

参考書

中央法規 新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 I・II

必修	障がいの理解 A	小長谷 百絵	成績評価方法	出席・授業の取り込み状況
	対象	介護福祉士科 1年		筆記試験

概 要

身心障がいのある人の医学的知識を学び、心理や機能変化に伴う日常生活への影響を理解し、介護の展開につながる能力を養う。

*授業は Zoom を用いてオンライン授業を行う。Zoom の ID およびパスワードは Moodle に掲載する。

授 業 計 画

回		内容
1	9/25 昼2限	障害の概念と基本理念
2	10/2 昼2限	視覚障害のある人の理解
3	10/9 昼2限	聴覚・言語障害のある人の理解
4	10/16 昼2限	重複障害のある人の生活
5	10/23 昼2限	肢体不自由のある人の生活
6	10/30 昼2限	知的障害がある人の生活
7	11/6 昼2限	重症心身障害のある人の生活
8	11/13 昼2限	内部障害のある人の理解
9	11/20 昼2限	高次脳機能障害のある人の理解
10	11/27 昼2限	精神障害がある人の理解
11	1/8 昼2限	発達障害のある人の生活(1)
12	1/22 昼2限	発達障害のある人の生活(2)
13	1/29 昼2限	難病のある人の理解
14	2/12 昼2限	障害のある人への介護と地域サポート
15		レポート

テ キ ス ト

新・介護福祉士養成講座 13「障害の理解」2015年2月1日第4版発行（中央法規出版）

参 考 書

谷口敏代編集：「障害の理解」メヂカルフレンド社

必修	介護過程B 【修正版】	藤林慶子 中村浩士	成績評価 出席と提出物、授業態度、 期末試験を総合して評価する。
	対象	介護福祉士科 1年	

概要

本授業では、介護過程の展開について、実際の介護サービス組織を例として、それぞれの専門職の協働を理解する。各職種がどのような視点から業務を行い、また、それぞれの職種がチームとして連携していく際には、どのような課題があるのか、等に焦点をあてる。

なお学生の人数等により、授業内容が変更になる場合がある。

授業計画

通算回数	月日	担当者	授業内容
1	9月25日	藤林	介護にチームアプローチが求められる理由-地域包括ケアシステム等の動向から-医師、看護師、PT/OT/ST、管理栄養士、社会福祉士を調べる教科書の担当者を決める等
2	10月2日	藤林	多職種連携の問題点等-教科書第1章-
3	10月9日	藤林	多職種連携を理解する①-教科書第2章-
4	10月16日	藤林	多職種連携を理解する②-教科書第3章-
5	10月23日	藤林	多職種を理解する③-教科書第4章-
6	10月30日	藤林	多職種連携を理解する④-教科書第5章-
7	11月8日	藤林	多職種連携を理解する⑤-教科書第6章-
8	11月13日	藤林	多職種連携を理解する⑥-教科書第7章-
9	11月20日	藤林	多職種連携の事例検討①
10	11月27日	藤林	多職種連携の事例検討②
11	1月8日	中村	介護サービスにおける職種間連携の課題①
12	1月22日	中村	介護サービスにおける職種間連携の課題②
13	1月29日	中村	介護サービスにおける職種間連携の課題③
15	2月12日	藤林	期末試験(上記の内容を確認するための試験、答え合わせ含む)

テキスト

田中元「ケアマネ&介護リーダーのための『多職種連携』がうまくいくルールとマナー」による出版, 2019.

選 択	介護福祉研究	三浦虎彦 大石恵子 堀米史一	成 績 評 価 方 法	出席と授業態度
	対 象	介護福祉士科 2 年生		

概 要

2 年間の学びを総合し、学生はそれぞれのテーマを選択し、卒業レポートを作成する。その際の情報集や研究方法等についてゼミ形式で授業を行い、指導担当教員の個人指導によってレポートを完成させる。作成したレポートの内容は、当科目の中で発表、質疑応答、教員からの指導を受けてより深い考察を得る。

授業は基本的に ZOOM を用いてオンライン授業を行う。ZOOM の ID 及びパスワードと授業日程、事前課題は各教員の moodle に掲載する。

授 業 計 画

1. 研究計画の共有
2. 卒業レポート執筆スケジュール、その後の報告会等について
3. 卒業レポート昼間報告の作成について
4. 中間報告完成に向けた情報収集と研究方法の吟味
5. 卒業レポート中間報告の作成
6. 卒業レポート中間報告会の実施
- 7～15. 指導担当教員による論文指導
- 16～23. 卒業レポートの執筆
- 24～25. 卒業レポート報告会準備
- 26～28. 卒業レポート発表会
- 29～30. 卒業レポート総合評価

※上記の予定で年間を通じて授業を行う。授業予定を変更する場合には、指導担当教員との相談による。

テ キ ス ト

2020 年度卒業レポート作成要領

参 考 書

授業時に紹介。

必修	生活支援技術 F (聴覚障害関係)	谷 千春	成績評価方法 小テスト 40% レポート 40% 授業への積極的参加 10% 学習の理解 10%
	対象	介護福祉士科 2年	

概要

<授業の目的・ねらい>

聴覚・言語障害について、医学、福祉、教育、心理、文化など多方面から総合的な理解を深め、利用者主体の生活が維持できるように、生活する上でどのような困難が生じているのか、どのような生活支援をすべきかについて根拠に基づく実践ができるように基礎的な知識を学ぶ。また手話を中心に、筆談、読唇、指文字などのコミュニケーション手段について学び技能を身につける。

<授業の概要>

毎回、講義と実技を行う。講義では聴覚障害について、障害の特性や生活上の困難さについて、その現状と課題について学ぶ。また、日常生活をはじめ文化活動の支援や、バリアフリー、福祉機器などの実際について学び、聴覚・言語障害者の生活支援のあり方を考える。実技では、「家族」、「名前」などの手話の他、指文字を習得し、簡単な会話が表現できるようにする。

<授業終了時の達成課題(到達目標)>

- (1)聴覚障害者の障がいの特性について理解し、生活上の困難さについて説明できる。
- (2)聴覚障害者の日常生活支援をはじめ文化活動の支援を通して、生活支援のあり方について考察できる。
- (3)聴覚障害者のさまざまなコミュニケーション手段について知る。
- (4)手話で簡単な自己紹介ができる。

授業計画

- 第1回 あいさつ オリエンテーション
- 第2回 家族 さまざまな障害者の現状
- 第3回 名前の表現 筆談
- 第4回 指文字(1)ア行からサ行 障害をポジティブに評価する
- 第5回 点字の基礎 視覚障害者への介助
- 第6回 指文字(2)タ行からハ行 障害者補助犬
- 第7回 地名 障害者の文化・芸術活動
- 第8回 指文字(3)マ行からワ行 進化するバリア・フリー
- 第9回 曜日の表現 重複障害者
- 第10回 動物の表現 動きのある指文字
- 第11回 口文字コミュニケーション 補聴器使用者への介助
- 第12回 食べ物の表現 触手話・指点字
- 第13回 ITに関する表現 障害者の心理
- 第14回 学習のまとめ

テキスト

毎回授業の最後に小テストを行います。
本講義で使用したスライドは公開します。

参考書

「ゼロからわかる手話入門」2012年 主婦の友社刊 谷千春監修
「手話辞典」2005年 池田書店 谷千春監修

選 択	介護実務英語	加藤 万紀子	成 績 評 価 方 法	出席点(50%)、毎回の小テスト・課題 (50%)の総合評価
	対 象	介護科 2年(後期)		

概 要

この授業では、実践現場で使える表現や器具の名称など専門用語を学ぶと共に、ボリュームのある英文の読解力を身につけることを目指します。尚、本授業は、MOODLE に掲出される資料・解説をもとに各自で学習をしていただき、課題・小テストを提出する形式となります。

※ Moodle のコース登録

<https://moodle.cc.sophia.ac.jp/>から「K」→「KATO, MAKIKO 加藤万紀子」→「介護実務英語」

授 業 計 画

回	日付	授業内容
1	9/28(月)	オリエンテーション、利用者との面接でつかえる表現1、English Essay (1a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(1a)
2	10/5(月)	利用者との面接でつかえる表現2 English Essay (1b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(1b)
3	10/12(月)	食事時間の説明と好き嫌いを聞くときの表現 English Essay (2a)読解、小テスト、福祉英語専門用語(2a)
4	10/19(月)	食事介助のときの表現 English Essay (2b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(2b)
5	10/26(月)	保育施設での会話表現 English Essay (3a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(3a)
6	11/9(月)	体温と脈拍を測定するときの表現 English Essay (3b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(3b)
7	11/16(月)	血圧を測定するときの表現 English Essay (4a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(4a)
8	11/23(月)	自力で起き上がる手順を説明する表現 English Essay (4b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(4b)
9	11/30(月)	ベッドから車椅子への移動するときの表現 English Essay (5a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(5a)
10	1/18(月)	利用者からの要求に応えるときの表現 English Essay (5b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(5b)
11	1/25(月)	足浴とマッサージをするときの表現 English Essay (6a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(6a)
12	2/1(月)	利用者についての会議でつかえる表現 English Essay (6b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(6b)
13	2/8(月)	フィンランドの福祉について English Essay (7a) 読解、小テスト
14	2/15(月)	フィンランドの福祉について English Essay (7b) 読解、小テスト

テ キ ス ト

毎回授業で資料を MOODLE に掲出します。

生活支援技術I(三浦虎彦)		成績評価方法
対象	介護福祉士科 2年	出席と授業態度、記述式試験を総合して評価

概要

本科目は、人生の終末期における介護職の支援に関する内容、さらに、利用者の睡眠に関する支援、不安を和らげる支援等の観点から、輪講形式で講義(または演習)を行う。各回の授業を受けながら、自らの今後の介護実践に活かせるよう、考察を深めていくことが必要となる。

回数	月日	担当	テーマ
1	9月23日	三浦虎彦	授業の説明、イントロダクション ※2限目から。1限目は後期の授業全体に関する説明。
2	9月30日	外山誠	難病を持つ方の在宅生活の支援とターミナルケア
3	10月7日	鈴木伸国	日本人の生死観、宗教にみる死生観
4	10月14日	下村一真	小規模多機能施設での看取り実践
5	10月21日	木本明恵	認知症緩和ケアとタクティールケア(1)
6	10月28日	木本明恵	認知症緩和ケアとタクティールケア(2)
7	11月11日	木本明恵	認知症緩和ケアとタクティールケア(3)
8	11月18日	大石恵子	調整中
9	11月25日	三浦虎彦	高齢期のQOLを考える
10	1月6日	大石恵子	調整中
11	1月13日	吉川美津子	現代における葬送のあり方と介護サービス
12	1月20日	山内朝江	睡眠の介護(1) 意義と目的、睡眠障害と睡眠に関する知識
13	1月27日	山内朝江	睡眠の介護(2) 睡眠における介護技術と適切な環境づくり
14	2月10日	山内朝江	利用者の不安感を和らげる、リラックスをもたらす支援
15	2月17日	三浦虎彦	試験(記述式) ※1コマのみ、持ち込み可

※上記日程は、状況に応じて、変更する可能性があります。

テキスト

なし。

参考書

主として、授業時に各講師が資料を配布する。

必修	介護の基本 D	伊藤 朱子	成績評価方法	出席・授業態度・期末レポート
	対象	介護福祉士科 2年		

概要

超高齢社会における社会システムの構築と福祉に関する制度・政策を考慮しながら、地域のあり方・住宅・福祉施設について学び、居住環境・まちづくりの課題について理解を深めることを目的とする。

現在の日本の状況や介護保険をはじめとする社会システムの構築を踏まえ、高齢者に視点をあてながら、建築的視点を含めて環境整備の大切さを学習する。

授業計画

- 1, 日本の現在・超高齢社会について
- 2, 社会制度と高齢者福祉
- 3, ユニバーサルデザイン・バリアフリーデザイン
- 4, 高齢期の生活と多様な住まい方
- 5, 高齢者施設のケアと居住環境
- 6, 高齢者福祉施設のブランド理論とリスクマネジメント
- 7, 高齢者施設の事例研究
- 8, 高齢期における住宅生活と居住環境
- 9, 住宅内リスクと住宅改修
- 10, 高齢者が地域で暮らすということ (1)
- 11, 高齢者が地域で暮らすということ (2)
- 12, 高齢化とまちづくり (1) 都市部編
- 13, 高齢化とまちづくり (2) 地方編
- 14, まとめ

テキスト

授業ごとに資料を配布する

参考書

適宜紹介する

介護総合演習Ⅳ(三浦虎彦)		成績評価方法
対象	介護福祉士科 2年	出席と提出物、発表内容、授業態度等を総合して評価

概要

本授業は、夏季の介護実習で行った内容をもとにして、実習内容を具体的に振り返り、事例研究をまとめることを主たる課題とする。事例報告と報告書作成作業を含め、「介護過程D」の授業と一体として行う。

授業計画

2020年度後期介護福祉士科2年生「介護総合演習Ⅳ/介護過程D」授業日程(予定変更あり)

回	月日	曜日	1限:介護総合演習Ⅳ(13:30~15:10)	2限:介護過程D(15:25~17:05)	備考
1	9月24日	木	V段階実習の確認と後期授業の進め方、実習ノート類の内容確認、事例研究報告に向けての説明	V段階実習に関するバズセッション~実習反省会に向けたトピックの抽出	
2	10月1日	木	ⅢB実習の振り返り① グループ別実習反省会	ⅢB実習の振り返り② グループ別反省会	
3	10月8日	木	事例研究報告の資料作成方法	事例研究報告資料作成作業①	
4	10月15日	木	事例研究報告資料作成作業④	事例研究報告会の進め方(役割分担等)	
5	10月22日	木	事例研究報告会①		
6	10月29日	木	事例研究報告会②		
7	11月5日	木	事例研究報告会③		
8	11月12日	木	事例研究報告会④		
9	11月19日		事例研究報告会を終えてのまとめ、事例研究報告書の最終原稿の確認	原稿執筆	
10	11月26日	木	介護実習を制度的視点から考える(復習)		
11	1月7日	木	介護実習を制度的視点から考える(復習)□		
12	1月14日	木	介護過程の理論(復習)		
13	1月21日	木	介護過程の理論(復習)		
14	1月28日	木	今後の介護実践に向けて(卒業生ゲスト調整)		

テキスト

なし。

参考書

授業時に資料を配布。

介護過程D(三浦虎彦)		成績評価方法
対象	介護福祉士科 2年	出席と提出物、発表内容、授業態度等を総合して評価

概要

本授業は、夏季の介護実習で行った介護過程(介護計画の作成まで)をもとにして、事例研究をまとめることを主たる課題とする。事例報告と報告書作成作業を含め、「介護総合演習Ⅳ」の授業と一体として行う。

授業計画

2020年度後期介護福祉士科2年生「介護総合演習Ⅳ/介護過程D」授業日程(予定変更あり)

回	月日	曜日	1限:介護総合演習Ⅳ(13:30~15:10)	2限:介護過程D(15:25~17:05)	備考
1	9月24日	木	V段階実習の確認と後期授業の進め方、実習ノート類の内容確認、事例研究報告に向けての説明	V段階実習に関するバズセッション~実習反省会に向けたトピックの抽出	
2	10月1日	木	ⅢB実習の振り返り① グループ別実習反省会	ⅢB実習の振り返り② グループ別反省会	
3	10月8日	木	事例研究報告の資料作成方法	事例研究報告資料作成作業①	
4	10月15日	木	事例研究報告資料作成作業④	事例研究報告会の進め方(役割分担等)	
5	10月22日	木		事例研究報告会①	
6	10月29日	木		事例研究報告会②	
7	11月5日	木		事例研究報告会③	
8	11月12日	木		事例研究報告会④	
9	11月19日		事例研究報告会を終えてのまとめ、事例研究報告書の最終原稿の確認	原稿執筆	
10	11月26日	木	介護実習を制度的視点から考える(復習)		
11	1月7日	木	介護実習を制度的視点から考える(復習)□		
12	1月14日	木	介護過程の理論(復習)		
13	1月21日	木	介護過程の理論(復習)		
14	1月28日	木	今後の介護実践に向けて(卒業生ゲスト調整)		

テキスト

なし。

参考書

授業時に資料を配布。

選 択	介護職が行う スーパービジョン (選択科目)	山田美代子	成 績 評 価 方 法
	出席・定期試験・授業態度など 考慮の上評価します		
対 象	介護福祉士科 2年(後期)		

概 要

介護福祉士が組織で専門性を発揮し、適切な介護業務を行うためには、介護福祉士を支える組織に備わっている支援システムが必要である。介護福祉士を支えるスーパービジョン機能(管理・教育・サポート)を理解し、その活用を体験的に習得していく。講義と演習を繰り返すことで、スーパービジョンに関する基本的知識と現場における実際的な活用を目指す。特に、専門家として成長していくために、スーパービジョンの活用の仕方と重要性を学ぶ。

授業は、ZOOM を用いてオンライン授業を行う。

<Moodle のコース登録>

<http://moodle.cc.sophia.ac.jp> から「Y」→「YAMADA, MIYOKO 山田美代子」→「介護職が行うスーパービジョン 2020年後期」

ZOOM の ID およびパスワードは Moodle に掲載する。

授 業 計 画

- 1 週 スーパービジョンを学ぶ意義、スーパービジョンの要素と構造
- 2 週 スーパービジョンの形態と内容、機能
- 3 週 スーパービジョンを受ける際の留意点
- 4 週 スーパービジョンのためのツール
- 5 週 スーパービジョン体験 スーパービジョン事例 1
- 6 週 スーパービジョン体験 スーパービジョン事例 2
- 7 週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(方法と過程、形態の整理)
- 8 週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(スーパービジョンの内容と留意点)
- 9 週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(スーパービジョンの効果)
- 10 週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(コンサルテーションとの違い、組織体制の必要性、講座のまとめ)

※履修上の留意事項

1 回の授業は 100 分。遠隔授業で行います。具体的なスーパービジョンの事例を取り上げながら講義形式と体験学習形式を繰り返していきます。ロールプレイやディスカッションなどを行いますので、主体的に参加すること。

レポート課題については、4 回提出していただきます。

ZOOM を使ったオンライン授業。

テ キ ス ト

授業中の講師の資料を中心に授業を進めていきます。

参 考 書

適宜、紹介する

必修	医療的ケアⅢ	大石恵子
	対象	介護福祉士科 2年

成績評価方法	① 講義を、実時間で、医療的ケアⅠ・Ⅱで履修済みの45時間50分と合わせて50時間終了後、筆記試験を実施する。 100点満点のうち90点以上にて、実技演習に進む。
	② 実技演習終了後、実技試験を実施する。合格すれば、喀痰吸引等研修の、基本研修修了と認定する。
	③ 期末の成績評価は、出席（または課題提出）状況、筆記試験・実技試験の成績を総合し、評価する。

概要

医療的ケアⅠ・Ⅱで学んだ知識を復習する。
 喀痰吸引・経管栄養を、安全かつ適切に実施するための技術を習得する。

授業計画

単元	授業日	内容
1・2	10/2(金) 1・2時限	医療的ケアⅡの復習 及び 物品の管理・消毒方法の演習
3・4	10/9(金) 1・2時限	① 基本講義全体の復習、まとめ(50分) ② 基本講義修了試験(60分) ③ 心肺蘇生の実技演習(90分)
5・6・7	10/16(金) 1・2・3時限	「喀痰吸引」の実技演習
8・9	10/23(金) 1・2時限	「喀痰吸引」の実技試験
10・11・12	10/30(金) 1・2・3時限	「経管栄養」の実技演習
13・14	11/6(金) 1・2時限	「経管栄養」の実技試験

※全て、対面授業です。 ※動きやすい服装で、ご参加ください。

※状況により修正・変更する可能性があります。

【任意参加の企画】『介護口腔ケア推進士』の取得を目指す学習会(全7回)
 希望者があれば、火曜日に実施します。

テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編集：「最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」、
 中央法規株式会社、2019 ※『医療的ケアⅠ・Ⅱ』と同じテキストを引き続き使用します。

参考書

必要時に紹介する

選 択	介護に活かすレクリエーション 活動援助法	師岡 文男 澤田みどり 渡辺 浩子	成 績 評 価 方 法	出席点	(60%)
	対 象	介護福祉士科 2年		レポート	(40%)

概 要

「レクリエーション(recreation)」とは、「自ら楽しさを求めて行う価値を伴った活動」であり、レクリエーションを行うことは人間の基本的欲求である。自らの能力でレクリエーションを行うことが難しい人々を支援することは、介護福祉士として大変重要な活動である。この授業では、レクリエーション活動援助全般の実践能力の向上を図ると共に、各受講生の将来の活動現場で実際に役立つレクリエーション活動の企画・模擬実施を行い、ディスカッションを行う。

※ 卒業時に公益財団法人日本レクリエーション協会「レクリエーション・インストラクター資格」(有料)を取得するための必修科目です。

※ 100分×14回の授業を、1月8・22・29日、2月12・19日(金)の5日間に集中し、新型コロナウイルス感染防止対策を施した環境での対面授業を実施する予定です。受講生は、授業当日検温を必ず行い、体調不良の場合は出席をやめ、この授業のコーディネーター師岡文男 morooka@sophia.ac.jp に必ず届け出てください。代替課題を送ります。

また、出席する際は、必ずマスクを着用し、人との距離を2m以上取るよう心がけてください。

新型コロナウイルス感染拡大状況の変化によっては、オンライン授業に変更される場合もありますので、予め了承しておいてください。

授 業 計 画

1. (1/08 金 2限) オリエンテーション (師岡)
2. (1/08 金 3限) 介護職に体得してほしい心と身体をつなぐ呼吸法 (渡辺)
3. (1/22 金 1限) クラフト (師岡)
4. (1/22 金 2限) 音楽療法の根底にある音の働き (渡辺)
5. (1/22 金 3限) 言葉以上に心に触れるアロマセラピー (渡辺)
6. (1/29 金 1限) 園芸療法とは何か (澤田)
7. (1/29 金 2限) 園芸療法実践紹介(様々な事例) (澤田)
8. (1/29 金 3限) 園芸療法ロールプレイ(種まき体験) (澤田)
9. (2/12 金 1限) 受講者発表レクプログラム企画のポイントと評価法 (師岡)
10. (2/12 金 2限) 受講者発表レクプログラム企画書作成・提出 (師岡)
11. (2/12 金 3限) 受講者発表レクプログラム必要物品準備・発表順決定 (師岡)
12. (2/19 金 1限) レクリエーションプログラム発表と評価① (師岡)
13. (2/19 金 2限) レクリエーションプログラム発表と評価② (師岡)
14. (2/19 金 3限) レクリエーションプログラム発表と評価② (師岡)

必修	生活支援技術D	堀米 史一 大石 恵子	成績評価方法 出席状況、授業態度、授業中のレポート 課題等も勘案して、総合的に評価を行う。
	対象	介護福祉士科 2年（後期）	

概要

現在介護福祉においては「質」が問われている。専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹となる新しい介護の考え方である「尊厳の保持」、「自立支援」について学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えていく。また、介護実践を単なる行為としてだけでなく、人と人との関わりの実践と位置づけ、演習等を通して他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。

本授業は通学による対面型授業で実施する。使用教室については追って掲示する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 これまでの復習
- 第3回 持ち上げない移動・移乗①
- 第4回 持ち上げない移動・移乗②
- 第5回 高齢者模擬体験①
- 第6回 高齢者模擬体験②
- 第7回 洗髪介護・清拭①
- 第8回 洗髪介護・清拭②
- 第9回 特浴の介助①
- 第10回 特浴の介助②
- 第11回 腰痛予防の取り組み①
- 第12回 腰痛予防の取り組み②
- 第13回 振り返り
- 第14回 まとめ

テキスト

指定しない
授業時に資料を配布する

参考書

中央法規 新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 I・II

上智社会福祉専門学校学則

第1章 総則

(iii) 専任の教員の数を満たしていることを証する書類

(目的)

第1条 上智社会福祉専門学校(以下「本校」という。)は、専修学校として、教育基本法、学校教育法、社会福祉法及びその他の社会福祉関係法令に基づいて社会福祉全般についての理論と技能を授け、カトリシズムの精神を生かして、社会福祉事業に責任感をもち、専門的、献身的に従事する実践家の養成を使命とする。

(設立)

第2条 本校は、イエズス会の設立にかかり、その法的設置者は学校法人上智学院である。

(名称及び位置)

第3条 本校は、上智社会福祉専門学校と称する。

2 本校を東京都千代田区紀尾井町7番1号に置く。

第2章 課程学科、修業年限、定員、学級数及び在学年数

(課程学科、修業年限、定員及び学級数)

第4条 本校の課程学科、修業年限、定員及び学級数は次のとおりとする。

課程名	学科名	学科の		入学定員	1年次	2年次	総定員	総定員 学級数
		修業年限	昼夜別					
社会福祉 専門課程	社会福祉士・ 児童指導員科	夜間	2	-	-	40	40	1
	介護福祉士科	昼間	2	-	-	40	40	1
合計				-	-	80	80	2

(在学年数)

第5条 在学年数は、修業年限に2年を加えた年数とする。

ただし、休学期間は在学年数に含まないものとする。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月20日まで

後学期 9月21日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 授業休業日は、次のとおりとする。

(1)日曜日

(2)国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3)創立記念日(11月1日)

(4)聖ザビエルの祝日(12月3日)

(5)夏期休業

(6)冬期休業

(7)春期休業

2 校長は必要に応じ、前項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。

3 校長は必要に応じ、第1項各号に定める授業休業日を、授業日(補講日を含む)及び実習日とすることができる。

第4章 教育課程及び授業時間

(教育課程)

第9条 本校の教育課程及び授業時数は別表第1に定めるとおりとする。

(授業時間)

第10条 授業時間は、午後1時30分から午後9時までとする。

社会福祉士・児童指導員科 午後5時50分から午後9時までとする。

介護福祉士科 午後1時30分から午後6時30分までとする。

2 実習については、別に定める。

第5章 教職員組織及び運営委員会

(教職員組織)

第11条 本校に次の各号に定める教職員を置く。

(1)校長 1名

(2)専任教員 6名以上

(3)非常勤講師 35名以上

(4)事務職員 数名

2 校長は、本校を代表し、校務全般を統括する。

3 専任教員及び非常勤講師は、学生の教育をつかさどる。

4 事務職員は、事務に従事する。

5 教職員に関する規定は、別に定める。

(運営委員会)

第12条 運営委員会は、校長、専任教員及び校長の委嘱した非常勤講師若干名と事務職員をもって構成し、校長が委員長となり校務について協議する。

第6章 入学・休学・退学及び再入学

(入学の時期)

第13条 入学の時期は、4月とする。

(入学資格)

第14条 社会福祉専門課程介護福祉士科に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、選考の上、入学を許可された者とする。

(1)高等学校を卒業した者

(2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3)外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定した者

(4)文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)文部科学大臣の指定した者

(6)高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者

2 社会福祉専門課程社会福祉士・児童指導員科に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、選考の上、入学を許可された者とする。

(1)大学(短期大学を除く。)を卒業した者

(2)外国の大学を修了後、日本の大学院で学位を取得した者、または学位授与機構による学士、修士、博士学位取得者で、4年制大学を卒業した者と同等以上と認められる者

(3)文部科学大臣の指定した者

(4)学校教育法に基づく大学を卒業した者に準ずるものとして厚生省令(第49号第1条第1項)で定める者。

3 入学者の選考は、別に定めるところにより行う。

(入学志願の手続)

第 15 条 入学を志願する者は、所定の入学検定料を納入し、所定の入学願書、前条各号のいずれかに該当することを証明する書類、その他必要書類を指定の期日までに提出しなければならない。

2 既納の入学検定料は、返還しない。

(入学の手続)

第 16 条 入学を許可された者は、次の書類に入学納付金等を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。

(1) 地方自治体の発行による「住民票の写し」(日本国籍以外の国籍を有する者は、外国人登録証明書の写し)

(2) その他必要書類

(休学及び復学)

第 17 条 病気その他やむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を記した休学願を提出し、校長の許可を受けなければならない。なお、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間は、1学期又は1学年を単位とし、通算3学期を超えることはできない。

3 許可された休学期間が満了した場合は、復学届を提出しなければならない。

4 休学期間中に休学の理由がなくなり復学しようとする者は、復学願を提出し、校長の許可を受けなければならない。

(退学)

第 18 条 退学しようとする者は、その理由を記した退学願を学生証とともに提出し、校長の許可を受けなければならない。

(再入学)

第 19 条 本校を卒業した者、又は中途退学した者で、再び入学しようとする者に関し必要な事項は、別に定める。

(転・編入学)

第 20 条 他の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校等からの転・編入学は行わない。

第7章 賞罰

(表彰)

第 21 条 校長は、学業・品行ともにすぐれ他の模範となる者には、運営委員会の議を経て、これを表彰することがある。

(懲戒)

第 22 条 校長は、学生の本分に反する行為があったと認められるときは、運営委員会の議を経て、これに懲戒処分を行うことがある。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなく出席状況の極めて悪い者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第8章 単位及び履修方法

(単位の算定)

第 23 条 各科目に対する1単位の算定は、次のとおりとする。

講義科目	15 時間
演習科目	30 時間
実習・実技科目	45 時間

ただし、授業科目によっては、法令等により定められた範囲で、1単位あたり時間数を変更することがある。

(履修方法)

第 24 条 社会福祉専門課程社会福祉士・児童指導員科における履修方法は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 一般教育科目のうち4科目8単位は必修とし、その他は選択履修とする。
- (2) 専門科目の基礎科目 20 科目 60 単位は必修とする。

専門科目の関連科目のうち6科目 12 単位は必修とし、その他は選択履修とする。

2 社会福祉専門課程介護福祉士科における履修方法は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 「人間と社会」の領域のうち8科目 15 単位は必修とし、その他は選択履修とする。
- (2) 「介護」の領域のうち 15 科目 43 単位は必修とし、その他は選択履修とする。
- (3) 「こころとからだのしくみ」の領域のうち9科目 20 単位は必修とし、その他は選択履修とする。
- (4) 「医療的ケア」の領域のうち、2科目6単位は必修とする。
- (5) 独自開講科目の内の1科目2単位は必修とし、その他は選択必修とする。

3 大学及び短期大学等で履修及び修得した単位の認定並びに同等又はそれ以上の教育内容を有する学校において、履修した単位の認定については別に定める。

第9章 試験及び卒業等

(試験及び評価)

第 25 条 講義、演習の各教科については、それぞれ各学期に試験を行う。

2 実習及び実技については、指導・監督者の調査・報告書に基づき、その成績を評価する。

3 授業科目の成績評価は、上位よりA(100～90点)、B(89～80点)、C(79～70点)、D(69～60点)、F(59点以下)をもって表示し、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。

4 前項にかかわらず、認定をNと表記する。

(出席時間数)

第 26 条 各科目とも出席時間数が学則に定める授業時間数の3分の2以下の者については、当該科目の履修を認定せず、受験資格を与えない。

2 学外施設における実習については、出席時間数が規定時間数の5分の4に満たない者に対し、履修を認定せず、成績の評価を行わない。

(追・再試験)

第 27 条 病気その他やむを得ない理由で試験を受けることができなかった者、又は試験に不合格であった者は、別に定める規程に従い追試験又は再試験を受けることができる。

(再履修)

第 28 条 各年次に配分された科目の受験資格を失った者又は不合格となった者は、翌年次以降においてこれを再履修しなければならない。

(留年)

第 29 条 卒業年次においてなお修得単位数の不足している者は、第5条に規定する在学年数を限度として留年となる。

(卒業及び資格の付与)

第 30 条 各学科ともそれぞれの所定の科目を修了した者について卒業を認める。

2 卒業の期日は、毎年3月31日又は9月30日とする。

3 社会福祉専門課程の卒業者には、各学科によりそれぞれ次に定める資格を与える。

(1)社会福祉士・児童指導員科 児童福祉司任用資格、児童指導員任用資格、

社会福祉士国家試験受験資格

(2)介護福祉士科 介護福祉士国家試験受験資格

4 社会福祉専門課程介護福祉士科の卒業者には専門士(社会福祉専門課程介護福祉士科)の称号を与える。

第 10 章 入学納付金及び授業料等納付金

(入学納付金)

第 31 条 第 16 条に定める入学に必要な納付金は、別表第2に定めるとおりとする。

2 本校への入学手続完了後、納入された入学納付金は、原則として返還しないが、3月31日までに所定の要領で入学辞退を申し出た場合は、所定の金額を返還する。

(授業料等納付金)

第 32 条 在學生は、別表第2の授業料等納付金を所定の期日までに納入しなければならない。

2 前項の授業料等納付金を所定の期日までに納入しない者は、退学させる。

(休学期間中の授業料等納付金)

第 33 条 休学を許可された者の休学期間中の授業料等納付金は、別に定める。

(留年者の授業料等納付金)

第 34 条 入学後修業年限を超えて在学する者の授業料等納付金は、別に定める。

(退学者の授業料等納付金)

第 35 条 退学を願い出る者は、その時期までの授業料等納付金全額を納入しなければならない。

(納付金の不還付)

第 36 条 既納の授業料等諸納付金は、原則として返還しない。

第 11 章 奨学金、健康診断及び聴講

(奨学金)

第 37 条 本校は、経済的理由により修学が困難な学生に対し、奨学金を支給することがある。

2 奨学金に関し必要な事項は、別に定める。

(健康診断)

第 38 条 在學生は、学年ごとに健康診断を受けなければならない。

(聴講生)

第 39 条 本校は、特定の科目について聴講を願い出る者がいるときは、選考の上、聴講を許可することができる。

2 聴講に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

本学則は、昭和 51 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、昭和 52 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 56 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 57 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 58 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 60 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から改正、施行する。

ただし、別表第 2 の社会福祉専門課程児童指導員科 2 年次生、実験実習費は昭和 61 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成元年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 2 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 3 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 4 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 5 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 6 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 7 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成8年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成9年4月1日から改正、施行し、平成9年度入学者から適用する。

附 則

本学則は、平成10年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成11年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成12年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成12年4月1日から改正、施行し、平成12年度入学者から適用する。

附 則

1 本学則は、平成12年4月1日から改正、施行する。

2 ただし、第31条第4項の適用は、次のとおりとする。

(1) 専門士(保育専門課程保育士科)の称号は、平成14年3月の保育専門課程保育士科の卒業生から付与する。

(2) 専門士(社会福祉専門課程介護福祉士科)の称号は、平成12年3月の社会福祉専門課程介護福祉士科の卒業生から付与する。

附 則

1 本学則は、平成13年4月1日から改正、施行する。

2 第4条の規定にかかわらず、平成13年度の各学年の定員は次表のとおりとする。

3 平成13年度における社会福祉専門課程社会福祉主事科は、募集停止とする。

課程名	学科名	修業年限	入学定員	1年次	2年次	3年次	総定員	学級数	備考
保育専門課程	保育士科	3	40	40	40	40	120	1	夜間
	社会福祉主事科	2	0	0	40		40	1	夜間
社会福祉専門課程	社会福祉士・児童指導員科	2	40	40	40		80	1	夜間
	介護福祉士科	3	40	40	40	40	120	1	夜

合 計	120	120	160	80	360	4
-----	-----	-----	-----	----	-----	---

附 則

本学則は、平成 14 年 4 月 1 日から改正、施行し、平成 14 年度入学者から適用する。

附 則

本学則は、平成 15 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 16 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 17 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2006 年(平成 18 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2007 年(平成 19 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2008 年(平成 20 年)4 月 1 日から改正、施行し、2008 年度(平成 20 年度)入学者から適用する。

附 則

本学則は、2009 年(平成 21 年)4 月 1 日から改正、施行し、平成 21 年度入学者から適用する。

附 則

本学則は、2010 年(平成 22 年)4 月 1 日から改正、施行する。

ただし、この改正前に入学した学生の資格の付与については、従前の例による。

附 則

本学則は、2011 年(平成 23 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2012 年(平成 24 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2013 年(平成 25 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則(平成 27 年 3 月 31 日受理)

本学則は、2015 年(平成 27 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2017年(平成29年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2018年(平成30年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2019年(平成31年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2020年(令和2年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2021年(令和3年)4月1日から改正、施行する。

別表第1

(A) 社会福祉専門課程

(1) 社会福祉士・児童指導員科

系 列	教 科 目	授業 形態	単 位 数		授業時間数	
			必修	選択	必修	選択
一般 教育 科目	上 智 の キ リ ス ト 教 学	講義	2		30	
	愛 と ケ ア の 人 間 学	講義	2		30	
	社 会 理 論 と 社 会 シ ス テ ム	講義	2		30	
	心 理 学 理 論 と 心 理 的 支 援	講義	2		30	
専 門 科 目	現 代 社 会 と 福 祉	講義	4		60	
	高 齢 者 に 対 す る 支 援 と 介 護 保 険 制 度	講義	4		60	
	障 害 者 に 対 す る 支 援 と 障 害 者 自 立 支 援 法	講義	2		30	
	児 童 や 家 庭 に 対 す る 支 援 と 児 童 ・ 家 庭 福 祉 制 度	講義	2		30	
	社 会 保 障	講義	4		60	
	低 所 得 者 に 対 す る 支 援 と 生 活 保 護 制 度	講義	2		30	
	福 祉 行 財 政 と 福 祉 計 画	講義	2		30	
	基 礎 地 域 福 祉 の 理 論 と 方 法	講義	4		60	
	福 祉 サ ー ビ ス の 組 織 と 経 営	講義	2		30	
	相 談 援 助 の 基 盤 と 専 門 職	講義	4		60	
	相 談 援 助 の 理 論 と 方 法 (注1)	講義	8		120	
	相 談 援 助 演 習	演習	5		150	
	相 談 援 助 実 習 (注2)	実習	4		180	
	相 談 援 助 実 習 指 導	演習	3		90	
	保 健 医 療 サ ー ビ ス	講義	2		30	
	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病	講義	2		30	
	就 労 支 援 サ ー ビ ス	講義	1		15	
	権 利 擁 護 と 成 年 後 見 制 度	講義	2		30	
	更 生 保 護 制 度	講義	1		15	
	社 会 調 査 の 基 礎	講義	2		30	
関 養 護 原 理	講義	2		30		
発 達 心 理 学	講義	2		30		

連 科 目	母子保健	講義	2		30		
	児童ソーシャルワーク論	講義	2		30		
	家族ソーシャルワーク論	講義	2		30		
	卒業レポート	演習	2		60		
	相談援助実習選択Ⅰ	実習		2		90	
	相談援助実習選択Ⅱ	実習		2		90	
	上智大学社会福祉学科開講科目A(注3)	講義		2		30	
	上智大学社会福祉学科開講科目B(注3)	講義		2		30	
	上智大学社会福祉学科開講科目C(注3)	講義		2		30	
	上智大学社会福祉学科開講科目D(注3)	講義		2		30	
合 計			80	12	1470	300	
内 訳			講義	66	8	990	120
			実習	4	4	180	180
			演習	10		300	

注1：相談援助演習は、学内では便宜上、担当教員、開講期間など別に①②・・・をつけて表示するが、評価は一括して行う。

注2：①相談援助実習は、下記により行う。

必修：1. 相談援助実習に指定されている施設のうち、児童福祉法に規定されている児童福祉施設から1箇所

2. 相談援助実習に指定されている施設から1箇所

選択：社会福祉諸機関、病院、老人保健施設等、校長が適当と認める施設
②社会福祉士及び介護福祉士法施行規則（昭和62年厚生省令第49号）第2条で指定された施設において1年以上相談援助の業務に従事した後、入学する者は、必修科目である相談援助実習のうち、2単位の90時間は免除できるものとする。

注3：上智大学が科目等履修生に開講する「学部授業科目一覧」に掲げる科目で、上智大学総合人間科学部社会福祉学科開講科目とする。

※卒業に要する最低時間数	一般教育科目	4科目	8単位	120時間以上
	基礎科目	20科目	60単位	1140時間以上
	関連科目	6科目	12単位	210時間以上
	合 計	30科目	80単位	1470時間以上

(2) 介護福祉士科

領域	教科目	授業形態	単位数		授業時間数		
			必修	選択	必修	選択	
人間	人間の尊厳と自立(30時間)	介護における尊厳と自立	講義	2		30	
	人間関係とコミュニケーション(30時間)	人間関係とコミュニケーション	講義	2		30	

と 社 会	社会の理解 (60時間)	生活と福祉 社会保障と介護保険制度	講義 講義	2 2	30 30
	選択科目(注1) (120時間)	上智のキリスト教学	講義	2	30
		愛とケアの人間学	講義	2	30
		情報リテラシー演習	演習	1	30
		現代社会の理解	講義	2	30
介 護	介護の基本 (180時間)	介護の基本 A	講義	2	30
		介護の基本 B	講義	2	30
		介護の基本 C	講義	2	30
		介護の基本 D	講義	2	30
		介護の基本 E	講義	2	30
		介護の基本 F	講義	2	30
	コミュニケーション技術 (60時間)	コミュニケーション技術 A	演習	1	30
		コミュニケーション技術 B	演習	1	30
	生活支援技術 (300時間)	生活支援技術 A	演習	1	30
		生活支援技術 B	演習	1	30
		生活支援技術 C	演習	1	30
		生活支援技術 D	演習	1	30
		生活支援技術 E	演習	1	30
		生活支援技術 F	演習	1	30
		生活支援技術 G	演習	1	30
生活支援技術 H		演習	1	30	
生活支援技術 I		演習	2	60	
介護過程 (150時間)	介護過程 A	講義 演習	2	30	
	介護過程 B	講義	1	30	
	介護過程 C	講義 演習	2	60	
	介護過程 D	演習	1	30	
介護総合演習(120時間)	介護総合演習 I	演習	1	30	
	介護総合演習 II	演習	1	30	
	介護総合演習 III	演習	1	30	
	介護総合演習 IV	演習	1	30	
	介護実習(注2) (450時間)	介護実習 I	実習	3	135
		介護実習 II	実習	2	90
		介護実習 III	実習	5	225
こ	発達と老化の理解	発達と老化の理解 A	講義	2	30

こころとからだのしくみ	(60時間)	発達と老化の理解 B	講義	2		30	
	認知症の理解 (60時間)	認知症の理解 A	講義	2		30	
		認知症の理解 B	講義	2		30	
	障害の理解 (60時間)	障害の理解 A	講義	2		30	
障害の理解 B		講義	2		30		
こころとからだのしくみ (120時間)		身体と心理の理解	講義	2		30	
		生活諸行為における心身の理解A	講義	2		30	
		生活諸行為における心身の理解B	講義	2		30	
		エンド・オブ・ライフ における心身の理解	講義 演習	2		30	
医療的ケア	医療的ケア (注3) (90時間)	医療的ケア I	講義	2		30	
		医療的ケア II	講義 演習	4		60	
独自開講科目	上智大学社会福祉学科開講科目 A (注4)		講義		2		30
	上智大学社会福祉学科開講科目 B (注4)		講義		2		30
	上智大学社会福祉学科開講科目 C (注4)		講義		2		30
	上智大学社会福祉学科開講科目 D (注4)		講義		2		30
	介護実務英語		講義		2		30
	精神保健福祉援助技術		講義		2		30
	介護職が行うスーパービジョン		演習		1		30
	介護に活かすレクリエーション活動援助法		演習		1		30
	介護福祉研究		演習	2		60	
卒業レポート		演習	2		60		
合計 58 科目			合計	89	14	2010	240
内 訳			講義	49	12	750	180
			実習	10	0	450	0
			演習	22	2	660	60
			講義 演習	10	0	180	0

注1. 本校においては必修科目とする。

注2. 介護実習はスクールアワーではなく、実時間での表記。

注3. 上智大学が科目等履修生に開講する「学部授業科目一覧」に掲げる科目で、上智大学総合人間科学部社会福祉学科開講科目とする。

※卒業に要する最低時間数	人間と社会	8科目	15単位	240時間
	介護	28科目	44単位	1260時間
	こころとからだのしくみ	10科目	20単位	300時間
	医療的ケア	2科目	6単位	90時間

独自開講科目	2科目	4単位	120時間
合計	50科目	89単位	2010時間

別表第2

本校の入学検定料は下記のとおりとする。(単位：円)

費目	課程・科	社会福祉専門課程		摘要
		社会福祉士・ 児童指導員科	介護福祉士科	
入学検定料		20,000	20,000	

本学の授業料等納付金は下記のとおりとする。

1年次生 納付は所定の入学手続期間内とする。但し、分納者の後学期分授業料納付は、後学期当初の所定の期間とする。(単位：円)

費目	課程・科	社会福祉専門課程		摘要
		社会福祉士・ 児童指導員科	介護福祉士科	
入学金		160,000	160,000	入学の際のみ
在籍料		60,000	60,000	年額
授業料		368,000	517,000	年額
実験実習費		30,000	50,000	年額
教育充実費		42,000	82,000	年額 (※)
小計		368,000	368,000	
災害傷害・賠償責任保険料		1,490	1,610	入学の際のみ
小計		1,490	1,610	
合計		661,490	870,610	

※教育充実費には、リエンション費として6,000円が含まれ入学の際のみ徴収する。

2年次生 納付は前学期及び後学期それぞれ学期当初の所定の期間内とする。(単位：円)

費目	課程・科	社会福祉専門課程		摘要
		社会福祉士・ 児童指導員科	介護福祉士科	
在籍料		60,000	60,000	年額
授業料		368,000	503,000	年額
実験実習費		14,000	55,000	年額
教育充実費		36,000	76,000	年額
合計		478,000	694,000	

注1. 有料の実習施設で、実習を再履修する場合は、実習費を再徴収する。

注2. 実習費が規定額以上の場合、超過額を該当の実習を行う学生が負担する。

在職証明書（pp.70～72）は、略

別記様式第 1 号

(用紙 日本産業規格 A4 縦型)

上智大学理工学部 特定地域内学部収容定員増加 届出書

令和 4 年 3 月 30 日

文 部 科 学 大 臣 殿

学校法人上智学院 理事長
佐久間 勤
〔公印省略〕

このたび、上智大学理工学部の特定地域内学部収容定員を増加させることについて、地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令第 4 条第 1 項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

適用を受けようとする除外規定及びその適用を受けることができる理由の概要	<p><適用を受けようとする除外規定> 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律第 13 条第 1 号</p> <p><適用を受けることができる理由の概要> 東京都千代田区紀尾井町 7 番地 1 号に所在する上智社会福祉専門学校の廃止により、当該学校の収容定員のうち昼間課程である介護福祉士科を減少させることと併せて、政令で定めるところにより算定した数の範囲内で上智大学の特定地域内学部収容定員を増加させるため。</p>			
特定地域内学部収容定員の変更の状況	増加させる学部等	学部等の名称	変更前	変更後
	上智大学 理工学部			
	物質生命理工学科 (修業年限 4 年)		1,560 人	1,640 人
	機能創造理工学科 (修業年限 4 年)		540 人	548 人
	情報理工学科 (修業年限 4 年)		500 人	548 人
	大学全体	-	520 人	544 人
			11,300 人	11,380 人
特定地域内学部収容定員を増加させる時期	令和 5 年 4 月 1 日			
校舎の所在地	東京都千代田区紀尾井町 7 番地 1 号			
学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況	令和 4 年 6 月認可申請予定			

(注)

- 記載内容を証する書類を添付すること。
- 特定地域外から特定地域内への校舎の移転その他学校教育法第 4 条第 1 項の規定により文部科学大臣の認

可を受けなければならないこととされている事項以外の事項によって、特定地域内学部収容定員を増加させる場合は、同法の規定により届け出なければならない事項の例に準じて内容の分かる書類を添付すること。

法第13条第1号・第2号 説明書

特定地域内学部等収容定員を減少させる学部等	大学の名称	上智社会福祉専門学校					
	学部等の名称	修業年限	入学定員 (編入学定員)	減少前の特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	減少させる特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	減少後の特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	校舎の所在地
	社会福祉専門課程介護福祉士科	2年	0人(0人)	40人(40人)	40人(40人)	0人(0人)	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	減少させる事由	長年にわたり福祉実務家養成教育には一定の貢献を果たしてきたが、支出超過が続く社会福祉専門学校の経営そのものの存続が困難であるとの判断に至った。特に、介護福祉に関する高等教育機関の定員充足率は国内全体で見ても5割を下回る状況が続いており、外国人留学生の受け入れを強化するとしても日本語教育を含めた更なる指導体制の充実が不可避であり、現在の資源(教員、教室、組織体制等)では対応できないため、介護福祉士科について廃止に至った。					
予定時期	令和4年4月1日						
特定地域内学部等収容定員を増加させる学部等	大学の名称	上智大学					
	学部等の名称	修業年限	入学定員 (編入学定員)	増加前の特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	増加させる特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	増加後の特定地域内学部等収容定員 (収容定員)	校舎の所在地
	理工学部 物質生命理工学科 機能創造理工学科 情報理工学科	 4年 4年 4年	 390人(0人) 135人(0人) 125人(0人) 130人(0人)	 1,560人(1,560人) 540人(540人) 500人(500人) 520人(520人)	 80人(80人) 8人(8人) 48人(48人) 24人(24人)	 1,640人(1,640人) 548人(548人) 548人(548人) 544人(544人)	東京都千代田区紀尾井町7番1号
	増加させる事由	柔軟な教育・研究環境で他分野と連携できる「複合知」を備えた人材育成を目標とする本学部の「理工融合教育」は、急速な変貌を遂げている科学技術、ならびにそれに基づき多様化する社会への対応にあたって特に貢献可能であり、現在外国人学生の入学者数も増加が続いていることから、時代の要請に合致すると考えられるため。					
予定時期	令和5年4月1日						
法第13条第2号の規定の適用を受けようとする場合のみ	合併・統廃合等、共同教育課程の別	<input type="checkbox"/> 合併・統廃合等 <input type="checkbox"/> 共同教育課程					
	協議の内容						

令和4年3月30日

文 部 科 学 大 臣 殿

学校法人上智学院 理事長
佐久間 勤
〔公印省略〕

除外規定の適用を受けることができることを証する書類について

「同一設置者内でのスクラップ&ビルド（法第13条第1号）」による届出にあたって、下記の通り「除外規定の適用を受けることができることを証する書類」を提出いたします。また、添付した書類に関しましては、記載内容に間違いのないことを証明いたします。

記

①専門学校の定員を減少させることを証する書類

寄附行為変更（上智社会福祉専門学校の廃止）に係る理事会付議資料と当該議案議事録を添付します。

②以下（i）～（iii）の要件に当て嵌まることを証する書類

（i）平成32年1月1日以降に増加した生徒総定員はないこと

総定員数に変化がないことを示すため、令和元年5月1日、令和2年5月1日ならびに令和3年5月1日現在の定員を示す表を添付いたします。

本情報は、学校法人上智学院の公式ウェブサイトにて公開されております。

（URL：<https://www.sophia-sc.jp/info/data.html>）

（ii）特定地域内学部等収容定員の減少の日6月以内において授業を行っていること

令和3年度後学期の学事日程、時間割、シラバスを添付いたします。

（iii）専任の教員の数を満たしていること

上智社会福祉専門学校は学生総定員数80名（40名×2学年）、専任の教員数3名により運営されております。

「専修学校設置基準」の「第三十九条別表一」に基づき、教育・社会福祉関係の学科かつ生徒総定員数80名以内の場合は教員数3名と定められており、基準を満たしております。

また、「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」の「第五条の四」と「別表第二（第三条―第七条の二関係）」に基づき、生徒の総定員数80名の場合は専任教員3名と定められており、指定規則上も基準を満たしております。

また、この3名につきましては、「特定地域内学部収容定員の抑制等に関する命令」（平成30年内閣府・文部科学省令第1号）第五条三に定める「一週間に担当する授業時数が六単位以上の者」「当該専修学校の校長その他当該学科の授業を担当する役職員であること」を以下の通り証します。

(1) 堀米 史一

※左が令和3年度前期、右が令和3年度後期の担当科目（単位時間数は小数点第三位四捨五入で算出）

※「上智社会福祉専門学校 校長補佐」の役職を務める。

No.	科目名	単位時間数
1	介護の基本 E	2.67
2	介護福祉研究	2.67
3	生活支援技術 D	2.67
4	卒業レポート	2.67
	合 計	10.68

No.	科目名	単位時間数
1	介護福祉研究	2.67
2	卒業レポート	2.67
	合 計	5.34

(2) 三浦 虎彦

※左が令和3年度前期、右が令和3年度後期の担当科目（単位時間数は小数点第三位四捨五入で算出）

No.	科目名	単位時間数
1	介護総合演習Ⅲ	2.67
2	介護福祉研究	2.67
3	介護過程 C	5.33
4	卒業レポート	2.67
	合 計	13.34

No.	科目名	単位時間数
1	介護福祉研究	2.67
2	介護総合演習Ⅳ	2.67
3	介護過程 D	2.67
4	卒業レポート	2.67
	合 計	10.68

(3) 大石 恵子

※左が令和3年度前期、右が令和3年度後期の担当科目（単位時間数は小数点第三位四捨五入で算出）

No.	科目名	単位時間数
1	介護総合演習Ⅲ	2.67
2	エンド・オブ・ライフにおける心身の理解	2.67
3	介護福祉研究	2.67
4	生活支援技術 D	2.67
5	卒業レポート	2.67
	合 計	13.35

No.	科目名	単位時間数
1	介護福祉研究	2.67
2	介護総合演習Ⅳ	2.67
3	介護過程 D	2.67
4	卒業レポート	2.67
	合 計	10.68

上述3名の教員については、あわせて「在職証明書」を添付いたします。教員情報は、上智社会福祉専門学校の公式ウェブサイトにて公開されております。

(URL : <http://www.sophia-sw.jp/teacher#teacher003>)

あわせて、上述の担当科目が正式に学則上規定されている科目であることを証するため、「上智社会福祉専門学校学則」も添付いたします。

以上

2022年2月22日開催理事会議事録及び資料（pp.78～90）は、略

上智社会福祉専門学校 / Sophia School of Social Welfare

学生数 / Students

2019年5月1日現在

課程・科 / Dept・Course	収容定員	1年次 / Freshman			2年次 / Sophomore			3年次 / Junior			合計 / Total			
		男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	
保育専門課程 Nursery School Teachers	保育士科 Nursery School Teachers	40	0	0	0	0	0	0	5	10	15	5	10	15
社会福祉専門課程 Social Welfare	社会福祉士・児童指導員科 Social Workers and Child Guidance Workers	80	4	18	22	9	10	19				13	28	41
	介護福祉士科 Care Workers	80	10	15	25	10	16	26				20	31	51
精神保健福祉士通信課程(短期) Correspondence Course of Psychiatric Social		80	9	60	69							9	60	69
合計 / Total		280	23	93	116	19	26	45	5	10	15	47	129	176

教員数 / Faculty

2019年5月1日現在

		教員	非常勤講師	計
		Teacher	part-time Lecture	Total
保育専門課程 Nursery School Teachers	男/M	4	38	42
社会福祉専門課程 Social Welfare	女/F	6	33	39
精神保健福祉士通信課程 Correspondence Course of Psychiatric Social				
合計 / Total		10	71	81

国籍別教員数(非常勤を除く) / Nationality of Faculty (Full-time only)

2019年5月1日現在

国籍	人数
日本 Japan	10
合計/Total	10

職員数 / Staff

2019年5月1日現在

	男/M	女/F	合計 Total
上智社会福祉専門学校 Sophia School of Social Welfare	2	2	4

上智社会福祉専門学校 / Sophia School of Social Welfare

学生数 / Students

2020年5月1日現在

課程・科 / Dept・Course	収容定員	1年次 / Freshman			2年次 / Sophomore			3年次 / Junior			合計 / Total		
		男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T
社会福祉専門課程 Social Welfare	80	10	13	23	4	17	21	/			14	30	44
社会福祉士・児童指導員科 Social Workers and Child Guidance Workers	80	4	9	13	13	12	25	/			17	21	38
介護福祉士科 Care Workers	80	15	63	78	/			/			15	63	78
精神保健福祉士通信課程(短期) Correspondence Course of Psychiatric Social	80	/			/			/			46	114	160
合計 / Total	280	29	85	114	17	29	46	0	0	0	46	114	160

教員数 / Faculty

2020年5月1日現在

		教員	非常勤講師	計
		Teacher	part-time Lecture	Total
保育専門課程 Nursery Schol Teachers	男/M	4	35	39
社会福祉専門課程 Social Welfare	女/F	3	29	32
精神保健福祉士通信課程 Correspondence Course of Psychiatric Social				
合計 / Total		7	64	71

国籍別教員数(非常勤を除く) / Nationality of Faculty (Full-time only)

2020年5月1日現在

国籍	人数
日本 Japan	7
合計/Total	7

職員数 / Staff

2020年5月1日現在

	男/M	女/F	合計 Total
上智社会福祉専門学校 Sophia School of Social Welfare	2	2	4

上智社会福祉専門学校 Sophia School of Social Welfare

学生数 Students

2021年5月1日現在

課程・科 Dept・Course	収容定員	1年次 Freshman			2年次 Sophomore			3年次 Junior			合計 Total			
		男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	男/M	女/F	計/T	
社会福祉専門課程 Social Welfare	社会福祉士・児童指導員科 Social Workers and Child Guidance Workers	40			8	11	19				8	11	19	
	介護福祉士科 Care Workers	40			5	9	14				5	9	14	
合計 Total		80	0	0	0	13	20	33	0	0	0	13	20	33

教員数 Faculty

2021年5月1日現在

		教員 Teacher	非常勤講師 part-time Lecture	計 Total
社会福祉専門課程 Social Welfare	男/M	3	12	15
	女/F	3	15	18
合計 Total		6	27	33

国籍別教員数（非常勤を除く） Nationality of Faculty (Full-time only)

2021年5月1日現在

国籍	人数
日本 Japan	6
合計 Total	6

職員数 Staff

2021年5月1日現在

	男/M	女/F	合計 Total
上智社会福祉専門学校 Sophia School of Social Welfare	2	3	5

(ii) 特定地域内学部等収容定員の減少の日6月以内において授業を行っていることを証する書類
(学事日程)

2021年度社専学年暦・学事日程表

4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	ガ	5	1 6	1 7	1 8	1 9
11	1 12	2 13	2 14	2 15	2 16	2 17
18	2 19	3 20	3 21	3 22	3 23	3 24
25	3 26	4 27	4 28	× 29	4 30	

5月

日	月	火	水	木	金	土
						4 1
2	× 3	× 4	× 5	4 6	5 7	5 8
9	4 10	5 11	5 12	5 13	6 14	6 15
16	5 17	6 18	6 19	6 20	7 21	7 22
23	6 24	7 25	7 26	7 27	8 28	8 29
30	7 31					

6月

日	月	火	水	木	金	土
		× 1	8 2	8 3	9 4	9 5
6	8 7	8 8	9 9	9 10	10 11	10 12
13	9 14	9 15	10 16	10 17	11 18	11 19
20	10 21	10 22	11 23	11 24	12 25	12 26
27	11 28	11 29	12 30			

7月

日	月	火	水	木	金	土
				12 1	× 2	× 3
4	12 5	12 6	13 7	13 8	13 9	13 10
11	13 12	13 13	14 14	14 15	14 16	14 17
18	14 19	14 20	15 21	15 22	15 23	15 24
25	15 26	15 27	補 28	補 29	補 30	補 31

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	1 21	1 22	× 23	1 24	1 25
26	1 27	2 28	2 29	1 30		

10月

日	月	火	水	木	金	土
					2 1	2 2
3	2 4	3 5	3 6	2 7	3 8	3 9
10	3 11	4 12	4 13	3 14	4 15	4 16
17	4 18	5 19	5 20	4 21	5 22	5 23
24	5 25	6 26	6 27	5 28	6 29	× 30
31						

11月

日	月	火	水	木	金	土
	× 1	× 2	× 3	× 4	7 5	6 6
7	6 8	7 9	7 10	6 11	8 12	7 13
14	7 15	8 16	8 17	7 18	9 19	8 20
21	8 22	9 23	9 24	8 25	10 26	9 27
28	9 29	10 30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	10 5	9 6	11 7	10 8
9	× 10	11 11	11 12	10 13	× 14	× 15
× 16	10 17	12 18	12 19	11 20	12 21	12 22
23	11 24	13 25	13 26	12 27	13 28	13 29
30	12 31					

2月

日	月	火	水	木	金	土
		14 1	× 2	× 3	× 4	× 5
× 6	× 7	× 8	14 9	13 10	× 11	14 12
13	13 14	15 15	15 16	14 17	14 18	15 19
20	14 21	補 22	× 23	15 24	15 25	補 26
27	15 28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		補 1	補 2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	⊙ 22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【2021年度 学年暦】

《前学期》 4月1日～9月20日
授業(補講日含む) 4月7日(水)～7月31日(土)

創立記念日・先哲祭 11月1日(月)
ザビエル祭 12月3日(金)
実習期間 8月、9月、12月、3月

《後学期》 9月21日～3月31日
授業Ⅰ 9月21日(火)～11月30日(火)
授業Ⅱ(補講日含む) 1月5日(水)～3月2日(水)
卒業式 3月22日(火)

2021年度前学期授業回数：15回
後学期授業回数：15回

【※2021年4月1日現在】

(ii) 特定地域内学部等収容定員の減少の日6月以内において授業を行っていることを証する書類(時間割)

2021年度 上智社会福祉専門学校 時間割表 (介護福祉士科)

介護福祉士科(前期)

年	時限	月	火	水	木	金	土
2年	1時限 13:30 ↓ 15:00	生活諸行為における 心身の理解B (石井紀子)	エンド・オブ・ライフにおける 心身の理解 (大石恵子)	医療的ケア II, III (大石恵子)	介護過程C (三浦虎彦)	コミュニケーション 技術B (竹沢昌子)	
	2時限 15:25 ↓ 16:55	介護総合演習 III (三浦虎彦) (大石恵子)				生活支援 技術D (堀米史一) (大石恵子)	
	3時限 17:20 ↓ 18:50	人間関係と コミュニケーション (山田美代子)	認知症の理解B (小長谷百絵)	介護の基本E (堀米史一)	介護福祉研究 (堀米史一) (三浦虎彦) (大石恵子)	生活支援 技術H (柳原美保)	

介護福祉士科(後期)

年	時限	月	火	水	木	金	土
2年	1時限 13:30 ↓ 15:00			生活支援技術 (三浦虎彦)(外山誠) (下村一真)(大石恵子) (鈴木明恵)(加藤洋子) (鈴木明恵)(山内朝日)	介護総合演習IV (三浦虎彦) (大石恵子)	介護に活かす レクリエーション活動 援助法(選択) (岡岡文男) (澤田みどり) (渡辺浩子)	
	2時限 15:25 ↓ 16:55	生活支援技術F (谷 千春)	介護福祉研究 (堀米史一) (三浦虎彦) (大石恵子)	介護過程D (三浦虎彦) (大石恵子)			
	3時限 17:20 ↓ 18:50	介護実務英語 (選択) (加藤万紀子)	精神保健福祉援助技術 (選択) (岡田奈緒子) (藤林慶子) 【休講】	介護の基本D (伊藤朱子)	介護職が行う スーパーセッション (選択) (山田美代子)		

必修	生活諸行為における 心身の理解B	石井 紀子	成績評価方法	グループワークと発表の内容
	対象	介護福祉士科 2年(前期)		小テスト 定期試験

概要

利用者の食事、排泄などに関するしくみを理解し、生活支援の根拠を明らかにする。
そのうえで、その人らしい生活に注目し、生活の質向上支援ができる。
疾患を抱えて生活する利用者への関わりとして、薬剤の効能や副作用を理解し、日常生活支援に生かす。

授業計画

1. 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ

授業1回目：皮膚の構造とそのしくみ

授業2回目：清潔保持の意義とその方法

授業3回目：褥瘡発生のメカニズム、生活場面におけるところとからだの変化

授業4回目：心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響

2. 食事に関連したところとからだのしくみ

授業5回目：消化器系の構造、消化と吸収のメカニズム、栄養素の働き

授業6回目：心身の機能低下が食事に及ぼす影響(経管栄養と胃瘻)

授業7回目：障害が及ぼす食事への影響

—— 授業8回目：小テスト①、演習課題のグループワーク ——

3. 排泄に関連したところとからだのしくみ

授業9回目：泌尿器系の構造、排泄のしくみ

授業10回目：排泄ケアの方法(トイレ、尿器、留置カテーテル、摘便、浣腸等)

授業11回目：心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(人工肛門等)

4. 睡眠に関連したところとからだのしくみ

授業12回目：睡眠のしくみ

授業13回目：心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響、小テスト②

5. 薬剤の基礎知識

授業14回目：疾患を抱えて生活する利用者に関わる際の、薬剤の基礎知識

— 授業15回目：総まとめ これまでの学びを振り返る(授業内で定期試験を予定) —

テキスト

1. 小板橋 喜久代編集：こころしからだのしくみ、メヂカルフレンド社、2013.

(※1年次で使用していたテキストを、引き続き使用します。)

参考書

1. 杉山 孝博：イラストでわかる 高齢者のからだと病気、中央法規、2013.

必修	介護総合演習Ⅲ (2年次前期)	三浦虎彦 大石恵子	成績評価方法 オンライン授業への出席と授業参加度及び提出物を総合して評価する。
	対象	介護福祉士科2年生	

概要

Ⅲ段階A実習(訪問介護実習)とB実習(介護老人福祉施設、介護老人保健施設等)の事前学習を中心に授業を行う。

授業計画

2021年度のⅢ段階実習は、8月～9月の期間にAとBの両方が行われることとなった。そのため、本科目の進め方も、この実習日程に沿って、AとBの実習の準備が整うように学習を進める。

1	4月12日	Ⅲ段階実習の進め方について、3月の実習の実習反省会
2	4月19日	Ⅲ段階実習の理解 Ⅲ段階A、Bの実習目的・目標・課題の理解
3	4月26日	Ⅲ段階実習の理解 実習スケジュールと実習の進め方
4	5月10日	Ⅲ段階A：訪問介護サービスについて
5	5月17日	Ⅲ段階A：訪問介護実習における留意点
6	5月24日	Ⅲ段階B：施設実習における介護過程の展開について、実習希望調査の実施
7	5月31日	A,Bそれぞれの実習施設、実習日程について、実習配置の確定
8	6月7日	実習施設の概要1(PCによる情報収集:A実習の施設について)
9	6月14日	実習施設の概要2(PCによる情報収集:B実習の施設について)
10	6月21日	「実習に向けて」の作成：実習目標の記入、個人目標の設定、その他。細菌検査キットの配布
11	6月28日	実習個人目標の共有1:A実習について
12	7月5日	実習個人目標共有2:B実習について
13	7月12日	実習ノートの準備(事前に記入する部分)、日々の実習課題をどのようにつくっていくか、巡回担当教員について、学生から施設への連絡について、7月中のオリエンテーションの確認について
14	7月19日	実習ノートの裏面の書き方、個人のメモとの併用、介護計画のPCによる作成について、オリエンテーション日程確認、「実習に向けて」の郵送による提出
15	7月26日	実習オリエンテーションの状況確認、施設指導者への質問事項等の確認、実習に向けた最終確認事項

参考書

介護実習要項及び、実習ノートの記載事項を参照。
その他、帰校日の振替休講の日程等は、適宜、授業中に提示する。

て 必 修	人間関係と コミュニケーション	山田美代子	成績評価方法 出席・定期試験・受講態度など考慮の上 評価します
	対 象	介護福祉士科 2 年生（前期）	

概 要

介護福祉職が提供するサービスが、利用者にとって安心、納得、信頼できるものであるためには、利用者や家族、ケアチームや医療関係者といかに良好な人間関係を築くかが大切です。適確で穏やかなコミュニケーションをとってための知識や技術を学びます。人間関係とコミュニケーションの学習を通じて対人援助に必要な人間理解とコミュニケーション技術を体験的に習得していく。講義と演習を繰り返すことで態度習得を目指す。学生同士がグループメンバーとなり、そのプロセスを活用して学習を進める。この講座を通じて「自分」と「他者」、「自分」と「他者」の「相互作用」「社会で暮らす様々な人々の人間関係」「地域社会」を理解した上で、対人援助は、他者に対する援助を多くの専門職との協働で行うことを理解し必要な態度を習得する。

授 業 計 画

- 1 週 人間と社会を理解し、人間関係とコミュニケーションを学ぶ意義
- 2 週 対人援助場面のコミュニケーションの特徴
- 3 週 コミュニケーションの理解（利用者理解を中心に 個別化ということ）
- 4 週 コミュニケーションの理解（援助者自身の理解を中心に 専門家としてのセルフコントロール）
- 5 週 コミュニケーションの理解（相互作用の理解を中心に 利用者、家族、専門家同士）
- 6 週 実際例から学ぶ人間理解（対人援助現場におけるポジティブ・ネガティブなコミュニケーション）
- 7 週 実際例から学ぶ人間理解（対人援助現場における連携・協働・チームワーク）
- 8 週 理論から学ぶ人間理解
(対人援助現場に必要な理論 役割理論・学習理論・家族のコミュニケーション)
- 9 週 利用者の力の発揮を支援する方法（人の可能性の発揮を意図したコミュニケーション）
- 10 週 家族の力の発揮を支援する方法（家族の力の発揮を意図したコミュニケーション）
- 11 週 チームワークを形成していく方法（ケアチームの力を発揮するコミュニケーション）
- 12 週 実用例から学ぶ人間関係とコミュニケーション（1） 観察・理解
- 13 週 実用例から学ぶ人間関係とコミュニケーション（2） コミュニケーションの知識と技術の整理
- 14 週 対人援助職に必要なスーパービジョン
- 15 週 定期試験

※ 履修上の留意事項

具体的な事例をとりあげながら講義形式と体験学習式を繰り返していきます。授業中でロールプレイなどを行いますので、主体的に参加すること。

テ キ ス ト

授業中に講師が作成した資料をテキストとします。

参 考 書

適宜、紹介する

必修	エンド・オブ・ライフにおける心身の理解	大石 恵子	成績評価方法 出席状況20% 授業態度20% 課題レポート60%
	対象	介護福祉士科 2年	

概要

1. 死を取り巻く日本の社会背景について学ぶ。
2. エンド・オブ・ライフ期のころとからだの変化の特徴と、辛さを和らげるための介護の方法を学ぶ。
3. 大切な人を看取る、近親者への支援の方法を学ぶ。

授業計画

基本的には、火曜日2時限に授業がありますが、変則となる場合があります。
状況により、修正や変更が生じる可能性があります。

回	月/日(曜日) 時限	内容
1	4/6(火) 2時限	イントロダクション と、 「エンド・オブ・ライフ・ケアとは？」のお話し
2	4/13(火) 2時限	生きること、死ぬこと について考える
3	4/20(火) 2時限	死を取り巻く日本の社会背景 と、 日本のエンド・オブ・ライフ・ケアの歴史と現状
4	4/27(火) 2時限	エンド・オブ・ライフ期の からだのつらさを和らげるための介護
5	5/11(火) 2時限	エンド・オブ・ライフ期の こころのつらさを和らげるための介護
6	5/18(火) 2時限	アドバンス・ケア・プランニング(人生会議) について
7	5/25(火) 2時限	介護福祉士に求められる基本的な態度とコミュニケーション
8	6/8(火) 2時限	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける多職種連携
9	6/15(火) 2時限	大切な人を看取る人への支援
10	6/22(火) 2時限	死後のからだの変化とエンゼルケア
11	7/1(木) 2時限 に調整予定	特別養護老人ホームにおけるエンド・オブ・ライフ・ケア ゲスト：バタニアホーム 中澤 栄理 先生
12	7/6(火) 2時限	サービス付き高齢者向け住宅におけるエンド・オブ・ライフ・ケア ゲスト：メディカルホームKukuru 中村 明澄 先生, 日向 雅史 先生
13	7/13(火) 2時限	療養病棟でのエンド・オブ・ライフ・ケアに関わる介護職の役割 ゲスト：救世軍ブース記念病院 江口 朋子 先生
14	7/20(火) 2時限	老人保健施設の機能を活用した地域でのエンド・オブ・ライフ・ケア ゲスト：ブース記念老人保健施設グレイス 蛭間 奈恵子 先生
15	7/27(火) 2時限	まとめ

重要 期末テストは行いません。各回のミニレポート課題の実施状況で評価します。

テキスト

授業で配布する資料

参考書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会：「最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」
中央法規出版 2019年 ※授業で使う箇所は配布資料を作成します。
- ・その他、随時紹介します。

必修	認知症の理解B	小長谷百絵	成績評価方法	出席、授業態度、レポートで
	対象	介護福祉士科 2年		総合的に評価

概要

高齢者（障がい者）福祉に携わる専門家として、超高齢社会から今後、人口減少に向かう日本の社会的将来像を見据えつつ、認知症の人の特性を踏まえた生活、環境調整の視点を学ぶ。また『生活の支援』という立場から、多職種チームで支える認知症高齢者ケアマネジメントについて知る。

介護の専門職としての道徳的信念である倫理感を育成するために知識・技術を身につけ、関連する医学的知識や制度を利用しながら現場で実践する際に役立つ、考える力や実践する力を習得する。

授業計画

- 第1回 認知症ケアの基本的な考え方
- 第2回 認知症に関する制度理解と動向
- 第3回 尊厳を支えるケアの実践に向けて
- 第4回 なじみの人間関係と住環境
- 第5回 施設ケア、在宅ケア、地域ケア、多職種連携のケア①
- 第6回 施設ケア、在宅ケア、地域ケア、多職種連携のケア②
- 第7回 認知症の人のターミナルケア
- 第8回 認知症疾患と権利擁護、事故防止
- 第9回 認知症を有する方の家族、支援者の現状と支援体制
- 第10回 虐待防止の観点からの事例検討
- 第11回 虐待防止の取り組み
- 第12回 認知症の人の権利、成年後見制度
- 第13回 認知症になっても安心して暮らせる社会へ
- 第14回 認知症の施設における人権擁護の取り組み
- 第15回 レポート筆記試験

テキスト

1年次の「認知症の理解 A」で使用した教科書を使用

参考書

講義の中で提示する。

必修	医療的ケア Ⅱ・Ⅲ	大石恵子
	対象	介護福祉士科 2年

成績評価方法	① 講義を、実時間で、医療的ケアⅠで履修済みの23時間20分と合わせて50時間終了後、筆記試験を実施する。100点満点のうち90点以上にて、実技演習に進む。
	② 実技演習終了後、実技試験を実施する。合格すれば、喀痰吸引等研修の、基本研修修了と認定する。
	③ 期末の成績評価は、出席状況30%、授業態度20%、筆記試験・実技試験の成績50%を総合し評価する。

概要

医療的ケアⅠで学んだ、医療的ケアを実施するための基礎知識を基盤とし、
 喀痰吸引・経管栄養を、安全かつ適切に実施するための知識と技術を習得する。

授業計画

基本的には、水曜日1時限目・2時限目連続の授業ですが、変則になることがあります。
 状況により修正・変更する可能性があります。

回	月/日(曜日)	内容
1.2	4/7(水) 1.2時限	イントロダクション および 医療的ケアⅠの復習
3.4	4/14(水) 1.2時限	「喀痰吸引」で用いる器具・器材とそのしくみ、必要物品の管理
5.6	4/21(水) 1.2時限	「喀痰吸引」の実施の手順と留意点(口腔内、鼻腔内)
7.8	4/28(水) 1.2時限	「喀痰吸引」の実施の手順と留意点(気管カニューレ内部) 人工呼吸器のしくみ
9.10	5/12(水) 1.2時限	「経管栄養」で用いる器具・器材とそのしくみ、必要物品の管理方法
11.12	5/19(水) 1.2時限	「経管栄養」の実施の手順と留意点(胃ろう・腸ろう経管栄養)
13.14	5/26(水) 1.2時限	「経管栄養」の実施の手順と留意点(胃経鼻経管栄養)
15	6/2(水) 1時限	利用者・介護者の気持ちへの配慮
16	6/2(水) 2時限	『施設で生活する重症心身障害者・児へのケア』 ゲスト: 島田療育センター療育部長 落合三枝子先生
17.18	6/9(水) 1.2時限	『医療的ケアを利用しながらの在宅療養』 ゲスト: NPO法人 Smile and Hope理事長 太田守武先生
19	6/16(水) 1時限	基本講義修了試験
20	6/16(水) 2時限	心肺蘇生の実技演習
21.22	6/23(水) 1.2時限	「喀痰吸引」の実技演習
23	6/29(火) 2時限	に調整予定 「喀痰吸引」の実技試験
24	7/1(木) 1時限	に調整予定
25.26	7/7(水) 1.2時限	「経管栄養」の実技演習
27.28	7/14(水) 1.2時限	「経管栄養」の実技試験
29.30	7/21(水) 1.2時限	実技の補足、まとめ

テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編集:「最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」,
 中央法規株式会社, 2019 ※『医療的ケアⅠ』と同じテキストを引き続き使用します。

参考書

公益社団法人東京都介護福祉士会編集:「介護現場の医療的ケアハンドブック」,
 看護の科学社, 2019 ※授業で使う箇所は配布資料を作成します。購入しなくてOKです。

必修	介護の基本E	堀米史一	成績評価方法 プレゼンテーション・授業中の課題等を 勘案して、総合的に評価を行う。
	対象	介護福祉士科 2年生 前期	

概要

利用者にとって最も身近な介護従事者が介護の理念を実現するために、既習の倫理・知識・技術を統合し、利用者や生活の観点から多様な介護現場で利用者の生活の安全を守るべくセーフティマネジメントを展開するための基礎的な力を培い、応用力を高める科目である。また、その実現には、介護従事者の安全が保証されるべきであることへの認識を深め、演習や実習、職場においても実践できるようになることを目指す。具体的には介護における安全の確保とリスクマネジメント（知識・技術、事故防止や安全の対策、感染対策、緊急時対応、介護従事者の健康管理等）について、施設や在宅での具体例、実習体験をもとに展開する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 安全（セーフティ）とは何か
- 第3回 ヒヤリ・ハットの意義
- 第4回 事例を通して考える①
- 第5回 事例を通して考える②
- 第6回 対象者のリスク①
- 第7回 対象者のリスク②
- 第8回 従事者の安全①
- 第9回 従事者の安全②
- 第10回 学内のリスク事例作成①
- 第11回 学内のリスク事例作成②
- 第12回 事例発表
- 第13回 私の身近なリスク①
- 第14回 私の身近なリスク②
- 第15回 事例作成

テキスト

指定しない

授業中に配布する

参考書

必修	介護過程 C	三浦虎彦
	対象	介護福祉士科 2 年（前期）

成績
評価
方法

遠隔授業の出席、Moodle 提出物、授業における発表内容および参加態度等を総合して評価する。

概 要

1 年時に行った介護過程 A および B で習得した知識をもとにして、いくつかの事例を用いて介護職が行うアセスメントから介護計画の作成と、実施から評価までを演習を通して体験的に学ぶ。本授業を通して、夏の介護実習で行う介護過程展開の基盤を作る。

授 業 計 画

1	4 月 8 日	①介護実習Ⅱで行った情報収集の確認
2	4 月 15 日	②個々の情報収集を前提とした介護過程の進め方の具体的理解
3	4 月 22 日	③生活上の課題の導出
4	5 月 6 日	④提出された課題の内容、傾向を集約、この時点での共通理解を得る。
5	5 月 13 日	⑤ミニ報告会 1：情報の解釈・関連付けから課題導出までをどのように考えたか。
6	5 月 20 日	⑥ミニ報告会 2：上記と同じ
7	5 月 27 日	⑦事例を用いた演習 (1)前半：高齢者施設サービス事例（変更あり）
8	6 月 3 日	⑧事例を用いた演習 (1)後半：介護計画の検討（報告者交代制）
9	6 月 10 日	⑨事例を用いた演習 (2)前半：障害者サービス事例（変更あり）
10	6 月 17 日	⑩事例を用いた演習 (2)後半：介護計画の検討（報告者交代制）
11	6 月 24 日	⑪事例を用いた演習 (3)前半：高齢者居宅サービス事例（変更あり）
12	6 月 30 日	⑫事例を用いた演習 (3)後半：介護計画の検討（報告者交代制）※医療的ケアⅡと入れ替え
13	7 月 8 日	⑬介護過程における実施と評価に関する演習その 1
14	7 月 15 日	⑭介護過程における実施と評価に関する演習その 2
15	7 月 22 日	⑮夏の実習に向けて（介護過程の実践編に向けてのまとめ）

※上記予定は、状況によって変更する場合があります。

テ キ ス ト

テキストなし。各回で資料を配布する。

介護実習Ⅱで行った情報収集の資料を、各自、事前に確認しておくこと。

参 考 書

なし。

選 択	介護福祉研究	三浦虎彦 大石恵子 堀米史一	成績評価方法 出席と授業態度
	対 象	介護福祉士科 2 年生	

概 要

2年間の学びを総合し、学生はそれぞれのテーマを選択し、卒業レポートを作成する。その際の情報集や研究方法等についてゼミ形式で授業を行い、指導担当教員の個人指導によってレポートを完成させる。作成したレポートの内容は、当科目の中で発表、質疑応答、教員からの指導を受けてより深い考察を得る。

授 業 計 画

1. 研究計画の共有
2. 卒業レポート執筆スケジュール、その後の報告会等について
3. 卒業レポート昼間報告の作成について
4. 中間報告完成に向けた情報収集と研究方法の吟味
5. 卒業レポート中間報告の作成
6. 卒業レポート中間報告会の実施
- 7～15. 指導担当教員による論文指導
- 16～23. 卒業レポートの執筆
- 24～25. 卒業レポート報告会準備
- 26～28. 卒業レポート発表会
- 29～30. 卒業レポート総合評価

※上記の予定で年間を通じて授業を行う。授業予定を変更する場合には、指導担当教員との相談による。

テ キ ス ト

2021年度卒業レポート作成要領

参 考 書

授業時に紹介。

必修	コミュニケーション技術 B	竹沢 昌子	成績評価方法 授業への参加と課題への取り組みを総合的に評価する。
	対象	介護福祉士科 2年	

概要

介護福祉士の倫理綱領に基づいて専門職として適切な支援を行うためには、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが非常に重要になる。この授業では、アサーティブ・コミュニケーションの視点と手法を用いながら、介護現場における同僚や他職種とのコミュニケーション、家族とのコミュニケーション、伝わる記録の方法などについて、グループワークを取り入れながら実践力を身につけることを目指す。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、介護職にとってのコミュニケーションの意義・目的・役割
- 第2回 コミュニケーションの基本①
- 第3回 コミュニケーションの基本②
- 第4回 コミュニケーションの基本③
- 第5回 アサーティブ・コミュニケーションとは
- 第6回 同僚とのコミュニケーション①
- 第7回 同僚とのコミュニケーション②
- 第8回 他職種とのコミュニケーション
- 第9回 家族とのコミュニケーション①
- 第10回 家族とのコミュニケーション②
- 第11回 記録について
- 第12回 燃え尽きを防ぐために①
- 第13回 燃え尽きを防ぐために②
- 第14回 外部講師による講話
- 第15回 全体まとめ

テキスト

特に決まったテキストは使用しない。授業内で適宜配布、紹介する。

参考書

『新介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術』中央法規出版
その他、授業内で適宜紹介する。

必修	生活支援技術D	堀米 史一 大石 恵子	成績評価方法 出席状況、授業態度、授業中のレポート 課題等も勘案して、総合的に評価を行う。
	対象	介護福祉士科 2年（前期）	

概要

現在介護福祉においては「質」が問われている。専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹となる新しい介護の考え方である「尊厳の保持」、「自立支援」について学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えていく。また、介護実践を単なる行為としてだけでなく、人と人との関わりの実践と位置づけ、演習等を通して他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 1年生の復習
- 第3回 持ち上げない移動・移乗①
- 第4回 持ち上げない移動・移乗②
- 第5回 高齢者模擬体験①
- 第6回 高齢者模擬体験②
- 第7回 洗髪介護・清拭①
- 第8回 洗髪介護・清拭②
- 第9回 特浴の介助①
- 第10回 特浴の介助②
- 第11回 実践演習①
- 第12回 実践演習②
- 第13回 振り返り①
- 第14回 振り返り②
- 第15回 まとめ

テキスト

指定しない
授業時に資料を配布する

参考書

中央法規 新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 I・II

必修	生活支援技術 H	桐原 美保	成績評価方法 平常点（出席状況と授業に臨む態度）20% レポート課題 30% 実習による提出物 50%
	対象	介護福祉士科 2年	

概要

人々が健康な家庭生活を過ごすためには、基本的な生活の知識や技術が必須である。
この授業では、被服に関する様々な知識や技術について講義や実習を通して習得し、高齢者や障がいのある人の家庭生活を支援する能力を養う。

授業計画

- 第1回 被服生活の基本知識（被服生活とは）
被服管理（取り扱い表示、サイズ表示、組成表示、原産国表示）
- 第2回 被服の素材（繊維、糸、布）
- 第3回 被服の裁縫・衣類の補修実習（1）手縫いの基礎（布の準備、しるし付けなど）
- 第4回 被服管理実習 1（アイロンがけ）
- 第5回 被服の裁縫・衣類の補修実習（2）手縫いの基礎（まつり縫いによる裾上げなど）
- 第6回 被服の裁縫・衣類の補修実習（3）手縫いの基礎（ボタン・スナップ・ホック付けなど）
- 第7回 被服の裁縫・衣類の補修実習（4）ミシン縫いの基礎（ミシンの使い方など）
- 第8回 被服の裁縫・衣類の補修実習（5）ミシン縫いの基礎（仕上げ、衣類のたたみ方）
- 第9回 被服管理実習 2（被服の管理）
- 第10回 被服管理（被服の洗濯、洗剤の種類）
- 第11回 被服管理実習 3（洗濯方法）
- 第12回 被服管理（漂白、のりづけ、保管（防虫剤、乾燥剤））
- 第13回 被服管理実習 4（しみのとり方など）
- 第14回 高齢者・障がいのある人の被服の構成・着脱の工夫、ユニバーサルファッション
- 第15回 衣類・寝具の衛生保持・管理 *提出物を返却する

テキスト

適宜プリントを配布する

参考書

「新・介護福祉養成講座6 生活支援技術Ⅰ」, 中央法規出版

必修	生活支援技術F (聴覚障害関係)	谷 千春
	対象	介護福祉士科 2年

成績評価方法

小テスト 40% レポート 40%
授業への積極的参加 10%
学習の理解 10%

概要

<授業の目的・ねらい>

聴覚・言語障害について、医学、福祉、教育、心理、文化など多方面から総合的な理解を深め、利用者主体の生活が維持できるように、生活する上でどのような困難が生じているのか、どのような生活支援をすべきかについて根拠に基づく実践ができるように基礎的な知識を学ぶ。また手話を中心に、筆談、読唇、指文字などのコミュニケーション手段について学び技能を身につける。

<授業の概要>

毎回、講義と実技を行う。講義では聴覚障害について、障害の特性や生活上の困難さについて、その現状と課題について学ぶ。また、日常生活をはじめ文化活動の支援や、バリアフリー、福祉機器などの実際について学び、聴覚・言語障害者の生活支援のあり方を考える。実技では、「家族」、「名前」などの手話の他、指文字を習得し、簡単な会話が表現できるようにする。

<授業終了時の達成課題(到達目標)>

- (1)聴覚障害者の特性について理解し、生活上の困難さについて説明できる。
- (2)聴覚障害者の日常生活支援をはじめ文化活動の支援を通して、生活支援のあり方について考察できる。
- (3)聴覚障害者のさまざまなコミュニケーション手段について知る。
- (4)手話で簡単な自己紹介ができる。

授業計画

- 第1回 あいさつ 障害に関する基礎知識(クイズ形式)
- 第2回 家族 さまざまな障害者の現状
- 第3回 名前の表現 障害をポジティブに評価する
- 第4回 指文字(1)ア行からサ行 障害者補助犬
- 第5回 点字の基礎 視覚障害者への介助
- 第6回 指文字(2)タ行からハ行 重複障害者の現状と課題
- 第7回 地名 障害者の心理
- 第8回 指文字(3)マ行からワ行 進化するバリア・フリー
- 第9回 曜日の表現 道路交通法
- 第10回 動物の表現 出生前診断
- 第11回 食べ物の表現 学習障害
- 第12回 色彩の表現 補聴器装着者への配慮
- 第13回 健康に関する表現 答えると応える
- 第14回 学習のまとめ

テキスト

毎回授業の最後に小テストを行います。
本講義で使用したスライドは公開します。

参考書

「ゼロからわかる手話入門」2012年 主婦の友社刊 谷千春監修
「手話辞典」2005年 池田書店 谷千春監修

選 択	介護実務英語	加藤 万紀子	成績評価方法 出席点(50%)、毎回の小テスト・課題 (50%)の総合評価
	対 象	介護科 2年(後期)	

概 要

この授業では、実践現場で使える表現や器具の名称など専門用語を学ぶと共に、英文読解力を身につけることを目指します。

授 業 計 画

回	日付	授業内容
1	9/27(月)	オリエンテーション、利用者との面接でつかえる表現1、English Essay (1a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(1a)
2	10/4(月)	利用者との面接でつかえる表現2 English Essay (1b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(1b)
3	10/11(月)	食事時間の説明と好き嫌いを聞くときの表現 English Essay (2a)読解、小テスト、福祉英語専門用語(2a)
4	10/18(月)	食事介助のときの表現 English Essay (2b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(2b)
5	10/25(月)	保育施設での会話表現 English Essay (3a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(3a)
6	11/8(月)	体温と脈拍を測定するときの表現 English Essay (3b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(3b)
7	11/15(月)	血圧を測定するときの表現 English Essay (4a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(4a)
8	11/22(月)	自力で起き上がる手順を説明する表現 English Essay (4b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(4b)
9	11/29(月)	ベッドから車椅子への移動するときの表現 English Essay (5a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(5a)
10	1/17(月)	利用者からの要求に応えるときの表現 English Essay (5b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(5b)
11	1/24(月)	足浴とマッサージをするときの表現 English Essay (6a) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(6a)
12	1/31(月)	利用者についての会議でつかえる表現 English Essay (6b) 読解、小テスト、福祉英語専門用語(6b)
13	2/14(月)	フィンランドの福祉について English Essay (7a) 読解、小テスト
14	2/21(月)	フィンランドの福祉について English Essay (7b) 読解、小テスト
15	2/28(月)	フィンランドの福祉について

テ キ ス ト

毎回授業で資料を配布します。

必修	介護福祉研究	三浦虎彦 大石恵子 堀米史一	成績評価方法	出席と授業態度
	対象	介護福祉士科 2 年生		

概 要

2 年間の学びを総合し、学生はそれぞれのテーマを選択し、卒業レポートを作成する。その際の情報集や研究方法等についてゼミ形式で授業を行い、指導担当教員の個人指導によってレポートを完成させる。作成したレポートの内容は、当科目の中で発表、質疑応答、教員からの指導を受けてより深い考察を得る。

授 業 計 画

1. 研究計画の共有
2. 卒業レポート執筆スケジュール、その後の報告会等について
3. 卒業レポート昼間報告の作成について
4. 中間報告完成に向けた情報収集と研究方法の吟味
5. 卒業レポート中間報告の作成
6. 卒業レポート中間報告会の実施
- 7～15. 指導担当教員による論文指導
- 16～23. 卒業レポートの執筆
- 24～25. 卒業レポート報告会準備
- 26～28. 卒業レポート発表会
- 29～30. 卒業レポート総合評価

※上記の予定で年間を通じて授業を行う。授業予定を変更する場合には、指導担当教員との相談による。

テ キ ス ト

2021 年度卒業レポート作成要領

参 考 書

授業時に紹介。

	生活支援技術(三浦虎彦)	成績評価方法
対 象	介護福祉士科 2年	出席と授業態度、記述式試験を総合して評価

概 要

本科目は、人生の終末期における介護職の支援に関する内容、さらに、利用者の睡眠に関する支援、不安を和らげる支援等の観点から、輪講形式で講義(または演習)を行う。各回の授業を受けながら、自らの今後の介護実践に活かせるよう、考察を深めていくことが必要となる。

回数	月日	担当	テーマ
1	9月22日	三浦虎彦 大石恵子(河正子)	授業の説明、イントロダクション エンド・オブ・ライフ期のこころのケア(スピリチュアルケア)(河正子先生) エンド・オブ・ライフ・ケアを支える、地域のサポートグループのとりくみ(河正子先生)
2	9月29日	外山誠	難病を持つ方の在宅生活の支援とターミナルケア
3	10月6日	鈴木伸国	日本人の生死観、宗教にみる死生観
4	10月13日	下村一真	小規模多機能施設での看取り実践
5	10月20日	木本明恵	認知症緩和ケアとタクティールケア(1)
6	10月27日	木本明恵	認知症緩和ケアとタクティールケア(2)
7	11月10日	木本明恵	認知症緩和ケアとタクティールケア(3)
8	11月17日	大石恵子(小林光恵)	エンゼルケア(小林光恵先生)
9	11月24日	大石恵子(小林光恵)	介護に活かす美容ケア(小林光恵先生)
10	1月5日	吉川美津子	現代における葬送のあり方と介護サービス(1月12日と入れ替えの可能性あり)
11	1月12日	三浦虎彦	高齢期のQOLを考える(1月5日と入れ替えの可能性あり)
12	1月19日	山内朝江	睡眠の介護(1)意義と目的、睡眠障害と睡眠に関する知識
13	1月26日	山内朝江	睡眠の介護(2)睡眠における介護技術と適切な環境づくり
14	2月9日	大石恵子(福田美保子)	日常ケアに活かすスマイルタッチケア(福田美保子先生)
15	2月16日	三浦虎彦	これまでの授業の振り返りと記述式試験 ※試験の記述時間はこの日の残り時間としてカウントしていますが、違う時にやっても良いです。提出は、2月16日(火)までです。

※上記日程は、状況に応じて、変更する可能性があります。

テ キ ス ト

なし。

参 考 書

主として、授業時に各講師が資料を配布する。

必修	介護の基本 D	伊藤 朱子	成績評価方法 出席・授業態度・期末レポート
	対象	介護福祉士科 2年	

概要

超高齢社会における社会システムの構築と福祉に関する制度・政策を考慮しながら、地域のあり方・住宅・福祉施設について学び、居住環境・まちづくりの課題について理解を深めることを目的とする。

現在の日本の状況や介護保険をはじめとする社会システムの構築を踏まえ、高齢者に視点をあてながら、建築的視点を含めて環境整備の大切さを学習する。

授業計画

- 1, 日本の現在・超高齢社会について
- 2, 社会（保障）制度と高齢者福祉
- 3, ユニバーサルデザイン・バリアフリーデザイン
- 4, 高齢期の生活と多様な住まい方
- 5, 高齢者施設のケアと居住環境
- 6, 高齢者施設の事例研究
- 7, 高齢期における住宅生活と居住環境
- 8, 高齢期における住宅生活と居住環境
- 9, 高齢者が地域で暮らすということ（1）
- 10, 高齢者が地域で暮らすということ（2）
- 11, 高齢化とまちづくり（1）都市部編
- 12, 高齢化とまちづくり（2）地方編
- 13, 事例研究（UR・地域包括ケア）
- 14, 事例研究（医療とまちづくり・海外事例）

テキスト

授業ごとに資料を配布する

参考書

適宜紹介する

介護総合演習Ⅳ・介護過程D(三浦虎彦)		成績評価方法
対象	介護福祉士科 2年	出席と提出物、発表内容、授業態度等を総合して評価

概要

本授業は、夏季の介護実習で行った内容をもとにして、実習内容を具体的に振り返り、事例研究をまとめることを主たる課題とする。事例報告と報告書作成作業を含め、「介護過程D」の授業と一体として行う。

授業計画

2021年度後期介護福祉士科2年生「介護総合演習Ⅳ/介護過程D」授業日程(予定変更あり)

回	月日	曜日	1限:介護総合演習Ⅳ(13:30~15:10)	2限:介護過程D(15:25~17:05)	備考	
1	9月30日	木	夏の実習の確認と後期授業の進め方、実習ノート類の内容確認、事例研究報告会の準備作業について	夏の実習に関するバスセッション～実習反省会に向けたトピックの抽出		
2	10月7日	木	ⅢA実習(または前半の実習)の振り返り 実習反省会①	ⅢA実習(または前半の実習)の振り返り 実習レポートの執筆①	教員3名体制	
3	10月14日	木	ⅢB実習Bの振り返り 実習反省会2	ⅢB実習の振り返り 実習レポートの執筆②	教員3名体制	
4	10月21日	木	事例研究報告の資料作成方法①	事例研究報告資料作成作業①	PCルーム(2コマ目)	
5	10月28日	木	事例研究報告資料作成方法②	事例研究報告書作成作業②	PCルーム(2コマ目)	
6	11月11日	木	事例研究報告会①		4名、指導者ZOOM招聘	
7	11月18日	木	事例研究報告会②		4名、指導者ZOOM招聘	
8	11月25日	木	事例研究報告会③		5名、指導者ZOOM招聘	
9	1月6日	木	事例研究報告会を終えて(報告会を通して考察をまとめ、報告書原稿を完成させる)			
10	1月13日	木	介護過程の理論(復習、国家試験を視野に入れて)			
11	1月20日	木	介護実習を制度的視点から考える①(復習、国家試験を視野に入れて)			
12	1月27日	木	介護実習を制度的視点から考える②(復習、国家試験を視野に入れて)			
13	2月10日	木	今後の介護実践に向けて①(卒業生ゲスト調整)			調整中
14	2月17日	木	今後の介護実践に向けて②(卒業生ゲスト調整)			調整中
15	2月24日	木	今後の介護実践に向けて③(教員から)			

テキスト

なし。

参考書

授業時に資料を配布。

選 択	介護職が行う スーパービジョン (選択科目)	山田美代子	成 績 評 価 方 法	出席・定期試験・授業態度など 考慮の上評価します
	対 象	介護福祉士科 2年(後期)		

概 要

介護福祉士が組織で専門性を発揮し、適切な介護業務を行うためには、介護福祉士を支える組織とに備わっている支援システムが必要である。介護福祉士を支えるスーパービジョン機能(管理・教育・サポート)を理解し、その活用を体験的に習得していく。講義と演習を繰り返すことで、スーパービジョンに関する基本的知識と現場における実際的な活用を目指す。特に、専門家として成長していくために、スーパービジョンの活用の仕方と重要性を学ぶ。

授 業 計 画

- 1週 スーパービジョンを学ぶ意義
- 2週 スーパービジョンの要素と構造
- 3週 スーパービジョンの形態と内容
- 4週 スーパービジョンの機能
- 5週 スーパービジョンを受ける際の留意点
- 6週 スーパービジョンを行うためのツール
- 7週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(方法と過程)
- 8週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(形態 個人・グループ・ピア)
- 9週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(スーパービジョンの内容)
- 10週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(ライブ、ユニット)
- 11週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(コンサルテーションとスーパービジョン)
- 12週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(組織で取り組む意味)
- 13週 実際例から学ぶスーパービジョン体験(スーパービジョンの記録)
- 14週 介護福祉士に必要なスーパービジョン(知識・技術・価値・倫理との関係)
- 15週 本講座のまとめ

※履修上の留意事項

具体的なスーパービジョンの事例を取り上げながら講義形式と体験学習形式を繰り返していきます。授業の中でビデオ学習やロールプレイなどを行いますので、主体的に参加すること。

テ キ ス ト

適宜、紹介する

参 考 書

適宜、紹介する

選 択	介護に活かすレクリエーション 活動援助法	師岡 文男 澤田みどり 渡辺 浩子	成績評価方法	出席点	(60%)
	対 象	介護福祉士科 2年		レポート	(40%)

概 要

「レクリエーション(recreation)」とは、「自ら楽しさを求めて行う価値を伴った活動」であり、レクリエーションを行うことは人間の基本的欲求です。したがって、自らの能力でレクリエーションを行うことが難しい人々を支援することは、介護福祉士として大変重要な活動です。この授業では、レクリエーション活動援助の実践能力の向上をはかるために、各受講生の将来の活動現場に役立つテーマを設定してレクリエーション活動の企画・模擬実施を行い、ディスカッションを行います。

※ この授業は、卒業時に公益財団法人 日本レクリエーション協会「レクリエーション・インストラクター資格」(登録料有料)を取得するための必修科目でもあります。

授 業 計 画

1. (1/07 金 1限) レクリエーションの機能とレク財 (師岡)
2. (1/07 金 2限) クラフト実習 (師岡)
3. (1/07 金 3限) レクリエーションスポーツ・パラスポーツ実習 (師岡)
4. (1/21 金 1限) 介護職に体験してほしい心と身体をつなぐ呼吸法 (渡辺)
5. (1/21 金 2限) 音楽療法の根底にある音の働き (渡辺)
6. (1/21 金 3限) レクリエーションプログラムの評価 (師岡)
7. (1/28 金 1限) 言葉以上に心に触れるアロマセラピー (渡辺)
8. (1/28 金 2限) 受講者発表レクプログラム企画書づくり (1) (師岡)
9. (1/28 金 3限) 受講者発表レクプログラム企画書づくり (2)・提出 (師岡)
10. (2/18 金 1限) 園芸療法① 「心を動かす園芸療法」 (澤田)
11. (2/18 金 2限) 園芸療法② 「心身機能に合わせた植物、道具、環境」 (澤田)
12. (2/18 金 3限) 園芸療法③ 「ロールプレイと年間プログラム作成」 (澤田)
13. (2/25 金 1限) レクリエーションプログラム案発表と評価① (師岡)
14. (2/25 金 1限) レクリエーションプログラム案発表と評価② (師岡)
15. (2/25 金 3限) レクリエーションプログラム案発表と評価③ (師岡)

上智社会福祉専門学校学則

第1章 総則

(iii) 専任の教員の数を満たしていることを証する書類

(目的)

第1条 上智社会福祉専門学校(以下「本校」という。)は、専修学校として、教育基本法、学校教育法、社会福祉法及びその他の社会福祉関係法令に基づいて社会福祉全般についての理論と技能を授け、カトリシズムの精神を生かして、社会福祉事業に責任感をもち、専門的、献身的に従事する実践家の養成を使命とする。

(設立)

第2条 本校は、イエズス会の設立にかかり、その法的設置者は学校法人上智学院である。

(名称及び位置)

第3条 本校は、上智社会福祉専門学校と称する。

2 本校を東京都千代田区紀尾井町7番1号に置く。

第2章 課程学科、修業年限、定員、学級数及び在学年数

(課程学科、修業年限、定員及び学級数)

第4条 本校の課程学科、修業年限、定員及び学級数は次のとおりとする。

課程名	学科名	学科の		入学定員	1年次	2年次	総定員	
		修業年限	昼夜別				総定員	学級数
社会福祉 専門課程	社会福祉士・ 児童指導員科	夜間	2	-	-	40	40	1
	介護福祉士科	昼間	2	-	-	40	40	1
合計				-	-	80	80	2

(在学年数)

第5条 在学年数は、修業年限に2年を加えた年数とする。

ただし、休学期間は在学年数に含まないものとする。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月20日まで

後学期 9月21日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 授業休業日は、次のとおりとする。

(1)日曜日

(2)国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3)創立記念日(11月1日)

(4)聖ザビエルの祝日(12月3日)

(5)夏期休業

(6)冬期休業

(7)春期休業

2 校長は必要に応じ、前項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。

3 校長は必要に応じ、第1項各号に定める授業休業日を、授業日(補講日を含む)及び実習日とすることができる。

第4章 教育課程及び授業時間

(教育課程)

第9条 本校の教育課程及び授業時数は別表第1に定めるとおりとする。

(授業時間)

第10条 授業時間は、午後1時30分から午後9時までとする。

社会福祉士・児童指導員科 午後5時50分から午後9時までとする。

介護福祉士科 午後1時30分から午後6時30分までとする。

2 実習については、別に定める。

第5章 教職員組織及び運営委員会

(教職員組織)

第11条 本校に次の各号に定める教職員を置く。

(1)校長 1名

(2)専任教員 6名以上

(3)非常勤講師 35名以上

(4)事務職員 数名

2 校長は、本校を代表し、校務全般を統括する。

3 専任教員及び非常勤講師は、学生の教育をつかさどる。

4 事務職員は、事務に従事する。

5 教職員に関する規定は、別に定める。

(運営委員会)

第12条 運営委員会は、校長、専任教員及び校長の委嘱した非常勤講師若干名と事務職員をもって構成し、校長が委員長となり校務について協議する。

第6章 入学・休学・退学及び再入学

(入学の時期)

第13条 入学の時期は、4月とする。

(入学資格)

第14条 社会福祉専門課程介護福祉士科に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、選考の上、入学を許可された者とする。

(1)高等学校を卒業した者

(2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3)外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定した者

(4)文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)文部科学大臣の指定した者

(6)高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者

2 社会福祉専門課程社会福祉士・児童指導員科に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、選考の上、入学を許可された者とする。

(1)大学(短期大学を除く。)を卒業した者

(2)外国の大学を修了後、日本の大学院で学位を取得した者、または学位授与機構による学士、修士、博士学位取得者で、4年制大学を卒業した者と同等以上と認められる者

(3)文部科学大臣の指定した者

(4)学校教育法に基づく大学を卒業した者に準ずるものとして厚生省令(第49号第1条第1項)で定める者。

3 入学者の選考は、別に定めるところにより行う。

(入学志願の手続)

第 15 条 入学を志願する者は、所定の入学検定料を納入し、所定の入学願書、前条各号のいずれかに該当することを証明する書類、その他必要書類を指定の期日までに提出しなければならない。

2 既納の入学検定料は、返還しない。

(入学の手続)

第 16 条 入学を許可された者は、次の書類に入学納付金等を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。

(1) 地方自治体の発行による「住民票の写し」(日本国籍以外の国籍を有する者は、外国人登録証明書の写し)

(2) その他必要書類

(休学及び復学)

第 17 条 病気その他やむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を記した休学願を提出し、校長の許可を受けなければならない。なお、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間は、1学期又は1学年を単位とし、通算3学期を超えることはできない。

3 許可された休学期間が満了した場合は、復学届を提出しなければならない。

4 休学期間中に休学の理由がなくなり復学しようとする者は、復学願を提出し、校長の許可を受けなければならない。

(退学)

第 18 条 退学しようとする者は、その理由を記した退学願を学生証とともに提出し、校長の許可を受けなければならない。

(再入学)

第 19 条 本校を卒業した者、又は中途退学した者で、再び入学しようとする者に関し必要な事項は、別に定める。

(転・編入学)

第 20 条 他の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校等からの転・編入学は行わない。

第7章 賞罰

(表彰)

第 21 条 校長は、学業・品行ともにすぐれ他の模範となる者には、運営委員会の議を経て、これを表彰することがある。

(懲戒)

第 22 条 校長は、学生の本分に反する行為があったと認められるときは、運営委員会の議を経て、これに懲戒処分を行うことがある。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなく出席状況の極めて悪い者

(4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第8章 単位及び履修方法

(単位の算定)

第 23 条 各科目に対する1単位の算定は、次のとおりとする。

講義科目 15 時間

演習科目 30 時間

実習・実技科目 45 時間

ただし、授業科目によっては、法令等により定められた範囲で、1単位あたり時間数を変更することがある。

(履修方法)

第 24 条 社会福祉専門課程社会福祉士・児童指導員科における履修方法は、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 一般教育科目のうち4科目8単位は必修とし、その他は選択履修とする。

(2) 専門科目の基礎科目 20 科目 60 単位は必修とする。

専門科目の関連科目のうち6科目 12 単位は必修とし、その他は選択履修とする。

2 社会福祉専門課程介護福祉士科における履修方法は、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 「人間と社会」の領域のうち8科目 15 単位は必修とし、その他は選択履修とする。

(2) 「介護」の領域のうち 15 科目 43 単位は必修とし、その他は選択履修とする。

(3) 「こころとからだのしくみ」の領域のうち9科目 20 単位は必修とし、その他は選択履修とする。

(4) 「医療的ケア」の領域のうち、2科目6単位は必修とする。

(5) 独自開講科目の内の1科目2単位は必修とし、その他は選択必修とする。

3 大学及び短期大学等で履修及び修得した単位の認定並びに同等又はそれ以上の教育内容を有する学校において、履修した単位の認定については別に定める。

第9章 試験及び卒業等

(試験及び評価)

第 25 条 講義、演習の各教科については、それぞれ各学期に試験を行う。

2 実習及び実技については、指導・監督者の調査・報告書に基づき、その成績を評価する。

3 授業科目の成績評価は、上位よりA(100～90点)、B(89～80点)、C(79～70点)、D(69～60点)、F(59点以下)をもって表示し、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。

4 前項にかかわらず、認定をNと表記する。

(出席時間数)

第 26 条 各科目とも出席時間数が学則に定める授業時間数の3分の2以下の者については、当該科目の履修を認定せず、受験資格を与えない。

2 学外施設における実習については、出席時間数が規定時間数の5分の4に満たない者に対し、履修を認定せず、成績の評価を行わない。

(追・再試験)

第 27 条 病気その他やむを得ない理由で試験を受けることができなかった者、又は試験に不合格であった者は、別に定める規程に従い追試験又は再試験を受けることができる。

(再履修)

第 28 条 各年次に配分された科目の受験資格を失った者又は不合格となった者は、翌年次以降においてこれを再履修しなければならない。

(留年)

第 29 条 卒業年次においてなお修得単位数の不足している者は、第5条に規定する在学年数を限度として留年となる。

(卒業及び資格の付与)

第 30 条 各学科ともそれぞれの所定の科目を修了した者について卒業を認める。

2 卒業の期日は、毎年3月31日又は9月30日とする。

3 社会福祉専門課程の卒業者には、各学科によりそれぞれ次に定める資格を与える。

(1)社会福祉士・児童指導員科 児童福祉司任用資格、児童指導員任用資格、

社会福祉士国家試験受験資格

(2)介護福祉士科 介護福祉士国家試験受験資格

4 社会福祉専門課程介護福祉士科の卒業者には専門士(社会福祉専門課程介護福祉士科)の称号を与える。

第 10 章 入学納付金及び授業料等納付金

(入学納付金)

第 31 条 第 16 条に定める入学に必要な納付金は、別表第2に定めるとおりとする。

2 本校への入学手続完了後、納入された入学納付金は、原則として返還しないが、3月31日までに所定の要領で入学辞退を申し出た場合は、所定の金額を返還する。

(授業料等納付金)

第 32 条 在學生は、別表第2の授業料等納付金を所定の期日までに納入しなければならない。

2 前項の授業料等納付金を所定の期日までに納入しない者は、退学させる。

(休学期間中の授業料等納付金)

第 33 条 休学を許可された者の休学期間中の授業料等納付金は、別に定める。

(留年者の授業料等納付金)

第 34 条 入学後修業年限を超えて在学する者の授業料等納付金は、別に定める。

(退学者の授業料等納付金)

第 35 条 退学を願い出る者は、その時期までの授業料等納付金全額を納入しなければならない。

(納付金の不還付)

第 36 条 既納の授業料等諸納付金は、原則として返還しない。

第 11 章 奨学金、健康診断及び聴講

(奨学金)

第 37 条 本校は、経済的理由により修学が困難な学生に対し、奨学金を支給することがある。

2 奨学金に関し必要な事項は、別に定める。

(健康診断)

第 38 条 在學生は、学年ごとに健康診断を受けなければならない。

(聴講生)

第 39 条 本校は、特定の科目について聴講を願い出る者がいるときは、選考の上、聴講を許可することができる。

2 聴講に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

本学則は、昭和 51 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、昭和 52 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 56 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 57 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 58 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 60 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から改正、施行する。

ただし、別表第 2 の社会福祉専門課程児童指導員科 2 年次生、実験実習費は昭和 61 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成元年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 2 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 3 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 4 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 5 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 6 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 7 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成8年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成9年4月1日から改正、施行し、平成9年度入学者から適用する。

附 則

本学則は、平成10年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成11年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成12年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成12年4月1日から改正、施行し、平成12年度入学者から適用する。

附 則

1 本学則は、平成12年4月1日から改正、施行する。

2 ただし、第31条第4項の適用は、次のとおりとする。

(1) 専門士(保育専門課程保育士科)の称号は、平成14年3月の保育専門課程保育士科の卒業生から付与する。

(2) 専門士(社会福祉専門課程介護福祉士科)の称号は、平成12年3月の社会福祉専門課程介護福祉士科の卒業生から付与する。

附 則

1 本学則は、平成13年4月1日から改正、施行する。

2 第4条の規定にかかわらず、平成13年度の各学年の定員は次表のとおりとする。

3 平成13年度における社会福祉専門課程社会福祉主事科は、募集停止とする。

課程名	学科名	修業年限	入学定員	1年次	2年次	3年次	総定員	学級数	備考
保育専門課程	保育士科	3	40	40	40	40	120	1	夜間
	社会福祉主事科	2	0	0	40		40	1	夜間
社会福祉専門課程	社会福祉士・児童指導員科	2	40	40	40		80	1	夜間
	介護福祉士科	3	40	40	40	40	120	1	夜

合 計	120	120	160	80	360	4
-----	-----	-----	-----	----	-----	---

附 則

本学則は、平成 14 年 4 月 1 日から改正、施行し、平成 14 年度入学者から適用する。

附 則

本学則は、平成 15 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 16 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成 17 年 4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2006 年(平成 18 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2007 年(平成 19 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2008 年(平成 20 年)4 月 1 日から改正、施行し、2008 年度(平成 20 年度)入学者から適用する。

附 則

本学則は、2009 年(平成 21 年)4 月 1 日から改正、施行し、平成 21 年度入学者から適用する。

附 則

本学則は、2010 年(平成 22 年)4 月 1 日から改正、施行する。

ただし、この改正前に入学した学生の資格の付与については、従前の例による。

附 則

本学則は、2011 年(平成 23 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2012 年(平成 24 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2013 年(平成 25 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則(平成 27 年 3 月 31 日受理)

本学則は、2015 年(平成 27 年)4 月 1 日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2017年(平成29年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2018年(平成30年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2019年(平成31年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2020年(令和2年)4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2021年(令和3年)4月1日から改正、施行する。

別表第1

(A) 社会福祉専門課程

(1) 社会福祉士・児童指導員科

系 列	教 科 目	授業 形態	単 位 数		授業時間数		
			必修	選択	必修	選択	
一 般 教 育 科 目	上 智 の キ リ ス ト 教 学	講義	2		30		
	愛 と ケ ア の 人 間 学	講義	2		30		
	社 会 理 論 と 社 会 シ ス テ ム	講義	2		30		
	心 理 学 理 論 と 心 理 的 支 援	講義	2		30		
専 門 科 目	基 礎 科 目	現 代 社 会 と 福 祉	講義	4		60	
		高 齢 者 に 対 す る 支 援 と 介 護 保 険 制 度	講義	4		60	
		障 害 者 に 対 す る 支 援 と 障 害 者 自 立 支 援 法	講義	2		30	
		児 童 や 家 庭 に 対 す る 支 援 と 児 童 ・ 家 庭 福 祉 制 度	講義	2		30	
		社 会 保 障	講義	4		60	
		低 所 得 者 に 対 す る 支 援 と 生 活 保 護 制 度	講義	2		30	
		福 祉 行 財 政 と 福 祉 計 画	講義	2		30	
		地 域 福 祉 の 理 論 と 方 法	講義	4		60	
		福 祉 サ ー ビ ス の 組 織 と 経 営	講義	2		30	
		相 談 援 助 の 基 盤 と 専 門 職	講義	4		60	
		相 談 援 助 の 理 論 と 方 法 (注1)	講義	8		120	
		相 談 援 助 演 習	演習	5		150	
		相 談 援 助 実 習 (注2)	実習	4		180	
		相 談 援 助 実 習 指 導	演習	3		90	
		保 健 医 療 サ ー ビ ス	講義	2		30	
		人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病	講義	2		30	
		就 労 支 援 サ ー ビ ス	講義	1		15	
		権 利 擁 護 と 成 年 後 見 制 度	講義	2		30	
		更 生 保 護 制 度	講義	1		15	
		社 会 調 査 の 基 礎	講義	2		30	
関 発	養 達 護 心 原 理 学	講義	2		30		
		講義	2		30		

連 科 目	母子保健	講義	2		30	
	児童ソーシャルワーク論	講義	2		30	
	家族ソーシャルワーク論	講義	2		30	
	卒業レポート	演習	2		60	
	相談援助実習選択Ⅰ	実習		2		90
	相談援助実習選択Ⅱ	実習		2		90
	上智大学社会福祉学科開講科目A(注3)	講義		2		30
	上智大学社会福祉学科開講科目B(注3)	講義		2		30
	上智大学社会福祉学科開講科目C(注3)	講義		2		30
	上智大学社会福祉学科開講科目D(注3)	講義		2		30
合 計			80	12	1470	300
内 訳		講義	66	8	990	120
		実習	4	4	180	180
		演習	10		300	

注1：相談援助演習は、学内では便宜上、担当教員、開講期間など別に①②・・・をつけて表示するが、評価は一括して行う。

注2：①相談援助実習は、下記により行う。

必修：1. 相談援助実習に指定されている施設のうち、児童福祉法に規定されている児童福祉施設から1箇所

2. 相談援助実習に指定されている施設から1箇所

選択：社会福祉諸機関、病院、老人保健施設等、校長が適当と認める施設
②社会福祉士及び介護福祉士法施行規則（昭和62年厚生省令第49号）第2条で指定された施設において1年以上相談援助の業務に従事した後、入学する者は、必修科目である相談援助実習のうち、2単位の90時間は免除できるものとする。

注3：上智大学が科目等履修生に開講する「学部授業科目一覧」に掲げる科目で、上智大学総合人間科学部社会福祉学科開講科目とする。

※卒業に要する最低時間数	一般教育科目	4科目	8単位	120時間以上
	基礎科目	20科目	60単位	1140時間以上
	関連科目	6科目	12単位	210時間以上
	合 計	30科目	80単位	1470時間以上

(2) 介護福祉士科

領域	教科目	授業形態	単位数		授業時間数		
			必修	選択	必修	選択	
人間	人間の尊厳と自立(30時間)	介護における尊厳と自立	講義	2		30	
	人間関係とコミュニケーション(30時間)	人間関係とコミュニケーション	講義	2		30	

と 社 会	社会の理解 (60時間)	生活と福祉	講義	2	30
		社会保障と介護保険制度	講義	2	30
	選択科目(注1) (120時間)	上智のキリスト教学	講義	2	30
		愛とケアの人間学	講義	2	30
		情報リテラシー演習	演習	1	30
	現代社会の理解	講義	2	30	
介 護	介護の基本 (180時間)	介護の基本 A	講義	2	30
		介護の基本 B	講義	2	30
		介護の基本 C	講義	2	30
		介護の基本 D	講義	2	30
		介護の基本 E	講義	2	30
		介護の基本 F	講義	2	30
	コミュニケーション技術 (60時間)	コミュニケーション技術 A	演習	1	30
		コミュニケーション技術 B	演習	1	30
	生活支援技術 (300時間)	生活支援技術 A	演習	1	30
		生活支援技術 B	演習	1	30
		生活支援技術 C	演習	1	30
		生活支援技術 D	演習	1	30
		生活支援技術 E	演習	1	30
		生活支援技術 F	演習	1	30
		生活支援技術 G	演習	1	30
生活支援技術 H		演習	1	30	
生活支援技術 I		演習	2	60	
介護過程 (150時間)	介護過程 A	講義 演習	2	30	
	介護過程 B	講義	1	30	
	介護過程 C	講義 演習	2	60	
	介護過程 D	演習	1	30	
介護総合演習(120時間)	介護総合演習Ⅰ	演習	1	30	
	介護総合演習Ⅱ	演習	1	30	
	介護総合演習Ⅲ	演習	1	30	
	介護総合演習Ⅳ	演習	1	30	
	介護実習(注2) (450時間)	介護実習Ⅰ	実習	3	135
		介護実習Ⅱ	実習	2	90
		介護実習Ⅲ	実習	5	225
こ	発達と老化の理解	発達と老化の理解 A	講義	2	30

こころとからだのしくみ	(60時間)	発達と老化の理解 B	講義	2		30	
	認知症の理解 (60時間)	認知症の理解 A	講義	2		30	
		認知症の理解 B	講義	2		30	
	障害の理解 (60時間)	障害の理解 A	講義	2		30	
障害の理解 B		講義	2		30		
こころとからだのしくみ (120時間)		身体と心理の理解	講義	2		30	
		生活諸行為における心身の理解A	講義	2		30	
		生活諸行為における心身の理解B	講義	2		30	
		エンド・オブ・ライフにおける心身の理解	講義 演習	2		30	
医療的ケア	医療的ケア(注3) (90時間)	医療的ケア I	講義	2		30	
		医療的ケア II	講義 演習	4		60	
独自開講科目	上智大学社会福祉学科開講科目 A(注4)		講義		2	30	
	上智大学社会福祉学科開講科目 B(注4)		講義		2	30	
	上智大学社会福祉学科開講科目 C(注4)		講義		2	30	
	上智大学社会福祉学科開講科目 D(注4)		講義		2	30	
	介護実務英語		講義		2	30	
	精神保健福祉援助技術		講義		2	30	
	介護職が行うスーパービジョン		演習		1	30	
	介護に活かすレクリエーション活動援助法		演習		1	30	
	介護福祉研究		演習	2		60	
卒業レポート		演習	2		60		
合計 58 科目			合計	89	14	2010	240
内 訳			講義	49	12	750	180
			実習	10	0	450	0
			演習	22	2	660	60
			講義 演習	10	0	180	0

注1. 本校においては必修科目とする。

注2. 介護実習はスクールアワーではなく、実時間での表記。

注3. 上智大学が科目等履修生に開講する「学部授業科目一覧」に掲げる科目で、上智大学総合人間科学部社会福祉学科開講科目とする。

※卒業に要する最低時間数	人間と社会	8科目	15単位	240時間
	介護	28科目	44単位	1260時間
	こころとからだのしくみ	10科目	20単位	300時間
	医療的ケア	2科目	6単位	90時間

独自開講科目	2科目	4単位	120時間
合計	50科目	89単位	2010時間

別表第2

本校の入学検定料は下記のとおりとする。(単位：円)

費目	課程・科	社会福祉専門課程		摘要
		社会福祉士・ 児童指導員科	介護福祉士科	
入学検定料		20,000	20,000	

本学の授業料等納付金は下記のとおりとする。

1年次生 納付は所定の入学手続期間内とする。但し、分納者の後学期分授業料納付は、後学期当初の所定の期間とする。(単位：円)

費目	課程・科	社会福祉専門課程		摘要
		社会福祉士・ 児童指導員科	介護福祉士科	
入学金		160,000	160,000	入学の際のみ
在籍料		60,000	60,000	年額
授業料		368,000	517,000	年額
実験実習費		30,000	50,000	年額
教育充実費		42,000	82,000	年額 (※)
小計		368,000	368,000	
災害傷害・賠償責任保険料		1,490	1,610	入学の際のみ
小計		1,490	1,610	
合計		661,490	870,610	

※教育充実費には、リエンターション費として6,000円が含まれ入学の際のみ徴収する。

2年次生 納付は前学期及び後学期それぞれ学期当初の所定の期間内とする。(単位：円)

費目	課程・科	社会福祉専門課程		摘要
		社会福祉士・ 児童指導員科	介護福祉士科	
在籍料		60,000	60,000	年額
授業料		368,000	503,000	年額
実験実習費		14,000	55,000	年額
教育充実費		36,000	76,000	年額
合計		478,000	694,000	

注1. 有料の実習施設で、実習を再履修する場合は、実習費を再徴収する。

注2. 実習費が規定額以上の場合、超過額を該当の実習を行う学生が負担する。

在職証明書（pp.131～133）は、略



2021年度 卒業・修了者進路状況報告書

SOPHIA JOB SEARCH REPORT

2021年度 卒業・修了者進路状況報告書 SOPHIA JOB SEARCH REPORT

著作・制作 上智大学キャリアセンター

印刷・制作協力 株式会社リプラス
発行部数 4000部
発行日 2022年5月

目次 contents

1. 進路状況	(02)
2. 業種別進路状況	(04)
3. 進路先上位企業一覧	(06)
4. 学部卒業者進学状況	(08)
5. 教職（国公立・私立）進路状況	(09)
6. 公務員（国家公務員・地方公務員）進路状況	(10)
7. 国家公務員等試験合格状況	(11)
8. 理工学部・理工学研究科学校推薦状況	(12)
9. Uターン就職状況	(13)
10. 外国人留学生進路状況	(13)
11. 求人受付状況	(14)
12. 就職内定時期	(14)
13. 学科・専攻別進路一覧	(15)
14. 学科別進路業種状況	(34)
15. 上智大学産業分類表	(35)
16. 就職状況について（総括）	(36)

本資料の一部および全てについて、事前の許諾なく無断で複製、複写、転載、転用、編集、改変、販売、送信、放送、配布、貸与、翻訳、変造などの二次利用を固く禁じます。

【2021年度】学部 進路決定届提出率 99.0%

学部	神			文			総合人間科			法			経済			外国語			総合グローバル			国際教養			理工			学部合計					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
就職	4	22	26	105	314	419	40	211	251	127	145	272	149	139	288	129	339	468	46	139	185	33	76	109	122	76	198	755	1461	2216	75.0		
進学	0	6	6	16	27	43	4	37	41	17	25	42	9	7	16	10	25	35	8	15	23	6	11	17	127	50	177	197	203	400	13.5		
その他	1	8	9	23	39	62	12	22	34	14	13	27	19	12	31	28	27	55	9	15	24	18	31	49	14	5	19	138	172	310	10.5		
未届	0	0	0	4	1	5	1	0	1	3	2	5	2	5	7	0	2	2	0	1	1	1	6	7	2	0	2	13	17	30	1.0		
卒業者	5	36	41	148	381	529	57	270	327	161	185	346	179	163	342	167	393	560	63	170	233	58	124	182	265	131	396	1103	1853	2956	100.0		

【2020年度】学部 進路決定届提出率 99.3%

学部	神			文			総合人間科			法			経済			外国語			総合グローバル			国際教養			理工			学部合計					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
就職	6	20	26	103	301	404	48	189	237	128	145	273	160	101	261	106	298	404	49	140	189	29	91	120	131	72	203	760	1357	2117	74.9		
進学	2	10	12	9	24	33	8	34	42	13	22	35	12	8	20	10	15	25	3	11	14	6	8	14	137	34	171	200	166	366	12.9		
その他	3	10	13	16	34	50	12	21	33	22	22	44	27	17	44	16	38	54	4	14	18	15	37	52	10	6	16	125	199	324	11.5		
未届	1	1	2	3	3	6	3	0	3	1	1	2	3	0	3	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	13	7	20	0.7		
卒業者	12	41	53	131	362	493	71	244	315	164	190	354	202	126	328	132	352	484	56	166	222	51	136	187	279	112	391	1098	1729	2827	100.0		

【2019年度】学部 進路決定届提出率 98.8%

学部	神			文			総合人間科			法			経済			外国語			総合グローバル			国際教養			理工			学部合計					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
就職	7	29	36	110	361	471	52	217	269	113	152	265	165	115	280	127	354	481	59	137	196	30	99	129	159	65	224	822	1529	2351	79.3		
進学	5	7	12	20	22	42	9	30	39	13	14	27	5	4	9	4	7	11	7	12	19	2	6	8	127	41	168	192	143	335	11.3		
その他	1	5	6	19	26	45	5	18	23	16	10	26	21	9	30	22	28	50	5	13	18	12	22	34	5	4	9	106	135	241	8.1		
未届	0	1	1	2	1	3	1	2	3	0	1	1	3	0	3	2	0	2	1	0	1	12	10	22	0	0	0	21	15	36	1.2		
卒業者	13	42	55	151	410	561	67	267	334	142	177	319	194	128	322	155	389	544	72	162	234	56	137	193	291	110	401	1141	1822	2963	100.0		

※進路区分の「その他」とは就職活動継続、資格試験準備、進学準備、海外渡航、アルバイト等を指す。

【2021年度】大学院

進路区分	博士前期課程			博士後期課程			修士課程			大学院合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
就職	143	116	259	6	9	15	0	3	3	149	128	277	59.3
進学	17	18	35	0	0	0	0	1	1	17	19	36	7.7
その他	40	75	115	1	4	5	0	0	0	41	79	120	25.7
未届	13	16	29	3	2	5	0	0	0	16	18	34	7.3
修了者	213	225	438	10	15	25	0	4	4	223	244	467	100.0

【2021年度】学部・大学院

学部・大学院合計			
男	女	計	%
904	1589	2493	72.8
214	222	436	12.7
179	251	430	12.6
29	35	64	1.9
1326	2097	3423	100.0

【2020年度】大学院

進路区分	博士前期課程			博士後期課程			修士課程			大学院合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
就職	151	117	268	17	7	24	1	0	1	169	124	293	63.6
進学	12	20	32	0	0	0	0	0	0	12	20	32	6.9
その他	44	70	114	3	2	5	0	0	0	47	72	119	25.8
未届	3	11	14	1	2	3	0	0	0	4	13	17	3.7
修了者	210	218	428	21	11	32	1	0	1	232	229	461	100.0

【2020年度】学部・大学院

学部・大学院合計			
男	女	計	%
929	1481	2410	73.3
212	186	398	12.1
172	271	443	13.5
17	20	37	1.1
1330	1958	3288	100.0

【2019年度】大学院

進路区分	博士前期課程			博士後期課程			修士課程			大学院合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
就職	168	137	305	8	4	12	0	2	2	176	143	319	63.9
進学	22	25	47	0	0	0	0	0	0	22	25	47	9.4
その他	43	66	109	2	2	4	0	0	0	45	68	113	22.6
未届	2	13	15	5	0	5	0	0	0	7	13	20	4.0
修了者	235	241	476	15	6	21	0	2	2	250	249	499	100.0

【2019年度】学部・大学院

学部・大学院合計			
男	女	計	%
998	1672	2670	77.1
214	168	382	11.0
151	203	354	10.2
28	28	56	1.6
1391	2071	3462	100.0

【2021年度】法科大学院

進路区分	法科大学院			
	男	女	計	%
就職	2	0	2	10.6
進学	0	0	0	0.0
その他	12	5	17	89.4
未届	0	0	0	0.0
修了者	14	5	19	100.0

【2020年度】法科大学院

進路区分	法科大学院			
	男	女	計	%
就職	1	0	1	6.3
進学	0	0	0	0.0
その他	13	2	15	93.7
未届	0	0	0	0.0
修了者	14	2	16	100.0

【2019年度】法科大学院

進路区分	法科大学院			
	男	女	計	%
就職	0	1	1	5.9
進学	0	0	0	0.0
その他	8	8	16	94.1
未届	0	0	0	0.0
修了者	8	9	17	100.0

※司法試験準備は「その他」に含まれる。

【2021年度】助産学専攻

進路区分	助産学専攻			
	男	女	計	%
就職	0	9	9	90.0
進学	0	1	1	10.0
その他	0	0	0	0.0
未届	0	0	0	0.0
修了者	0	10	10	100.0

【2020年度】助産学専攻

進路区分	助産学専攻			
	男	女	計	%
就職	0	10	10	100.0
進学	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0.0
未届	0	0	0	0.0
修了者	0	10	10	100.0

【2019年度】助産学専攻

進路区分	助産学専攻			
	男	女	計	%
就職	0	9	9	90.0
進学	0	0	0	0.0
その他	0	1	1	10.0
未届	0	0	0	0.0
修了者	0	10	10	100.0

【全体】

業種	神			文			総合人間科			法			経済			外国語		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
建設・不動産	0	1	1	8	7	15	3	7	10	14	7	21	5	5	10	6	11	17
製造	1	3	4	17	42	59	2	25	27	26	18	44	19	32	51	29	56	85
運輸・郵便	0	0	0	3	6	9	1	2	3	3	4	7	5	4	9	4	20	24
卸・小売	0	5	5	5	42	47	2	8	10	11	7	18	14	11	25	17	52	69
金融	0	1	1	8	31	39	3	20	23	25	23	48	22	24	46	14	31	45
情報・通信	0	2	2	32	106	138	10	32	42	18	24	42	48	38	86	24	73	97
調査・専門サービス	1	1	2	8	30	38	7	6	13	7	30	37	25	11	36	14	33	47
教育	1	6	7	7	12	19	3	10	13	0	2	2	0	0	0	6	16	22
公務員	0	0	0	4	6	10	2	16	18	12	19	31	4	3	7	5	8	13
その他	1	3	4	13	32	45	7	85	92	11	11	22	7	11	18	10	39	49
合計	4	22	26	105	314	419	40	211	251	127	145	272	149	139	288	129	339	468

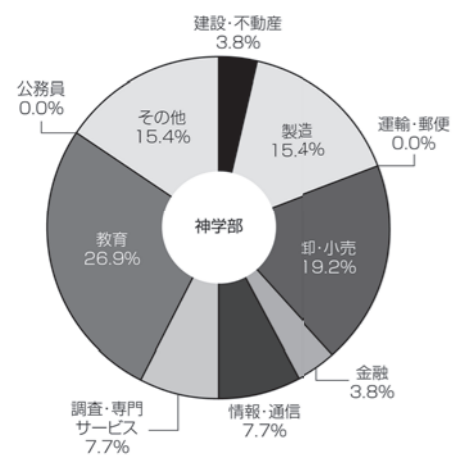
※「その他」とは上記の業種以外を指す。

※大学院文系とは理工学研究科以外の博士前期・後期課程、修士課程を指す。

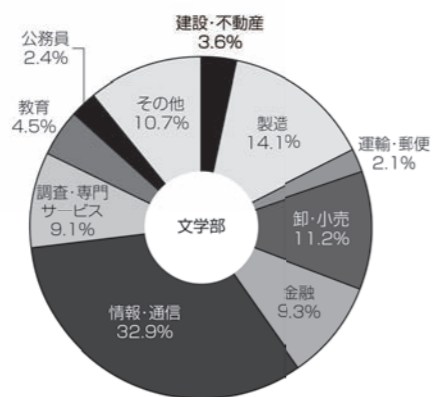
※大学院理系とは理工学研究科博士前期・後期課程を指す。

総合グローバル			国際教養			理工			大学院文系			大学院理系			学部・大学院合計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
3	5	8	1	3	4	3	2	5	0	0	0	2	1	3	45	49	94
5	22	27	6	9	15	27	13	40	4	4	8	60	18	78	196	242	438
2	9	11	0	3	3	2	1	3	0	0	0	1	1	2	21	50	71
3	24	27	4	6	10	10	2	12	1	2	3	2	1	3	69	160	229
7	12	19	3	11	14	9	9	18	0	1	1	0	2	2	91	165	256
10	38	48	9	16	25	50	34	84	11	26	37	28	8	36	240	397	637
8	10	18	4	11	15	14	6	20	4	12	16	6	5	11	98	155	253
1	4	5	0	3	3	4	0	4	10	18	28	2	3	5	34	74	108
1	6	7	1	0	1	1	1	2	6	2	8	2	1	3	38	62	100
6	9	15	5	14	19	2	8	10	6	22	28	4	1	5	72	235	307
46	139	185	33	76	109	122	76	198	42	87	129	107	41	148	904	1589	2493

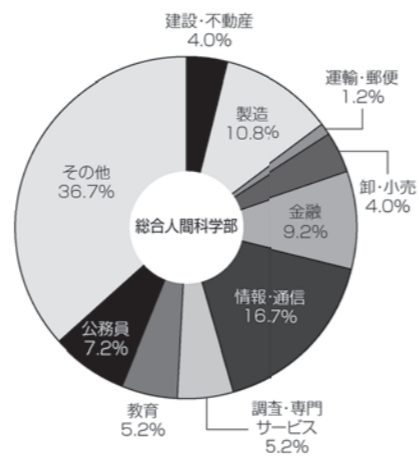
神学部



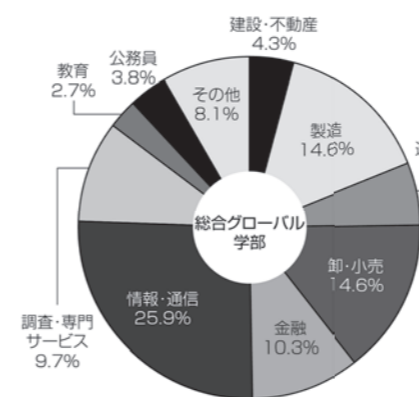
文学部



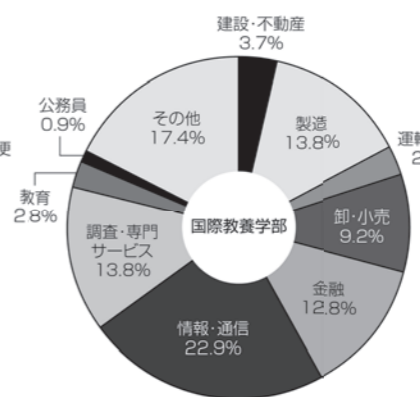
総合人間科学部



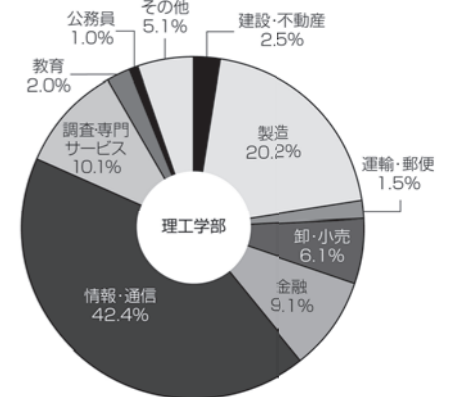
総合グローバル学部



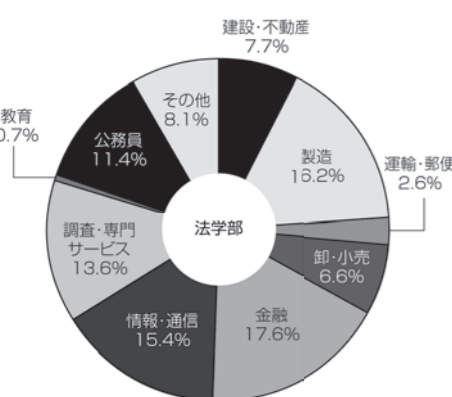
国際教養学部



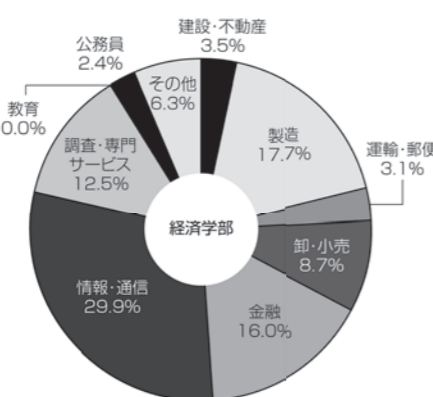
理工学部



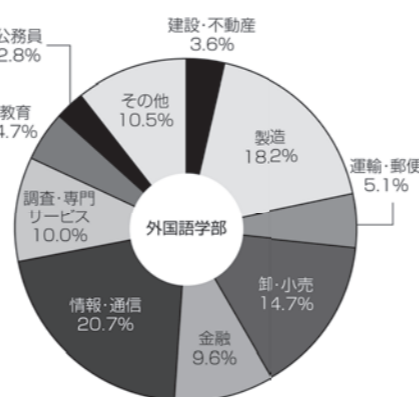
法学部



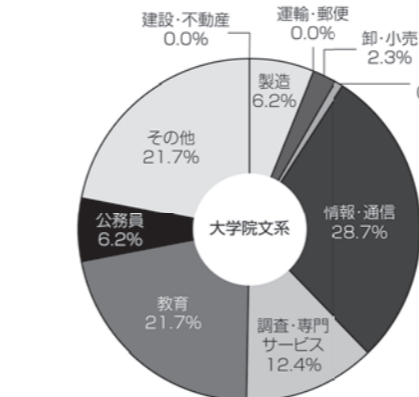
経済学部



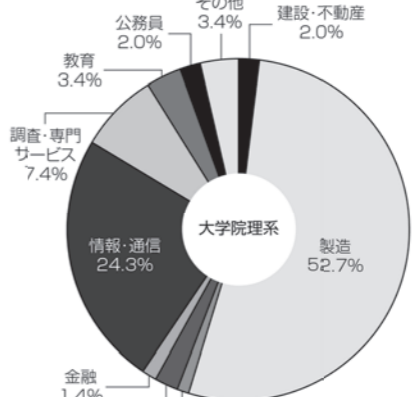
外国語学部



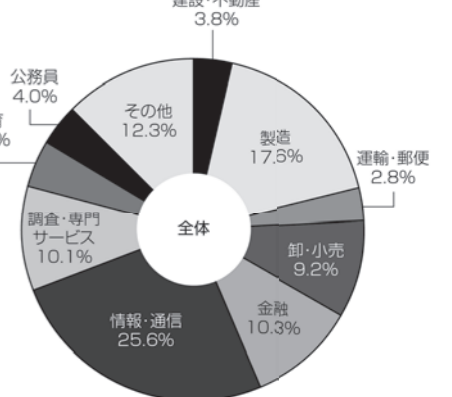
大学院文系



大学院理系



全体



【全体(学部・大学院)】(3名以上の就職先)

順位	企業・法人名	男	女	計	順位	企業・法人名	男	女	計	順位	企業・法人名	男	女	計
1	楽天グループ(株)	14	27	41		ヤフー(株)	2	3	5		川崎市(公務員)	2	1	3
2	日本アイ・ピー・エム(株)	9	17	26		りそなグループ		5	5		キャノンITソリューションズ(株)	2	1	3
3	(株)日立製作所	17	5	22		(株)レイヤーズ・コンサルティング	3	2	5		キャノンマーケティングジャパン(株)	1	2	3
4	日本電気(NEC)(株)	8	13	21		レバレジーズ(株)	1	4	5		(株)近鉄エクスプレス		3	3
5	アクセンチュア(株)	5	14	19	70	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	4		4		(株)小松製作所	2	1	3
6	PwCコンサルティング(株)/PwCアドバイザリー(合同)	10	7	17		SCSK(株)		4	4		(株)ジェシービー		3	3
7	(株)NTTデータ	8	8	16		NTTコミュニケーションズグループ	3	1	4		シスコシステムズ(合同)	1	2	3
8	(株)三菱UFJ銀行	4	11	15		ENEOS(株)		4	4		(株)資生堂	2	1	3
9	KDDI(株)	5	9	14		大塚製薬(株)		4	4		清水建設(株)	2	1	3
10	東京海上日動火災保険(株)	2	11	13		キオクシア(株)	3	1	4		信金中央金庫	1	2	3
11	SMBC日興証券(株)	3	8	11		警視庁	2	2	4		(株)新生銀行	2	1	3
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)	2	9	11		(国大)東京大学医学部附属病院		4	4		Sky(株)	1	2	3
	(株)三井住友銀行	3	8	11		埼玉県(公務員)	1	3	4		(株)セールスフォース・ドットコム	2	1	3
14	富士通(株)	5	5	10		JFEスチール(株)	1	3	4		第一生命保険(株)	2	1	3
	(株)みずほフィナンシャルグループ	4	6	10		(株)JERA	2	2	4		大王製紙(株)		3	3
16	(学校)上智学院	3	6	9		ジブラルタ生命保険(株)	1	3	4		大和証券グループ		3	3
	ソフトバンク(株)	4	5	9		住友電気工業(株)	3	1	4		(株)千葉銀行	2	1	3
	(国大)東京医科歯科大学医学部附属病院		9	9		積水ハウス(株)	3	1	4		千葉県(公務員)		3	3
	野村證券(株)	6	3	9		セコム(株)	2	2	4		中央労働金庫		3	3
	(株)野村総合研究所(NRI)	4	5	9		(株)セブテーニ・ホールディングス	1	3	4		DXCテクノロジー・ジャパン(株)		3	3
	三井住友信託銀行(株)	4	5	9		全国農業協同組合連合会		4	4		(株)帝国データバンク	2	1	3
	横浜市(公務員)	1	8	9		損害保険ジャパン(株)	1	3	4		東急不動産(株)	3		3
23	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院		8	8		大成建設(株)	2	2	4		有限責任監査法人トーマツ	2	1	3
	(株)ニトリ	4	4	8		大同生命保険(株)	1	3	4		TOYO TIRE(株)	2	1	3
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)	4	4	8		(株)大和総研ホールディングス	2	2	4		(株)豊田自動織機	3		3
26	(株)NTTドコモ	3	4	7		ディップ(株)	3	1	4		豊田通商(株)		3	3
	(株)キーエンス	6	1	7		デジタル・アド(タイジング・コンソーシアム(株)	1	3	4		トランスコスモス(株)		3	3
	(国研)国立がん研究センター中央病院		7	7		トラスコ中山(株)	2	2	4		(株)ナガセ		3	3
	シンプレクス(株)	6	1	7		西村あさひ法律事務所	4	4			ニッセイ情報テクノロジー(株)	2	1	3
	TIS(株)	5	2	7		日本郵便(株)	1	3	4		(株)日本政策金融公庫	1	2	3
	(株)電通デジタル	1	6	7		(株)日本経済新聞社	4	4			日本製鉄(株)	2	1	3
	日産自動車(株)	3	4	7		BIPROGY(株)	2	2	4		日本通運(株)	2	1	3
	日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)	4	3	7		(株)博報堂/博報堂DYメディアパートナーズ	2	2	4		(株)丸紅(株)	4	4	
	本田技研工業(株)	4	3	7		東日本電信電話(NTT東日本)(株)	4		4		三井住友ファイナンス&リース(株)	4	4	
	三菱電機(株)	4	3	7		富士フイルム(株)	3	1	4		富士ソフト(株)	3		3
36	アマゾンジャパン(合同)	1	5	6		P&Gジャパン(株)	2	2	4		富士電機(株)		3	3
	日本放送協会(NHK)		6	6		(株)ベクトル	2	2	4		(株)ゆうちょ銀行	1	3	4
	NTTコムウェア(株)	2	4	6		(株)マルハニチロホールディングス	4	4			(株)読売新聞	2	2	4
	大日本印刷(DNP)(株)	3	3	6		丸紅(株)		4	4		三井物産(株)		4	4
	デロイトトーマツコンサルティング(合同)	4	2	6		三井住友ファイナンス&リース(株)	4	4			パナソニックホールディングス(株)	2	4	6
	凸版印刷(株)		6	6		ヤマト運輸(株)	2	2	4		阪和興業(株)		6	6
	パナソニックホールディングス(株)	2	4	6		(株)ゆうちょ銀行	1	3	4		(株)ファーストリテイリング	2	4	6
	阪和興業(株)		6	6		(株)読売新聞	2	2	4		(株)星野リゾート・マネジメント	6	6	6
	(株)ファーストリテイリング	2	4	6		(株)リクルート	4	4			三井物産(株)	1	5	6
	(株)星野リゾート・マネジメント	6	6	6		(株)LITALICO		4	4		三菱重工業(株)	3	3	6
	三井物産(株)		6	6		(株)良品計画	4	4			アフラック生命保険(株)	2	3	5
	三菱重工業(株)	3	3	6		マーシュジャパン(株)		3	3		NECソリューションイノベータ(株)	3	2	5
48	アフラック生命保険(株)	2	3	5	113	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	1	2	3		(株)Works Human Intelligence	3	2	5
	NECソリューションイノベータ(株)	3	2	5		(株)あおぞら銀行	1	2	3		(株)サイバーエージェント	2	3	5
	(株)Works Human Intelligence	3	2	5		アズビル(株)	1	2	3		ダイキン工業(株)	2	3	5
	(株)サイバーエージェント	2	3	5		アビームコンサルティング(株)	1	2	3		大和ハウス工業(株)	2	3	5
	ダイキン工業(株)	2	3	5		アンダーソン・毛利・友常法律事務所		3	3		東京都(公務員)	1	4	5
	大和ハウス工業(株)	2	3	5		飯野海運(株)	3	3	3		(株)東芝	3	2	5
	東京都(公務員)	1	4	5		EY新日本有限責任監査法人	2	1	3		日本生命保険(相互)	2	3	5
	(株)東芝	3	2	5		EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)	2	1	3		(株)日本総合研究所	3	2	5
	日本生命保険(相互)	2	3	5		AGC(株)	3		3		日本ビューレット・バックカード(合同)	1	4	5
	(株)日本総合研究所	3	2	5		NOK(株)		3	3		パーソルキャリア(株)	2	3	5
	日本ビューレット・バックカード(合同)	1	4	5		NTTファイナンス(株)	1	2	3		ベリベスト法律事務所	5	5	5
	パーソルキャリア(株)	2	3	5		エン・ジャパン(株)	3		3		(株)マクニカ	3	2	5
	ベリベスト法律事務所	5	5	5		オーシャンネットワークエクスプレスジャパン(株)		3	3		みずほ証券(株)	3	2	5
	(株)マクニカ	3	2	5		(株)大塚商会	1	2	3		三井住友海上火災保険(株)	3	2	5
	みずほ証券(株)	3	2	5		岡谷鋼機(株)		3	3		三菱UFJ信託銀行(株)	4	1	5
	三井住友海上火災保険(株)	3	2	5		花王グループカスタマーマーケティング(株)	1	2	3		明治安田生命保険(相互)	0	5	5
	三菱UFJ信託銀行(株)	4	1	5		鹿島建設(株)		3	3		(株)ヤフー	2	3	5
	明治安田生命保険(相互)	0	5	5		(株)ネオキャリア		3	3		りそなグループ	5	5	5

【学部】(3名以上の就職先)

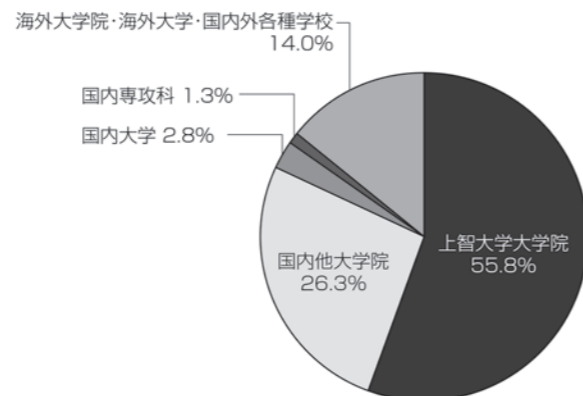
順位	企業・法人名	男	女	計	順位	企業・法人名	男	女	計	順位	企業・法人名	男	女	計
1	楽天グループ(株)	12	26	38		(株)レイヤーズ・コンサルティング	3	2	5		(株)ネオキャリア		3	3
2	日本アイ・ピー・エム(株)	6	15	21		レバレジーズ(株)	1	4	5		キャノンITソリューションズ(株)	2	1	3
3	(株)NTTデータ	7	8	15	61	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	4		4		キャノンマーケティングジャパン(株)	1	2	3
	PwCコンサルティング(株)/PwCアドバイザリー(合同)	8	7	15		SCSK(株)		4	4		(株)近鉄エクスプレス		3	3
	(株)日立製作所	11	4	15		NECソリューションイノベータ(株)	2	2	4		(株)小松製作所	2	1	3
	(株)三菱UFJ銀行	4	11	15		NTTコミュニケーションズグループ	3	1	4		(株)ジェシービー		3	3
7	アクセンチュア(株)	5	9	14		大家製薬(株)		4	4		(株)資生堂	2	1	3
	日本電気(NEC)(株)	4	10	14		警視庁	2	2	4		清水建設(株)	2	1	3
9	東京海上日動火災保険(株)	2	11	13		(国大)東京大学医学部附属病院		4	4		信金中央金庫	1	2	3
10	SMBC日興証券(株)	3	8	11		埼玉県(公務員)	1	3	4		(株)新生銀行	2	1	3
	(株)三井住友銀行	3	8	11		(株)JERA	2	2	4		Sky(株)	1	2	3
12	KDDI(株)	3	7	10		ジブラルタ生命保険(株)	1	3	4		(株)セールスフォース・ドットコム	2	1	3
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)	1	9	10		住友電気工業(株)	3	1	4		第一生命保険(株)	2	1	3
	(株)みずほフィナンシャルグループ	4	6	10		積水ハウス(株)	3	1	4		大王製紙(株)		3	3
15	(国大)東京医科歯科大学医学部附属病院		9	9		セコム(株)	2	2	4		大和証券グループ		3	3
	(株)野村総合研究所(NRI)	4	5	9		(株)セブテーニ・ホールディングス	1	3	4		(株)千葉銀行	2	1	3
	三井住友信託銀行(株)	4	5	9		全国農業協同組合連合会		4	4		千葉県(公務員)		3	3
	横浜市(公務員)	1	8	9		損害保険ジャパン(株)	1	3	4		中央労働金庫		3	3
19	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院		8	8		大成建設(株)	2	2	4		(株)帝国データバンク	2	1	3
	(株)ニトリ	4	4	8		大同生命保険(株)	1	3	4		東急不動産(株)	3		3
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)	4	4	8		(株)大和総研ホールディングス	2	2	4		(株)東芝	2	1	3
26	(株)NTTドコモ	3	4	7		ディップ(株)	3	1	4		有限責任監査法人トーマツ	2	1	3
	(株)キーエンス	6	1	7		デジタル・アド(タイジング・コンソーシアム(株)	1	3	4		(株)豊田自動織機	3		3
	(国研)国立がん研究センター中央病院		7	7		トラスコ中山(株)	2	2	4		豊田通商(株)		3	3
	シンプレクス(株)	6	1	7		西村あさひ法律事務所	4	4			トラスコスモス(株)		3	3
	TIS(株)	5	2	7		日本郵便(株)	1	3	4		(株)ナガセ		3	3
	(株)電通デジタル	1	6	7		(株)日本経済新聞社	4	4			日産自動車(株)		3	3
	日産自動車(株)	3	4	7		BIPROGY(株)	2	2	4		日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)	3	1	4
	日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)	4	3	7		(株)博報堂/博報堂DYメディアパートナーズ	2	2	4		(株)日本経済新聞社		4	4
	本田技研工業(株)	4	3	7		東日本電信電話(NTT東日本)(株)	4		4		日本ビューレット・バックカード(合同)	1	3	4
	三菱電機(株)	4	3	7		富士フイルム(株)	3	1	4		BIPROGY(株)	2	2	4
36	アマゾンジャパン(合同)	1	5	6		P&Gジャパン(株)	2	2	4		PG&Gジャパン(株)	2	2	4
	日本放送協会(NHK)		6	6		(株)ベクトル	2	2</						

4

学部卒業生進学状況

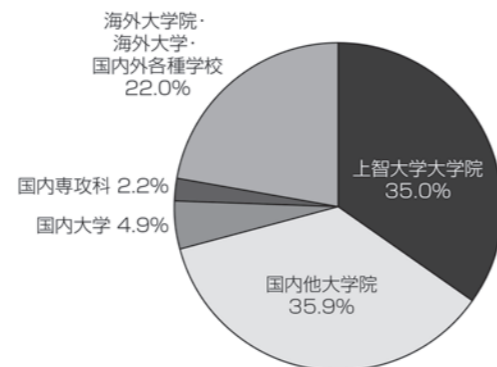
【全体(学部)】

進学区分名	計	割合
上智大学大学院	223	55.8%
国内他大学院	105	26.3%
国内大学	11	2.8%
国内専攻科	5	1.3%
海外大学院・海外大学・国内外各種学校	56	14.0%
総計	400	100.0%



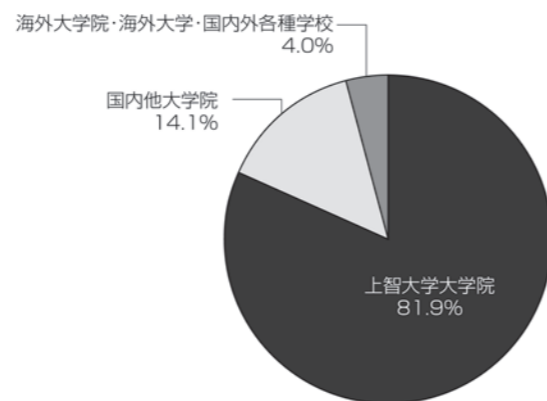
【文系(学部)】

進学区分名	計	割合
上智大学大学院	78	35.0%
国内他大学院	80	35.9%
国内大学	11	4.9%
国内専攻科	5	2.2%
海外大学院・海外大学・国内外各種学校	49	22.0%
総計	223	100.0%



【理系(学部)】

進学区分名	計	割合
上智大学大学院	145	81.9%
国内他大学院	25	14.1%
海外大学院・海外大学・国内外各種学校	7	4.0%
総計	177	100.0%



5

教職(国公立・私立)進路状況

学校種別	雇用形態	教科	学校名	学部/研究科	計
国公立					
国公立中学校	常勤	英語	埼玉県(教員)	文学部	1
			久留米市(教員)	総合人間科学部	1
		国語	板橋区(教員)	文学部	1
		社会	座間市(教員)	総合グローバル学部	1
		数学	相模原市(教員)	理工学部	1
	非常勤	英語	東京都(教員)	文学部	1
国公立高等学校	常勤	国語	静岡県(教員)	文学部	1
			東京都(教員)	博士前期課程総合人間科学研究科	1
		英語	東京都(教員)	文学部	1
			埼玉県(教員)	文学部	1
			神奈川県(教員)	外国語学部	1
国公立大学	非常勤	-	福井県立大学	博士後期課程理工学研究科	1
国公立小計					12

私立					
私立幼稚園	常勤	幼稚園	国立音楽大学附属幼稚園	博士前期課程総合人間科学研究科	1
私立小学校	常勤	英語	(学校)日出学園	博士前期課程言語科学研究科	1
		宗教	横浜雙葉学園	博士前期課程神学研究科	1
	非常勤	-	星美学園小学校	神学部	1
私立中学校	常勤	英語	(学校)佐藤栄学園	外国語学部	1
			和洋国府台女子中学・高等学校	外国語学部	1
			(学校)大妻学院	博士前期課程言語科学研究科	1
		宗教、英語	純心中学校・純心女子高等学校	博士前期課程神学研究科	1
		社会	頌栄女子学院	文学部	1
			(学校)金沢学院大学附属中学校	総合人間科学部	1
		国語	江戸川女子中・高等学校	文学部	1
			立教池袋中学校・高等学校	文学部	1
			(学校)女子聖学院中学校高等学校	博士前期課程文学研究科	1
		-	(学校)ドルトン東京学園	博士前期課程言語科学研究科	1
	非常勤	英語	(学校)山崎学園	博士前期課程言語科学研究科	1
私立高等学校	常勤	英語	東海大学付属高輪台高等学校・中等部	文学部	1
				外国語学部	1
			アナン学園高等学校	外国語学部	1
			平塚学園高等学校	外国語学部	1
			安田学園中学校・高等学校	外国語学部	1
		宗教	旭川藤星高等学校	神学部	1
			鹿児島純心女子中学校・高等学校	神学部	1
		数学	(学校)駿台学園	理工学部	1
		世界史	(学校)佐藤栄学園	博士前期課程文学研究科	1
		国語	淑徳与野中学・高等学校	博士前期課程文学研究科	1
	非常勤	英語	緑ヶ丘女子中学校・高等学校	文学部	1
私立大学	常勤	-	拓殖大学	博士前期課程実践宗教学研究科	1
			国際基督教大学	博士後期課程言語科学研究科	1
			(学校)上智学院	修士課程総合人間科学研究科	1
			麗澤大学	博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科	1
			帝京大学	修士課程総合人間科学研究科	1
	非常勤	-	(学校)中央大学	博士後期課程総合人間科学研究科	1
私立小計					32

その他(国内)					
-	非常勤	英語	(独立)日本学生支援機構 東京日本語教育センター	博士前期課程言語科学研究科	1
その他小計					1

海外校(国内)					
私立中学校	常勤	体育	UIAインターナショナルスクールオブ東京	博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科	1
私立高等学校	常勤	英語、社会	(学校)ケイ・インターナショナルスクール	国際教養学部	1
海外校(国内)小計					2

不明					
-	非常勤	-	学校名不明(大学)	博士前期課程実践宗教学研究科	1
不明小計					1

合計					48
----	--	--	--	--	----

公務員（国家公務員・地方公務員）進路状況

試験コース	勤務先名	学部／研究科	計	試験コース	勤務先名	学部／研究科	計
国家公務員				地方公務員			
国家公務員(総合職)	厚生労働省	理工学部	1		我孫子市	法学部	1
		理工学研究科	1		桐生市	外国語学部	1
	財務省関東財務局	経済学部	1		川口市	外国語学部	1
	農林水産省	法学部	1		神戸市	法学部	1
国家公務員(一般職)	横浜税関	文学部	1		秦野市	文学部	1
	国土交通省	文学部	1		成田市	総合人間科学部	1
		法学部	1		千葉市	法学部	1
		総合グローバル学部	1		川崎市	総合人間科学部	1
	千葉労働局	法学部	1			経済学部	1
	総務省総合通信基盤局	理工学研究科	1			理工学研究科	1
	東京労働局	文学部	1		船橋市	文学部	1
	独立行政法人国立印刷局	外国語学部	1			総合人間科学部	1
	農林水産省	法学部	1		草加市	法学部	1
	文部科学省	総合人間科学部	1		大泉町	外国語学部	1
	法務省水戸地方務局	法学部	1		町田市	総合人間科学部	1
外務省専門職	外務省	法学部	1		長野市	外国語学部	1
		総合グローバル学部	1		入間市	法学部	1
国税専門官	関東信越国税局	法学部	1		八千代市	法学部	1
裁判所事務官(一般職)	水戸地方裁判所	総合グローバル学部	1		武蔵野市	外国語学部	1
	東京地方裁判所	法学部	1		福岡市	理工学部	1
家庭裁判所調査官補	大阪家庭裁判所	総合人間科学部	1		豊田市	外国語学部	1
防衛省(専門職)	防衛省	法学部	1		名古屋市	文学部	1
	航空自衛隊	グローバル・スタディーズ研究科	1	市町村中級	錦江町	文学部	1
防衛省(自衛隊)	陸上自衛隊	国際教養学部	2	警察官	警視庁	法学部	3
	航空自衛隊	外国語学部	1	警察事務	神奈川県警察本部	外国語学部	1
		グローバル・スタディーズ研究科	1		警視庁	法学部	1
国家公務員その他	ブラジル外務省	グローバル・スタディーズ研究科	1	消防官	東京消防庁	経済学部	1
	China Banking & Insurance Regulatory Commission	地球環境学研究科	1	地方公務員その他	佐賀県地域おこし協力隊	総合グローバル学部	1
	Forestry Department (マレーシア)	地球環境学研究科	1		静岡県立静岡がんセンター	外国語学部	1
	Ministry of Environment, Climate change and Technology (モルディブ)	地球環境学研究科	1	地方公務員小計			70
国家公務員小計			31	合計			101
地方公務員							
都道府県上級(I類)	北海道	経済学部	1				
	群馬県	法学部	1				
	埼玉県	総合人間科学部	1				
		法学部	2				
		総合グローバル学部	1				
	千葉県	総合人間科学部	1				
		法学部	1				
		経済学部	1				
	東京都	文学部	1				
		総合人間科学部	2				
		法学部	2				
	神奈川県	法曹養成専攻	1				
	大阪府	法学部	1				
特別区職員	葛飾区	総合人間科学部	1				
		総合人間科学研究科	1				
	江東区	文学部	1				
		法学部	1				
	品川区	経済学部	1				
	新宿区	総合人間科学部	2				
	杉並区	総合人間科学部	1				
	世田谷区	総合人間科学部	1				
	台東区	総合人間科学研究科	1				
	千代田区	法学部	1				
	中央区	経済学部	1				
	中野区	法学部	1				
市町村上級	みよし市	外国語学部	1				
	横浜市	文学部	1				
		総合人間科学部	3				
		法学部	2				
		外国語学部	1				
		総合グローバル学部	2				

国家公務員等試験合格状況

試験区分	年度	2021年度			2020年度			2019年度		
		上智大学		試験全体 合格数(人)	上智大学		試験全体 合格数(人)	上智大学		試験全体 合格数(人)
		合格者数	うち既卒者数		合格者数	うち既卒者数		合格者数	うち既卒者数	
国家総合職(大卒)		9	1	1,434	6	3	1,379	6	1	1,293
国家総合職(院卒)		2	*	622	4	*	518	6	*	664
国家一般職		34	11	7,553	32	7	6,031	41	7	7,605
外務省専門職員		2	*	52	1	*	51	4	*	48
財務専門官		1	0	597	1	0	560	5	2	526
国税専門官		24	10	4,193	21	6	3,903	11	2	3,514
労働基準監督官		2	1	496	1	0	476	2	1	573
法務教官		0	0	357	0	0	372	0	0	273
保護観察官		2	0	95	0	0	94	0	0	79
裁判所事務官総合職		0	0	18	0	0	24	0	0	17
裁判所事務官一般職		5	*	1,080	6	*	970	17	*	1,255
家庭裁判所調査官補(大卒)		3	*	61	1	*	64	1	*	47
家庭裁判所調査官補(院卒)		0	0	14	0	0	16	0	0	16
防衛省職員専門職		4	1	99	3	0	75	5	1	84
自衛隊幹部候補		6	2	149	1	0	192	3	1	*
衆議院事務局総合職		0	0	2	0	0	2	0	0	2
衆議院事務局一般職		0	0	14	0	0	16	1	*	15
参議院事務局総合職		0	0	12	1	0	9	1	0	13
国会図書館総合職		0	0	3	0	0	4	0	0	4
国会図書館一般職		0	0	13	0	0	14	0	0	17
航空管制官		0	0	42	1	0	41	3	2	105
皇宮護衛官		0	0	56	0	0	49	0	0	36
司法試験		7	4	1,421	8	2	1,450	11	8	1,502
公認会計士		9	5	1,360	14	10	1,335	13	11	1,337
看護師		70	2	59,344	70	2	59,769	68	1	58,514
保健師		20	0	7,094	13	2	7,387	19	1	7,537
助産師		10	0	2,077	10	0	2,100	10	0	2,093

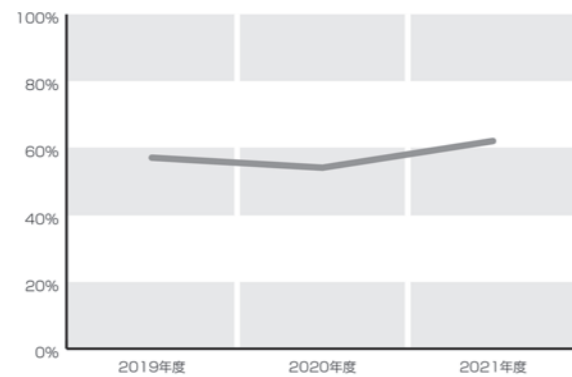
*は、非公開につき不明 資料提供:人事院他

求人数		
年度	理工系対象求人数	学校推薦募集社数
2021年度	約3,500	300
2020年度	約3,550	327
2019年度	約3,500	220

※求人票は、企業から (a) 大学に直接提供されるものと (b) 求人情報 WEB システム「キャリアス UC」を介して配信されるものがある。
「理工系対象求人数」は (b) のうち「文理不問」を除く件数、「学校推薦募集社数」は (a) の提供社数である。

学校推薦合格率推移	
年度	合格率
2021年度	62%
2020年度	54%
2019年度	57%

学校推薦合格率推移



受験方法別内定者数					
年度	学校推薦		自由応募		内定者数(人)
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
2021年度	63	26.7%	173	73.3%	236
2020年度	63	28.4%	159	71.6%	222
2019年度	85	32.1%	180	67.9%	265

※技術系職種のみ

(注) 学校推薦とは、学生が第一志望とする企業に大学長が推薦する制度。ただし、学校推薦の選考フロー、採用基準は企業によって異なり、合格を保证するものではない。そのため、年度毎の応募学生の合格率は変化する。なお、従来の学校推薦は、「企業の推薦枠に対して学生を推薦する」形式だったが、現在の学校推薦は、「①選考応募時/②選考途中/③ジョブマッチング成立後または最終選考合格後のいずれかの時期に企業の求めに応じて推薦状を提出する」形式になっている。

勤務地名	企業・法人名	計	勤務地名	企業・法人名	計	勤務地名	企業・法人名	計
北海道	東京海上日動火災保険(株)	1		大泉町(公務員)	1		OSG(株)	1
	国分北海道(株)	1	新潟県	有限責任監査法人トーマツ	1	大阪府	大阪府(公務員)	1
	(株)セコマ	1		(株)野村證券(株)	1		(株)イー・ビー・シーリブラ	1
	(学校)北海道カトリック学園 旭川藤星高等学校	1	福井県	興和江守(株)	1	島根県	(株)山陰合同銀行	1
青森県	(株)青森銀行	1	長野県	長野市(公務員)	1	広島県	(株)広島銀行	1
岩手県	(株)岩手銀行	1		ホクト(株)	1		(株)東洋シート	1
宮城県	(株)仙台放送	1	静岡県	静岡県立静岡がんセンター	1	山口県	山口商工会議所	1
	湘南美容外科クリニック	1		(株)河合楽器製作所	1		(株)山口フィナンシャルグループ	1
	日本放送協会(NHK) 仙台放送局	1	愛知県	(株)トヨタシステムズ	1	香川県	四国電力(株)	1
	ブルデンシャル生命保険(株)	1		ゲンキー(株)	1	福岡県	(株)福岡銀行	1
	東北電力(株)	1		サーラエナジー(株)	1		(株)西日本シティ銀行	1
秋田県	(株)秋田魁新報社	1		(株)デンソー	1		福岡市(公務員)	1
福島県	(株)東邦銀行	1		(株)デンソーウェーブ	1		(医療)法人社団聖マリア病院(雪の聖母会)	1
栃木県	Japan International Center	1		みずほ証券(株)	1		大和ハウス工業(株)	1
	キャノンメディカルシステムズ(株)	1		みよし市(公務員)	1		(株)久原本家	1
	(株)ニチイ学館	1		豊田市(公務員)	1	宮崎県	野村證券(株)	1
群馬県	群馬県(公務員)	1		中部電力(株)	1	計		50

2021年度	就職			就職計	進学	その他 (就職・進学以外)	不明・未届	計 (卒業・修了者数)
	日本国内	国外	不明					
学部	30	5	1	36	38	42	9	125
大学院博士前期課程	62	16	0	78	17	84	20	199
大学院博士後期課程	2	0	0	3	0	3	3	9
計	95	21	1	117	55	129	32	333

2020年度	就職			就職計	進学	その他 (就職・進学以外)	不明・未届	計 (卒業・修了者数)
	日本国内	国外	不明					
学部	27	9	2	38	30	47	3	118
大学院博士前期課程	62	13	5	80	17	85	12	194
大学院博士後期課程	6	3	0	9	0	3	0	12
計	95	25	7	127	47	135	15	324

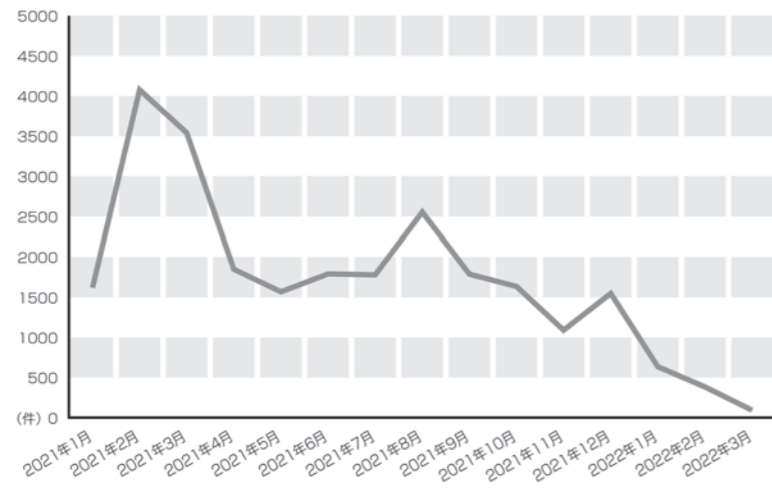
2019年度	就職			就職計	進学	その他 (就職・進学以外)	不明・未届	計 (卒業・修了者数)
	日本国内	国外	不明					
学部	38	1	4	43	24	36	15	118
大学院博士前期課程	73	14	7	94	18	74	14	200
大学院博士後期課程	4	1	0	5	0	3	3	11
計	115	16	11	142	42	113	32	329

※外国人留学生とは、正規生・在留資格「留学」の外国人学生を指す。
※その他とは、帰国・海外渡航・資格試験勉強・アルバイト等を指す。

求人受付状況

2021年度	
受付月	求人件数
2021年 1月	1,619
2021年 2月	4,076
2021年 3月	3,541
2021年 4月	1,849
2021年 5月	1,568
2021年 6月	1,791
2021年 7月	1,779
2021年 8月	2,555
2021年 9月	1,788
2021年 10月	1,635
2021年 11月	1,090
2021年 12月	1,548
2022年 1月	635
2022年 2月	383
2022年 3月	93
総計	25,950

求人受付状況推移



就職内定時期

【2021年度】

内定月	男	女	計	%
2021年2月以前	60	85	145	5.8%
2021年 3月	50	91	141	5.6%
2021年 4月	127	169	296	11.8%
2021年 5月	114	201	315	12.6%
2021年 6月	212	402	614	24.5%
2021年 7月	68	132	200	8.0%
2021年 8月	60	101	161	6.4%
2021年 9月	34	58	92	3.7%
2021年 10月	122	275	397	15.9%
2021年 11月	22	17	39	1.6%
2021年 12月	19	29	48	1.9%
2022年 1月	6	16	22	0.9%
2022年 2月	7	4	11	0.4%
2022年 3月	5	18	23	0.9%
総計	906	1598	2504	100.0%

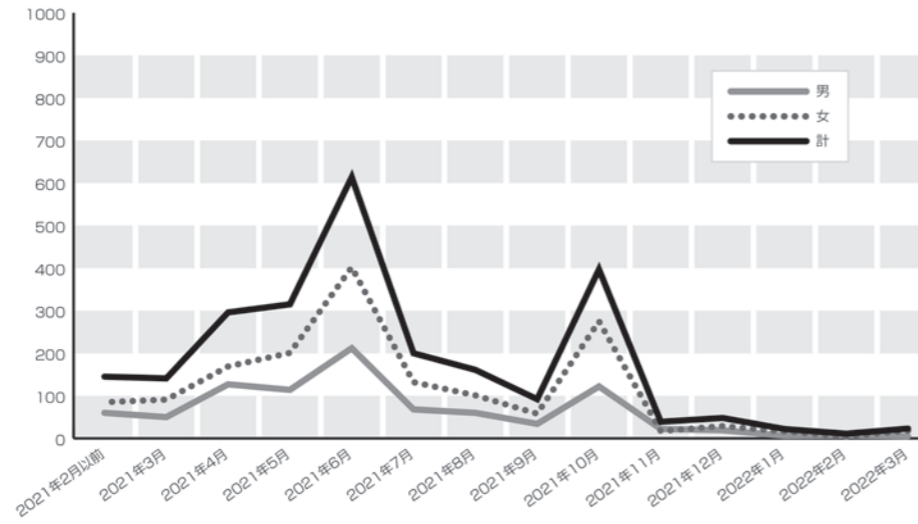
※内定日不明者は、10月分として計上。

【2020年度】

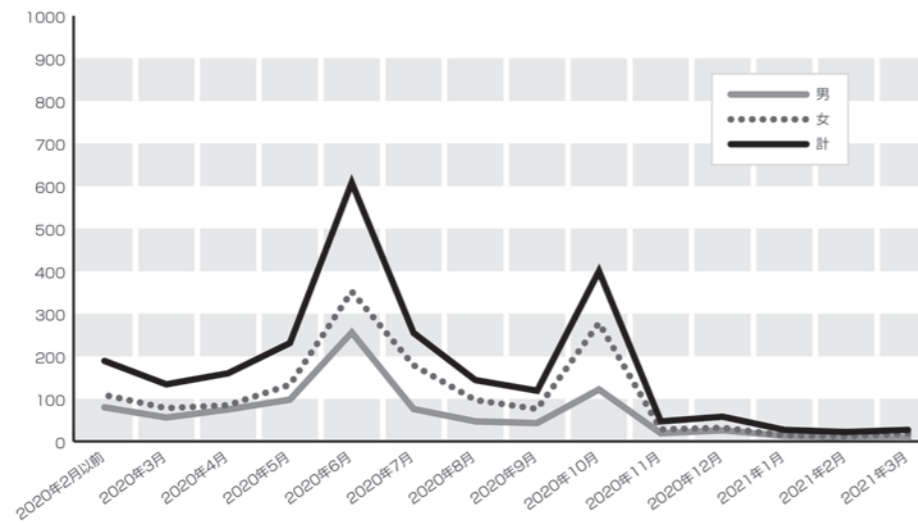
内定月	男	女	計	%
2020年2月以前	80	109	189	7.8%
2020年 3月	56	78	134	5.5%
2020年 4月	75	85	160	6.6%
2020年 5月	98	133	231	9.6%
2020年 6月	256	352	608	25.1%
2020年 7月	76	179	255	10.5%
2020年 8月	47	97	144	6.0%
2020年 9月	43	76	119	4.9%
2020年 10月	122	278	400	16.5%
2020年 11月	19	28	47	2.0%
2020年 12月	26	32	58	2.4%
2021年 1月	13	14	27	1.1%
2021年 2月	10	12	22	0.9%
2021年 3月	9	18	27	1.1%
総計	930	1491	2421	100.0%

※内定日不明者は、10月分として計上。

就職内定時期(2021年度)



就職内定時期(2020年度)



学科・専攻別進路一覧

【学部】

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
神学部 神学科					その他の教育・学習支援業	(株)学究社		1	1
建設業	(株)シーエーリーディング		1	1	(株)個別指導			1	1
食品・飲料・たばこ・飼料製造業	丸大食品(株)		1	1	社会保険・社会福祉・介護事業	(株)ベネッセスタイルケア			1
化学工業・石油・石炭製品製造業	三菱ケミカル(株)	1		1	その他のサービス業	(株)クイック			1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	セイコーウオッチ(株)		1	1	文学部 哲学科 計		15	28	43
電気・情報通信機械器具製造業	日本電気(NEC)(株)		1	1	文学部 史学科				
情報通信業	freee(株)		1	1	建設業	清水建設(株)	1		1
	(株)ブリッジコーポレーション		1	1		東建コーポレーション(株)		1	1
卸売業	(株)ネクステージ		1	1	食品・飲料・たばこ・飼料製造業	CJ FOODS JAPAN(株)			1
	(株)マクニカ		1	1		(株)ニッポン		1	1
	杉山商事(株)		1	1	繊維工業	カイハラ(株)	1		1
小売業	ゲンキー(株)		1	1	印刷・関連業	ザ・バック(株)		1	1
	(株)ツツミ		1	1	化学工業・石油・石炭製品製造業	(株)プリヂストーン			1
保険業	あいおいニッセイ同和損害保険(株)		1	1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	三浦工業(株)		1	1
その他の専門・技術サービス業	(株)トランザクション	1		1		富士電機(株)			1
	三協測量設計(株)		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	ウシオ電機(株)		1	1
学校教育	(学校)北海道トリック学園 旭川慶星高等学校		1	1		沖電気工業(株)		1	1
	(国大)東京大学		1	1		三菱電機(株)		1	1
	鹿児島純心中学校		1	1	その他の製造業	丸八真綿グループ	1		1
	星美学園小学校	1		1	情報通信業	Sky(株)		1	1
	聖心女子大学		1	1		テクノ(株)			1
その他の教育・学習支援業	(株)臨海		2	2		ヤフー(株)	1		1
宗教	(宗教)カトリック中央協議会		1	1		楽天グループ(株)		1	1
その他のサービス業	セコム(株)	1		1		(株)Link-U	1		1
	(株)NECライベックス		1	1		(株)NEXCOシステムズ		1	1
	(株)スタッフサービス		1	1		(株)Sharing Innovation	1		1
神学部 神学科 計		4	22	26		(株)TKC			1
						(株)インターファクトリー			1
文学部 哲学科						(株)インフォテクノ朝日			1
建設業	佐藤工業(株)		1	1		(株)エルテックス		1	1
印刷・関連業	大日本印刷(DNP)(株)	1		1		(株)ソニックス		1	1
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	(株)日本ベーカーヒューズ	1		1		(株)チェンジ		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	横河電機(株)		1	1		(株)テリロジー	1		1
	(株)ニコン	1		1		(株)フジシステムズ	1		1
	(株)フィリップス・ジャパン		1	1		(株)京都新聞社		1	1
その他の製造業	(株)西部ピアノ		1	1		東日本電信電話(NTT東日本)(株)	1		1
電気・ガス・熱供給・水道業	東京ガスバイネットワーク(株)		1	1	運輸業・郵便業	日軽物流(株)	1		1
情報通信業	KDDI(株)	1		1	卸売業	エプソン販売(株)		1	1
	オリゾンシステムズ(株)		1	1	小売業	(株)イトーヨーカ堂		1	1
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1		(株)ソフ		1	1
	レバレジーズ(株)		1	1		(株)ファミリーマート	1		1
	(株)エスピーク	1		1	金融業	テックマークジャパン(株)		1	1
	(株)コンシスト		1	1		(株)FUNDBOOK	1		1
	(株)さくらコミュニケーション	1		1		(株)ウィルグループ		1	1
	(株)テイクス	1		1		(株)日本政策金融公庫	1		1
	(株)ニッポン放送		1	1		大和証券グループ		1	1
	(株)ネットプロテクションズ	2		2	保険業	あいおいニッセイ同和損害保険(株)		1	1
	(株)静岡新聞社	1		1	不動産取引・賃貸・管理業	(株)ケン・コーポレーション	1		1
	(株)中央経済社ホールディングス		1	1	法務	アンダーソン・毛利・友常法律事務所		1	1
	(株)電算システム	1		1	その他の専門・技術サービス業	アクセンチュア(株)	1		1
	東京書籍(株)	1		1		(株)帝国データバンク	1	1	2
	日本アイ・ビー・エム(株)		1	1		(株)野村総合研究所(NRI)	1		1
	日本コムシス(株)		1	1		(独立)福祉医療機構		1	1
卸売業	オミ(株)		1	1	学校教育	頌栄女子学院		1	1
	シネックスジャパン(株)		1	1	その他の教育・学習支援業	(株)臨海	1		1
	(株)マクニカ	1		1	医療業・保健衛生	湘南美容外科クリニック		1	1
小売業	(株)スクール360		1	1	社会保険・社会福祉・介護事業	SOMPOケア(株)		1	1
金融業	いちよし証券(株)		1	1	その他のサービス業	(株)アミックス		1	1
	(株)千葉興業銀行		1	1		日本ファイナンシャル・プランナーズ協会	1		1
保険業	オリックス生命保険(株)		1	1	地方公務	秦野市(公務員)	1		1
	朝日生命保険(相互)		1	1	文学部 史学科 計		21	34	55
物品賃貸業	三菱HCキャピタル(株)		1	1	文学部 国文学科				
その他の専門・技術サービス業	Japan International Center		1	1	建設業	パナソニックLSエンジニアリング(株)		1	1
	デジタルアーツコンサルティング(株)		1	1	印刷・関連業	トッパン・フォームズ(株)		1	1
	(株)Enjin		1	1		大日本印刷(DNP)(株)		1	1
	(株)ゼロイン	1		1					
生活関連サービス業・娯楽業	(株)ユーコー	1		1					

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
化学工業、石油・石炭製品製造業	リファインホールディングス(株)		1	1		NTTインターネット(株)		1	1
	日東電工(株)		1	1		Sky(株)		1	1
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	JX金属(株)	1		1		ソフバンク(株)		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	セイコーウオッチ(株)		1	1		トランスコスモス(株)		1	1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	(株)日立国際電気		1	1		パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1
情報通信業	NTTコムウェア(株)		1	1		フロムスクラッチ		1	1
	アクレスコ(株)		1	1		ポーターズ(株)		1	1
	トランスコスモス(株)		1	1		楽天グループ(株)		2	2
	パーソルキャリア(株)		1	1		(株)EDUCOM		1	1
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1		(株)TKC	1		1
	パクテラ・テクノロジー・ジャパン(株)		1	1		(株)VOYAGEGROUP	1		1
	(株)NTTデータビジネスシステムズ		1	1		(株)Works Human Intelligence		1	1
	(株)サンライズ		1	1		(株)サイバーエージェント		1	1
	(株)システナ		1	1		(株)メディアミックス・ジャパン		1	1
	(株)システムフォース		1	1		(株)鎌倉新書		1	1
	(株)ゼロプロダクト		1	1		(株)日立ICTビジネスサービス		1	1
	(株)日本経済新聞社		1	1		日本アイ・ピー・エム(株)		1	1
	(株)日本総合研究所	1		1	運輸業、郵便業	佐川グローバルロジスティクス(株)	1		1
	関西テレビ放送(株)	1		1		郵船ロジスティクス(株)	1		1
運輸業、郵便業	日本郵便(株)		1	1	卸売業	モンテ物産(株)		1	1
卸売業	国分北海道(株)		1	1		(株)ニトリ	1	1	2
	阪和興業(株)		2	2		(株)ヤスタ		1	1
	三菱食品(株)		1	1		三ツフロンテック(株)	1		1
	大同興業(株)		1	1	小売業	(株)やまや		1	1
小売業	(株)アダストリア		1	1		(株)良品計画		1	1
	(株)ムービック	1		1	金融業	SMBC日興証券(株)		1	1
	(株)三越伊勢丹		1	1		イオンクレジットサービス(株)		1	1
	(株)大丸松坂屋百貨店		1	1		オリックス(株)	1		1
金融業	SMBC日興証券(株)		1	1		(株)東邦銀行	1		1
	オリックス・クレジット(株)		1	1	不動産取引・賃貸・管理業	伊藤忠都市開発(株)	1		1
	(株)FUNDBOOK	1		1		三井不動産リアルティ(株)		1	1
	信金中央金庫		1	1		東急住宅リース(株)		1	1
保険業	アフラック生命保険(株)	1		1	法務	山本柴崎法律事務所		1	1
	ソニー生命保険(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドイザラー(合同)		1	1
	東京海上日動火災保険(株)		1	1		(株)ノースサンド	1		1
	日本生命保険(相互)		1	1		(株)ベクトル		1	1
その他の専門・技術サービス業	のぞみ(株)		1	1	宿泊業、飲食サービス業	アパホテル(株)	1		1
宿泊業、飲食サービス業	(株)マイステイズ・ホテル・マネジメント		1	1		森トラスト・ホテルズ&リゾーツ(株)		1	1
学校教育	江戸川女子中・高等学校		1	1	生活関連サービス業、娯楽業	(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント		1	1
	静岡県立清水東高等学校		1	1	学校教育	(株)TKC		1	1
	板橋区立板橋第五中学校	1		1		埼玉県(教員)	1	1	2
	立教池袋中学校・高等学校		1	1		東海大学付属高輪台高等学校・中等部		1	1
その他の教育、学習支援業	(学校)河合塾		1	1		東京都(教員)	1		1
その他のサービス業	日研トータルソーシング(株)	1		1		東京都立江北北高校		1	1
地方公務	江東区(公務員)		1	1		緑ヶ丘女子中学校・高等学校	1		1
文学部 国文学科 計		9	40	49	その他の教育、学習支援業	プレーンバンク(株)	1		1
						(株)ナガセ		1	1
文学部 英文学科					複合サービス事業	(株)NHKビジネスクリエイト		1	1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	キリンホールディングス(株)		1	1	その他のサービス業	エン・ジャパン(株)	1		1
	日本たばこ産業(株)		1	1		(株)Surpass		1	1
	味の素(株)		1	1		(株)ディスコ		1	1
印刷・同関連業	大日本印刷(DNP)(株)		1	1		(株)メイテック		1	1
	凸版印刷(株)		1	1	国家公務	国土交通省		1	1
化学工業、石油・石炭製品製造業	富士フイルム(株)		1	1		東京労働局	1		1
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	日本フイルコン(株)		1	1	地方公務	横浜市(公務員)		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)A&Dホロンホールディングス	1		1		船橋市(公務員)		1	1
電気・情報通信機械器具製造業	パナソニックホールディングス(株)		1	1		東京都(公務員)		1	1
	(株)キーエンス		1	1		名古屋市(公務員)	1		1
輸送用機械器具製造業	NOK(株)		1	1	分類不能の産業	不明	1		1
	日産自動車(株)		1	1	文学部 英文学科 計		23	58	81
	本田技研工業(株)	1		1	文学部 ドイツ文学科				
その他の製造業	AGC(株)	1		1	建設業	(株)LIXIL	1		1
	ソアラ(株)		1	1	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	森永製菓(株)	1		1
	王子マネジメントオフィス(株)		1	1	化学工業、石油・石炭製品製造業	大塚製薬(株)		1	1
	(株)コルグ		1	1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)鳥津製作所	1		1
	(株)パンダイ	1		1	情報通信業	NECソリューションイノベータ(株)	1		1
情報通信業	KDDI(株)		1	1					

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	キンドリルジャパン(合同)		1	1	生活関連サービス業、娯楽業	(株)ベストワンドットコム		1	1
	レバレジーズ(株)		1	1	その他のサービス業	Adecco Group Thailand		1	1
	(株)インベーション	1		1		ヌーベルキャリア(株)		1	1
	(株)エイシング		1	1		(株)ADKホールディングス		1	1
	(株)クラッキ		1	1		(株)FMG		1	1
	(株)セプテーニ・ホールディングス		1	1		(株)ネオキャリア		1	1
	(株)ビットエー		1	1	国家公務	横浜税関	1		1
	(株)宝島社		1	1	文学部 フランス文学科 計		7	33	40
	数研出版(株)		1	1	文学部 新聞学科				
	富士通(株)		1	1	建設業	新菱冷熱工業(株)		1	1
	木村情報技術(株)		1	1		積水ハウス(株)	1		1
卸売業	(株)守谷商会	1		1	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	サッポロビール(株)		1	1
	兼松(株)		1	1	印刷・同関連業	凸版印刷(株)		1	1
	豊島(株)		1	1	化学工業、石油・石炭製品製造業	(株)ミルボン		1	1
小売業	(株)スタージュエリーブティックス		1	1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	富士電機(株)		1	1
	(株)良品計画		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	デル・テクノロジーズ(株)	1		1
金融業	りそなグループ		1	1	輸送用機械器具製造業	NOK(株)		1	1
	(株)三菱UFJ銀行	1		2	その他の製造業	レンゴ(株)	1		1
保険業	住友生命保険(相互)		1	1	電気・ガス・熱供給・水道業	四国電力(株)		1	1
	東京海上日動火災保険(株)		1	1	情報通信業	IDCフロンティア(株)	1		1
	明治安田生命保険(相互)		1	1		日本放送協会(NHK)		1	1
物品賃貸業	みずほリース(株)	1		1		SMN(株)		1	1
法務	三枝国際特許事務所		1	1		レッドフォックス(株)	1		1
	弁護士法人ベリールベスト法律事務所		1	1		楽映舎		1	1
その他の専門・技術サービス業	シンプレクス(株)		1	1		(株)i-plug		1	1
	ディップ(株)		1	1		(株)LDH JAPAN		1	1
	(株)P-UP World		1	1		(株)MBS企画		1	1
	商船三井システムズ(株)		1	1		(株)USEN-NEXT HOLDINGS		1	1
宿泊業、飲食サービス業	(株)星野リゾート・マネジメント		2	2		(株)ヴァリユース		1	1
社会保険・社会福祉・介護事業	ケア・プラット、フォーム(株)	1		1		(株)エフエム大阪	1		1
その他のサービス業	(株)ネクスコ東日本トラスティ		1	1		(株)オーブントア		1	1
分類不能の産業	不明		1	1		(株)キューブシステム		1	1
文学部 ドイツ文学科 計		9	30	39		(株)コムニコ		1	1
文学部 フランス文学科						(株)セプテーニ・ホールディングス		1	1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	キリンホールディングス(株)		1	1		(株)テレビ埼玉	1		1
	味の素(株)		1	1		(株)トヨタシステムズ		1	1
化学工業、石油・石炭製品製造業	(株)MTG		1	1		(株)トラス		1	1
	興和(株)	1		1		(株)ブラップジャパン	1	1	2
輸送用機械器具製造業	(株)豊田自動織機	1		1		(株)ラック		1	1
	本田技研工業(株)		1	1		(株)リクルート		1	1
その他の製造業	タカラスタンダード(株)		1	1		(株)リットー・ミュージック		1	1
情報通信業	EDSTROM OFFICE(株)		1	1		(株)高知新聞社		1	1
	楽天グループ(株)		1	1		(株)山口社		1	1
	(株)CBCクリエイション		1	1		(株)時事通信社		1	1
	(株)クレスコ	1		1		(株)世界文化ホールディングス		1	1
	(株)スナーク	1		1		(株)仙台放送		1	1
	(株)タウンニュース社		1	1		(株)宣伝会議		1	1
	(株)ピアス		1	1		(株)中日新聞社		1	1
	(株)マイクロアド		1	1		(株)朝日新聞社		2	2
	(株)情報戦略テクノロジー		1	1		(株)東京スポーツ新聞社		1	1
	三井住友トラスト・システム&サービス(株)		1	1		(株)東京ニュース通信社		1	1
	日本アイ・ピー・エム(株)	1		1		(株)東日本放送		1	1
運輸業、郵便業	(株)サンリツ		1	1		(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ		1	1
	凸版物流(株)		1	1		(株)日経BP		1	1
卸売業	エノテカ(株)		1	1		(株)日本経済新聞社		2	2
	フジモトHD(株)		1	1		(株)毎日放送		1	1
	三井物産エアロスペース(株)		1	1		(株)産業経済新聞社	1	1	2
	菱洋エレクトロ(株)		1	1		東京メトロポリタンテレビジョン(株)		1	1
小売業	(株)エムレー		1	1		読売新聞東京本社		1	2
	(株)ジェネレーションパス		1	1		日本BS放送(株)		1	1
金融業	(株)みずほフィナンシャルグループ		1	1		北海道テレビ放送(株)		1	1
	(株)三井住友銀行		2	2	運輸業、郵便業	ヤマト運輸(株)		1	1
保険業	第一生命保険(株)		1	1	卸売業	(株)K.MECS Automation		1	1
不動産取引・賃貸・管理業	(株)木下工務店		1	1		(株)三陽商会		1	1
法務	弁護士法人ベリールベスト法律事務所		1	1		(株)日本アクセス		1	1
その他の専門・技術サービス業	(株)マテリアル		1	1		丸紅ツツゲン(株)		1	1

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	興和江守(株)		1	1		日鉄ソリューションズ(株)		1	1
	西本Wismettacホールディングス(株)		1	1		日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)	1		1
	長瀬産業(株)		1	1		明治安田システム・テクノロジー(株)		1	1
	日本出版販売(株)		1	1	運輸業、郵便業	日本交通(株)	1		1
小売業	イオンエンターテイメント(株)		1	1	卸売業	キャノンマーケティングジャパン(株)		1	1
	(株)AXES		1	1		(株)チップワンストップ		1	1
	(株)セリア		1	1	金融業	(株)クレディセゾン	1		1
	(株)そごう・西武		1	1		(株)ジェシービー		1	1
金融業	(株)きらぼし銀行		1	1		(株)三井住友銀行		1	1
	(株)三井住友銀行		1	1		(株)山陰合同銀行		1	1
	(株)常陽銀行		1	1		(株)山口フィナンシャルグループ		1	1
	(株)千葉銀行		1	1	保険業	損害保険ジャパン(株)		1	1
	(株)八十二銀行		1	1		東京海上日動火災保険(株)	2		2
保険業	全国共済農業協同組合連合会	1		1	不動産取引・賃貸・管理業	旭化成不動産レジデンス(株)		1	1
	大同生命保険(株)		1	1	法務	TMI総合法律事務所		1	1
不動産取引・賃貸・管理業	(株)ビーロッド		1	1	その他の専門・技術サービス業	EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)	1		1
	(株)東急コミュニティー	1		1		フューチャーアーキテクト(株)	1		1
	三井不動産レジデンシャルサービス(株)		1	1		(株)マネジメントソリューションズ	1		1
法務	西村あさひ法律事務所		1	1		(株)電通パブリックリレーションズ		1	1
その他の専門・技術サービス業	FPサービス(株)		1	1	学校教育	金沢学院大学附属中学校	1		1
	アクセントピア(株)		1	1		久留米市(教員)		1	1
	デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)	1		1	その他の教育、学習支援業	NOVAホールディングス(株)		1	1
	ニュートン・コンサルティング(株)		1	1		(株)ウィザス		1	1
	伊藤忠ケープシステム(株)		1	1		(株)さなる		1	1
	(株)ADKマーケティング・ソリューションズ		1	1		(株)ベネッセコーポレーション	1		1
	(株)DASH		1	1		(株)四谷大塚	1		1
	(株)アイレップ	1		1	医療業、保健衛生	(医療)聖マリア病院		1	1
	(株)マクキャンエリクソン	1		1	社会保険・社会福祉・介護事業	スマートキッズ(株)		1	1
	(株)大広		1	1	その他のサービス業	セコム(株)		1	1
	(株)電通東日本		1	1		パーソルチャレンジ(株)		1	1
	(株)読売広告社		1	1		(株)AIOON	1		1
	(株)博報堂プロダクツ		1	1		(公財)国際人材協力機構		1	1
	税理士法人Square		1	1		中日本高速道路(株)		1	1
宿泊業、飲食サービス業	日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)		1	1	国家公務	大阪家庭裁判所		1	1
	日本マクドナルド(株)		1	1	地方公務	船橋市(公務員)	1		1
学校教育	(国大)千葉大学		1	1	総合人間科学部 教育学科 計		14	37	51
社会保険・社会福祉・介護事業	千葉chi - raku		1	1	総合人間科学部 心理学科				
複合サービス事業	全国農業協同組合連合会		1	1	建設業	大和ハウス工業(株)		1	1
その他のサービス業	(一社)日本新聞協会		1	1	食品・飲料・たばこ・飼料製造業	(株)マルハニチロホールディングス		1	1
	(株)TMJ		1	1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	テクノプロ・エンジニアリング(株)		1	1
	(株)アトラエ	1		1	輸送用機械器具製造業	(株)東洋シート		1	1
	(株)エスユーエス	1		1		日産工機(株)		1	1
	(株)デュナミス		1	1	電気・ガス・熱供給・水道業	(株)Looop	1		1
	(株)ナノベーション	1		1	情報通信業	トランスコスモス(株)		1	1
	(株)関西都市居住サービス	1		1		パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1
	(株)日立マネジメントパートナー		1	1		ヤフー(株)		1	1
	三井不動産ビルマネジメント(株)		1	1		(株)NTC		1	1
	日本経済団体連合会経団連		1	1		(株)NTTデータ		2	2
地方公務	錦江町(公務員)		1	1		(株)SOME	1		1
文学部新聞学科 計		21	91	112		(株)テクノコア		1	1
						(株)集英社	1		1
総合人間科学部 教育学科						BIPROGY(株)		1	1
建設業	大和ハウス工業(株)	1		1	卸売業	アールビバン(株)	1		1
化学工業、石油・石炭製品製造業	P&Gジャパン(株)		1	1		三井物産スチール(株)		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)タクマ		1	1	小売業	まいばすけっと(株)		1	1
電気・情報通信機械器具製造業	パナソニックホールディングス(株)	1		1		(株)TSIホールディングス		1	1
	(株)キーエンス	1		1	金融業	SMBC日興証券(株)		2	2
	(株)東芝		1	1		(株)三菱UFJ銀行		1	1
輸送用機械器具製造業	本田技研工業(株)		1	1	保険業	アフラック生命保険(株)		1	1
その他の製造業	(株)ジャクエツ		1	1	宿泊業、飲食サービス業	(株)三井不動産ホテルマネジメント		1	1
情報通信業	KDDI(株)		1	1		(株)星野リゾート・マネジメント		1	1
	MS&ADシステムズ(株)	1		1	学校教育	(国大)北海道国立大学機構 北見工業大学	1		1
	コベルコシステム(株)		1	1	その他の教育、学習支援業	(株)LITALICO		1	1
	レバレジーズ(株)		1	1		(株)ベネッセコーポレーション		1	1
	(株)アルク		1	1	医療業、保健衛生	(独立)地域医療機能推進機構		1	1
	(株)イーエムネットジャパン		1	1	社会保険・社会福祉・介護事業	SOMPOケア(株)	1		1
	(株)日本経済新聞社		1	1					

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
その他のサービス業	ランスタッド(株)	1		1		パーソルキャリア(株)		1	1
	(株)エイジック		1	1		パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1
	(株)オープンループパートナーズ		1	1		(一社)共同通信社		1	1
	(株)サンライズプロモーション東京		1	1		楽天グループ(株)		1	1
	(株)ニチイ学館		1	1		(株)VRAIN Solution	1		1
地方公務	千葉県(公務員)		1	1		日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)	1		1
分類不能の産業	不明(社会人入学で現職復帰)		1	1		網易(株)		1	1
総合人間科学部 心理学科 計		7	31	38	卸売業	(株)ニトリ		1	1
総合人間科学部 社会学科					小売業	サミット(株)		1	1
建設業	大成建設(株)		1	1	金融業	Fyneat(株)		1	1
食品・飲料・たばこ・飼料製造業	(株)久原本家		1	1		(株)あおぞら銀行		1	1
化学工業、石油・石炭製品製造業	花王(株)		1	1		(株)福岡銀行		1	1
	(株)ネイチャーズウェイ		1	1	保険業	ジブラルタ生命保険(株)		1	1
	(株)ファンケル		1	1		全国共済農業協同組合連合会		1	1
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	山陽特殊製鋼(株)		1	1		東京海上日動火災保険(株)		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	OSG(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザリー(合同)		1	1
	古河機械金属(株)		1	1		フューチャー(株)		1	1
	三菱重工業(株)	1		1	その他の教育、学習支援業	(株)フロントティアインターナショナル	1		1
	竹虎ホールディングス(株)		1	1		(株)LITALICO		2	2
輸送用機械器具製造業	本田技研工業(株)		1	1		(株)ベネッセコーポレーション		1	1
情報通信業	パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1	医療業、保健衛生	(医療) 慶会 AOI国際病院	1		1
	レバレジーズ(株)		1	1		埼玉医科大学総合医療センター		1	1
	(株)NTTデータ		1	1		秦野赤十字病院		1	1
	(株)WonderSpace		1	1	社会保険・社会福祉・介護事業	(株)CLOVER		1	1
	(株)アンリミテッド		1	1		(社福)品川崇徳学園		1	1
	(株)ホープス	1		1		(社福)荒川区社会福祉協議会		1	1
	(株)メンバーズ		2	2		(社福)賛育会		1	1
	(株)秋田魁新報社		1	1		(社福)東京都社会福祉事業団		1	1
	(株)日刊スポーツ新聞社	1		1		(社福)福祉楽団		1	1
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)		1	1		(社福)立川市社会福祉協議会		1	1
	富士ソフト(株)	1		1		東急ウエルネス(株)		1	1
運輸業、郵便業	日本貨物航空(株)		1	1	その他のサービス業	パーソルテンプスタッフ(株)		1	1
卸売業	(株)オアシスライフスタイルグループ		1	1		一般(財)本所賀川記念館		1	1
小売業	(株)やまや		1	1		(株)オー・アル・ビー		1	1
金融業	(株)日本政策金融公庫		1	1		(株)日本教育クリエイティブ		1	1
	(株)武蔵野銀行	1		1		東京都住宅供給公社(JKK東京)		1	1
	三井住友カード(株)		1	1	地方公務	横浜市(公務員)		1	1
	三井住友信託銀行(株)		1	1		葛飾区(公務員)		1	1
不動産取引・賃貸・管理業	三井不動産リアルティ(株)		1	1		埼玉県(公務員)		1	1
	三井不動産商業マネジメント(株)	1		1		世田谷区(公務員)		1	1
	三菱地所(株)		1	1		成田市(公務員)		1	1
法務	弁護士法人三浦法律事務所		1	1		川崎市(公務員)		1	1
その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザリー(合同)	1		1		東京都(公務員)	1		2
	フォースタートアップス(株)		1	1	総合人間科学部 社会学科 計		8	50	58
	(株)船井総合研究所		1	1	総合人間科学部 看護学科				
	(株)日水コン	1		1	金融業	野村證券(株)		1	1
宿泊業、飲食サービス業	(株)星野リゾート・マネジメント		1	1	医療業、保健衛生	(医療) 薫風会山田病院		1	1
医療業、保健衛生	(医療) 行基会 川村総合診療院	1		1		横浜市立みなと赤十字病院		1	1
	(医療) 白報会グループ		1	1		関東労災病院		1	1
複合サービス事業	全国農業協同組合連合会		1	1		(公財)日本心臓血管研究会附属神原記念病院		1	1
地方公務	横浜市(公務員)		2	2		公立大学法人和歌山県立医科大学		1	1
分類不能の産業	不明		1	1		国家公務員共済組合連合会 九段病院		1	1
総合人間科学部 社会学科 計		10	36	46		国家公務員共済組合連合会 虎の門病院		8	8
総合人間科学部 社会学科						(国研)国立がん研究センター中央病院		7	7
建設業	(株)アイダ設計		1	1		(国研)国立国際医療研究センター		1	1
	積水ハウスリフォーム(株)		1	1		(国研)国立成育医療研究センター		1	1
	大成建設(株)		1	1		(国大)東京医科歯科大学医学部附属病院		9	9
化学工業、石油・石炭製品製造業	信越化学工業(株)		1	1		(国大)東京大学医学部附属病院		4	4
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	中野冷機(株)		1	1		(医療) 木下会 千葉西総合病院		1	1
輸送用機械器具製造業	(株)SUBARU		1	1		順天堂医学部附属順天堂医院		2	2
	川崎重工業(株)		1	1		順天堂大学医学部附属浦安病院		1	1
その他の製造業	(株)バンダイ		1	1		順天堂大学医学部附属東京江東高齢者医療センター		1	1
	大王製紙(株)		1	1		信州大学医学部附属病院		1	1
情報通信業	UUUM(株)		1	1		聖マリアンナ医科大学大学院	1		1
	アマゾンジャパン(合同)		2	2		聖路加国際病院		1	1

業種名	進路先	男	女	計
	東京医科大学八王子医療センター		1	1
	東京医科大学病院		2	2
	東京大学医学部付属病院		2	2
	東京都立小児総合医療センター		1	1
	東京都立墨東病院 (独立)東京医療センター		1	1
	日本医科大学系列病院		1	1
地方公務	新宿区(公務員)		2	2
	杉並区(公務員)		1	1
	町田市(公務員)		1	1
総合人間科学部 看護学科 計		1	57	58
法学部 法律学科				
建設業	(株)長谷工コーポレーション		1	1
	新光マテリアル(株)		1	1
	清水建設(株)		1	1
	積水ハウス(株)	1		1
	大和ハウス工業(株)		1	1
	朝日エディック(株)		1	1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	サッポロビール(株)		1	1
化学工業・石油・石炭製品製造業	UBE(株)		1	1
	(株)資生堂	1		1
	市田化学(株)		1	1
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	DOWAホールディングス(株)	1		1
	三菱マテリアル(株)		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	ダイキン工業(株)	1		1
	(株)小松製作所		1	1
	日本精工(株)	1		1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アルプスアルパイン(株)	1		1
	(株)村田製作所	1		1
電気・情報通信機械器具製造業	(株)キーエンス	2		2
	三菱電機(株)	1		1
その他の製造業	(株)アドヴァングループ	1		1
	三和シャッター工業(株)	1		1
電気・ガス・熱供給・水道業	ソーラエナジー(株)	1		1
情報通信業	NECネクサソリューションズ(株)	1		1
	日本放送協会(NHK)		1	1
	Sky(株)	1		1
	TIS(株)		1	1
	コダマコーポレーション(株)	1		1
	ノリスシステム(株)	1		1
	レキオソフト(株)	1		1
	楽天グループ(株)	1	1	2
	(株)Sharing Innovations	1		1
	(株)USEN-NEXT HOLDINGS		1	1
	(株)サイバーエージェント	1		1
	(株)スタジオディーン		1	1
	(株)テレビ埼玉		1	1
	(株)リクルート		1	1
	読売新聞東京本社	1		1
	BIPROGY(株)	1		1
	日本情報産業(株)		1	1
運輸業・郵便業	近鉄グループホールディングス(株)	1		1
	川崎汽船(株)		1	1
	東急(株)		1	1
	日本通運(株)	1		1
卸売業	NX商事(株)	1		1
	トヨタモビリティ東京(株)	1		1
	(株)ニトリ		1	1
	丸紅(株)		1	1
	阪和興業(株)		1	1
	三菱商事(株)	1		1
	住友商事フィナンシャルマネジメント(株)		1	1
	住友商事(株)	1		1
小売業	(株)ナックス		1	1
	(株)ファーストリテイリング	1		1
	(株)ヨドバシカメラ	1		1

業種名	進路先	男	女	計
金融業	SMBC日興証券(株)	1	1	2
	りそなグループ		1	1
	(株)あおぞら銀行	1		1
	(株)シー・アイ・シー		1	1
	(株)みずほフィナンシャルグループ	1	1	2
	(株)ゆうちょ銀行		1	1
	(株)広島銀行		1	1
	(株)三井住友銀行		1	1
	(株)三菱UFJ銀行	1	1	2
	(株)商工組合中央金庫	1		1
	(株)静岡銀行	1		1
	(株)日本カストディ銀行	1		1
	三菱UFJ信託銀行(株)	3		3
	大和証券グループ		1	1
	中央労働金庫		1	1
	日本銀行		1	1
	日本政策投資銀行		1	1
保険業	アクサ損害保険(株)	1		1
	(株)かんぽ生命保険		1	1
	三井住友海上火災保険(株)	1		1
	千葉県民共済生活協同組合		1	1
	大同生命保険(株)	1	2	3
	東京海上日動火災保険(株)		1	1
	明治安田生命保険(相互)		1	1
	明治生命保険(相互)	1		1
不動産取引・賃貸・管理業	レジデンス・ビルディングマネジメント(株)	1		1
	(株)イーアイアール		1	1
	(株)リオ・ホールディングス	1		1
	大成有楽不動産(株)	1		1
	日鉄興和不動産(株)	1		1
物品賃貸業	日建リース工業(株)	1		1
	芙蓉総合リース(株)	1		1
法務	TMI総合法律事務所		1	1
	森・濱田松本法律事務所		1	1
	創英国際特許法律事務所		1	1
	弁護士法人子浩法律事務所		1	1
その他の専門・技術サービス業	ディップ(株)	1		1
	デロイト・トーマツコンサルティング(合同)		1	1
	(株)ADKマーケティング・ソリューションズ		1	1
	(株)see you soon		1	1
	(株)マネジメントソリューションズ		1	1
	(株)レイヤーズ・コンサルティング		2	2
	(株)東急エージェンシー	1		1
	経営ビューイング(株)		1	1
	(国研)産業技術総合研究所		1	1
	(独立)鉄道建設・運輸施設整備支援機構	1		1
宿泊業・飲食サービス業	(株)星野リゾート・マネジメント		1	1
生活関連サービス業・娯楽業	(株)よみうりランド	1		1
その他の教育・学習支援業	(株)ナガセ		1	1
その他のサービス業	SBIビジネス・インベーター(株)		1	1
	エン・ジャパン(株)	1		1
	(株)キーブエンタープライズ	1		1
	(株)日本貿易保険		1	1
	富士フィルムサービスクリエイティブ(株)	1		1
国家公務	関東信越国税局	1		1
	千葉労働局		1	1
	東京地方裁判所		1	1
	法務省水戸地方務務局	1		1
	防衛省		1	1
地方公務	横浜市(公務員)		2	2
	群馬県(公務員)		1	1
	警視庁	1	1	2
	埼玉県(公務員)		1	1
	神戸市(公務員)		1	1
	千葉県(公務員)		1	1
	千葉県(公務員)	1		1
	草加市(公務員)	1		1

業種名	進路先	男	女	計
	大阪府(公務員)	1		1
	中野区(公務員)	1		1
	東京都(公務員)		2	2
	八千代市(公務員)	1		1
分類不能の産業	山口商工会議所		1	1
法学部 法律学科 計		66	73	139
法学部 国際関係法学科				
鉱業・採石業・砂利採取業	シナネンホールディングス(株)		1	1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	プリマハム(株)		1	1
	(株)極洋	1		1
化学工業・石油・石炭製品製造業	P&Gジャパン(株)	1		1
	日油(株)		1	1
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	産業振興(株)	1		1
	住友電気工業(株)	1		1
	日本製鉄(株)		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)リコー	1		1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	京セラ(株)	1		1
電気・情報通信機械器具製造業	(株)日立製作所	1	1	2
輸送用機械器具製造業	(株)デンソー	2		2
	(株)豊田自動織機	1		1
	本田技研工業(株)	1		1
電気・ガス・熱供給・水道業	(株)JERA	1		1
情報通信業	SCSK(株)		1	1
	クオン(株)		1	1
	ライブストック・アグリテクノ(株)	1		1
	楽天グループ(株)		1	1
	(株)イングリウッド	1		1
	(株)エイチーム		1	1
	(株)オービック	1		1
	(株)ジェラルド		1	1
	(株)セールスフォース・ドットコム		1	1
	(株)小学館		1	1
	三菱ケミカルシステム(株)		1	1
	日本アイ・ピー・エム(株)		2	2
運輸業・郵便業	(株)日新	1		1
	飯野海運(株)		1	1
	富士急行(株)	1		1
卸売業	オンワード商事(株)		1	1
	(株)守谷商会	1		1
	三菱商事(株)		1	1
	三洋貿易(株)	1		1
小売業	(株)大丸松坂屋百貨店	1		1
金融業	NTTファイナンス(株)	1		1
	SMBC日興証券(株)	1		1
	(株)静岡銀行	1		1
	三井住友信託銀行(株)		1	1
保険業	アフラック生命保険(株)	1		1
	東京海上日動火災保険(株)		1	1
	明治安田生命保険(相互)	1		1
不動産取引・賃貸・管理業	クッシュマン・アンド・ウェイフィールド(株)	1		1
	(株)大京	1		1
	東急不動産(株)	1		1
	東日本高速道路(株)	1		1
	日本管理センター(株)	1		1
法務	西村あさひ法律事務所		2	2
	弁護士法人ベリールベスト法律事務所	1		1
その他の専門・技術サービス業	アクセンチュア(株)	1		1
	デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)		2	2
	デロイト・トーマツ税理士法人		1	1
	(株)電通	1		1
	(株)電通テック	1		1
	(株)野村総合研究所(NRI)		2	2
	(独立)日本貿易振興機構	1		1
	日本工営(株)		1	1
	日本司法支援センター	1		1
宿泊業・飲食サービス業	スターバックスコーヒー(株)	1		1

業種名	進路先	男	女	計
生活関連サービス業・娯楽業	(株)不二フーズ(たかの友梨ビューティクリニック)		1	1
医療業・保健衛生	日本赤十字社埼玉支部		1	1
その他のサービス業	NEW STANDARD(株)		1	1
	(公財)競走馬理化学研究所	1		1
	(公財)日本財団		1	1
国家公務	外務省		1	1
地方公務	我孫子市(公務員)		1	1
	埼玉県(公務員)		1	1
法学部 国際関係法学科 計		30	43	73
法学部 地球環境法学科				
建設業	三井住友建設(株)		1	1
	大成建設(株)	1		1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	ハウス食品(株)		1	1
	(株)マルハニチロホールディングス		1	1
化学工業・石油・石炭製品製造業	日本ペイント(株)	1		1
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	日本製鉄(株)	1		1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	JFEエンジニアリング(株)		1	1
電気・情報通信機械器具製造業	キヤノンメディカルシステムズ(株)		1	1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	日本無線(株)		1	1
電気・情報通信機械器具製造業	ウソノ電機(株)		1	1
	パナソニックホールディングス(株)		1	1
	(株)キーエンス	1		1
	日本航空電子工業(株)	1		1
その他の製造業	ココロ(株)		1	1
情報通信業	インフォテック・サービス(株)		1	1
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1
	メディアミックスソリューションズ(株)	1		1
	楽天グループ(株)	1		1
	(株)NTTデータ		2	2
	(株)サイトスコープ	1		1
	(株)テンダ	1		1
	(株)レバレッジ	1		1
	(株)日本総合研究所		1	1
	日本NCR(株)	1		1
卸売業	シャープマーケティングジャパン(株)	1		1
	伊藤忠プラスチックス(株)	1		1
金融業	(株)みずほフィナンシャルグループ	1		1
	三井住友信託銀行(株)	1		1
	三菱UFJ信託銀行(株)	1		1
	野村證券(株)	1	1	2
保険業	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	1		1
	太陽生命保険(株)	1		1
	大樹生命保険(株)東京・大阪フラネット事業部		1	1
	東京海上日動火災保険(株)	1		1
不動産取引・賃貸・管理業	住友不動産(株)	1		1
	東急不動産(株)	1		1
	野村不動産ソリューションズ(株)	1		1
法務	司法書士あたらりーガルオフィス	1		1
	弁護士法人ベリールベスト法律事務所		1	1
その他の専門・技術サービス業	ベイン&カンパニー・ジャパン・インコーポレイテッド		1	1
	(株)キューブアンドカンパニー		1	1
	(株)ジェネックスパートナーズ	1		1
	(株)ファーストキャリア	1		1
	(株)大和総研ホールディングス		1	1
	(株)野村総合研究所(NRI)		1	1
その他の教育・学習支援業	ITTO個別指導学院		1	1
その他のサービス業	ノーザンファーム		1	1
	(株)ウィルオブ・コンストラクション	1		1
	三井不動産ビルマネジメント(株)		1	1
国家公務	国土交通省 東京航空局	1		1
	農林水産省	1	1	2
地方公務	警視庁	1	1	2
	江東区(公務員)		1	1
	千代田区(公務員)		1	1
	入間市(公務員)	1		1
分類不能の産業	横浜市住宅供給公社	1		1

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計	
法学部 地球環境法学科 計		31	29	60	金融業	auフィナンシャルサービス(株)	1		1	
経済学部 経済学科						SBIホールディングス(株)	1		1	
建設業	クリナップ(株)		1	1		アセットマネジメントOne(株)		1	1	
	三井住友建設(株)	1		1		みずほ証券(株)	1	1	2	
食品・飲料・たばこ・飼料製造業	(株)ロッテ	1		1		りそなグループ		1	1	
	(株)伊藤園	1		1		楽天証券(株)	1		1	
印刷・同梱連業	凸版印刷(株)		2	2		(株)SMB信託銀行		1	1	
化学工業・石油・石炭製品製造業	P&Gジャパン(株)		1	1		(株)あおぞら銀行		1	1	
	TOYO TIRE(株)		1	1		(株)ジェーシービー		1	1	
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	JFEスチール(株)		1	1		(株)みずほフィナンシャルグループ		1	1	
	(株)神戸製鋼所		1	1		(株)横浜銀行	1		1	
	(株)汎建製作所		1	1		(株)三井住友銀行	1	1	2	
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	三菱重工業(株)		1	1		(株)三菱UFJ銀行		1	1	
	味の素エンジニアリング(株)		1	1		(株)西日本シティ銀行	1		1	
電子部品・デバイス・電子回路製造業	(株)デンソーウェーブ		1	1		三井住友信託銀行(株)	1	1	2	
電気・情報通信機械器具製造業	NECプラットフォームズ(株)		1	1		三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	1		1	
	(株)日立製作所	1		1		住信SBIネット銀行(株)		1	1	
	日本電気(NEC)(株)		1	1		野村證券(株)	1		1	
輸送用機械器具製造業	日産自動車(株)		1	1		保険業	T&Dフィナンシャル生命保険(株)		1	1
その他の製造業	デコラックジャパン(株)		1	1			アフラック生命保険(株)		1	1
	(株)エポック社		1	1			(株)アドバンテッジリスクマネジメント		1	1
情報通信業	KDDI(株)	1		1			三井住友海上火災保険(株)	1	1	2
	NTTコミュニケーションズグループ	1	1	2			東京海上日動火災保険(株)	1	2	3
	NTTデータカスタマサービス(株)	1		1			日本生命保険(相互)	1	1	2
	Okta Japan(株)	1		1		不動産取引・賃貸・管理業	ヒューリック(株)		1	1
	Sansan(株)	2		2			(株)リオ・ホールディングス	1		1
	TIS(株)	1		1			三井不動産(株)	1		1
	アイアンドエルソフトウェア(株)	1		1		その他の専門・技術サービス業	EY新日本有限責任監査法人	1	1	2
	キャノンITソリューションズ(株)	1		1			PwCあらた有限責任監査法人		1	1
	コムチュア(株)		1	1			PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザー(合同)	1		1
	ソフトバンク(株)		1	1			アクセンチュア(株)		1	1
	パーソルキャリア(株)	1		1			スカイライトコンサルティング(株)	1		1
	みずほリサーチ&テクノロジーズ(株)		1	1			デジタルアドバタイジング・コンソーシアム(株)		1	1
	ヤフー(株)	1		1			ドイトマトファイナンシャルアドバイザリー(合同)	1		1
	ワンビ(株)		1	1			ランドマーク税理士法人		1	1
	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	2		2			(株)シグマックス	1		1
	楽天グループ(株)	1		1			(株)ベイカレント・コンサルティング	1		1
	(株)ebs		1	1			(株)リンクアンドモチベーション	1		1
	(株)LIFULL		1	1			(株)大和総研ホールディングス		1	1
	(株)NTTデータ	2		2			(株)電通デジタル		1	1
	(株)ODKソリューションズ		1	1			(株)野村総合研究所(NRI)		1	1
	(株)Works Human Intelligence	1		1			社団法人全国銀行協会		1	1
	(株)アール	1		1			有限責任あす監査法人	1		1
	(株)オービック	1		1			有限責任監査法人トーマツ	1	1	2
	(株)フォーカスシステムズ	1		1		生活関連サービス業・娯楽業	(株)オリエンタルランド	1		1
	(株)大塚商会	1		1			(株)ソニーミュージックエンタテインメント	1		1
	(株)日本総合研究所	1		1		医療業・保健衛生	湘南美容外科クリニック		1	1
	(株)日立ソリューションズ	1		1		その他のサービス業	サーチファーム・ジャパン(株)	1		1
	恒和情報技研(株)	1		1			フォースバレー・コンシェルジュ(株)		1	1
	三井住友トラスト・システム&サービス(株)		1	1			(株)バンナグループ		1	1
	日本アイ・ピー・エム(株)	1	1	2			(株)マックスコム	1		1
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)	1		1			阪急阪神不動産(株)		1	1
	富士通(株)		1	1		国家公務	財務省関東財務局		1	1
運輸業・郵便業	小田急電鉄(株)		1	1		地方公務	川崎市(公務員)	1		1
	日本郵便(株)	1		1			中央区(公務員)	1		1
卸売業	岡谷鋼機(株)		1	1			東京消防庁	1		1
	(株)光通信	1		1			北海道(公務員)	1		1
	丸紅(株)		1	1		分類不能の産業	神奈川県国民健康保険団体連合会		1	1
	兼松(株)		1	1			日本年金機構		1	1
	三井物産(株)	1	1	2		経済学部 経済学科 計		70	69	139
	豊田通商(株)	1		1		経済学部 経営学科				
小売業	(株)カワチ薬品	1		1		建設業	(株)大林組		1	1
	(株)ファーストリテイリング	1		1			積水ハウス(株)	1		1
	(株)丸井グループ		1	1		食品・飲料・たばこ・飼料製造業	ホクト(株)		1	1
	(株)成城石井	1		1			(株)ニッポン	1		1
	(株)鳥忠		1	1			(株)マルハニチロホールディングス		2	2

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	(株)明治	1		1	運輸業・郵便業	富士通(株)	1	1	2
	日清フーズ(株)		1	1		ヤマト運輸(株)	1		1
印刷・同梱連業	大日本印刷(DNP)(株)		1	1		(株)キオン	1		1
	凸版印刷(株)		1	1		(株)ナカノ商会	1		1
化学工業・石油・石炭製品製造業	(株)TBM	1		1		東急(株)		1	1
	日本ロレアル(株)		2	2		日本石油輸送(株)		1	1
	富士フイルム(株)	1		1		日本通運(株)	1		1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	JFEエンジニアリング(株)	1		1		郵船ロジスティクス(株)		1	1
	コニカミノルタ(株)		1	1	卸売業	トラスコ中山(株)	2		2
	ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ		1	1		伊藤忠丸紅鉄鋼(株)		1	1
	(株)IHI	1		1		(株)清和ビジネス	1		1
	三菱重工業(株)		1	1		阪和興業(株)		1	1
電気・情報通信機械器具製造業	Apple Japan(合同)	1		1		三菱食品(株)	2		2
	シスコシステムズ(合同)		2	2		住友商事(株)	1		1
	(株)日立製作所	1		1		富士フイルムビジネスイノベーション(株)	1		1
	日本電気(NEC)(株)	1	2	3	小売業	(株)オオゼキ	1		1
輸送用機械器具製造業	(株)豊田自動織機	1		1		(株)そごう・西武		1	1
	三菱自動車工業(株)	1		1		(株)トライアルカンパニー	1		1
	川崎重工業(株)	1		1		(株)ローソン		1	1
その他の製造業	AGC(株)	1		1	金融業	トヨタファイナンシャルサービス(株)	1		1
	マサル工業(株)		1	1		みずほ証券(株)	1		1
	(株)BONX	1		1		(株)埼玉りそな銀行	1		1
	(株)オカムラ		1	1		(株)三菱UFJ銀行	1	1	2
	大王製紙(株)		1	1		(株)新生銀行	2	1	3
	薬山ガーデン	1		1		(株)千葉銀行	1		1
情報通信業	DXCテクノロジー・ジャパン(株)		1	1		三菱UFJ国際投信(株)	1		1
	freee(株)	1		1	保険業	アイベツ損害保険(株)		1	1
	NECネクスソリューションズ(株)	1		1		アニコム損害保険(株)	1		1
	PCIソリューションズ(株)	1		1		ジブラルタ生命保険(株)		1	1
	SAPジャパン(株)	1		1		三井住友海上火災保険(株)		1	1
	SCSK(株)		1	1		三菱商事インシュアランス(株)		1	1
	アマゾンジャパン(合同)	1		1	不動産取引・賃貸・管理業	プロバティエージェント(株)	1		1
	エクスペディアホールディングス(株)		1	1		(株)リアルゲイト		1	1
	キャノンITソリューションズ(株)	1	1	2		森ビル(株)		1	1
	サムスン電子ジャパン(株)		1	1	物品賃貸業	三井住友ファイナンス&リース(株)		1	1
	ソニーPCL(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)	1		1
	トレンドマイクロ(株)		1	1		EY新日本有限責任監査法人	1		1
	ニッセイ情報テクノロジー(株)	1	1	2		PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザー(合同)	2	1	3
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)	1		1		アクセンチュア(株)	1		1
	バンブーボーイ(株)		1	1		シンプレクス(株)	2		2
	ヤマトシステム開発(株)	1		1		ドイトマトコンサルティング(合同)	1		1
	ユニアデックス(株)		1	1		レイスグループ	1		1
	ラクスル(株)		1	1		(株)ベクトル	2		2
	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	2		2		(株)帝国データバンク	1		1
	楽天グループ(株)	1	2	3		(株)電通マクロミルインサイト		1	1
	(株)DYM		1	1		(株)野村総合研究所(NRI)	1		1
	(株)NTTドコモ	1		1		山田コンサルティンググループ(株)	1		1
	(株)Works Human Intelligence	1		1		有限責任監査法人トーマツ	1		1
	(株)インフォバーン		1	1	その他のサービス業	Axisem(合同)	1		1
	(株)オプト		1	1		MXモバイル(株)		1	1
	(株)クラウドワークス		1	1		TWSM-JAPAN The world of the sky with a Multicopter		1	1
	(株)セールスフォース・ドットコム	1		1		エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ(株)	1		1
	(株)セブテーニ・ホールディングス		1	1		(一財)日本海事協会		1	1
	(株)ゼロスピリッツ		1	1		(株)Ennovation	1		1
	(株)ビッグリリー・テクノロジー&コンサルティング		1	1		(株)ゴルフパフォーマンス		1	1
	(株)ビットエー		1	1	地方公務	千葉県(公務員)		1	1
	(株)プレシデンズ	1		1		品川区(公務員)		1	1
	(株)マイネット		1	1	経済学部 経営学科 計		79	70	149
	(株)ムービス	1		1	外国語学部 英語学科				
	(株)リクルート		1	1	建設業	(株)フジタ	1		1
	(株)大塚商会		1	1		五洋建設(株)	1		1
	(株)日本総合研究所	1		1		第一カッター興業(株)	1		1
	(株)日立ソリューションズ		1	1	食品・飲料・たばこ・飼料製造業	キユーピー(株)		1	1
	吉本興業ホールディングス(株)	1		1		コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)		1	1
	三菱総研DCS(株)		1	1		サントリーホールディングス(株)		1	1
	数研出版(株)	1		1		(株)Mizkan	1		1
	日本アイ・ピー・エム(株)	1		1					

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	(株)シユクレイ		1	1		(株)ヨドバシカメラ		1	1
	(株)にんべん		1	1		(株)丸井グループ		1	1
化学工業・石油・石炭製品製造業	(株)資生堂		1	1		(株)大創産業		1	1
	東レ(株)	1		1	金融業	りそなグループ		2	2
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	三菱マテリアル(株)	1		1		(株)イオン銀行		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	ジョンソン・エンド・ジョンソン日本人グループ		1	1		(株)ジェーシービー		1	1
	タイキン工業(株)		1	1		(株)伊予銀行		1	1
	(株)IHI		1	1		(株)三菱UFJ銀行		3	3
	(株)小松製作所		1	1		(株)日本カストディ銀行	1		1
	山洋電気(株)	1		1		中央労働金庫		1	1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	多摩川精機(株)		1	1	保険業	ジブラルタ生命保険(株)		1	1
電気・情報通信機械器具製造業	AlphaTheta(株)	1		1		損害保険ジャパン(株)		1	1
	パナソニックホールディングス(株)		1	1		東京海上日動火災保険(株)		1	1
	日本電気(NEC)(株)		1	1		明治安田生命保険(相互)		1	1
輸送用機械器具製造業	NOK(株)		1	1	不動産取引・賃貸・管理業	イオンモール(株)		1	1
	いすゞ自動車(株)		1	1		(株)サイマックスウイズ		1	1
	スズキ(株)	1		1		(株)ファミリーコーポレーション		1	1
	ヤマハ発動機(株)		1	1	法務	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業		1	1
	三菱自動車工業(株)		1	1		創英国際特許法律事務所		1	1
	日産自動車(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザ(合同)	2	1	3
その他の製造業	(株)セガトイズ		1	1		RX Japan(株)	1		1
	大王製紙(株)		1	1		アビームコンサルティング(株)		1	1
情報通信業	Bytedance(株)		1	1		(株)アイレップ		1	1
	freee(株)		1	1		(株)オスマビーアール		1	1
	KDDI(株)		2	2		(株)ジェリアル東海エージェンシー		1	1
	アドリブ(株)		1	1		(株)ブリックス		1	1
	ソフトバンク(株)		2	2		(株)京王エージェンシー		1	1
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1		(株)電通デジタル		1	1
	楽天グループ(株)	2	7	9		(株)日本経済社	1		1
	(株)CINC		1	1		(株)富士通総研		1	1
	(株)NTTドコモ	1	1	2	宿泊業・飲食サービス業	リソルホールディングス(株)		1	1
	(株)アイスリーデザイン		1	1		(株)ホテルオークラ東京		1	1
	(株)コスモネット		1	1		(株)星野リゾート・マネジメント		1	1
	(株)サイバーエージェント		1	1	生活関連サービス業・娯楽業	ワーナーブラザーズジャパン(合同)	1		1
	(株)サイバーエージェント		1	1		四季(株)		1	1
	(株)サイバーエージェント		1	1	学校教育	安田学園中学校・高等学校		1	1
	(株)トライバルメディアハウス		1	1		(学校)佐藤栄学園		1	1
	(株)ビーエスシー		1	1		東海大学付属高輪台高等学校・中等部		1	1
	(株)フォスター		1	1		平塚学園高等学校		1	1
	(株)ランドスケイプ	1		1		和洋国府台女子中学・高等学校		1	1
	(株)ワーナーミュージック・ジャパン		1	1	その他の教育・学習支援業	(株)乙会		1	1
	日本アイ・ピー・エム(株)	1	5	6		(株)ティルウィンド		1	1
	日本オラル(株)		2	2		(株)トライグループ		1	1
	日本タタ・コンサルティング・サービス(株)		1	1		(株)ナガセ		1	1
	日本ビューレット・パカード(合同)		1	1		(株)鷗州コーポレーション	1		1
運輸業・郵便業	Mediterranean Shipping Company S.A.		1	1		(株)日本入試センター		1	1
	オシャンネットワークエクスプレスジャパン(株)		2	2	その他のサービス業	Apex(株)		1	1
	(株)近鉄エクスプレス		1	1		(株)INFORICH		1	1
	(株)日陸		1	1		(株)コア・ポテンシャル		1	1
	飯野海運(株)		1	1		(株)ピースタイルスマートキャリア		1	1
卸売業	キヤノンマーケティングジャパン(株)		1	1		(株)マーキュリー		1	1
	コーンズテクノロジー(株)	1		1	地方公務員	神奈川県警察		1	1
	シネックスジャパン(株)		1	1		静岡県立静岡がんセンター		1	1
	トラスコ中山(株)		1	1		長野市(公務員)	1		1
	伊藤忠丸紅鉄鋼(株)		1	1	分類不能の産業	不明		1	1
	花王グループカスタマーマーケティング(株)		2	2	外国語学部 英語学科 計		23	132	155
	(株)ニトリ	1		1	外国語学部 ドイツ語学科				
	(株)フィラディス		1	1	建設業	大和ハウス工業(株)		1	1
	(株)郵便局物販サービス		1	1	食品・飲料・たばこ・飼料製造業	雪印メグミルク(株)		1	1
	丸紅(株)		1	1	化学工業・石油・石炭製品製造業	イービーエス(株)		1	1
	阪和興業(株)		1	1		大塚製薬(株)		1	1
	三井物産(株)		2	2	電子部品・デバイス・電子回路製造業	ルネサスエレクトロニクス(株)		1	1
	双日建材(株)		1	1	輸送用機械器具製造業	(株)マーレフィルターシステムズ	1		1
	日本ベーリンガーインゲルハイム(株)		1	1	その他の製造業	王子ホールディングス(株)		1	1
	豊田通商(株)		1	1		(株)河合楽器製作所	1		1
小売業	イケア・ジャパン(株)		1	1	電気・ガス・熱供給・水道業	ENEOSグループ(株)	1		1
	(株)NAAリテイリング		2	2					
	(株)カインズ		1	1					

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	エネックス(株)		1	1		三菱倉庫(株)		1	1
情報通信業	SCSK(株)		1	1		日本貨物航空(株)		1	1
	(株)viviON		1	1		日本通運(株)		1	1
	(株)インターファーム		1	1	卸売業	伊藤忠商事(株)		1	1
	(株)ブロードエンタープライズ		1	1		岡谷銅機(株)		1	1
	BIPROGY(株)		1	1		(株)パシフィックネット		1	1
運輸業・郵便業	JFE物流(株)		1	1		丸真(株)		1	1
	東京地下鉄(株)		1	1		住友商事フィナンシャルマネジメント(株)		1	1
卸売業	トラスコ中山(株)		1	1	小売業	イオンリテール(株)		1	1
	因幡電機産業(株)		1	1		(株)ゲオホールディングス		1	1
	(株)ネクステージ	1		1		(株)良品計画		1	1
	(株)フィラディス		1	1	金融業	(株)日本政策金融公庫		1	1
	(株)日立ハイテク		1	1		三井住友信託銀行(株)	1		1
	三井物産(株)		1	1		大和アセットマネジメント(株)		1	1
小売業	(株)ファーストリテイリング		2	2		中央労働金庫		1	1
	(株)ベルク		1	1	保険業	マーシュジャパン(株)		2	2
	(株)高島屋		1	1	不動産取引・賃貸・管理業	東急不動産(株)	1		1
	(株)東急ハンズ		1	1		日本空港ビルデング(株)		1	1
	(株)良品計画		1	1	物品賃貸業	オリックス・レンテック(株)		1	1
金融業	(株)オリエントコーポレーション		1	1		東京センチュリー(株)		1	1
	野村證券(株)	1		1	法務	弁護士法人瓜生・糸賀法律事務所		1	1
保険業	アフラック生命保険(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	アクセンチュア(株)		1	1
	三井住友海上火災保険(株)	1		1		ディップ(株)	1		1
	第一生命保険(株)	1		1		(株)サン・アド		1	1
不動産取引・賃貸・管理業	(株)エース・コーポレーション		1	1		(株)電通デジタル		1	1
	三井不動産リアルティ(株)		1	1		東映シーエム(株)		1	1
	三井不動産レジデンシャル(株)		1	1	宿泊業・飲食サービス業	バリューマネジメント(株)		1	1
法務	弁護士法人銀座ファースト法律事務所		1	1		(株)プリンスホテル		1	1
その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザ(合同)		1	1	生活関連サービス業・娯楽業	(株)ZEN PLACE		1	1
	アクセンチュア(株)		1	1	その他の教育・学習支援業	(株)ECC	1		1
	シンプレクス(株)	1		1		(株)リンク・インタラク	1		1
	トランスパーフェクト・ジャパン(合同)		1	1	社会保険・社会福祉・介護事業	(社)北養会	1		1
	(一財)日本不動産研究所		1	1	その他のサービス業	NRIプロセスイノベーション(株)		1	1
	(株)レイヤーズ・コンサルティング	1		1		セコム(株)		1	1
	(株)博報堂アイ・スタジオ		1	1		タイグロンパートナーズ(株)	1		1
宿泊業・飲食サービス業	コンラッド東京		1	1	国家公務員	(独立)国立印刷局		1	1
学校教育	アナン学園高等学校		1	1	地方公務員	埼玉県川口市役所		1	1
	(学校)明治学院		1	1	外国語学部 フランス語学科 計		14	50	64
医療業・保健衛生	(医療)二階堂会		1	1	外国語学部 イスパニア語学科				
その他のサービス業	ココ・コラボラズジャパンビジネスサービス(株)		1	1	鉱業・採石業・砂利採取業	ENEOS(株)		1	1
地方公務員	桐生市(公務員)	1		1	建設業	新日本空調(株)		1	1
外国語学部 ドイツ語学科 計		10	41	51	食品・飲料・たばこ・飼料製造業	キーコーヒー(株)		1	1
外国語学部 フランス語学科					繊維工業	(株)キュアテックス		1	1
化学工業・石油・石炭製品製造業	ダウ・ケミカル日本(株)		1	1		三起商行(株)		1	1
	高砂香料工業(株)		1	1	印刷・同関連業	大日本印刷(DNP)(株)		1	1
	日本ロレアル(株)		1	1	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	(株)フルヤ金属		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)ディスコ		1	1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	ダイキン工業(株)		1	2
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1		富士電機(株)		1	1
輸送用機械器具製造業	トヨタ紡織(株)		1	1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	京セラ(株)		1	1
その他の製造業	グローブライド(株)	1		1	電気・情報通信機械器具製造業	(株)キーエンス		1	1
情報通信業	日本放送協会(NHK)		2	2		(株)日立製作所		1	1
	NTTコムウェア(株)		1	1		日本電気(NEC)(株)		1	1
	SAPジャパン(株)		1	1	輸送用機械器具製造業	いすゞ自動車(株)		1	1
	さくら情報システム(株)		1	1		マツダ(株)		1	1
	デジタルアーツ(株)		1	1	その他の製造業	AGCプライブリコ(株)		1	1
	ポート(株)	1	1	2		(株)バインジャム		1	1
	みずほリサーチ&テクノロジーズ(株)		1	1	電気・ガス・熱供給・水道業	(株)JERA		1	1
	楽天グループ(株)	2		2	情報通信業	JIG・SAW(株)		1	1
	(株)NTTデータSMS		1	1		TIS(株)		1	2
	(株)WorkVision	1		1		ソフトバンク(株)		1	1
	(株)ジャステック		1	1		(株)NTTデータ		1	1
	(株)幻冬舎ルネサンス新社		1	1		(株)QUICK		1	1
	(株)大塚商会		1	1		(株)SHIFT		1	1
運輸業・郵便業	オシャンネットワークエクスプレスジャパン(株)		1	1		(株)USEN-NEXT HOLDINGS		1	1
	セイノーロジックス(株)		1	1		(株)クロスアーキテクト		1	1
	協和海运(株)		1	1		(株)リアルピズ		1	1

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)	1		1		メドピア(株)	1		1
	日本アイ・ピー・エム(株)	1		1		楽天グループ(株)	1		1
	日本オラル(株)		1	1		(株)アートボックス		1	1
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)		1	1		(株)イー・ピー・シーリブラ	1		1
運輸業、郵便業	川崎汽船(株)		1	1		(株)シティ・コム	1		1
	第一貨物(株)		1	1		(株)シャンテリー		1	1
	日発運輸(株)	1		1		(株)講談社	1		1
	日本航空(JAL)(株)	1		1		日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)		1	1
卸売業	JFE商事(株)	1		1		日本アイ・ピー・エム(株)		1	1
	サントリーマーケティング&コマース(株)		1	1	運輸業、郵便業	飯野海運(株)		1	1
	ビッグモーターグループ(株)ニトリ	1		1	卸売業	NX商事(株)	1		1
	(株)丸紅フットウェア	1		1		花王グループカスタマーマーケティング(株)	1		1
	森村商事(株)		1	1		(株)マーケットエンタープライズ	1		1
小売業	イオンリテール(株)		1	1		住友商事マシネックス(株)	1		1
	(株)コスモス薬品		1	1		大陸貿易(株)	1	1	2
	(株)セリア		1	1	小売業	(株)三越伊勢丹	1		1
	(株)デイトナ・インターナショナル	1		1		(株)成城石井		1	1
金融業	NTTファイナンス(株)		1	1	金融業	SMBC日興証券(株)		2	2
	イー・ギャランティ(株)	1		1		(株)ゆうちょ銀行	1		1
	(株)ゆうちょ銀行		1	1		(株)三井住友銀行		1	1
	三井住友トラストTAソリューション(株)	1		1		(株)北海道銀行	1		1
	三井住友信託銀行(株)	1		1	保険業	ジブラルタ生命保険(株)	1		1
保険業	ブルデンシャル生命保険(株)	1		1		(株)かんぽ生命保険	1		1
その他の専門・技術サービス業	アクセンチュア(株)		1	1	不動産取引・賃貸・管理業	武蔵コーポレーション(株)		1	1
	キャップジェミニ(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	(一財)ラチオプレス	1		1
	デロイトトーマツコンサルティング(合同)	1		1		(株)シーユーシー		1	1
	(株)セブテーニ		1	1		(株)電器キャスティング&インテリア	1		1
	(株)リトルクリエイティブセンター		1	1		(株)博報堂/博報堂DYメディアパートナーズ		1	1
	(独立)日本貿易振興機構	1		1	宿泊業、飲食サービス業	(株)ギフトホールディングス		1	1
宿泊業、飲食サービス業	(株)プリンスホテル		1	1	生活関連サービス業、娯楽業	(株)マルハン	1		1
	大和リゾート(株)		1	1	学校教育	(学校)中央学院	1		1
生活関連サービス業、娯楽業	(株)アドベンチャー		1	1		神奈川県(教員)		1	1
学校教育	(学校)近畿大学		1	1	その他の教育、学習支援業	(株)ワイズポケット	1		1
	(国大)東京大学	1		1	社会保険・社会福祉・介護事業	(社福)いずみ野福祉会		1	1
その他の教育、学習支援業	(株)トライグループ		1	1	その他のサービス業	(株)FoundingBase		1	1
複合サービス事業	全国農業協同組合連合会		1	1		(株)キャリアデザインセンター		1	1
その他のサービス業	テクノブレイン(株)	1		1		(株)クリーク・アンド・リバー社	1		1
	(株)grooves	1		1		(株)ボーンレックス		1	1
	(株)ウィルオブ・コンストラクション		1	1	国家公務	(独立)国立印刷局		1	1
	(株)エスフル	1		1		防衛省航空自衛隊	1		1
	(株)コネクトボックス		1	1	地方公務	武蔵野市(公務員)		1	1
	(株)ネオキャリア		1	1	外国語学部 ロシア語学科 計		28	34	62
地方公務	みよし市(公務員)		1	1					
分類不能の産業	不明		1	1	外国語学部 ポルトガル語学科				
外国語学部 イスパニア語学科 計		27	47	74	農業、林業	不明	1		1
					食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	ヤマキ(株)		1	1
						(株)アイコク	1		1
						(株)ヤクルト本社		1	1
					印刷・関連連業	共同印刷(株)		1	1
					化学工業、石油・石炭製品製造業	塩野義製薬(株)		1	1
						富士フイルム(株)	1		1
					鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	日本製鉄(株)	1		1
					はん用・生産用・業務用機械器具製造業	NTN(株)		1	1
						三菱重工業(株)	1		1
						東芝三菱電機産業システム(株)	1		1
					電子部品・デバイス・電子回路製造業	TDK(株)		1	1
					電気・情報通信機械器具製造業	(株)パルテック		1	1
						(株)日立製作所	1		1
					輸送用機械器具製造業	曙ブレーキ工業(株)	1		1
					その他の製造業	(株)アドヴァングループ	1		1
					情報通信業	JCOM(株)		1	1
						KDDI(株)	1		1
						SCSK(株)		1	1
						ソフトバンク(株)	1		1
						ソリューション&テクノロジー(株)		1	1
						テレビ大阪(株)		1	1
						レバレッジズ(株)	1		1

業種名	進路先	男	女	計
	楽天グループ(株)		1	1
	(株)Asian Bridge	1		1
	(株)タイアログ		1	1
	(株)テレビ新潟放送網		1	1
	東宝(株)		1	1
運輸業、郵便業	フェデラルエクスプレスコーポレーション	1		1
	(株)近鉄エクスプレス		1	1
	(株)住友倉庫		1	1
	日本郵便(株)		1	1
卸売業	ユサコ(株)		1	1
	リーテイルブランディング(株)	1		1
	(株)オフィスバスターズ	1		1
	(株)ヨコヤマ		1	1
	岩谷産業(株)	1		1
	三菱商事マシナリ(株)	1		1
	双日食料(株)		1	1
金融業	EPSホールディングス(株)		1	1
	(株)みずほフィナンシャルグループ		2	2
	(株)ゆうちょ銀行	1		1
	(株)大垣共立銀行	1		1
	野村證券(株)	1		1
保険業	第一生命保険(株)	1		1
法務	森・濱田松本法律事務所		1	1
その他の専門・技術サービス業	ディップ(株)	1		1
	フューチャーアーキテクト(株)	1		1
	(株)シグマクシス		1	1
	(株)フロンティアインターナショナル	1		1
	(株)リンクアンドモチベーション		1	1
	(株)博報堂/博報堂DYメディアパートナーズ		1	1
	日本システムケア(株)	1		1
宿泊業、飲食サービス業	ザ・リッツ・カールトン東京	1		1
	(株)ゼンショーホールディングス		1	1
その他の教育、学習支援業	(学校)河合塾		1	1
社会保険・社会福祉・介護事業	ケアパートナー(株)		1	1
その他のサービス業	デロイトトーマツポレートのソリューション(合同)		1	1
地方公務	横浜市(公務員)	1		1
	大泉町(公務員)		1	1
	豊田市(公務員)	1		1
外国語学部 ポルトガル語学科 計		27	35	62
総合グローバル学部 総合グローバル学科				
鉱業、採石業、砂利採取業	ENEOS(株)	1		1
建設業	ケアイスター不動産(株)	1		1
	鹿島建設(株)		1	1
	新菱冷熱工業(株)	1		1
	清水建設(株)	1		1
	林業笠原造園(株)	1		1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	CHOCI TOKYO		1	1
	ヤマザキビスケット(株)		1	1
	(株)不二家	1		1
	(株)友樹飲料		1	1
繊維工業	(株)ロイネ		1	1
化学工業、石油・石炭製品製造業	ユニ・チャーム(株)		1	1
	旭化成(株)		1	1
	興和(株)		1	1
	大塚製薬(株)	1		1
	大日精化工業(株)		1	1
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	住友電気工業(株)		1	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	コニカミノルタ(株)		1	1
	ダイキン工業(株)		1	1
	横河ソリューションサービス(株)	1		1
	横河電機(株)		1	1
	(株)小松製作所	1		1
	(株)松井製作所	1		1
	(株)不二越		1	1
	東洋エンジニアリング(株)	1		1
電気・情報通信機械器具製造業	(株)キーエンス	1		1

業種名	進路先	男	女	計
	三菱電機エンジニアリング(株)		1	1
	三菱電機(株)		1	1
	日本電気(NEC)(株)		2	2
輸送用機械器具製造業	(株)ジーテクト		1	1
その他の製造業	住友大阪セメント(株)		1	1
電気・ガス・熱供給・水道業	Abalance(株)	1		1
	大阪ガス(株)	1		1
情報通信業	BEENOS(株)	1		1
	DXCテクノロジー・ジャパン(株)		1	1
	JIG・SAW(株)		1	1
	KDDI(株)		2	2
	NECフィールディング(株)		1	1
	NTTコミュニケーションズグループ	1		1
	UNICORN(株)		1	1
	ZETA(株)		1	1
	アドソル日進(株)		1	1
	アマゾンジャパン(合同)		2	2
	オリゾンシステムズ(株)		1	1
	グローバルリンクス(株)		1	1
	スタークス(株)		1	1
	ソニーネットワークコミュニケーションズ(株)		1	1
	ソフトバンク(株)		1	1
	トライコーン(株)	1		1
	パーソルキャリア(株)		1	1
	パーソルプロセス&テクノロジー(株)		1	1
	ハートコア(株)	1		1
	ハイブリッジ(株)		1	1
	パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株)		1	1
	(一社)共同通信社		1	1
	沖縄テレビ放送(株)		1	1
	楽天グループ(株)	2	2	4
	(株)DNPデジタルソリューションズ		1	1
	(株)Jストリーム		1	1
	(株)KADOKAWA		1	1
	(株)NTTデータ	1	2	3
	(株)NTTデータSMS		1	1
	(株)ZUU		1	1
	(株)アスパーク		1	1
	(株)クロスキャット		1	1
	(株)サイバーエージェント	1	1	2
	(株)システムハウス・アイエヌジー	1		1
	(株)テリロジー		1	1
	(株)ネクストビート		1	1
	(株)ビズリーチ		1	1
	(株)リクルート		1	1
	(株)日立ソリューションズ		1	1
	富士ソフト(株)	1		1
運輸業、郵便業	NSユナイテッド海運(株)		1	1
	ヤマト運輸(株)		1	1
	(株)エヌ・ティ・ティ・ロジスコ		1	1
	(株)近鉄エクスプレス		1	1
	(株)阪急阪神エクスプレス		2	2
	(株)日新	1		1
	三菱倉庫(株)		1	1
	滋澤倉庫(株)	1	1	2
卸売業	JFE商事(株)		1	1
	キャノンシステム&サポート(株)		1	1
	フードリンク(株)	1		1
	岡谷鋼機(株)		1	1
	(株)ZEAL TEAM		1	1
	(株)井田コーポレーション		1	1
	丸紅(株)		1	1
	阪和興業(株)		1	1
	三井物産(株)		1	1
	三共生興(株)	1		1
	住友商事グローバルメタルズ(株)		1	1
	西川(株)		1	1

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計	
小売業	双日(株)		2	2	国家公務	(株)ネオキャリア		1	1	
	日鉄物産(株)	1		1		(株)ベルシステム24		1	1	
	豊田通商(株)		1	1		(株)マイナビ		1	1	
	ゲンキー(株)		1	1		三菱商事フィナンシャルサービス(株)		1	1	
	ユザワヤ商事(株)		1	1		外務省		1	1	
	(株)ウィットスタジオ		1	1		国土交通省 東京航空局		1	1	
	(株)キタムラ		1	1		水戸地方裁判所		1	1	
	(株)セコマ		1	1		地方公務	横浜市(公務員)		2	2
	(株)ファーストリテイリング		1	1		佐賀県地域おこし協力隊(公務員)		1	1	
	(株)マザーハウス		1	1		埼玉県(公務員)		1	1	
	(株)丸井グループ		1	1		総合グローバル学部 総合グローバル学科 計		46	139	185
	(株)紀ノ国屋		1	1		国際教養学部 国際教養学科				
	(株)高島屋		1	1		化学工業、石油・石炭製品製造業	ヤンセンファーマ(株)		1	1
(株)東武百貨店		1	1	(株)バスクリン		1	1			
金融業	JPモルガン証券(株)		1	1	大塚製薬(株)		1	1		
	NTTファイナンス(株)		1	1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)ダイヘン		1	1	
	アセットマネジメントOne(株)		1	1	(株)明電舎		1	1		
	イー・ギャランティ(株)		1	1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	ルネサスエレクトロニクス(株)		1	1	
	みずほ証券(株)		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	(株)日立製作所		1	2	
	(株)クレディセゾン		1	1	輸送用機械器具製造業	スタンレー電気(株)		1	1	
	(株)京葉銀行		1	1	その他の製造業	Angel Musical Instrument Co., Ltd		1	1	
	(株)三井住友銀行		2	2	アディダスジャパン(株)		1	1		
	(株)青森銀行		1	1	フィリップ・モリス・ジャパン(合同)		1	1		
	国際協力銀行		1	1	(株)アシックス		1	1		
	三菱UFJ信託銀行(株)		1	1	(株)エポック社		1	1		
	信金中央金庫		1	1	情報通信業	Meltwater Japan(株)		1	1	
	日本証券金融(株)		1	1	日本放送協会(NHK)		1	1		
日本政策金融公庫 中小企業事業		1	1	qualtrics		1	1			
野村證券(株)		1	1	SBアットワーク(株)		1	1			
保険業	三井住友海上プライマリー生命保険(株)		1	1	アマゾンウェブサービスジャパン(株)		1	1		
	住友生命保険(相互)すみれい		1	1	アマゾンジャパン(合同)		1	1		
	日本生命保険(相互)		1	1	クアルトリクス(合同)		1	1		
不動産取引・賃貸・管理業	(株)ケン・コーポレーション		1	1	システナ(株)		1	1		
	(株)ボルテックス		1	1	楽天グループ(株)		1	7	8	
	三菱地所(株)		1	1	(株)Works Human Intelligence		1	1		
物品賃貸業	三井住友ファイナンス&リース(株)		1	1	(株)シーエーシー		1	1		
	三井住友ファイナンス&リース(株)		1	1	(株)セールスフォース・ドットコム		1	1		
学術・開発研究機関	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構		1	1	(株)センソ情報システムズ		1	1		
	森・濱田松本法律事務所		1	1	(株)フジテレビジョン		1	1		
法務	西村あさひ法律事務所		1	1	不明		1	1		
	弁護士法人ベリール法律事務所		1	1	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)		2	2		
その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザリー(合同)		2	2	日本ビューレット・バックカード(合同)		1	1		
	アクセンチュア(株)		1	1	運輸業、郵便業	日本航空(JAL)(株)		1	1	
	ヴェオリア・ジェネッツ(株)		1	1	日本郵便(株)		1	1		
	グレイステクノロジー(株)		1	1	郵船ロジスティクス(株)		1	1		
	フューチャー(株)		1	1	卸売業	LVMHファッション・グループ・ジャパン(株)		1	1	
	(株)Dirbato		1	1	SB C&S(株)		1	1		
	(株)レイヤーズ・コンサルティング		1	1	チャンネル(合同)		1	1		
	(株)青山財産ネットワークス		1	1	ボルシェジャパン(株)		1	1		
	(株)電通		1	1	一條ランバー(株)		1	1		
	(株)電通デジタル		1	1	岡田商事(株)		1	1		
	(株)電通東日本		1	1	(株)IDOM		1	1		
	船井総研ロジ(株)		1	1	(株)メガ		1	1		
	(独立)国際協力機構		1	1	三菱商事エネルギー(株)		1	1		
宿泊業、飲食サービス業	(株)帝国ホテル		1	1	(株)ファーストリテイリング		1	1		
	(株)目黒雅叙園		1	1	金融業	Goldman Sachs		2	2	
学校教育	(学校)慶應義塾		1	1	JPモルガン証券(株)		1	1		
	座間市(教員)		1	1	Riant Capital Ltd		1	1		
その他の教育、学習支援業	ヒューマンアカデミー(株)		1	1	SMBC日興証券(株)		1	1		
	(株)ECC		1	1	(株)みずほフィナンシャルグループ		1	2		
社会保険・社会福祉・介護事業	(株)公文教育研究会		1	1	(株)三菱UFJ銀行		1	2	3	
	(株)GEA		1	1	三井住友信託銀行(株)		1	1		
複合サービス事業	全国農業協同組合連合会		1	1	大和証券グループ		1	1		
	エン・ジャパン(株)		1	1	マーシュジャパン(株)		1	1		
その他のサービス業	パーソルホールディングス(株)		1	1	東京海上日動火災保険(株)		1	1		
	(株)APパートナーズ		1	1						
	(株)アークアライン		1	1						
	(株)クオレガ		1	1						

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計	
不動産取引・賃貸・管理業	JALCOホールディングス(株)		1	1	卸売業	ニッセイ情報テクノロジー(株)		1	1	
	(株)コスモスイニシア		1	1		ポート(株)		1	1	
	(株)ティア・ライフ		1	1		ヤフー(株)		2	2	
	三菱地所(株)		1	1		ユニアデックス(株)		1	1	
物品賃貸業	三井住友ファイナンス&リース(株)		1	1	(株)NTTデータ		1	1		
	アンダーソン・毛利・友常法律事務所		1	1	(株)TOMAP		1	1		
その他の専門・技術サービス業	Assembly		1	1	(株)Works Human Intelligence		1	1		
	ENGAWA(株)		1	1	(株)ジャステック		1	1		
	Experis Executive		1	1	(株)日企		1	1		
	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザリー(合同)		2	2	東京海上日動システムズ(株)		1	1		
	アクセンチュア(株)		1	1	東日本電信電話(NTT東日本)(株)		1	1		
	イグニション・ポイント(株)		1	1	日鉄ソリューションズ(株)		1	1		
	デロイト・トーマツコンサルティング(合同)		1	1	卸売業	ケオーデンタル(株)		1	1	
	デロイト・トーマツファイナンシャルアドバイザリー(合同)		1	1	伊藤忠商事(株)		1	1		
	レイスグループ		1	1	(株)マクニカ		2	2		
	(株)ベクトル		1	1	長瀬産業(株)		1	1		
	(株)船井総研コーポレートリレーションズ		1	1	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)		1	1		
	石坂産業(株)		1	1	金融業	SMBC日興証券(株)		1	1	
	(独立)日本貿易振興機構		1	1	(株)三菱UFJ銀行		1	1		
宿泊業、飲食サービス業	ヒルトン・ワールドワイド		1	1	三井住友カード(株)		1	1		
	マンダリンオリエンタル東京		1	1	三井住友信託銀行(株)		1	1		
	(株)ホテルオークラエンタープライズ		1	1	信金中央金庫		1	1		
	(株)物語コーポレーション		1	1	保険業	ブルデンシャル生命保険(株)		1	1	
学校教育	PAL International PreSchool & Kindergarten		1	1	損害保険ジャパン(株)		1	1		
	(学校)ケイ・インターナショナルスクール		1	1	明治安田生命保険(相互)		1	1		
その他の教育、学習支援業	English Central Inc		1	1	物品賃貸業	三井住友ファイナンス&リース(株)		1	1	
	Agoda Travel Operations Japan(株)		1	1	芙蓉総合リース(株)		1	1		
その他のサービス業	fermata(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	フューチャー(株)		1	1	
	Jipang Group of Companies		1	1	(株)マッキンゼーエリクソン		1	1		
	Shree Ltd.		1	1	(株)野村総合研究所(NRI)		1	1		
	TEKsystems		1	1	理工学部 物質生命理工学科 計		31	27	58	
	セコム(株)		1	1	理工学部 機能創造理工学科					
	デジタルデータソリューション(株)		1	1	建設業	東京セキスイハイム(株)		1	1	
	ヘイス・ヴァリストリクレーメントジャパン(株)		1	1	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	三菱商事ライフサイエンス(株)		1	1	
	ランスタッド(株)		1	1	2	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	水ing(株)		1	1
	ロバート・ウォルターズ・ジャパン(株)		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	パナソニックホールディングス(株)		1	1	
	(株)EMアールエム・ワールドワイド		1	1	沖電気工業(株)		1	1		
	自衛隊		1	1	(株)東芝		1	1		
	イスラエル大使館		1	1	(株)日立製作所		1	1		
	不明		1	1	三菱電機(株)		1	1		
国際教養学部 国際教養学科 計		33	76	109	日本電気(NEC)(株)		1	1		
理工学部 物質生命理工学科	鉱業、採石業、砂利採取業	ENEOS(株)		1	1	輸送用機械器具製造業	スタンレー電気(株)		1	1
	建設業	コスモエネルギーホールディングス(株)		1	1	(株)東京軽合金製作所		1	1	
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	(株)LIXIL		1	1	その他の製造業	(株)アシックス		1	1	
	鹿島建設(株)		1	1	電気・ガス・熱供給・水道業	(株)JERA		1	2	
化学工業、石油・石炭製品製造業	栄屋乳業(株)		1	1	情報通信業	中部電力(株)		1	1	
	P&Gジャパン(株)		1	1	CTCテクノロジー(株)		1	1		
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	トリコ(株)		1	1	NTTコムウェア(株)		2	2		
	(株)資生堂		1	1	TIS(株)		1	1		
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)日本製薬		1	1	TOKYO TECHIES(株)		1	1		
	青木油脂工業(株)		1	1	パレットグループ(株)		1	1		
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	東亜合成(株)		1	1	(株)NTTデータ		2	2		
	住友電気工業(株)		1	1	(株)SHIFT		1	1		
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	タカラベルモント(株)		1	1	(株)エイアイ・フィールド		1	1		
	(株)ジェイ・エム・エス		1	1	(株)セブテーニ・ホールディングス		1	1		
電子部品・デバイス・電子回路製造業	共同カイテック(株)		1	1	(株)ドリコム		1	1		
	日機装(株)		1	1	運輸業、郵便業	ヤマト運輸(株)		1	1	
情報通信業	オムロン(株)		1	1	東日本旅客鉄道(株)		1	1		
	KDDI(株)		1	1	卸売業	キヤノンマーケティングジャパン(株)		1	1	
情報通信業	MS&ADシステムズ(株)		1	1	損害保険ジャパン(株)		1	1		
	NECソリューションイノベータ(株)		1	2	3	不動産取引・賃貸・管理業	日本管理センター(株)		1	1
情報通信業	NTTデータシステム技術(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	アクセンチュア(株)		1	1	
	スカパーJSAT(株)		1	1	(株)大和総研ホールディングス		1	1		
情報通信業	ソニー(株)		1	1	(株)日本M&Aセンター		1	1		
					国家公務員共済組合連合会		1	1		
学校教育				相模原市立相原中学校		1	1			

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
その他の教育、学習支援業	(株)ステップ	1		1		(株)千葉銀行	1		1
医療業、保健衛生	(医療)明生会セントラル病院		1	1		(株)日本取引所グループ		1	1
国家公務	厚生労働省		1	1		野村證券(株)	1		1
地方公務	福岡市(公務員)	1		1	保険業	日本生命保険(相互)	1		1
理工学部 機能創造理工学科 計		32	9	41	その他の専門・技術サービス業	EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)		1	1
						アクセンチュア(株)	1	2	3
						アビームコンサルティング(株)		1	1
						シンプレクス(株)	2		2
						(株)レイヤーズ・コンサルティング	1		1
						(株)大和総研ホールディングス	1		1
						(株)電通デジタル	1	1	2
						(株)野村総合研究所(NRI)	2		2
					学校教育	(学校)駿台学園	1		1
					その他の教育、学習支援業	(株)ベネッセコーポレーション	1		1
					社会保険・社会福祉・介護事業	(株)ベネッセスタイルケア	1		1
					その他のサービス業	(株)アルプス技研		1	1
						(株)クリーク・アンド・リバー社		1	1
					理工学部 情報理工学科 計		59	40	99
理工学部 情報理工学科									
建設業	大成建設(株)	1		1					
化学工業、石油・石炭製品製造業	小林製薬(株)		1	1					
電子部品・デバイス・電子回路製造業	キオクシア(株)		1	1					
電気・情報通信機械器具製造業	(株)日立製作所	5	1	6					
	日本電気(NEC)(株)	2	1	3					
輸送用機械器具製造業	スズキ(株)	1		1					
	本田技研工業(株)	1		1					
電気・ガス・熱供給・水道業	東北電力(株)		1	1					
情報通信業	JBCC(株)	1		1					
	JXアイティソリューション	1		1					
	Matcher(株)	1		1					
	NTTコミュニケーションズグループ	1		1					
	NTTコムウェア(株)		1	1					
	SMN(株)	1		1					
	SOMPOシステムズ(株)	1		1					
	TDCソフト(株)	1		1					
	TIS(株)	2		2					
	カコムス(株)		1	1					
	サイボウズ(株)		1	1					
	シーメンス(株)	1		1					
	デジタルアーツ(株)	1		1					
	テレビ愛知(株)		1	1					
	パーソルキャリア(株)	1		1					
	パナソニックインフォメーションシステムズ(株)		1	1					
	みずほリーサーチ&テクノロジーズ(株)	1		1					
	(株)CINC	1		1					
	(株)NTTデータ	1		1					
	(株)NTTドコモ		3	3					
	(株)Speee	1		1					
	(株)WOWOW		1	1					
	(株)アルゴリズム		1	1					
	(株)スーパーソフトウェア	1		1					
	(株)トヨタシステムズ	1		1					
	(株)ビッグデータテクノロジー&コンサルティング	1		1					
	(株)フジテレビジョン		1	1					
	(株)日本総合研究所		1	1					
	(株)日立システムズ	1	1	2					
	(株)日立産業制御ソリューションズ	1		1					
	(株)日立社会情報サービス		2	2					
	(株)日立情報通信エンジニアリング	1		1					
	不明		1	1					
	東京海上日動システムズ(株)		1	1					
	東日本電信電話(NTT東日本)(株)	1		1					
	日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)	1		1					
	日本アイ・ピー・エム(株)	1	4	5					
	日本ビューレット・パッカー(合同)		2	2					
	BIPROGY(株)	1		1					
	富士ソフト(株)	1		1					
	富士通(株)	1		1					
運輸業、郵便業	三菱倉庫(株)	1		1					
卸売業	(株)TOKYO BASE	1		1					
	(株)ニトリ		1	1					
	(株)マクニカ	1		1					
	富士フィルムビジネスソリューションズ(株)	1		1					
小売業	(株)フレッセイ	1		1					
金融業	(株)FUNDBOOK	1		1					
	(株)みずほフィナンシャルグループ	1		1					
	(株)岩手銀行		1	1					
	(株)三井住友銀行		1	1					
	(株)商工組合中央金庫		1	1					

【大学院(博士前期課程)】

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
博士前期課程神学専攻						台東区(公務員)		1	1
情報通信業	(株)中外日報社		1	1	博士前期課程総合人間科学研究科 心理学専攻 計		1	9	10
学校教育	横浜雙葉学園		1	1					
	純心中学校・純心女子高等学校		1	1	博士前期課程総合人間科学研究科 社会学専攻				
博士前期課程神学専攻 計			3	3	情報通信業	網易娯楽(株)		1	1
					その他の専門・技術サービス業	IQVIAソリューションズジャパン(株)		1	1
博士前期課程文学専攻						三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)		1	1
化学工業、石油・石炭製品製造業	(株)クレハ	1		1	学校教育	(学校)上智学院		1	1
情報通信業	日本放送協会(NHK)		1	1	博士前期課程総合人間科学研究科 社会学専攻 計			4	4
金融業	野村證券(株)		1	1					
宿泊業、飲食サービス業	アパホテル(株)	1		1	博士前期課程総合人間科学研究科 社会福祉学専攻				
学校教育	(学校)佐藤栄学園	1		1	その他の専門・技術サービス業	青島金泰和デザイン(株)		1	1
分類不能の産業	日本中央競馬会	1		1	その他の教育、学習支援業	(株)LITALICO		1	1
博士前期課程神学専攻 計		3	3	6	社会保険・社会福祉・介護事業	(社福)扶助者聖母会星美ホーム		1	1
					博士前期課程総合人間科学研究科 社会福祉学専攻 計			3	3
博士前期課程文学専攻									
情報通信業	(株)EQUATION		1	1	博士前期課程経済学専攻				
小売業	(株)紀伊國屋書店		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	ハイセンスジャパン(株)	1		1
博士前期課程神学専攻 計			2	2	(株)ヤザワコーポレーション		1		1
					情報通信業	日本アイ・ピー・エム(株)	1		1
博士前期課程文学専攻						富士通(株)		1	1
情報通信業	balconia(株)		1	1		不明		1	1
学校教育	(学校)女子聖学院中学校高等学校		1	1	その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザリー(合同)	1		1
	淑徳与野中学・高等学校	1		1		PwC税理士法人中国深セン所		1	1
博士前期課程文学専攻 計		1	2	3	博士前期課程経済学専攻 計		4	3	7
博士前期課程文学専攻					博士前期課程経済学専攻				
法務	アンダーソン・毛利・友常法律事務所		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	(株)日立製作所		1	1
博士前期課程文学専攻 計			1	1		日本電気(NEC)(株)		1	1
					情報通信業	Bytedance(株)		1	1
博士前期課程文学専攻						パーソルプロセス&テクノロジー(株)	1		1
情報通信業	富士通(株)	1		1		(株)ビリティ		1	1
卸売業	(株)ニトリ	1		1		日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)	1		1
その他の専門・技術サービス業	(株)電通デジタル		1	1		富士通(株)		1	1
その他のサービス業	GLナビゲーション(株)	1		1	卸売業	(株)新陽トレーディング		1	1
博士前期課程文学専攻 計		3	1	4	その他の専門・技術サービス業	IQVIAソリューションズジャパン(株)	1		1
						アクセンチュア(株)		2	2
博士前期課程文学専攻					分類不能の産業	不明(社会人入学で現職復帰)		1	1
その他のサービス業	(株)ロイヤリティマーケティング		1	1	博士前期課程経済学専攻 計		3	9	12
博士前期課程文学専攻 計			1	1					
					博士前期課程言語科学研究科 言語学専攻				
博士前期課程実践宗教学研究科 死生学専攻					情報通信業	Wuhan Weipai Network Technology Co., Ltd.	1		1
学校教育	拓殖大学		1	1		エイ・フォース(株)		1	1
	不明(教員)		1	1	その他の専門・技術サービス業	アクセンチュア(株)		1	1
医療業、保健衛生	平塚市民病院	1		1	学校教育	(学校)ドルトン東京学園	1		1
宗教	不明(社会人入学で現職復帰)	1		1		(学校)山崎学園(富士見中学校高等学校)		1	1
その他のサービス業	公益財団法人世界宗教者平和会議日本委員会		1	1		(学校)大妻学院	1		1
分類不能の産業	不明(社会人入学で現職復帰)		1	1		(学校)日出学園	1		1
博士前期課程実践宗教学研究科 死生学専攻 計		3	3	6	その他の教育、学習支援業	(独立)日本学生支援機構	1		1
					医療業、保健衛生	順天堂医院		1	1
						地域医療機能推進機構東京山手メディカルセンター		1	1
博士前期課程総合人間化学研究科 教育学専攻					博士前期課程言語科学研究科 言語学専攻 計		5	6	11
情報通信業	vivo	1		1					
その他の専門・技術サービス業	(独立)国際協力機構		1	1	博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科 国際関係論専攻				
学校教育	国立音楽大学附属幼稚園		1	1	電気・ガス・熱供給・水道業	(株)ジャパンガスエナジー		1	1
	東京都(教員)		1	1	その他の専門・技術サービス業	PwCコンサルティング(合同)/PwCアドバイザリー(合同)	1		1
博士前期課程総合人間科学研究科 教育学専攻 計		1	3	4	学校教育	カトリック東京大司教区	1		1
					国家公務	防衛省航空自衛隊	2		2
博士前期課程総合人間化学研究科 心理学専攻					博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科 国際関係論専攻 計		4	1	5
情報通信業	日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)		1	1					
学校教育	清泉女学院中学・高等学校		1	1	博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科 地域研究専攻				
医療業、保健衛生	タカハシクリニック		1	1	情報通信業	(株)サンディアス		1	1
	愛育クリニック		1	1	博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科 地域研究専攻 計			1	1
	翠会和光病院		1	1					
	鶴川サナトリウム病院		1	1	博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科 グローバル社会専攻				
	東京都立墨東病院	1		1	電気・ガス・熱供給・水道業	自然電力(株)		1	1
社会保険・社会福祉・介護事業	児童養護施設救世軍機恵子寮		1	1	地方公務	葛飾区(公務員)		1	1
地方公務	葛飾区(公務員)		1	1	情報通信業	DXCテクノロジー・ジャパン(株)		1	1

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	Infosys Limite		1	1	印刷・同梱連業	凸版印刷(株)		1	1
	miHoYo		1	1	化学工業、石油・石炭製品製造業	TOYO TIRE(株)	1		1
	コグラフ(株)		1	1		積水化学工業(株)	1		1
	(株)エイチシーエル・ジャパン		1	1		日本ペイントホールディングス(株)	1		1
	(株)シーエーシー		1	1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	ABB日本ペーレー(株)	1		1
	(株)ネットプロテクションズ		1	1		(株)リコー	1		1
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)		1	1		(株)小森コーポレーション	1		1
	用友グループ	1		1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	キオクシア(株)	1		1
その他の専門・技術サービス業	(株)T3		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	ソニー(株)		1	1
	公益財団法人地球環境戦略研究機関	1		1		(株)日立製作所	1		1
学校教育	UIAインターナショナルスクールオブ東京	1		1		日本電気(NEC)(株)		2	2
	麗澤大学((学校)廣池学園)		1	1	輸送用機械器具製造業	トヨタ自動車(株)	1		1
その他の教育・学習支援業	ワタナベアカデミー		1	1		日産自動車(株)	1		1
その他のサービス業	Pnegin Leap		1	1	情報通信業	NTTコムウェア(株)		1	1
国家公務	ブラジル外務省	1		1		(株)NTTデータ	1		1
博士前期課程グローバル・スタディーズ研究科 グローバル社会専攻 計		5	13	18		富士通(株)	1		1
					卸売業	(株)テクトロニクス&フルーク		1	1
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 機械工学領域					金融業	モルガン・スタンレー		1	1
建設業	(株)大林組	1		1	地方公務	川崎市(公務員)	1		1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	カンロ(株)		1	1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 応用化学領域 計		9	13	22
化学工業、石油・石炭製品製造業	富士フィルムエンジニアリング(株)	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 化学領域				
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	JFEスチール(株)	1		1	鉱業、採石業、砂利採取業	コスモエネルギーホールディングス(株)	1		1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	ルネサスエレクトロニクス(株)	1		1		出光興産(株)	1		1
電気・情報通信機械器具製造業	シスコシステムズ(合同)	1		1	印刷・同梱連業	大日本印刷(DNP)(株)	1		1
	(株)日立製作所	1		1	化学工業、石油・石炭製品製造業	TOYO TIRE(株)	1		1
	日本電気(NEC)(株)	1		1		東色ピグメント(株)	1		1
輸送用機械器具製造業	フォルクスワーゲン・エレクトロニクス(株)	1		1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	東洋インキSCホールディングス(株)	1	1	2
	(株)SUBARU	1		1		(株)リコー	1		1
	三菱自動車工業(株)	1		1	電気・情報通信機械器具製造業	(株)日立製作所	1		1
	日産自動車(株)	2		2		三菱電機(株)	1		1
	本田技研工業(株)	1		1	その他の製造業	日東紡績(株)	1		1
電気・ガス・熱供給・水道業	東京ガス(株)	1		1	金融業	みずほ証券(株)		1	1
情報通信業	(株)テレビ朝日	1		1	その他の専門・技術サービス業	デロイト・トーマツコンサルティング(合同)		1	1
運輸業、郵便業	東海旅客鉄道(株)		1	1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 化学領域 計		12	3	15
	日本航空(JAL)(株)	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 数学領域				
その他の専門・技術サービス業	デロイト・トーマツコンサルティング(合同)	1		1	情報通信業	(株)シティ・コム	1		1
	(株)日本空港コンサルタンツ		1	1		日本マイクロソフト(株)		1	1
	日本工営(株)	1		1	その他のサービス業	IQVIAサービシーズジャパン(株)		1	1
その他のサービス業	(株)メイテック	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 数学領域 計		1	2	3
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 機械工学領域 計		19	3	22	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 物理学領域				
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 電気・電子工学領域					化学工業、石油・石炭製品製造業	富士フィルム(株)	1		1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	(株)クボタ	1		1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	TDK(株)	1		1
	三菱重工業(株)	1		1	電気・情報通信機械器具製造業	パナソニックホールディングス(株)	1		1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)	1		1	電気・ガス・熱供給・水道業	東京電力ホールディングス(株)	1		1
	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)	1		1	情報通信業	(株)TBSテレビ	1		1
	(株)アドバンテスト	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 物理学領域 計		5		5
	(株)村田製作所	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 生物科学領域				
	日本テキサス・インスツルメンツ(合同)	1		1	化学工業、石油・石炭製品製造業	コーヴァンス・ジャパン(株)	1		1
電気・情報通信機械器具製造業	シャープ(株)	1		1		フマキラー(株)		1	1
	(株)東芝	1		1	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	森永エンジニアリング(株)	1		1
	(株)日立製作所	1		1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	キオクシア(株)	1		1
	三菱電機(株)	2		2	電気・情報通信機械器具製造業	(株)東芝		1	1
その他の製造業	(株)スノーマニア	1		1	情報通信業	(株)セレス		1	1
電気・ガス・熱供給・水道業	東京電力ホールディングス(株)	1		1		三菱ケミカルシステム(株)	1		1
情報通信業	KDDI(株)	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 生物科学領域 計		5	3	8
	イー・フレーム(株)	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 情報学領域				
	(株)NTTドコモ	1		1	化学工業、石油・石炭製品製造業	(株)プリヂストーン	1		1
	(株)PTP	1		1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	キオクシア(株)	1		1
	東日本電信電話(株)	1		1	電気・情報通信機械器具製造業	Zhongxing Telecom Equipment	1		1
	日本ビューレット・パッカード(合同)		1	1					
その他の専門・技術サービス業	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)	1		1					
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 電気・電子工学領域 計		19	2	21					
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 応用化学領域									
鉱業、採石業、砂利採取業	ENEOS(株)		1	1					
建設業	鹿島建設(株)	1		1					

業種名	進路先	男	女	計	業種名	進路先	男	女	計
	デル・テクノロジーズ(株)	1		1	博士後期課程実践宗教学研究科 死生学専攻 計			1	1
	(株)日立製作所	1		1	博士後期課程総合人間科学研究科 社会学専攻				
	日本電気(NEC)(株)	3		3	学校教育	(学校)中央大学		1	1
輸送用機械器具製造業	日産自動車(株)		1	1	博士後期課程総合人間科学研究科 社会学専攻 計		1	1	
情報通信業	KDDI(株)	1	2	3	博士後期課程法学研究科 法律学専攻				
	NECソリューションイノベータ(株)	1		1	学校教育	(学校)上智学院	1		1
	NTTデータ・チャイナ・アウトソーシング	1		1	博士後期課程法学研究科 法律学専攻 計		1	1	
	インクリメント・ピー(株)	1		1	博士後期課程言語科学研究科 言語学専攻				
	ソフトバンク(株)	2		2	学校教育	国際基督教大学		1	1
	楽天グループ(株)	1		1	博士後期課程言語科学研究科 言語学専攻 計		1	1	
	(株)アグレックス	1		1	博士後期課程グローバル・スタディーズ研究科 グローバル社会専攻				
	(株)アドバンスト・メディア	1		1	学校教育	(学校)上智学院	1		1
	(株)日立社会情報サービス	1		1	博士後期課程グローバル・スタディーズ研究科 グローバル社会専攻 計		1	1	
	日本アイ・ピー・エム(株)	2	1	3	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 機械工学領域				
	日立システムエンジニアリング(株)	1		1	電気・情報通信機械器具製造業	(株)日立製作所	1		1
	日立物流ソフトウェア(株)	1		1	学校教育	(学校)上智学院	1		1
	富士通(株)	1		1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 機械工学領域 計		2	2	
卸売業	(株)ベルモント・インベストメント	1		1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 電気・電子工学領域				
小売業	(株)らしんばん	1		1	不動産取引・賃貸・管理業	(株)スムーズ	1		1
その他の専門・技術サービス業	アクセントチュア(株)		1	1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 電気・電子工学領域 計		1	1	
	アビームコンサルティング(株)	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 グリーンサイエンス・エンジニアリング領域				
	シンプレックス(株)	1		1	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	JFEスチール(株)		1	1
	(株)博覧堂・博覧堂DYメディアパートナーズ	2		2	電子部品・デバイス・電子回路製造業	IMI CRITICAL ENGINEERING		1	1
国家公務	厚生労働省		1	1	電気・情報通信機械器具製造業	(株)HGSTジャパン	1		1
	総務省総合通信基盤局	1		1	輸送用機械器具製造業	UDトラックス(株)	1	1	2
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 情報学領域 計		30	6	36	情報通信業	楽天グループ(株)	1	1	2
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 化学領域					博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 グリーンサイエンス・エンジニアリング 計		3	4	7
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	JFEスチール(株)		1	1	博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻				
電子部品・デバイス・電子回路製造業	IMI CRITICAL ENGINEERING		1	1	電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1
電気・情報通信機械器具製造業	(株)HGSTジャパン	1		1	輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1
輸送用機械器具製造業	UDトラックス(株)	1	1	2	その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1
情報通信業	楽天グループ(株)	1	1	2	情報通信業	TDCソフト(株)	1		1
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 化学領域 計		30	6	36	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 化学領域 計				
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 化学領域					博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 情報学領域				
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	JFEスチール(株)		1	1	学校教育	(学校)上智学院		2	2
電子部品・デバイス・電子回路製造業	IMI CRITICAL ENGINEERING		1	1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 情報学領域 計			2	2
電気・情報通信機械器具製造業	(株)HGSTジャパン	1		1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 生物科学領域				
輸送用機械器具製造業	UDトラックス(株)	1	1	2	その他の専門・技術サービス業	(株)ファスマック		1	1
情報通信業	楽天グループ(株)	1	1	2	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 生物科学領域 計			1	1
博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 グリーンサイエンス・エンジニアリング 計		3	4	7	博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻				
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻					電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1	輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1	その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1	情報通信業	TDCソフト(株)	1		1
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1	博士前期課程理工学研究科 理工学専攻 グリーンサイエンス・エンジニアリング領域				
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計					学校教育	(学校)上智学院		1	1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 情報学領域 計			1	1
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 グリーンサイエンス・エンジニアリング領域 計		1	1	2
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1	修士課程総合人間科学研究科 看護学専攻				
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1	学校教育	(学校)上智学院		1	1
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計					博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 グリーンサイエンス・エンジニアリング領域 計		1	1	2
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 看護学専攻 計			3	3
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1	修士課程総合人間科学研究科 看護学専攻				
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1	学校教育	(学校)上智学院		1	1
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1	博士後期課程理工学研究科 理工学専攻 看護学専攻 計			3	3
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計					専門職学位課程法学研究科 法曹養成専攻				
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1	その他の専門・技術サービス業	(株)電通	1		1
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1	地方公務	神奈川県(公務員)	1		1
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1	専門職学位課程法学研究科 法曹養成専攻 計		2		2
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1	助産学専攻科				
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計					医療・保健衛生	聖路加国際病院		2	2
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1		東京かつしか赤十字母子医療センター		1	1
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1		東京医科大学病院		1	1
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1		東京慈恵会医科大学附属病院		1	1
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1		東京女子医大八千代医療センター		1	1
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計						日本赤十字社医療センター		2	2
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1		武蔵野赤十字病院		1	1
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1	助産学専攻科 計		9		9
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1					
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1					
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計									
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1					
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1					
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1					
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1					
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計									
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1					
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1					
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1					
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1					
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計									
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1					
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1					
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1					
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1					
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計									
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1					
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1					
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1					
情報通信業	TDCソフト(株)	1		1					
博士前期課程地球環境学研究科 地球環境学専攻 化学領域 計									
電子部品・デバイス・電子回路製造業	アズビル(株)		1	1					
輸送用機械器具製造業	三菱ふそうトラック・バス(株)		1	1					
その他の製造業	Gendale Properties & Investment Corporation Limited		1	1					</

14 学科別進路業種状況

		建設・不動産	製造	運輸・郵便	卸・小売	金融	情報・通信	調査・専門サービス	教育	公務員	その他	計
神学部	神学科	1	4	0	5	1	2	2	7	0	4	26
	計	1	4	0	5	1	2	2	7	0	4	26
文学部	哲学科	1	6	0	4	4	17	4	2	0	5	43
	史学科	3	11	1	4	6	17	6	2	1	4	55
	国文学科	1	7	1	9	8	14	1	5	1	2	49
	英文学科	3	18	3	7	4	19	4	9	6	8	81
	ドイツ文学科	1	3	0	5	6	12	6	0	0	6	39
	フランス文学科	1	7	2	6	4	11	2	0	1	6	40
	新聞学科	5	7	2	12	7	48	15	1	1	14	112
計	15	59	9	47	39	138	38	19	10	45	419	
総合人間科学部	教育学科	2	7	1	2	8	10	5	7	2	7	51
	心理学科	1	4	0	4	4	10	0	3	1	11	38
	社会学科	4	10	2	2	4	12	5	0	3	4	46
	社会福祉学科	3	6	0	2	6	10	3	3	8	17	58
	看護学科	0	0	0	0	1	0	0	0	4	53	58
計	10	27	3	10	23	42	13	13	18	92	251	
法学部	法律学科	11	16	4	11	32	18	15	1	20	11	139
	国際関係法学科	5	16	3	5	7	13	14	0	3	7	73
	地球環境法学科	5	12	0	2	9	11	8	1	8	4	60
	計	21	44	7	18	48	42	37	2	31	22	272
経済学部	経済学科	5	18	2	12	31	37	19	0	5	10	139
	経営学科	5	33	7	13	15	49	17	0	2	8	149
	計	10	51	9	25	46	86	36	0	7	18	288
外国語学部	英語学科	6	26	6	24	14	39	15	11	3	11	155
	ドイツ語学科	4	7	2	12	5	5	8	2	1	5	51
	フランス語学科	2	7	6	8	6	16	6	2	2	9	64
	イスパニア語学科	1	17	5	10	6	14	6	3	1	11	74
	ロシア語学科	4	13	1	8	7	11	4	3	3	8	62
	ポルトガル語学科	0	15	4	7	7	12	8	1	3	5	62
計	17	85	24	69	45	97	47	22	13	49	468	
総合グローバル学部	総合グローバル学科	8	27	11	27	19	48	18	5	7	15	185
	計	8	27	11	27	19	48	18	5	7	15	185
国際教養学部	国際教養学科	4	15	3	10	14	25	15	3	1	19	109
	計	4	15	3	10	14	25	15	3	1	19	109
理工学部	物質生命理工学科	2	16	0	6	8	21	3	0	0	2	58
	機能創造理工学科	2	11	2	1	1	12	4	2	2	4	41
	情報理工学科	1	13	1	5	9	51	13	2	0	4	99
	計	5	40	3	12	18	84	20	4	2	10	198

※その他とは既出の業種以外を指す。

15 上智大学産業分類表

業種名	摘要
農業、林業	耕種農業、畜産農業、園芸サービス業、育林業
漁業	漁業、水産養殖業
鉱業、採石業、砂利採取業	金属・石炭・原油・天然ガス鉱業、採石業、窯業原料用鉱業
建設業	土木・建築・塗装・建築リフォーム工事業、大工工事業、とび・土工・コンクリート工事業、鉄骨・鉄筋工事業、石工・ブロック工事業、左官工事業、板金・金物工事業、塗装工事業、床・内装工事業、電気・電気通信・信号装置工事業、管工事業、機械器具設置工事業
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	畜産・水産食料品・缶詰・保存食料品・調味料・糖類製造業、精穀・製粉業、パン・菓子・動物油脂製造業、清涼飲料・酒類・茶・コーヒー製造業、製氷業、たばこ製造業、飼料・有機質肥料製造業、その他の食料品製造業
繊維工業	製糸業、紡績業、ねん糸・化学繊維等製造業、織物業、ニット・網・網・レース・繊維粗製品製造業、染色整理、外衣・シャツ・下着・和装製品・その他の繊維製品・身の回り品製造業
印刷・同関連業	印刷業、製版業、製本業、印刷物加工業、印刷関連サービス業
化学工業、石油・石炭製品製造業	化学肥料・無機及び有機化学工業製品・油脂加工製品・石けん・合成洗剤・界面活性剤・塗料・医薬品・化粧品・歯磨製造業、石油精製業、潤滑油・グリース・コークス・舗装材料・その他の石油・石炭製品製造業、その他の化学工業(火薬・農薬・香料等)
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	製鉄・製鋼業、鋼材・鉄素形材製造業、非鉄金属製錬・精製業、非鉄金属・合金圧延業、電線・ケーブル・非鉄金属素形材・ブリキ缶・めっき板等製品・洋食器・刃物・手道具・金物類製造業、暖房装置・配管工事用付属品製造業、建設用・建築用金属製品製造業、金属被覆・彫刻業、金属素形材製品・金属線製品・ボルト・ナット・リベット・ねじ類製造業、その他の鉄鋼・非鉄金属・金属製品製造業
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	ボイラ・原動機・ポンプ・圧縮機器製造業、一般産業用・その他のはん用・農業・建設・鉱山・繊維・生活関連産業・基礎素材産業・金属加工用機械製造業、半導体・ディスプレイ製造装置・機械部品・事務用機械器具・サービス用機械器具・分析機器・試験機・測量機械器具・理化学機械器具・医療用機械器具・医療用品・光学機械器具・レンズ・武器製造業
電子部品・デバイス・電子回路製造業	電子デバイス・電子部品・記録メディア・電子回路製造業、ユニット部品・その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
電気・情報通信機械器具製造業	発電・送電・配電用・産業用・民生用電気機械器具製造業、電球・電気照明器具・電池・電子応用装置・電気計測器・その他の電気機械器具製造業、通信機械器具・映像音響機械器具・電子計算機・同附属装置製造業
輸送用機械器具製造業	自動車・同附属品・鉄道車両・同部分品製造業、船舶製造・修理業、船用機関・航空機・同附属品・産業用運搬車両・同部分品・その他の輸送用機械器具製造業
その他の製造業	製材業、木製品・パルプ・紙・紙製品・プラスチック製品・ゴム製品・革製品・ガラス・セメント・建設用粘土製品・陶磁器・耐火物・炭素黒鉛製品・研磨材・骨材・石工品・貴金属・宝石製品・ボタン・楽器・がん具・運動用具・事務用品・漆器・豊等生活雑貨製品製造業、他に分類されない製造業
電気・ガス・熱供給・水道業	電気業、ガス業、熱供給業、上下水道業、工業用水道業
情報通信業	固定電気・移動電気通信業、公共・民間・有線放送業、ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業、インターネット付随サービス業、映像情報制作・配給業、音声情報制作業、新聞・出版・広告制作業
運輸業、郵便業	鉄道業、貨物運送業、海運業、航空運送業、倉庫業、運輸に付帯するサービス業(こん包・運輸施設提供業等)、郵便業(郵便事業株式会社が該当)※郵便局株式会社は、複合サービス業に該当
卸売業	総合商社、専門商社、貿易商社、問屋、繊維・衣服・農畜産物・水産物・食料・飲料・建築材料・化学製品・鉱物・金属・機械器具・家具・医薬品等卸売業
小売業	百貨店、スーパー、通信販売業、衣服・食料・飲料・菓子・家具・医薬品・書籍・がん具・電器等小売業
金融業	中央銀行、政府系金融機関、銀行(信託・長期信用)、金融公庫、貸金業、クレジットカード業、証券業、証券取引所、商品先物取引業
保険業	生命保険、損害保険、共催事業、保険媒介代理・サービス業
不動産取引・賃貸・管理業	ディベロッパー、建物売買業、土地売買業、不動産賃貸・管理業(貸ビル・テナント)、不動産代理・仲介業、駐車場業
物品賃貸業	産業機器・事務機器・自動車・娯楽用品等各種物品賃貸業(リース・レンタル業)
学術・開発研究機関	科学研究所
法務	法律事務所、特許事務所
その他の専門・技術サービス業	司法書士事務所、行政書士事務所、公認会計士事務所、税理士事務所、デザイン業、著述・芸術家業、経営コンサルタント、広告業、獣医療、測量・検査業※日本郵政株式会社
宿泊業、飲食サービス業	ホテル、旅館、レストラン、酒場、喫茶店、持ち帰り・配達飲食サービス業
生活関連サービス業、娯楽業	洗濯・理容・美容・浴場業、旅行業、家事サービス業、冠婚葬祭業、映画館、興行・競輪・競馬場、スポーツ施設提供業、公園・遊園地、遊戯場
学校教育	幼稚園、小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等教育機関、専修・各種学校、学校教育支援機関
その他の教育、学習支援業	社会教育施設(図書館、博物館、動物園等)、職業・教育支援施設、学習塾、教養・技能教授業
医療業、保健衛生	病院、一般・歯科診療所、助産・看護業、医療に付帯するサービス業、保健所、健康相談施設
社会保険・社会福祉・介護事業	社会保険事業団体、福祉事務所、児童福祉・老人福祉・介護・障害者福祉事業
複合サービス事業	郵便局(郵便局株式会社)、郵便局受託業、農林水産業協同組合
宗教	教会、神社、寺院、宗務所、宗教団体事務所
その他のサービス業	一般・産業廃棄物処理業、自動車整備業、機械・電気器具修理業、職業紹介・労働者派遣業、複写業、建物メンテナンス業、警備業、経済・労働・学術・文化・政治団体、他に分類されない非営利的団体、集会場、と畜場、外国公館、他に分類されないサービス業
国家公務	国会、裁判所、内閣、中央官庁(含む地方支部局)、刑務所
地方公務	都道府県市区町村議会、都道府県庁、市区役所、町村役場、支所、出張所、地方公共団体組合
分類不能の産業	分類不能または不明のもの

キャリアセンター

■就職活動の総括・本学の状況

コロナ禍中の企業の採用活動も2回目となり、学生自身もオンラインによる諸活動への慣れから、2020年度卒生ほどの混乱は見られませんでした。リーマンショックで採用を手控え、人員構成に歪みが生じた経験から、航空など一部の業界を除いて採用を凍結・減少する企業は少なく、新卒採用意欲はおおむね堅調だったといえます。就職した本学学生の進路満足度は例年どおり約90%と高いものでした。

3年次生の夏～冬のインターンシップ参加を皮切りに、3年次生の3月から4年次生の4月に本選考を経て内定をもらい始め、6月中に最終的な進路先が決まってゆくという流れが2021年度卒学生の標準的な動きでした。しかしながら、採用活動の早期化に伴い採用予定数が充足しなかった企業からの求人は7月以降も多く、約3割の学生は7月以降に最終的な内定をもらっています。また、インターンシップの選考に落ちた企業や、インターンシップに参加していない企業から本選考で内定をもらったというケースも少なくありません。様々な事情でインターンシップをうまく活用できなかった場合でも、本選考に向けて態勢を立て直すことは十分可能です。

昨年は複数企業から内定をもらったものの、進路を決めかねて、内定辞退をしないまま引き延ばした結果、辞退先とトラブルになったという相談が複数ありました。採用活動の早期化やオンラインのみで選考が進んだことの影響ではありますが、結論をいたすに引き延ばすのではなく、不安や疑問点は内定先企業に早めに確認し、納得のいく選択をしてほしいと考えます。企業側も就職後のアンマッチを未然に防ぐため、内定者の相談にしっかりと向き合いたいと考えています。早い時期の双方納得の上での内定辞退ではトラブルになることはありません。一人で悩まず、採用担当者へ相談してみましょう。キャリアセンターの個別相談も利用してみてください。

■インターンシップ

インターンシップは、社会との接点を持ち、仕事の内容や自身の適性を理解する機会であり、学生の就業観醸成に資するものです。2021年度卒を対象としたインターンシップ実施率は、コロナ禍の影響を受け、前年比で約14%減少しました。しかしながら、学生のインターンシップ参加率は、前年とほぼ同率の87.8%となり、多くの学生がインターンシップに参加しました。

現状、一部のインターンシップでは、早期選考の入口となっているケースもあり、就職活動の「早期化」、「長期化」につながっている側面があります。キャリアセンターでは、学業とインターンシップ参加の両立を図れるよう、インターンシップ参加を希望する学生に向けた支援をしています。

■公務員

本学の国家公務員試験合格者は、総合職11人（昨年度10人）、一般職34人（昨年度32人）。総合職の受験申込者数に対する合格率は、昨年度と同じ17.5%となっています。

2022年度の試験日程は2021年度から大きな変更はなく、国家総合職の試験が4月下旬に、国家一般職および外務省専門職は6月中旬に開始。また、東京都や特別区、地方公務員も2021年度の試験日程とおおむね同様の予定です。

全般的に、公務員1次試験日が民間企業の採用活動本格期に重なるため、併願を考える学生は、双方のスケジュールを見据えた対策と準備が必要となります。なお、昨年度に引き続き学内で開講した公務員試験対策講座は、対面型講義に一部WEBを取り入れたハイブリッド形式で実施、87人（昨年度101人）が受講しました。2022年度も対面型講義を中心とし、5月下旬から開講予定です。

■教員

本学の2021年度の教員就職者数（国内）は、国公立校・私立校合計で44人。国公立は12人、私立は32人でした。私立中高志望者の中には、私学適性検査を受検し、受験結果を参照した学校から採用試験の案内を受けた学生もいたようです。民間企業併願者については、選考の時期が教育実習と重なるため、計画的な活動が必要になっています。

■理工（技術系）学生

技術系の求人数は、機械・電気・情報系が高い状況で推移し、学校推薦による早期選考も増加傾向にあります。2021年度の学校推薦選考の合格率は62%で、前年度比8ポイント増でした。いわゆる後付け推薦の増加の影響もあると考えられます。また、技術系職種の内定者は236名、うち学校推薦選考による内定者は63名で比率は26.7%となり、前年度比1.7ポイント減少しました。

学校推薦ではジョブマッチング選考を行う企業が多く、志望職種に対する本人の適性や能力が問われています。自由応募による就職活動を通じて、事務系職種も視野に、自身に合う職種や関わりたい事業領域を模索する学生の増加も引き続き窺えます。

■外国人留学生

2020年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大は、留学生の就職活動と採用選考にも大きな影響を与えました。状況は回復しつつありますが、留学生の強みが活きる業界、航空・旅行・ホテル等は新卒採用中止のまま、または採用人数を減らして採用選考を再開しました。入国制限で日本に入国できず、就職活動を思う通りにできなかった学生や、帰国が取りやめになったため日本での就職活動に切り替えるなど、進路に悩む留学生が目立ちました。

本学では入学直後に「日本での就職ガイダンス」を実施し、日本の就職活動の特徴を低学年次から理解しておくことを推奨しています。また、外国人留学生を対象とした就職支援プログラムや授業科目の開講、外国人留学生対象の学内JOB FAIRの開催など、さまざまな支援を行っています。

■留学経験学生

コロナ禍により留学は大きく制限されました。渡航可能な国・地域に留学できた学生は、採用選考のオンライン化により、現地から就職活動に参加するなど、以前と比べて留学と就職活動の両立がしやすくなった側面もありました。一方、渡航できずにオンライン留学となった学生が、日本から現地の授業に参加しながら就職活動を行ったり、予定した時期に渡航できず、就職活動を終えてから留学するなど、留学と就職活動の変則的な動きがみられました。

■キャリアセンターの支援について

キャリアセンターでは3年次生になる直前の春期休暇中に行うガイダンスから支援を本格化し、基本ガイダンスである「総合就職ガイダンス」を柱にインターンシップガイダンス、業界研究セミナー、内定者アドバイス会、採用対策講座、模擬面接会などを開催しています。また、目的別に公務員・教員・留学生・留学希望者向けの各種ガイダンスも行っています。

オンライン上のサイト<WEBキャリアセンター>では、個別相談の予約、各種ガイダンス・セミナー情報の告知や申込、インターンシップや企業説明会情報の電子掲示板などを展開しています。個別相談については、2022年度は相談枠を増やすとともに、留学生支援として英語と中国語の相談も実施しています。

インターンシップへの参加が選考に結びつくケースが多いことから、昨年度は3年次生の時点でインターンシップに参加した企業を中心に就職活動を組み立てる傾向がありました。このため早期に業界や企業を絞り込みすぎて、途中で持ち駒がなくなってしまうケースがあります。キャリアセンターでは、上智大生を積極的に採用したい企業の合同業界説明会やOBOGとの交流会を企画しています。実際に選考が始まってしまうと、業界や企業を研究する余裕がなくなりますので、大学の企画するこういった説明会を有効に活用し、効率的に視野を広げておくことをお勧めします。

以上

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	詩編と知恵	2・3・4 前		2		○									兼1
	福音書	2・3・4 後		2		○						1			
	性の倫理	2・3・4 前		2		○			1						
	倫理神学の諸問題	2・3・4 後		2		○			1						
	パストラル・ケア	2・3・4 前		2		○			1						
	宗教学	2・3・4 前		2		○					1				
	倫理と霊性	2・3・4 前		2		○			1						
	生圏の倫理	2・3・4 前		2		○			1						
	ボランティア論	2・3・4 前		2		○									兼1
	道徳哲学	2・3・4 前		2		○			1						
	カトリック社会思想	2・3・4 後		2		○			1						
	民族関係論	2・3・4 後		2		○			1						
	平和学	2・3・4 前		2		○			1						
	キリスト教とコミュニケーション	2・3・4 前		2		○					1				
	経済・経営の倫理	2・3・4 前		2		○									兼1
	国際政治経済論（経済学的アプローチ）1	2・3・4 前		2		○									兼1
	国際政治経済論（経済学的アプローチ）2	2・3・4 後		2		○									兼1
	アイルランド研究B	2・3・4 後		2		○			1						
	宗教史	2・3・4 前		2		○					1				
	霊性の歴史	2・3・4 後		2		○			1						
	自然科学とキリスト教Ⅰ	2・3・4 前		2		○			1						
	自然科学とキリスト教Ⅱ	2・3・4 後		2		○			1						
	キリスト教文学倫理思想	2・3・4 後		2		○			1						隔年
	アイルランド研究A	2・3・4 後		2		○			1						
	キリスト教文学Ⅰ	2・3・4 後		2		○			1						隔年
	キリスト教文学Ⅱ	2・3・4 後		2		○			1						隔年
	西洋美術史	2・3・4 前		2		○									兼1 隔年
	教会音楽Ⅰ（歴史でたどる教会音楽）	2・3・4 前		2		○									兼1
	教会音楽Ⅱ（典礼のテーマで学ぶ教会音楽）	2・3・4 後		2		○									兼1
	キリスト教と音楽芸術Ⅰ	2・3・4 前		2		○			1						
	キリスト教と音楽芸術Ⅱ	2・3・4 後		2		○			1						
	キリスト教建築Ⅰ	2・3・4 前		2		○			1						
	キリスト教建築Ⅱ	2・3・4 後		2		○			1						
	キリスト教の礼拝	2・3・4 前		2		○					1				
	典礼の歴史と霊性	2・3・4 後		2		○									兼1
	キリスト教の美術Ⅰ	2・3・4 前		2		○									兼1
	キリスト教の美術Ⅱ	2・3・4 後		2		○									兼1
	旧約聖書Ⅰ	2・3・4 前		2		○									兼1
	旧約聖書Ⅱ	2・3・4 後		2		○									兼1
	新約聖書Ⅰ	2・3・4 前		2		○			1						
	新約聖書Ⅱ	2・3・4 後		2		○			1						
	聖書考古学	2・3・4 前		2		○									兼1
	ヨハネ福音書と初代教会の諸文書	2・3・4 前		2		○					1				
	パウロ	2・3・4 前		2		○					1				
	小計（81科目）	—	0	166	0	—			9	2	0	0	0	兼21	—
選 択 科 目	キリスト教ラテン語	2・3・4 前		2		○									兼1
	聖書ギリシア語Ⅰ	2・3・4 前		2		○					1				
	聖書ギリシア語Ⅱ	2・3・4 後		2		○					1				
	聖書ヒブル語Ⅰ	2・3・4 前		2		○									兼1
	聖書ヒブル語Ⅱ	2・3・4 後		2		○									兼1
	聖書ギリシア語原典研究Ⅰ（物語文学の講読）	2・3・4 前		2		○					1				隔年
	聖書ギリシア語原典研究Ⅱ（書簡文学の講読）	2・3・4 後		2		○					1				隔年
	聖書ヒブル語原典研究Ⅰ（物語テキストの講読）	2・3・4 前		2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	聖書ヒブル語原典研究Ⅱ（韻文テキストの講読）	2・3・4 後		2		○									兼1	
	キリスト教の霊性	2・3・4 前		2		○				1					兼1	隔年
	英語による実践キリスト教Ⅰ	2・3・4 後		2		○									兼1	隔年
	英語による実践キリスト教Ⅱ	2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	宗教科教育法Ⅰ	2・3・4 前		2		○			1						兼1	
	宗教科教育法Ⅱ	2・3・4 前		2		○									兼1	
	宗教科教育法Ⅲ	2・3・4 後		2		○			1						兼1	
	宗教科教育法Ⅳ	2・3・4 後		2		○				1					兼1	
	法律学	2・3・4 後		2		○									兼1	
	社会学	2・3・4 後		2		○									兼1	
小計（18科目）		-	0	36	0	-			2	2	1	0	0	兼7	-	
語 学 科 目	ドイツ語総合1（初級）	1・2 前後		2		○									兼13	
	ドイツ語総合2（初級）	1・2 前後		2		○									兼13	
	ドイツ語総合3（中級）	1・2 前後		2		○									兼11	
	ドイツ語総合4（中級）	1・2 前後		2		○									兼11	
	ドイツ語上級A	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	ドイツ語上級B	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	ドイツ語上級C	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	ドイツ語上級D	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	ドイツ語上級E	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	ドイツ語上級F	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	ドイツ語上級G	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	ドイツ語上級H	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	海外短期語学講座（ドイツ語）	1・2 前		2		○									兼1	集中
小計（13科目）		-	0	18	0	-			0	0	0	0	0	兼17		
フ ラ ン ス 語	フランス語総合1（初級）	1・2 前後		2		○									兼15	
	フランス語総合2（初級）	1・2 前後		2		○									兼15	
	フランス語総合3（中級）	1・2 前後		2		○									兼14	
	フランス語総合4（中級）	1・2 前後		2		○									兼14	
	フランス語上級A	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級B	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級C	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級D	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級E	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級F	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級G	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級H	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級I	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級J	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級K	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級L	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級M	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級N	1・2 後		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級O	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	フランス語上級P	1・2 後		1		○									兼1	隔年
ADVANCED FRENCH (INTEGRATED SKILLS) A	1・2 前		2		○									兼2	隔年	
ADVANCED FRENCH (INTEGRATED SKILLS) B	1・2 後		2		○									兼2	隔年	
ADVANCED FRENCH (INTEGRATED SKILLS) C	1・2 前		2		○									兼1	隔年	
ADVANCED FRENCH (INTEGRATED SKILLS) D	1・2 後		2		○									兼1	隔年	
海外短期語学講座（フランス語）	1・2 後		2		○									兼1	集中	
小計（25科目）		-	0	34	0	-			0	0	0	0	0	兼25		
イ ス パ ニ ア 語	イスパニア語総合1（初級）	1・2 前後		2		○									兼25	
	イスパニア語総合2（初級）	1・2 前後		2		○									兼25	
	イスパニア語総合3（中級）	1・2 前後		2		○									兼21	
	イスパニア語総合4（中級）	1・2 前後		2		○									兼19	
	イスパニア語上級A	1・2 前		1		○									兼1	隔年
	イスパニア語上級B	1・2 後		1		○									兼1	隔年
イスパニア語上級C	1・2 前		1		○									兼1	隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
	イスパニア語上級D	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	イスパニア語上級E	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	イスパニア語上級F	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	イスパニア語上級G	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	イスパニア語上級H	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	ADVANCED SPANISH (INTEGRATED SKILLS) A	1・2 前		2		○									兼2	隔年	
	ADVANCED SPANISH (INTEGRATED SKILLS) B	1・2 後		2		○									兼2	隔年	
	ADVANCED SPANISH (INTEGRATED SKILLS) C	1・2 前		2		○									兼1	隔年	
	ADVANCED SPANISH (INTEGRATED SKILLS) D	1・2 後		2		○									兼1	隔年	
	海外短期語学講座 (イスパニア語)	1・2 後		2		○									兼1	集中	
	小計 (17科目)	—		0	26	0	—			0	0	0	0	0	兼29		
	イ タ リ ア 語	イタリア語総合1 (初級)	1・2 前後		2		○									兼8	
		イタリア語総合2 (初級)	1・2 前後		2		○									兼9	
		イタリア語総合3 (中級)	1・2 前後		2		○									兼8	
		イタリア語総合4 (中級)	1・2 前後		2		○									兼8	
イタリア語上級A		1・2 前		1		○									兼1	隔年	
イタリア語上級B		1・2 後		1		○									兼1	隔年	
イタリア語上級C		1・2 前		1		○									兼1	隔年	
イタリア語上級D		1・2 後		1		○									兼1	隔年	
イタリア語上級E		1・2 前		1		○									兼1	隔年	
イタリア語上級F		1・2 後		1		○									兼1	隔年	
イタリア語上級G		1・2 前		1		○									兼1	隔年	
イタリア語上級H		1・2 後		1		○									兼1	隔年	
海外短期語学講座 (イタリア語)		1・2 前		2		○									兼1	集中	
小計 (13科目)	—		0	18		—			0	0	0	0	0	兼10			
中 国 語	中国語総合1 (初級)	1・2 前後		2		○									兼22		
	中国語総合2 (初級)	1・2 前後		2		○									兼22		
	中国語総合3 (中級)	1・2 前後		2		○									兼18		
	中国語総合4 (中級)	1・2 前後		2		○									兼18		
	中国語上級A	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	中国語上級B	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	中国語上級C	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	中国語上級D	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	中国語上級E	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	中国語上級F	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	中国語上級G	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	中国語上級H	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	海外短期語学講座 (中国語)	1・2 前後		2		○									兼2	集中	
小計 (13科目)	—		0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼24			
コ リ ア 語	コリア語総合1 (初級)	1・2 前後		2		○									兼12		
	コリア語総合2 (初級)	1・2 前後		2		○									兼12		
	コリア語総合3 (中級)	1・2 前後		2		○									兼9		
	コリア語総合4 (中級)	1・2 前後		2		○									兼9		
	コリア語上級A	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	コリア語上級B	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	コリア語上級C	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	コリア語上級D	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	コリア語上級E	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	コリア語上級F	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	コリア語上級G	1・2 前		1		○									兼1	隔年	
	コリア語上級H	1・2 後		1		○									兼1	隔年	
	海外短期語学講座 (コリア語)	1・2 後		2		○									兼1	集中	
小計 (13科目)	—		0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼15			
ロ シ ア 語	ロシア語初級 I-1	1・2 前		1		○									兼1		
	ロシア語初級 I-2	1・2 後		1		○									兼1		
	ロシア語初級 II-1	1・2 前		1		○									兼1		
	ロシア語初級 II-2	1・2 後		1		○									兼1		
	ロシア語中級 I-1	1・2 前		1		○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	ロシア語中級Ⅰ-2	1・2 後		1		○									兼1	
	ロシア語中級Ⅱ-1	1・2 前		1		○									兼1	
	ロシア語中級Ⅱ-2	1・2 後		1		○									兼1	
	小計 (8科目)	—	0	8		—			0	0	0	0	0		兼3	
	(ブラジル) ポルトガル語	(ブラジル) ポルトガル語初級Ⅰ-1	1・2 前		1		○									兼1
		(ブラジル) ポルトガル語初級Ⅰ-2	1・2 後		1		○									兼1
		(ブラジル) ポルトガル語初級Ⅱ-1	1・2 前		1		○									兼1
		(ブラジル) ポルトガル語初級Ⅱ-2	1・2 後		1		○									兼1
		(ブラジル) ポルトガル語中級Ⅰ-1	1・2 前		1		○									兼1
		(ブラジル) ポルトガル語中級Ⅰ-2	1・2 後		1		○									兼1
(ブラジル) ポルトガル語中級Ⅱ-1		1・2 前		1		○									兼1	
(ブラジル) ポルトガル語中級Ⅱ-2		1・2 後		1		○									兼1	
海外短期語学講座 (ポルトガル語)		1・2 前		2		○									兼1	
小計 (9科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0		兼5		
インドネシア語	インドネシア語初級A-1	1・2 前		1		○									兼1	
	インドネシア語初級A-2	1・2 後		1		○									兼1	
	インドネシア語初級B-1	1・2 前		1		○									兼1	
	インドネシア語初級B-2	1・2 後		1		○									兼1	
	インドネシア語初級C-1	1・2 前		1		○									兼1	
	インドネシア語初級C-2	1・2 後		1		○									兼1	
	インドネシア語中級1	1・2 前		1		○									兼1	
	インドネシア語中級2	1・2 後		1		○									兼1	
	インドネシア語上級1	1・2 前		1		○									兼1	
	インドネシア語上級2	1・2 後		1		○									兼1	
小計 (10科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0		兼3		
フィリピン語	フィリピン語初級文法1	1・2 前		1		○									兼1	
	フィリピン語初級文法2	1・2 後		1		○									兼1	
	フィリピン語初級読本1	1・2 前		1		○									兼1	
	フィリピン語初級読本2	1・2 後		1		○									兼1	
	フィリピン語中級1	1・2 前		1		○									兼1	
	フィリピン語中級2	1・2 後		1		○									兼1	
	フィリピン語上級1	1・2 前		1		○									兼1	
	フィリピン語上級2	1・2 後		1		○									兼1	
小計 (8科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0		兼2		
アラビア語	アラビア語初級A-1	1・2 前		1		○									兼1	
	アラビア語初級A-2	1・2 後		1		○									兼1	
	アラビア語初級B-1	1・2 前		1		○									兼1	
	アラビア語初級B-2	1・2 後		1		○									兼1	
	アラビア語初級C-1	1・2 前		1		○									兼1	
	アラビア語初級C-2	1・2 後		1		○									兼1	
	アラビア語中級1	1・2 前		1		○									兼1	
	アラビア語中級2	1・2 後		1		○									兼1	
	アラビア語上級1	1・2 前		1		○									兼1	
	アラビア語上級2	1・2 後		1		○									兼1	
小計 (10科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0		兼6		
タイ語	タイ語初級1	1・2 前		1		○									兼1	
	タイ語初級2	1・2 後		1		○									兼1	
	タイ語中級1	1・2 前		1		○									兼1	
	タイ語中級2	1・2 後		1		○									兼1	
小計 (4科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼1		
ペルシア語	ペルシア語初級1	1・2 前		1		○									兼1	
	ペルシア語初級2	1・2 後		1		○									兼1	
	ペルシア語中級1	1・2 前		1		○									兼1	
	ペルシア語中級2	1・2 後		1		○									兼1	
小計 (4科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	カンボジア語	カンボジア語初級 1	1・2 前	1		○									兼1
		カンボジア語初級 2	1・2 後	1		○									兼1
		カンボジア語中級 1	1・2 前	1		○									兼1
		カンボジア語中級 2	1・2 後	1		○									兼1
	小計 (4科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2
	スワヒリ語	スワヒリ語初級 1	1・2 前		1		○								兼1
		スワヒリ語初級 2	1・2 後		1		○								兼1
		スワヒリ語中級 1	1・2 前		1		○								兼1
		スワヒリ語中級 2	1・2 後		1		○								兼1
	小計 (4科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	ラテン語	ラテン語 I A	1・2 前		2		○								兼1
		ラテン語 I B	1・2 後		2		○								兼1
		ラテン語 II A	1・2 前		2		○								兼2
		ラテン語 II B	1・2 後		2		○								兼2
	小計 (4科目)		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼4
	日本語	アカデミック日本語入門	1・2 前後		2		○								兼2
アカデミック日本語1-1		1・2 前		2		○								兼2	
アカデミック日本語1-2		1・2 後		2		○								兼2	
アカデミック日本語2-1		1・2 前		2		○								兼1	
アカデミック日本語2-2		1・2 後		2		○								兼1	
小計 (5科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
全学共通科目	必修科目	キリスト教人間学「他者のために、他者とともに」	1 ①②③④	1		○				7	2		1		兼2
		身体のリベラルアーツ	1 ①②③④	1				○							兼9
		思考と表現	1 前・後	2			○								兼7
		データサイエンス概論	1 前・後	2			○								兼5
		課題・視座・立場性を考える	1 前・後	2			○								兼12
		小計 (5科目)		—	8	0	0	—			7	2	0	1	0
選択必修科目	キリスト教人間学	キリスト教人間学 (キリスト教と人権)	2 前・後	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (環境教育)	2 前・後	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (倫理学入門)	2 前	2		○									兼1
		STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: PHILOSOPHY OF THE HUMAN PERSON	2 前	2		○				1					
		STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: THE LIGHT OF CHRIST: AN INTRODUCTION TO CATHOLICISM	2 前・後	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (聖書と戦争)	2 前・後	2		○					1				
		キリスト教人間学 (旧約聖書入門)	2 前・後	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (福音としてのキリスト教)	2 前・後	2		○					1				
		キリスト教人間学 (新約聖書入門)	2 前・後	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (死生学入門)	2 前	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (キリスト教と哲学)	2 前	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (哲学の根本問題)	2 後	2		○							1		兼1
		STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: PHILOSOPHY OF RELIGIOUS LANGUAGE	2 後	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (哲学的人間論)	2 後	2		○									兼1
		キリスト教人間学 (かかわりの人間学)	2 後	2		○				1					兼1
キリスト教人間学 (現代倫理の諸問題)	2 後	2		○									兼1		
小計 (16科目)		—	0	32	0	—			2	1	1	1	0	兼10	
高学年向け科目		カトリック社会教説とキリスト教ヒューマニズム	3・4 前	2		○				1					
		イエズス会教育と IGNATIAN LEADERSHIP養成 I	3・4 前	2		○									兼1
		イエズス会教育と IGNATIAN LEADERSHIP養成 II	3・4 後	2		○									兼1
		グローバリゼーションの倫理学	3・4 前	2		○									兼1
		ケアの臨床哲学	3・4 後	2		○									兼7

オムニバス
メディア

オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	東西宗教芸術の伝統と今日的な宗教的 霊性	3・4 前		2		○			1						兼3	オムニバス
	宗教的人間論	3・4 後		2		○									兼1	
	科学技術の哲学	3・4 前		2		○									兼1	メディア
	比較宗教史	3・4 前		2		○									兼1	
	宗教的共生論	3・4 後		2		○									兼1	
	CATHOLIC SOCIAL THOUGHT AND THE CATHOLIC CHURCH TODAY	3・4 前・後		2		○									兼1	
	死生学の展開	3・4 前・後		2		○									兼1	
	ヒューマンケアサイエンス	3・4 前		2		○									兼2	オムニバス
	交渉学入門	3・4 前		2		○									兼1	
	情報フルエンシー (Pythonによるアル ゴリズムと問題解決の技法)	3・4 前		2		○									兼1	
	ビジネスデータ分析理論 (データサイ エンス基礎)	3・4 後		2		○									兼1	
	現代社会における情報	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	データ加工入門	3・4 前		1		○									兼1	集中
	データサイエンス実践：実践型データ 分析演習	3・4 後		2		○									兼7	オムニバス メディア
	データエンジニアリング	3・4 前		2		○									兼2	オムニバス
	AIのセオリーから (ビジネス) プロダ クションへ	3・4 後		2		○									兼1	
	地理的境界と人々の暮らし	3・4 前・後		2		○									兼1	メディア
	出産と子育てに関する情報と意思決定	3・4 後		2		○									兼2	オムニバス
	ポスト・コロナ危機の経済	3・4 前		2		○									兼4	オムニバス メディア
	資本市場の役割と証券投資	3・4 前		2		○									兼3	オムニバス
	多文化共生社会におけるESD・市民教育	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	地球環境学への招待	3・4 前		2		○									兼11	オムニバス
	SDGs実現における森林の役割	3・4 後		2		○									兼1	集中
	平和構築とメディア	3・4 前		2		○									兼1	
	SDG s とグローバルリスク	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	ものづくり企業論-グローバル企業の 実例に学ぶ-	3・4 前		2		○									兼1	
	SDG s の課題と可能性：企業と投資家 の視点から	3・4 前		2		○									兼3	オムニバス
	国際社会と法	3・4 後		2		○									兼1	
	科学技術と国際関係	3・4 前		2		○									兼1	メディア
	FOREIGN AND SECURITY POLICY OF JAPAN	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	総合的戦略論の展開	3・4 後		2		○									兼5	オムニバス
	ジェンダーと法	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス メディア
	グローバル・ビジネスのフロンティア	3・4 前		2		○									兼5	集中
	HOSPITALITY BUSINESS IN ASIA	3・4 後		2		○									兼1	集中
	GENERAL MANAGEMENT IN ACTION	3・4 後		2		○									兼1	集中
	大学マネジメント	3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	社会の中の数学	3・4 後		2		○									兼5	オムニバス
	生命倫理の諸問題と現代社会	3・4 前		2		○									兼9	
	生と死の哲学	3・4 前・後		2		○									兼1	
	国家と主権：歴史、現代、未来	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	医療における対人関係	3・4 後		1		○									兼1	集中
	経済法・社会法の現代的課題	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	科学技術の倫理	3・4 前		2		○									兼1	
	持続可能な社会に向けたものづくり： 自動車技術	3・4 ④		2		○									兼3	オムニバス
	現代日本の生活変容	3・4 ④		1		○									兼1	
	現代社会と福祉的課題	3・4 ②		2		○									兼6	オムニバス
	アメリカ小説と村上春樹	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	UNDERSTANDING PICTUREBOOKS	3・4 前		2		○									兼1	
	シェイクスピアのソネット	3・4 後		2		○									兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	歴史学Ⅰ（日本史）	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅱ（東洋史）	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅲ（西洋史）	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	JAPANESE AMERICAN HISTORY	3・4 後		2		○									兼1	
	宗教思想の伝統と現代	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	応用倫理の世界	3・4 前		2		○									兼1	
	ケアと依存——自助グループの世界観	3・4 前・後		2		○									兼1	
	開発経済学	3・4 後		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論（理論と課題）	3・4 前		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論（事例研究）	3・4 後		2		○									兼1	
	KEY GLOBAL ECONOMIES	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	心理学の最前線Ⅰ	3・4 前		2		○									兼1	隔年
	心理学の最前線Ⅱ	3・4 前		2		○									兼4	集中/隔年
	社会学のフロンティア	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス メディア
	音声資料から読み解く日本近代史	3・4 前		2		○									兼1	
	4大陸に広がるポルトガル語圏社会で 生きる・働く	3・4 ④		2		○									兼9	オムニバス
	イスパニア語圏で暮らす・働く・活動 する	3・4 後		2		○									兼8	オムニバス
	つくるⅡ（キャリア形成Ⅱ）	3・4 後		2		○									兼1	共同
	キャリアデザイン演習	3・4 前・後		2			○								兼2	
	キャリアデザイン演習1（外国人留 学生対象）	3・4 前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン演習2（外国人留 学生対象）	3・4 後		2			○								兼1	
	キャリアワークショップ「問題解決の ための思考法」	3・4 前・後		2		○									兼2	共同/メディア
	グローバルインターンシップ（長期）	3・4 前・後		6				○							兼2	
	グローバルインターンシップ（短期・ 高学年）	3・4 前・後		2				○							兼4	
	グローバルインターンシップ（中期・ 高学年）	3・4 前		6				○							兼1	
	UDトラックインターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS- （高学年）	3・4 前・後		2				○							兼1	
	小計（80科目）	—	0	165	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼184	
選 択 科 目	上智大学（ソフィア）のルーツとアイ デンティティ	1・2・3・4 後		2		○			4				2		兼6	オムニバス
	グローバル・コンサーンと平和の促進	1・2・3・4 後		2		○									兼12	隔年 オムニバス
	諸宗教における自然と人間 ‘GOD, MAN AND THE WORLD’ : INTERDISCIPLINARY PERSPECTIVES ON SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 後		2		○				1					兼5	オムニバス
	東アジアの諸問題とイエズス会教育 （上智・西江共同開講科目）	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	東アジアの諸問題とイエズス会教育 （上智・西江共同開講科目）	1・2・3・4 後		2				○	1						兼1	共同
	変わりゆく世界における舞台芸術	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	脳とホルモンの行動学	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	EXPERIENCING THE MIRACLE OF LIFE	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	
	共生社会創生論	1・2・3・4 前		2		○									兼6	オムニバス
	知としての身体を考える	1・2・3・4 後		2		○									兼10	オムニバス
	オリンピック・パラリンピック概論	1・2・3・4 前		2		○									兼9	オムニバス
	共生する社会と身体・スポーツ	1・2・3・4 前		2		○									兼10	オムニバス
	パラアスリートと考える障がい者ス ポーツと共生社会	1・2・3・4 前		2		○									兼4	オムニバス
	スポーツ心理学	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	レクリエーション・ニュースポーツ	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	救急法の理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	スキースポーツの理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼3	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	スクーバ・ダイビングの理論と実践	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	人間と運動・スポーツ	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	テニス初級	1・2・3・4 前		1					○						兼1
	テニス	1・2・3・4 後		1					○						兼1
	バスケットボール	1・2・3・4 前・後		1					○						兼1
	水泳	1・2・3・4 前		1					○						兼1
	サッカー	1・2・3・4 前・後		1					○						兼1
	フットサル	1・2・3・4 前・後		1					○						兼1
	卓球	1・2・3・4 後		1					○						兼1
	ソフトボール	1・2・3・4 前		1					○						兼2
	バレーボール初級	1・2・3・4 前		1					○						兼1
	バレーボール	1・2・3・4 前		1					○						兼1
	フライングディスク入門	1・2・3・4 前		1					○						兼1
	フライングディスク	1・2・3・4 前・後		1					○						兼2
	バドミントン入門	1・2・3・4 前		1					○						兼1
	バドミントン	1・2・3・4 前・後		1					○						兼2
	エアロビクス	1・2・3・4 前・後		1					○						兼1
	日本の身体技法の理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	ヨーガの理論と実践 ラージャヨーガから ヨーガの日本的展開	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	エアロビクス&トータルフィットネス	1・2・3・4 前		1					○						兼1
	身体知演習 ボディーワーク	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1
	身体知演習 ヨガ	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	ダンスパフォーマンス	1・2・3・4 前・後		1					○						兼2
	ソマティック (身心) 教育入門	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	自己変容のための神経生理学 I	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	自己変容のための神経生理学 II	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	食から見た、ウエルネスと身体	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	アダブテッド・スポーツ	1・2・3・4 後		1					○						兼1
	女性のヘルスクエアとフィットネス	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	バスケットボールの理論と実践	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	ダンスパフォーマンスの理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	健康づくりの科学	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	現代文化としてのスポーツ I	1・2・3・4 前		2			○								兼8 オムニバス
	現代文化としてのスポーツ II	1・2・3・4 後		2			○								兼9 オムニバス
	スポーツ人類学概論	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	思考と対話	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	情報リテラシー (情報検索)	1・2・3・4 後		2			○								兼1 メディア
	情報フルエンシー (マルチメディア表現方法)	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	実践英語ライティング -PRACTICAL ENGLISH WRITING-	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	文章構成法 I	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	文章構成法 II	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	文章構成法 III	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	文章構成法 IV	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	国語表現 I	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	国語表現 II	1・2・3・4 後		2			○								兼1 メディア
	国語表現 III	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	国語表現 IV	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	現代数学 A	1・2・3・4 前		2			○								兼1 メディア
	現代数学 B	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	論理の世界	1・2・3・4 後		2			○								兼1 メディア
	質問力を磨く	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	質問力で社会と向き合う	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	クリティカルシンキング実践	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	思考とコミュニケーション	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	知の探求	1・2・3・4 前		2			○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	哲学対話	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	データサイエンスと地域コミュニティ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報フルエンシー (Cプログラミング)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	情報フルエンシー (ウェブ開発のためのJavaScriptプログラミング)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報フルエンシー (予測分析)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	情報フルエンシー (Pythonプログラミング)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報リテラシー (データの収集・分析・利用)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	情報リテラシー (一般)	1・2・3・4 前・後		2		○								兼3	
	情報フルエンシー (システム情報処理)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	情報フルエンシー (プログラミング技法)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報フルエンシー (システムコンサルティング)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	情報フルエンシー (情報科学と人間)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報リテラシー (統計処理)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎	1・2・3・4 前・後		2		○								兼3	オムニバス
	人工知能基礎	1・2・3・4 前・後		2		○								兼2	
	データサイエンスと人工知能の実践	1・2・3・4 後		2		○								兼2	
	情報フルエンシー (HTMLとCSSを用いたWebページ作成技法)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	情報リテラシー (情報学)	1・2・3・4 前		2		○								兼2	オムニバス
	AI革命後の社会と仕事原理	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	データ活用と経営戦略 (データサイエンス基礎)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	アナリティクスによる事業戦略 (データサイエンス応用)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	プロセスマイニング実践講座	1・2・3・4 前		2		○								兼1	集中
	情報化社会と情報倫理	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	マルチメディア情報社会論	1・2・3・4 前		2		○								兼8	オムニバス
	情報と職業	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	アナリティクス入門：社会で活用されるアナリティクス	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ビジュアルデータアナリティクス入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	集中
	データ分析の基礎	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	データ活用と人間行動	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	データサイエンス概論：日常生活とデータサイエンス	1・2・3・4 前・後		2		○								兼2	
	数学入門Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	数学入門Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	データサイエンスのための数学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	社会統計学 -国際的な統計データの解釈-	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	AFRICAN RELIGION: AFRICAN TRADITIONAL BELIEFS AND RITES FROM ANCIENT EGYPT TO THE PRESENT	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	文化復興と民族: 北米先住民の現在	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	
	CULTURAL REVITALIZATION AND COMMUNITY BUILDING	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	メディア
	東南アジアに学ぶA	1・2・3・4 ①		2		○								兼1	メディア
	東南アジアに学ぶB	1・2・3・4 ③		2		○								兼1	メディア
	メディア・対話・レトリックⅠ	1・2・3・4 前		2		○								兼14	オムニバス
	メディア・対話・レトリックⅡ	1・2・3・4 後		2		○								兼15	オムニバス
	メディア・対話・レトリックⅢ	1・2・3・4 後		2		○		○						兼5	オムニバス
	ナショナルリズムと芸術	1・2・3・4 前		2		○								兼2	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	赤十字と国際活動	1・2・3・4 後		2		○									兼13 オムニバス
	SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 ①③		2		○									兼1
	JAPANESE POP CULTURE	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	経済と環境	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	途上国の人間開発	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	グローバルイゼーションの現状と思想	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	REIMAGINING EDUCATION TOWARDS SUSTAINABLE FUTURES	1・2・3・4 ④		2		○									兼1 メディア
	地球環境学 I	1・2・3・4 前		2		○									兼14 オムニバス メディア
	地球環境学 II	1・2・3・4 後		2		○									兼14 オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 I	1・2・3・4 前		2		○									兼11 オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 II	1・2・3・4 後		2		○									兼13 オムニバス メディア
	CONSERVATION	1・2・3・4 ②④		2		○									兼1 メディア
	ENVIRONMENTAL SCIENCE	1・2・3・4 ①③		2		○									兼1 メディア
	グローバルシティズンシップ：アフリカと共に考える未来	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1 メディア
	GLOBALIZATION AND ORGANIZATIONS	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	グローバル社会への招待	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	INTERNATIONAL POLITICS AND PEACEBUILDING 1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO CONFLICTS AND HUMAN SECURITY	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	持続可能な開発目標 (SDGs)を学ぶ	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス メディア
	ダイバーシティ&インクルージョン：みんなが幸せに暮らせる、課題解決型の社会を生み出す思考	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	DIVERSITY & INCLUSION: IDEAS TO BRING ABOUT EMPOWERING AND THRIVING SOCIETIES	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	現代アジア社会の理解	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	グローバルメディアと日本	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	FUTURE ORIENTED SYSTEMS THINKING FOR SUSTAINABILITY IN TURBULENT TIMES	1・2・3・4 ②		2		○									兼1
	グローバル企業のリスクとその対応	1・2・3・4 後		2		○									兼11 オムニバス
	ジェンダーの平等 国連・国際協力、世界と日本	1・2・3・4 ④		2		○									兼1 メディア
	GENDER EQUALITY, INTERNATIONAL COOPERATION, UN, GLOBAL COMMUNITIES AND JAPAN	1・2・3・4 ②		2		○									兼1 メディア
	HOW CHANGE HAPPENS: LEADERSHIP THAT HARNESSSES AND ADVANCES DIVERSITY & INCLUSION	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	DEBATE ON PEACEBUILDING	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	グローバル企業のビジネス展開 -THE DYNAMICS OF A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1・2・3・4 後		2		○									兼15 オムニバス
	アフリカにおける開発援助とビジネス展開	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス
	現代の証券市場と上場会社	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	企業のグローバル人材とリーダーシップ	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス
	グローバルリスクの時代 -目標達成のためのリスク管理と意思決定	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	国際開発金融機関入門	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	グローバル・ベンチャー	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	グローバル化と国際貢献	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教養としてのインテリジェンス-国際情報リテラシーの課題と方法-	1・2・3・4 後		2		○									兼4 オムニバス
	グローバル・リスク論	1・2・3・4 後		2		○									兼15 オムニバス
	グローバル化と言語の多様性	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	グローバル・ビジネスの現状と課題	1・2・3・4 後		2		○									兼10 オムニバス
	企業経営論 (エアライン)	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス
	企業と社会	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	経営社会と人間の行動	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	結婚の哲学	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	日本外交政策	1・2・3・4 後		2		○									兼6 オムニバス
	環境問題と科学技術	1・2・3・4 前		2		○									兼7 オムニバス
	ナノテクノロジー	1・2・3・4 後		2		○									兼2 オムニバス
	技術の歴史	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	社会的価値創出のためのプロジェクト形成論	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	MIXED ROOTS IDENTITY AND TRANSNATIONAL IDENTITY	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	HUMAN BEHAVIOUR AND SOCIAL ENVIRONMENT	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	APPROACHES TO INTERCULTURAL COMPETENCE	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	CULTURAL CONFLICTS AND INTERCULTURAL COMPETENCE	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	文化人類学 I a	1・2・3・4 前		2		○									兼2
	文化人類学 I b	1・2・3・4 後		2		○									兼2
	西洋美術史 I	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	西洋美術史 II	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	[漢文 I] 中国古典入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	[漢文 II] 中国の文学と文章	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	[漢文 III] 中国の詩文を読む	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	[漢文 IV] 中国文学と日本文学	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ヨーロッパ文学のアダプテーション	1・2・3・4 後		2		○									兼7 オムニバス
	LITERATURE IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	LAW IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	LAW IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A1	1・2・3・4 前		2		○								兼2	
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B1	1・2・3・4 後		2		○								兼2	
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	JAPANOLOGY (HISTORY) A1	1・2・3・4 前		2		○								兼2	
	JAPANOLOGY (HISTORY) B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	JAPANOLOGY (TOURISM) A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	JAPANOLOGY (TOURISM) B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	JAPANOLOGY (TOURISM) A2	1・2・3・4 前		2		○								兼2	
	JAPANOLOGY (TOURISM) B2	1・2・3・4 後		2		○								兼2	
	フランス文学入門Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	フランス文学入門Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ドイツ文学案内	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本史	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	東洋史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	西洋史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	東南アジア史入門Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	東南アジア史入門Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	音楽の歴史Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	隔年
	音楽の歴史Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	隔年
	国語の歴史Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国語の歴史Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国語の歴史Ⅲ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本辞書の歴史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本古典文学入門Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本古典文学入門Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本古典文学入門Ⅲ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本古典文学とその継承	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本近代文学入門Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本近代文学入門Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	マス・コミュニケーション論Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	マス・コミュニケーション論Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	INTRODUCTION TO ENGLISH LINGUISTICS	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	言語と人間Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼6	オムニバス
	言語と人間Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス
	生命倫理の世界	1・2・3・4 前		2		○								兼1	集中
	倫理学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	宗教学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	簿記会計論	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	会計情報論	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報リテラシー (社会調査と社会調査 データ分析への入門)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	INTRODUCTION TO WORLD ECONOMIC HISTORY	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	教養としての経済知識	1・2・3・4 前		2		○								兼2	メディア
	経済学	1・2・3・4 前		2		○								兼2	メディア
	国際高等教育論① (歴史と変遷)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際高等教育論② (国際化と国際協 力)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	ESG概論 I	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ESG概論 II	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	法律学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	経営学入門	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	
	マーケティング入門	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	メディア
	憲法	1・2・3・4 前・後		2		○								兼3	
	政治学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	心理学入門	1・2・3・4 前・後		2		○								兼2	
	心理学 I A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	心理学 I B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	立場の心理学1: マジョリティの特権 を考える	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	メディア
	立場の心理学2: 特権の自覚と行動を つなぐ	1・2・3・4 ②		2		○								兼1	
	メディアと情報の社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	社会学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	社会学	1・2・3・4 前・後		2		○								兼2	メディア
	社会学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	農村と農業の社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	教養としての社会保障	1・2・3・4 前		1		○								兼1	
	アフリカ研究入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	THE HISTORIOGRAPHY OF AFRICA	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	AFRICAN CULTURE	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代ドイツの政治	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	中東イスラーム研究入門 I	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	中東イスラーム研究入門 II	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	ロシア社会	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	COMPARATIVE CULTURAL STUDIES (DISCOVERING RUSSIAN CULTURE)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	地域研究の最前線	1・2・3・4 前		2		○								兼12	オムニバス
	イスパニア語圏の歴史と今	1・2・3・4 後		2		○								兼7	オムニバス
	南アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	東南アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	東アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	世界文化遺産 (ナンマトル遺跡)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	世界文化遺産 (アンコール・ワット遺跡)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	グローバル社会への招待	1・2・3・4 前		1		○								兼1	
	平和構築入門	1・2・3・4 ④		2		○								兼1	
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION THEORY AND PRACTICE	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際協力概論-日本による開発援助の 潮流と仕組み-	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION -OVERVIEW AND MANAGEMENT METHOD OF JAPAN' S	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際政治史入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際機構論	1・2・3・4 後		2		○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	発生生物学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	環境分子生物学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	入門毒物学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	MODERN CHEMISTRY IN LIFE AND SOCIETY	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	化学と生活Ⅲ-環境と生命-	1・2・3・4 前		2		○								兼3	オムニバス
	化学と生活Ⅰ-物質の理解-	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	化学と生活Ⅱ-身のまわりの化学-	1・2・3・4 後		2		○								兼2	オムニバス
	情報フルエンシー (電気回路・電子回路)	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	
	図形の世界	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	数の世界	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代物理学の世界A (ノーベル賞のインパクト)	1・2・3・4 前		2		○								兼3	オムニバス
	現代物理学の世界B (ノーベル賞とテクノロジー)	1・2・3・4 後		2		○								兼3	オムニバス
	自然科学史Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	自然科学史Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	宇宙の科学	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	
	身近な物理	1・2・3・4 後		2		○								兼4	オムニバス
	アフリカと開発：2030アジェンダと持続可能な社会づくり	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	開発教育：開発をめぐる課題を世界はどのように学ぶのか	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	自主研究 (グローバル課題研究)：人間の安全保障と平和構築	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	国際緊急人道支援と強靱な社会づくり	1・2・3・4 後		2		○								兼12	オムニバス
	留学準備講座	1・2・3・4 ①②③④		1		○								兼4	
	つくるⅠ (キャリア形成Ⅰ)	1・2・3・4 後		2		○								兼4	オムニバス
	LEARNING FROM THE INSIDERS: A FIELD STUDY COURSE ON THE SUSTAINABILITY OF RURAL SOCIETY	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	キャリアディベロップメント	1・2・3・4 前		2		○								兼3	
	キャリアディベロップメント(スキルアップ編)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	東南アジアに学ぶ (実践型プログラム) A	1・2・3・4 前		2				○						兼1	集中 メディア
	東南アジアに学ぶ (実践型プログラム) B	1・2・3・4 後		2				○						兼1	集中 メディア
	ジュネーブ国際機関集中研修プログラム	1・2・3・4 前		2				○						兼1	集中 メディア
	GLP グローバルリーダーシップ・プログラム	1・2・3・4 前		2				○						兼1	集中
	国連の役割と機能 (国連集中研修プログラム)	1・2・3・4 後		2				○						兼1	集中
	インド・サービスマーケティング・プログラム	1・2・3・4 前		4				○						兼1	集中
	AJCU-AP サービスラーニング・プログラム	1・2・3・4 前		4				○						兼1	集中 メディア
	エストニア・スタディーツアー：持続可能な社会構築に向けた教育の可能性	1・2・3・4 後		2				○						兼1	集中
	インドの社会経済・人間開発に学ぶ：南インドのケララ州を実例に	1・2・3・4 前		2				○						兼1	集中
	国際公務員をめざして (実務型国連集中研修)	1・2・3・4 前		2				○						兼1	集中 メディア
	ミャンマー・スタディーツアー	1・2・3・4 後		2				○						兼1	集中
	多文化共生社会のリーダーシップ	1・2・3・4 後		2				○						兼1	集中
	インド・サービスマーケティング・プログラム	1・2・3・4 後		2				○						兼1	集中
	アフリカに学ぶA	1・2・3・4 前		2				○						兼1	集中

教 育 課 程 等 の 概 要

(神学部神学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	アフリカに学ぶB	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ (中期)	1・2・3・4 前		6				○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ (短期)	1・2・3・4 前・後		2				○							兼4	集中
	経済同友会連携インターンシップ	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1	集中
	UDトラックスイターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1	集中
	身体のリベラルアーツ (教職課程履修 者用)	1・2・3・4 後		1				○							兼1	
	小計 (346科目)	—	0	677	0			—		6	1	0	1	0	兼472	
語 学 科 目	必修科目															
	ACADEMIC COMMUNICATION 1	1 前	2				○									兼23
	ACADEMIC COMMUNICATION 2	1 後	2				○									兼23
	小計 (2科目)	—	4	0	0			—		0	0	0	0	0	兼24	
合計 (727科目)				42	1288	0		—		9	2	1	2	0	兼677	
学位又は称号		学士 (神学)			学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
学科科目から94単位以上 (必修科目30単位、選択必修科目26単位、選択34単位、及び英語以外の同一言語科目4単位以上)、全学共通科目から26単位以上 (必修科目8単位、選択必修6単位 (キリスト教人間学2単位、高学年向け科目4単位以上)、選択科目12単位以上)、及び語学科目から必修科目4単位以上を修得し合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限: 半期28単位、年間49単位)								1 学年の学期区分				2 学期4クォーター				
								1 学期の授業期間				学期14週 クォーター7週				
								1 時限の授業時間				100分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	動物生理学	2 後		2		○			1						
	有機化学 (有機合成)	2 後		2		○			1						
	地球科学	2 後		2		○			1	1					
	情報通信工学の基礎	1・2 後		2		○								兼6	オムニバス
	熱力学	2・3 前		2		○								兼2	
	力学 (質点と剛体の力学)	2・3 前		2		○								兼1	
	代数学基礎	2・3 前		2		○								兼1	
	幾何学基礎	2・3 前		2		○								兼1	
	機械システム設計の基礎	2・3 前		2		○								兼3	合同
	マテリアルサイエンス	2・3 前		2		○								兼1	
	電磁気学 I	2・3 前		2		○								兼1	
	電気回路 II	2・3 前		2		○								兼1	
	工業熱力学	2・3 前		2		○								兼1	
	流体力学	2・3 前		2		○								兼1	
	量子力学入門	2・3 前		2		○								兼2	
	複素関数論	2・3 前		2		○								兼1	
	情報生物学の基礎	2・3 前		2		○								兼2	オムニバス
	数値計算法	2・3 前		2		○								兼1	
	デジタル回路	2・3 前		2		○								兼1	
	オペレーションズリサーチ	2・3 前		2		○								兼1	
	電子回路	2・3 前		2		○								兼1	
	アナログ電子回路	2・3 前		2		○								兼1	
	テンソル解析の基礎	2・3 後		2		○								兼1	
	コンピュータネットワーク	2・3 前		2		○								兼1	
	電磁気測定	2・3 後		2		○								兼1	
	集積回路の基礎	2・3 後		2		○								兼2	オムニバス
	代数学 I (群論)	2・3 後		2		○								兼1	
	幾何学 I (微分幾何)	2・3 後		2		○								兼1	
	電気電子工学の数値解析	2・3 後		2		○								兼1	隔年
	制御基礎	2・3 前		2		○								兼1	
	電磁気学 IIB	2・3 後		2		○								兼2	
	材料力学の基礎	2・3 後		2		○								兼1	
	機械力学	2・3 前		2		○								兼1	
	電子物性工学	2・3 後		2		○								兼1	隔年
	統計力学	2・3 後		2		○								兼1	
	フーリエ・ラプラス解析	2・3 後		2		○								兼2	
	データ構造とアルゴリズム	2・3 後		2		○								兼1	
	データベース	2・3 後		2		○								兼1	
	プログラミング言語論	2・3 後		2		○								兼1	
	デジタル信号処理	2・3 後		2		○								兼1	
	半導体物理の基礎	3 前		2		○								兼1	
	知的財産権	2・3・4 前		2		○								兼1	
	機器分析化学	2 前		2		○				2					メディア
	電気通信法規	3・4 後		2		○								兼1	
	SCIENCE, TECHNOLOGY AND ENVIRONMENT	2 後		2		○			1	1				兼3	オムニバス
	TECHNOLOGY & INNOVATION - CAREER DEVELOPMENT -	2・3・4 前		2		○				1				兼3	
	小計 (73科目)	—	0	144	0	—	—	—	17	2	0	0	0	兼52	
学科 コア 科目	必修科目														
	物質生命理工学 (物理)	1 後	2			○			1	1					
	物質生命理工学 (化学)	1 後	2			○				2					
	物質生命理工学 (生物)	1 後	2			○			2	2					オムニバス
	物質生命理工学実験A	1 後	1			○		○	5	4				兼1	
	物質生命理工学実験B	1・2 前	1					○	3	1		1			
	物質生命理工学実験C	1・2 ③	1					○	2	2					
	ゼミナール I	1・2・3・4 前	1					○	23	6		2		兼1	
	ゼミナール II	1・2・3・4 後	1					○	23	6		2		兼1	
卒業研究 I	1・2・3・4 前後	1					○	23	6		2				

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	卒業研究Ⅱ	1・2・3・4 前後	1					○		23	6		2		
α 群	化学実験Ⅰ	1・2 ④		1				○		2	1		1		
	生物科学実験Ⅰ	1・2 ④		1				○			2				
β 群	化学実験Ⅱ	1・2・3 ①		1				○		3					兼2
	物理学実験演習Ⅱ	前		1				○			3				
	生物科学実験Ⅱ	1・2・3 ①		1				○		2	3				
	物理化学実験	1・2・3 ②		1				○		3					合同
γ 群	生物科学実験Ⅲ	1・2・3 ②		1				○		2	1				兼2
	物理学実験演習Ⅲ	後		1				○							兼4 合同
科目 自由	リサーチトライアル春	1・2・3・4 前			1			○		12	2		1		
	リサーチトライアル秋	1・2・3・4 後			1			○		1					
	小計 (20科目)	—	13	8	2	—			23	6	0	2	0	兼5	
学 科 専 門 科 目	分子構造化学	3・4 後		2				○		1					
	医薬品化学 (生体分子と薬の有機化学)	3・4 前		2				○		1					
	錯体化学	3・4 前		2				○				1			
	分離分析化学	3・4 前		2				○		1					隔年
	神経情報薬理学	後		2				○							兼1
	神経行動学	3・4 前		2				○		1					
	細胞神経科学	後		2				○							兼1
	植物バイオテクノロジー	3・4 前		2				○		1					
	物質科学入門	前		2				○							兼1
	レーザー科学	3・4 前		2				○		1					
	電気分析化学	3・4 ②		2				○			1				
	原子衝突物理学	3・4 後		2				○		1					
	量子力学1	3・4 後		2				○							兼1
	量子力学2	3・4 前		2				○							兼1
	天然有機化学	3・4 前		2				○		1					メディア
	環境分析化学	3・4 前		2				○		1	1				
	グリーンケミストリー	3・4 前		2				○		1					
	生物無機化学	3・4 後		2				○		1					
	発生生物学	3・4 後		2				○		1					
	生物形態学	3・4 前		2				○		1					
	進化系統学	3・4 後		2				○			1				
	大気化学	3・4 後		2				○			1				
	放射線科学	3・4 前		2				○		1					
	燃焼科学と環境	3・4 後		2				○		1					
	理論分子設計	3・4 前		2				○		1					
	生物物理学	3・4 後		2				○			1				
	無機材料化学	3・4 後		2				○		1					
	高分子化学	3・4 ③		2				○		2					
	ソフトマテリアル	3・4 ④		2				○		1					
	触媒反応化学	3・4 後		2				○		1					
	植物生理学	3・4 後		2				○		1	1				
	生体物質とエネルギー	3・4 前		2				○		1					
	細胞機能工学	3・4 後		2				○		1	1				
	生体医工学	3・4 前		2				○							兼1 隔年
	機能性高分子	3・4 前		2				○		1					
	エネルギーと材料	3・4 後		2				○			1				兼1
	固体表面科学	3・4 前		2				○			1				
	金属・電子材料	3・4 後		2				○					1		
ATOMIC AND MOLECULAR SPECTROSCOPY	1・2・3・4 後		2				○		1					隔年	
TOPICS OF GREEN SCIENCE 1	1・2・3・4 前		2				○			1					
TOPICS OF GREEN SCIENCE 2	1・2・3・4 後		2				○			1					
SYNTHETIC ORGANIC CHEMISTRY	1・2・3・4 後		2				○		1						
ENVIRONMENTAL SCIENCE	1・2・3・4 ①③		2				○							兼1	
SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 ①③		2				○							兼1	
	小計 (38科目)	—	0	76	0	—			22	6	0	2	0	兼8	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	必修科目 キリスト教人間学「他者のために、他者とともに」 身体のリベラルアーツ 思考と表現 データサイエンス概論 課題・視座・立場性を考える	1 ①②③④	1			○									兼12
		1 ①②③④	1				○								兼9
		1 前・後	2				○								兼7
		1 前・後	2				○								兼5
		1 前・後	2				○			1					兼11
		—	8	0	0	—			1	0	0	0	0		兼28
選択必修科目	キリスト教人間学 キリスト教人間学 (キリスト教と人権) キリスト教人間学 (環境教育) キリスト教人間学 (倫理学入門) STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: PHILOSOPHY OF THE HUMAN PERSON STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: THE LIGHT OF CHRIST: AN INTRODUCTION TO CATHOLICISM キリスト教人間学 (聖書と戦争) キリスト教人間学 (旧約聖書入門) キリスト教人間学 (福音としてのキリスト教) キリスト教人間学 (新約聖書入門) キリスト教人間学 (死生学入門) キリスト教人間学 (キリスト教と哲学) キリスト教人間学 (哲学の根本問題) STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: PHILOSOPHY OF RELIGIOUS LANGUAGE キリスト教人間学 (哲学的人間論) キリスト教人間学 (かかわりの人間学) キリスト教人間学 (現代倫理の諸問題)	2 前・後		2		○									兼1
		2 前・後		2		○									兼1
		2 前		2		○									兼1
		2 前		2		○									兼1
		2 前・後		2		○									兼1
		2 前・後		2		○									兼1
		2 前・後		2		○									兼1
		2 前		2		○									兼1
		2 前		2		○									兼1
		2 後		2		○									兼1
		2 後		2		○									兼1
		2 後		2		○									兼1
		2 後		2		○									兼1
		2 後		2		○									兼1
		—	0	32	0	—			0	0	0	0	0		兼15
		高学年向け科目	カトリック社会教説とキリスト教ヒューマニズム イエズス会教育とIGNATIAN LEADERSHIP養成 I イエズス会教育とIGNATIAN LEADERSHIP養成 II グローバルゼーションの倫理学 ケアの臨床哲学 東西宗教芸術の伝統と今日的な宗教的霊性 宗教的人間論 科学技術の哲学 比較宗教史 宗教的共生論 CATHOLIC SOCIAL THOUGHT AND THE CATHOLIC CHURCH TODAY 死生学の展開 ヒューマンケアサイエンス 交渉学入門 情報フルエンシー (Pythonによるアルゴリズムと問題解決の技法) ビジネスデータ分析理論 (データサイエンス基礎) 現代社会における情報 データ加工入門 データサイエンス実践: 実践型データ分析演習 データエンジニアリング AIのセオリーから (ビジネス) プロダクションへ 地理的境界と人々の暮らし	3・4 前		2		○							
3・4 前				2		○									兼1
3・4 後				2		○									兼1
3・4 前				2		○									兼1
3・4 後				2		○									兼7
3・4 前				2		○									兼3
3・4 後				2		○									兼1
3・4 前				2		○									兼1
3・4 前				2		○									兼1
3・4 後				2		○									兼1
3・4 前・後				2		○									兼1
3・4 前・後				2		○									兼1
3・4 前				2		○				1	1				兼10
3・4 前				2		○									兼1
3・4 前				2		○									兼1
3・4 後				2		○									兼1
3・4 後				2		○									兼1
3・4 前				2		○									兼2
3・4 後				2		○									兼1
3・4 前・後				2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	出産と子育てに関する情報と意思決定	3・4 後		2		○									兼2	オムニバス
	ポスト・コロナ危機の経済	3・4 前		2		○									兼4	オムニバス メディア
	資本市場の役割と証券投資	3・4 前		2		○									兼3	オムニバス
	多文化共生社会におけるESD・市民教育	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	地球環境学への招待	3・4 前		2		○									兼11	オムニバス
	SDGs実現における森林の役割	3・4 後		2		○									兼1	集中
	平和構築とメディア	3・4 前		2		○									兼1	
	SDG s とグローバルリスク	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	ものづくり企業論-グローバル企業の実例 に学ぶ-	3・4 前		2		○									兼1	
	SDG s の課題と可能性：企業と投資家の視 点から	3・4 前		2		○									兼3	オムニバス
	国際社会と法	3・4 後		2		○									兼1	
	科学技術と国際関係	3・4 前		2		○									兼1	メディア
	FOREIGN AND SECURITY POLICY OF JAPAN	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	総合的戦略論の展開	3・4 後		2		○									兼5	オムニバス
	ジェンダーと法	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス メディア
	グローバル・ビジネスのフロンティア	3・4 前		2		○									兼5	集中
	HOSPITALITY BUSINESS IN ASIA	3・4 後		2		○									兼1	集中
	GENERAL MANAGEMENT IN ACTION	3・4 後		2		○									兼1	集中
	大学マネジメント	3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	社会の中の数学	3・4 後		2		○									兼5	オムニバス
	生命倫理の諸問題と現代社会	3・4 前		2		○									兼9	
	生と死の哲学	3・4 前・後		2		○									兼1	
	国家と主権：歴史、現代、未来	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	医療における対人関係	3・4 後		1		○									兼1	集中
	経済法・社会法の現代的課題	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	科学技術の倫理	3・4 前		2		○									兼1	
	持続可能な社会に向けたものづくり：自動 車技術	3・4 ④		2		○									兼3	オムニバス
	現代日本の生活変容	3・4 ④		1		○									兼1	
	現代社会と福祉的課題	3・4 ②		2		○									兼6	オムニバス
	アメリカ小説と村上春樹	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	UNDERSTANDING PICTUREBOOKS	3・4 前		2		○									兼1	
	シェイクスピアのソネット	3・4 後		2		○									兼1	
	歴史学Ⅰ（日本史）	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅱ（東洋史）	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅲ（西洋史）	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	JAPANESE AMERICAN HISTORY	3・4 後		2		○									兼1	
	宗教思想の伝統と現代	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	応用倫理の世界	3・4 前		2		○									兼1	
	ケアと依存——自助グループの世界観	3・4 前・後		2		○									兼1	
	開発経済学	3・4 後		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論（理論と課題）	3・4 前		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論（事例研究）	3・4 後		2		○									兼1	
	KEY GLOBAL ECONOMIES	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	心理学の最前線Ⅰ	3・4 前		2		○									兼1	隔年
	心理学の最前線Ⅱ	3・4 前		2		○									兼4	集中 隔年
	社会学のフロンティア	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス メディア
	音声資料から読み解く日本近代史	3・4 前		2		○									兼1	
	4大陸に広がるポルトガル語圏社会で生き る・働く	3・4 ④		2		○									兼9	オムニバス
	イスパニア語圏で暮らす・働く・活動する	3・4 後		2		○									兼8	オムニバス
	つくるⅡ（キャリア形成Ⅱ）	3・4 後		2		○									兼1	共同

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	キャリアデザイン演習	3・4 前・後		2			○								兼2	
	キャリアデザイン演習1 (外国人留学生対象)	3・4 前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン演習2 (外国人留学生対象)	3・4 後		2			○								兼1	
	キャリアワークショップ「問題解決のための思考法」	3・4 前・後		2		○									兼2	共同 メディア
	グローバルインターンシップ (長期)	3・4 前・後		6				○							兼2	
	グローバルインターンシップ (短期・高学年)	3・4 前・後		2				○							兼4	
	グローバルインターンシップ (中期・高学年)	3・4 前		6				○							兼1	
	UDトラックスインターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS- (高学年)	3・4 前・後		2				○							兼1	
	小計 (80科目)	—	0	165	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼185		
選 択 科 目	上智大学 (ソフィア) のルーツとアイデンティティ	1・2・3・4 後		2		○									兼6	オムニバス
	グローバル・コンサーンと平和の促進	1・2・3・4 後		2		○									兼12	隔年 オムニバス
	諸宗教における自然と人間 'GOD, MAN AND THE WORLD': INTERDISCIPLINARY PERSPECTIVES ON SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 後 1・2・3・4 前		2 2		○ ○									兼5 兼1	オムニバス
	東アジアの諸問題とイエズス会教育 (上智・西江共同開講科目)	1・2・3・4 後		2				○							兼1	共同
	変わりゆく世界における舞台芸術	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	脳とホルモンの行動学	1・2・3・4 前		2		○			1							
	EXPERIENCING THE MIRACLE OF LIFE	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	
	共生社会創生論	1・2・3・4 前		2		○									兼6	オムニバス
	知としての身体を考える	1・2・3・4 後		2		○									兼10	オムニバス
	オリンピック・パラリンピック概論	1・2・3・4 前		2		○									兼9	オムニバス
	共生する社会と身体・スポーツ	1・2・3・4 前		2		○									兼10	オムニバス
	パラアスリートと考える障がい者スポーツと共生社会	1・2・3・4 前		2		○									兼4	オムニバス
	スポーツ心理学	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	レクリエーション・ニュースポーツ	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	救急法の理論と実践	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	スキースポーツの理論と実践	1・2・3・4 後		2			○								兼3	オムニバス
	スクーバ・ダイビングの理論と実践	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	人間と運動・スポーツ	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	テニス初級	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	テニス	1・2・3・4 後		1				○							兼1	
	バスケットボール	1・2・3・4 前・後		1				○							兼1	
	水泳	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	サッカー	1・2・3・4 前・後		1				○							兼1	
	フットサル	1・2・3・4 前・後		1				○							兼1	
	卓球	1・2・3・4 後		1				○							兼1	
	ソフトボール	1・2・3・4 前		1				○							兼2	
	バレーボール初級	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	バレーボール	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	フライングディスク入門	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	フライングディスク	1・2・3・4 前・後		1				○							兼2	
	バドミントン入門	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	バドミントン	1・2・3・4 前・後		1				○							兼2	
	エアロビクス	1・2・3・4 前・後		1				○							兼1	
	日本の身体技法の理論と実践	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	ヨーガの理論と実践 ラージャヨーガから ヨーガの日本的展開	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	エアロビクス&トータルフィットネス	1・2・3・4 前		1				○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	身体知演習 ボディーワーク	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1	
	身体知演習 ヨガ	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	ダンスパフォーマンス	1・2・3・4 前・後		1						○					兼2	
	ソマティック (身心) 教育入門	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	自己変容のための神経生理学 I	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	自己変容のための神経生理学 II	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	食から見た、ウェルネスと身体	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	アダプテッド・スポーツ	1・2・3・4 後		1						○					兼1	
	女性のヘルスケアとフィットネス	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	バスケットボールの理論と実践	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	ダンスパフォーマンスの理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	健康づくりの科学	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	現代文化としてのスポーツ I	1・2・3・4 前		2			○								兼8	オムニバス
	現代文化としてのスポーツ II	1・2・3・4 後		2			○								兼9	オムニバス
	スポーツ人類学概論	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	思考と対話	1・2・3・4 後		2			○								兼1	メディア
	情報リテラシー (情報検索)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (マルチメディア表現方法)	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	実践英語ライティング -PRACTICAL ENGLISH WRITING-	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	文章構成法 I	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	文章構成法 II	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	文章構成法 III	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	文章構成法 IV	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	国語表現 I	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	国語表現 II	1・2・3・4 後		2			○								兼1	メディア
	国語表現 III	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	国語表現 IV	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	現代数学 A	1・2・3・4 前		2			○								兼1	メディア
	現代数学 B	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	論理の世界	1・2・3・4 後		2			○								兼1	メディア
	質問力を磨く	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	質問力で社会と向き合う	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	クリティカルシンキング実践	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	思考とコミュニケーション	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	知の探求	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	哲学対話	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	データサイエンスと地域コミュニティ	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (Cプログラミング)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (ウェブ開発のためのJavaScriptプログラミング)	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (予測分析)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (Pythonプログラミング)	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	情報リテラシー (データの収集・分析・利用)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	情報リテラシー (一般)	1・2・3・4 前・後		2			○								兼3	
	情報フルエンシー (システム情報処理)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (プログラミング技法)	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (システムコンサルティング)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	情報フルエンシー (情報科学と人間)	1・2・3・4 前		2			○								兼1	
	情報リテラシー (統計処理)	1・2・3・4 後		2			○								兼1	
	データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎	1・2・3・4 前・後		2			○								兼3	オムニバス
	人工知能基礎	1・2・3・4 前・後		2			○								兼2	
	データサイエンスと人工知能の実践	1・2・3・4 後		2			○								兼2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	情報フルエンシー (HTMLとCSSを用いたWeb ページ作成技法)	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	情報リテラシー (情報学)	1・2・3・4 前		2		○									兼2	オムニバス
	AI革命後の社会と仕事原理	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	データ活用と経営戦略 (データサイエンス 基礎)	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	アナリティクスによる事業戦略 (データ サイエンス応用)	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	プロセスマイニング実践講座	1・2・3・4 前		2		○									兼1	集中
	情報化社会と情報倫理	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	マルチメディア情報社会論	1・2・3・4 前		2		○									兼8	オムニバス
	情報と職業	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	アナリティクス入門：社会で活用されるア ナリティクス	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	ビジュアルデータアナリティクス入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1	集中
	データ分析の基礎	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	データ活用と人間行動	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	データサイエンス概論：日常生活とデータ サイエンス	1・2・3・4 前・後		2		○									兼2	
	数学入門 I	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	数学入門 II	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	データサイエンスのための数学	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	社会統計学 -国際的な統計データの解釈-	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	AFRICAN RELIGION: AFRICAN TRADITIONAL BELIEFS AND RITES FROM ANCIENT EGYPT TO THE PRESENT	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	文化復興と民族：北米先住民の現在	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	
	CULTURAL REVITALIZATION AND COMMUNITY BUILDING	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	メディア
	東南アジアに学ぶA	1・2・3・4 ①		2		○									兼1	メディア
	東南アジアに学ぶB	1・2・3・4 ③		2		○									兼1	メディア
	メディア・対話・レトリック I	1・2・3・4 前		2		○									兼14	オムニバス
	メディア・対話・レトリック II	1・2・3・4 後		2		○									兼15	オムニバス
	メディア・対話・レトリック III	1・2・3・4 後		2		○		○							兼5	オムニバス
	ナショナリズムと芸術	1・2・3・4 前		2		○									兼2	オムニバス
	赤十字と国際活動	1・2・3・4 後		2		○									兼13	オムニバス
	JAPANESE POP CULTURE	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	経済と環境	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	途上国の人間開発	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	グローバルイゼーションの現状と思想	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	REIMAGINING EDUCATION TOWARDS SUSTAINABLE FUTURES	1・2・3・4 ④		2		○									兼1	メディア
	地球環境学 I	1・2・3・4 前		2		○									兼14	オムニバス メディア
	地球環境学 II	1・2・3・4 後		2		○									兼14	オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 I	1・2・3・4 前		2		○				1					兼11	オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 II	1・2・3・4 後		2		○				1					兼13	オムニバス メディア
	CONSERVATION	1・2・3・4 ②④		2		○									兼1	メディア
	グローバルシティズンシップ：アフリカと 共に考える未来	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	メディア
	GLOBALIZATION AND ORGANIZATIONS	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	グローバル社会への招待	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	INTERNATIONAL POLITICS AND PEACEBUILDING 1	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	INTRODUCTION TO CONFLICTS AND HUMAN SECURITY	1・2・3・4 前		2		○									兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	持続可能な開発目標 (SDGs)を学ぶ	1・2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス メディア
	ダイバーシティ&インクルージョン：みんなが幸せに暮らせる、課題解決型の社会を生み出す思考	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	DIVERSITY & INCLUSION: IDEAS TO BRING ABOUT EMPOWERING AND THRIVING SOCIETIES	1・2・3・4 前		2		○									兼1	メディア
	現代アジア社会の理解	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	グローバルメディアと日本	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	FUTURE ORIENTED SYSTEMS THINKING FOR SUSTAINABILITY IN TURBULENT TIMES	1・2・3・4 ②		2		○									兼1	
	グローバル企業のリスクとその対応	1・2・3・4 後		2		○									兼11	オムニバス
	ジェンダーの平等 国連・国際協力、世界と日本	1・2・3・4 ④		2		○									兼1	メディア
	GENDER EQUALITY, INTERNATIONAL COOPERATION, UN, GLOBAL COMMUNITIES AND JAPAN	1・2・3・4 ②		2		○									兼1	メディア
	HOW CHANGE HAPPENS: LEADERSHIP THAT HARNESSES AND ADVANCES DIVERSITY & INCLUSION	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	DEBATE ON PEACEBUILDING	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	グローバル企業のビジネス展開 -THE DYNAMICS OF A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1・2・3・4 後		2		○									兼15	オムニバス
	アフリカにおける開発援助とビジネス展開	1・2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	現代の証券市場と上場会社	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	企業のグローバル人材とリーダーシップ	1・2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	グローバルリスクの時代 -目標達成のためのリスク管理と意思決定	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	国際開発金融機関入門	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	グローバル・ベンチャー	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	グローバル化と国際貢献	1・2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	教養としてのインテリジェンス-国際情報リテラシーの課題と方法-	1・2・3・4 後		2		○									兼4	オムニバス
	グローバル・リスク論	1・2・3・4 後		2		○									兼15	オムニバス
	グローバル化と言語の多様性	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	グローバル・ビジネスの現状と課題	1・2・3・4 後		2		○									兼10	オムニバス
	企業経営論 (エアライン)	1・2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	企業と社会	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	経営社会と人間の行動	1・2・3・4 前		2		○									兼1	メディア
	結婚の哲学	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	日本外交政策	1・2・3・4 後		2		○									兼6	オムニバス
	環境問題と科学技術	1・2・3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	ナノテクノロジー	1・2・3・4 後		2		○									兼2	オムニバス
	技術の歴史	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	社会的価値創出のためのプロジェクト形成論	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	MIXED ROOTS IDENTITY AND TRANSNATIONAL IDENTITY	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	HUMAN BEHAVIOUR AND SOCIAL ENVIRONMENT	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	APPROACHES TO INTERCULTURAL COMPETENCE	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	CULTURAL CONFLICTS AND INTERCULTURAL COMPETENCE	1・2・3・4 前		2		○									兼1	メディア
	文化人類学 I a	1・2・3・4 前		2		○									兼2	
	文化人類学 I b	1・2・3・4 後		2		○									兼2	
	西洋美術史 I	1・2・3・4 前		2		○									兼1	メディア
	西洋美術史 II	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	[漢文 I] 中国古典入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	[漢文 II] 中国の文学と文章	1・2・3・4 前		2		○									兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	[漢文Ⅲ] 中国の詩文を読む	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	[漢文Ⅳ] 中国文学と日本文学	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ヨーロッパ文学のアダプテーション	1・2・3・4 後		2		○									兼7 オムニバス
	LITERATURE IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	LAW IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	LAW IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A1	1・2・3・4 前		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B1	1・2・3・4 後		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B2	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (HISTORY) A1	1・2・3・4 前		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (HISTORY) B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) A1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) B1	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) A2	1・2・3・4 前		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (TOURISM) B2	1・2・3・4 後		2		○									兼2
	フランス文学入門 I	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	フランス文学入門 II	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ドイツ文学案内	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	日本史	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	東洋史	1・2・3・4 前		2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	西洋史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	東南アジア史入門Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	東南アジア史入門Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	音楽の歴史Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	隔年
	音楽の歴史Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	隔年
	国語の歴史Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国語の歴史Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国語の歴史Ⅲ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本辞書の歴史	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本古典文学入門Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本古典文学入門Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本古典文学入門Ⅲ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本古典文学とその継承	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本近代文学入門Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	日本近代文学入門Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	マス・コミュニケーション論Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	マス・コミュニケーション論Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	INTRODUCTION TO ENGLISH LINGUISTICS	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	言語と人間Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼6	オムニバス
	言語と人間Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス
	生命倫理の世界	1・2・3・4 前		2		○								兼1	集中
	倫理学入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	宗教学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	簿記会計論	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	会計情報論	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	情報リテラシー (社会調査と社会調査データ分析への入門)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	INTRODUCTION TO WORLD ECONOMIC HISTORY	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	教養としての経済知識	1・2・3・4 前		2		○								兼2	メディア
	経済学	1・2・3・4 前		2		○								兼2	メディア
	国際高等教育論① (歴史と変遷)	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	国際高等教育論② (国際化と国際協力)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	ESG概論Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	ESG概論Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	法律学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	経営学入門	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	
	マーケティング入門	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	メディア
	憲法	1・2・3・4 前・後		2		○								兼3	
	政治学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	心理学入門	1・2・3・4 前・後		2		○								兼2	
	心理学ⅠA	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	心理学ⅠB	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	立場の心理学1: マジョリティの特権を考える	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1	メディア
	立場の心理学2: 特権の自覚と行動をつなぐ	1・2・3・4 ②		2		○								兼1	
	メディアと情報の社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	社会学A	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	社会学	1・2・3・4 前・後		2		○								兼2	メディア
	社会学B	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	農村と農業の社会学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	教養としての社会保障	1・2・3・4 前		1		○								兼1	
	アフリカ研究入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	THE HISTORIOGRAPHY OF AFRICA	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	AFRICAN CULTURE	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	現代ドイツの政治	1・2・3・4 後		2		○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中東イスラーム研究入門Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	中東イスラーム研究入門Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ロシア社会	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	COMPARATIVE CULTURAL STUDIES (DISCOVERING RUSSIAN CULTURE)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	地域研究の最前線	1・2・3・4 前		2		○									兼12 オムニバス
	イスパニア語圏の歴史と今	1・2・3・4 後		2		○									兼7 オムニバス
	南アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	東南アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	東アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	世界文化遺産(ナンマトル遺跡)	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	世界文化遺産(アンコール・ワット遺跡)	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	グローバル社会への招待	1・2・3・4 前		1		○									兼1
	平和構築入門	1・2・3・4 ④		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION THEORY AND PRACTICE	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	国際協力概論-日本による開発援助の潮流と仕組み-	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION -OVERVIEW AND MANAGEMENT	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	METHOD OF JAPAN' S INTERNATIONAL 国際政治史入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	国際機構論	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	発生生物学入門	1・2・3・4 前		2		○			1						
	環境分子生物学入門	1・2・3・4 前		2		○			1						
	入門毒物学	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	MODERN CHEMISTRY IN LIFE AND SOCIETY	1・2・3・4 後		2		○			1						
	化学と生活Ⅲ-環境と生命-	1・2・3・4 前		2		○			2	1					オムニバス
	化学と生活Ⅰ-物質の理解-	1・2・3・4 前		2		○			1						
	化学と生活Ⅱ-身のまわりの化学-	1・2・3・4 後		2		○			2						オムニバス
	情報フルエンシー(電気回路・電子回路)	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1
	図形の世界	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	数の世界	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	現代物理学の世界A(ノーベル賞のインパクト)	1・2・3・4 前		2		○			1						兼2 オムニバス
	現代物理学の世界B(ノーベル賞とテクノロジー)	1・2・3・4 後		2		○			1						兼2 オムニバス
	自然科学史Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	自然科学史Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	宇宙の科学	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1
	身近な物理	1・2・3・4 後		2		○									兼4 オムニバス
	アフリカと開発:2030アジェンダと持続可能な社会づくり	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	開発教育:開発をめぐる課題を世界はどのように学ぶのか	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	自主研究(グローバル課題研究):人間の安全保障と平和構築	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	国際緊急人道支援と強靱な社会づくり	1・2・3・4 後		2		○									兼12 オムニバス
	留学準備講座	1・2・3・4 ①②③④		1		○									兼4
	つくるⅠ(キャリア形成Ⅰ)	1・2・3・4 後		2		○			1						兼3 オムニバス
	LEARNING FROM THE INSIDERS: A FIELD STUDY COURSE ON THE SUSTAINABILITY OF RURAL SOCIETY	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	キャリアディベロップメント	1・2・3・4 前		2		○									兼3
	キャリアディベロップメント(スキルアップ編)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	東南アジアに学ぶ(実践型プログラム) A	1・2・3・4 前		2											兼1 集中メディア
	東南アジアに学ぶ(実践型プログラム) B	1・2・3・4 後		2											兼1 集中メディア

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	ジュネーブ国際機関集中研修プログラム	1・2・3・4 前		2				○							兼1	集中メディア
	GLP グローバルリーダーシップ・プログラム	1・2・3・4 前		2				○							兼1	集中
	国連の役割と機能 (国連集中研修プログラム)	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	インド・サービスラーニング・プログラム	1・2・3・4 前		4				○							兼1	集中
	AJCU-AP サービスラーニング・プログラム	1・2・3・4 前		4				○							兼1	集中メディア
	エストニア・スタディーツアー：持続可能な社会構築に向けた教育の可能性	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	インドの社会経済・人間開発に学ぶ：南インドのケララ州を実例に	1・2・3・4 前		2				○							兼1	集中
	国際公務員をめざして (実務型国連集中研修)	1・2・3・4 前		2				○							兼1	集中メディア
	ミャンマー・スタディーツアー	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	多文化共生社会のリーダーシップ	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	インド・サービスラーニング・プログラム	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	アフリカに学ぶA	1・2・3・4 前		2				○							兼1	集中
	アフリカに学ぶB	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ (中期)	1・2・3・4 前		6				○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ (短期)	1・2・3・4 前・後		2				○							兼4	集中
	経済同友会連携インターンシップ	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1	集中
	UDトラックスインターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1	集中
	身体のリベラルアーツ (教職課程履修者用)	1・2・3・4 後		1				○							兼1	
	DEVELOPMENT OF JAPANESE CIVILIZATION 1	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	DEVELOPMENT OF JAPANESE CIVILIZATION 2	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	HISTORY OF CHINESE CIVILIZATION	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO SOCIOLOGY	1・2・3・4 前		4			○								兼1	メディア
	INTRODUCTION TO JAPANESE SOCIETY	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	THE GOOD LIFE: FROM SELF TO SOCIETY	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO CULTURAL AND SOCIAL ANTHROPOLOGY	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	ANTHROPOLOGY OF JAPAN	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	NATURE AND CULTURE	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO ART HISTORY / VISUAL CULTURE 1	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO ART HISTORY / VISUAL CULTURE 2	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	LITERARY GENRES	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	REPRESENTATIONS OF JAPAN IN POPULAR CULTURE AND LITERATURE	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO JAPANESE LITERATURE	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO PHILOSOPHY	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	FUNDAMENTALS OF RELIGION	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	PRINCIPLES OF MICROECONOMICS	1・2・3・4 前・後		4			○								兼1	
	PRINCIPLES OF MACROECONOMICS	1・2・3・4 前・後		4			○								兼1	
	THEORIES AND THEMES OF CONTEMPORARY POLITICS	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL RELATIONS	1・2・3・4 前		4			○								兼1	
	INTRODUCTION TO COMPARATIVE POLITICS	1・2・3・4 後		4			○								兼1	
	CONTROVERSIES IN GLOBALIZATION	1・2・3・4 前		4			○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部物質生命理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	COMPUTER STUDIES 1	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1
	COMPUTER STUDIES 2	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1
	ENVIRONMENTAL ISSUES 1	1・2・3・4 後		4		○									兼1
	GEOGRAPHY	1・2・3・4 前		4		○									兼1
	COLLEGE MATHEMATICS	1・2・3・4 前		4		○									兼1
	MATHEMATICS AND STATISTICS FOR BUSINESS AND ECONOMICS	1・2・3・4 前・後		4		○									兼1
	HUMAN ECOLOGY: RIVERS 1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	HUMAN ECOLOGY: RIVERS 2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
小計 (374科目)		—	0	785	0	—			11	1	0	0	0	兼497	
語学科目	必修科目	ACADEMIC COMMUNICATION 1	1 前	2		○									兼26
		ACADEMIC COMMUNICATION 2	1 後	2		○									兼26
		小計 (2科目)		—	4	0	0	—			0	0	0	0	0
合計 (635科目)		—	41	1232	13	—			24	8	0	2	0	兼838	
学位又は称号		学士 (理工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
学科科目から94単位以上、全学共通科目から26単位以上 (必修科目8単位、選択必修6単位 (キリスト教人間学2単位、高学年向け科目4単位以上)、選択科目12単位以上)、及び語学科目から必修科目4単位以上を修得し合計124単位以上を修得すること。 なお、学科科目については、①理工共通科目 I 群から必修科目16単位、選択必修2単位以上、②理工共通科目 II 群から選択必修科目6単位以上、選択科目22単位以上、③学科コア科目から必修科目13単位、選択必修科目3単位 (α群、β群、γ群から各1単位) 以上、④学科専門科目から選択科目32単位以上の94単位以上を修得すること。機能創造理工学科及び情報理工学科の学科専門科目から6単位までを算入できる。 (履修科目の登録の上限: 半期27単位、年間49単位)							1 学年の学期区分		2学期4クォーター						
							1 学期の授業期間		学期14週 クォーター7週						
							1 時限の授業時間		100分						

教育課程等の概要																			
(理工学部機能創造理工学科)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
学 科 科 目	理 工 共 通 科 目 I 群	必修科目	理工学概説(機能創造理工)	1	前	2			○			7	1				兼2	オムニバス	
		数学A I (線型代数)	1	前	2			○									兼1		
		数学B I (微分積分)	1	前	2			○				1					兼1		
		数学演習I	1	前	1			○				1					兼1	オムニバス	
		基礎物理学	1	前	2			○				2	1						
		基礎化学	1	前	2			○										兼1	
		基礎生物学	1	前	2			○										兼2	
		基礎情報学	1	後	2			○										兼2	
		理工基礎実験・演習	1	前	1				※	○			6	2			1	兼17	合同/演習
		選択必修科目	科学技術英語(数学)	2	前	2			○										兼1
	科学技術英語(応用数学)	2	前	2			○				5	1						オムニバス	
	科学技術英語(物理)	2	前	2			○										兼2		
	科学技術英語(化学)	2	前	2			○										兼1		
	科学技術英語(生物)	2	前	2			○										兼2		
	科学技術英語(情報)	2	前後	2			○										兼2		
	ENGL. FOR SCI / ENGINEERING (ENVIRONMENT)	2	前	2			○										兼1		
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH A	2	前	2			○										兼1		
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH B	2	後	2			○										兼1		
	海外短期研修(ノースカロライナ大学)	1・2・3・4	後	2					○								兼1	集中	
	海外短期研修(カリフォルニア大学デービス校)理工系英語コース	1・2・3・4	前	2					○								兼1	集中	
	自由科目	科学技術英語(PRESENTATION I)	2・3・4	前		2		○									兼1	隔年	
	科学技術英語(COMMUNICATION SKILLS I)	2・3・4	前		2		○										兼1	隔年	
	電気法規と施設管理	3・4	後		2		○										兼1	隔年	
	電力工学設計および製図	3・4	後		2		○										兼1	隔年	
	電気電子工学実験Ⅳ	3・4	前		1				○		2							隔年/集中	
	電気電子工学実験Ⅴ	3・4	前		1				○		2							隔年/集中	
	生物学実験	2・3・4	②		1				○								兼4	隔年/集中	
小計(27科目)		—		16	22	11		—			11	3	0	1	0	兼30			
理 工 共 通 科 目 II 群	選択必修科目	基礎物理学Ⅱ	1	後		2		○			1						兼1		
	電気回路Ⅰ	1・2	後		2		○				1								
	解析力学	2	前		2		○				1								
	身近な物理学	2	前		2		○				1								
	電磁気学Ⅱa	2	後		2		○				1								
	熱力学	2・3	前		2		○				1				1				
	機械システム設計の基礎	2・3	前		2		○				2				1			合同	
	マテリアルサイエンス	2・3	前		2		○				1								
	電磁気学Ⅰ	2・3	前		2		○					1							
	電気回路Ⅱ	2・3	前		2		○				1								
	工業熱力学	2・3	前		2		○				1								
	流体力学	2・3	前		2		○					1							
	量子力学入門	2・3	前		2		○				1					1			
	アナログ電子回路	2・3	前		2		○				1								
	制御基礎	2・3	前		2		○				1								
	電磁気学ⅡB	2・3	後		2		○					1				1			
	材料力学の基礎	2・3	後		2		○					1							
	機械力学	2・3	前		2		○				1							隔年	
	電子物性工学	2・3	後		2		○									1			
	統計力学	2・3	後		2		○				1								
半導体物理の基礎	3	前		2		○				1									
SCIENCE, TECHNOLOGY AND ENVIRONMENT	2	後		2		○				1	2					兼2	オムニバス		
選択科目	分子生物学	1	後		2		○										兼4	オムニバス	
無機化学(分析化学)	1	後		2		○											兼2		
有機化学(有機分子)	1	後		2		○											兼2		
数学AⅡ(線型空間論)	1	後		2		○											兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	数学演習Ⅱ	1 後		1		○									兼1
	プログラミング演習	1・2 後		1		○									兼1
	数学BⅡ(多変数微積)	1・2 後		2		○			1						兼1
	微分方程式の基礎	1・2 後		2		○						1			兼1
	現代物理の基礎	1・2 後		2		○									兼1
	自然科学のための数学	2 前		2		○									兼1
	物理化学(平衡・速度論)	2 前		2		○									兼1
	分子遺伝学	2 前		2		○									兼1
	原子・分子科学	2 前		2		○									兼2
	無機化学(無機元素化学)	2 前		2		○									兼1
	有機化学(有機反応)	2 前		2		○									兼1
	生物化学	2 前		2		○									兼3 オムニバス
	数学CⅠ(統計データ解析)	2 前		2		○									兼2
	数学CⅡ(確率統計)	2 後		2		○									兼1
	細胞生物学	2 後		2		○									兼1
	物理標準と精密計測	2 後		2		○			1						
	量子物理化学	2 後		2		○									兼1
	物理化学(分子科学)	2 後		2		○									兼1
	動物生理学	2 後		2		○									兼1
	有機化学(有機合成)	2 後		2		○									兼1
	地球科学	2 後		2		○									兼2
	情報通信工学の基礎	1・2 後		2		○									兼6 オムニバス
	力学(質点と剛体の力学)	2・3 前		2		○			1						
	代数学基礎	2・3 前		2		○									兼1
	幾何学基礎	2・3 前		2		○									兼1
	複素関数論	2・3 前		2		○									兼2
	情報生物学の基礎	2・3 前		2		○									兼2 オムニバス
	数値計算法	2・3 前		2		○					1				
	デジタル回路	2・3 前		2		○									兼1
	オペレーションズリサーチ	2・3 前		2		○									兼1
	電子回路	2・3 前		2		○									兼1
	テンソル解析の基礎	2・3 後		2		○			1						
	コンピュータネットワーク	2・3 前		2		○									兼1
	電磁気測定	2・3 後		2		○									兼1
	集積回路の基礎	2・3 後		2		○			1						兼1 オムニバス
	代数学Ⅰ(群論)	2・3 後		2		○									兼1
	幾何学Ⅰ(微分幾何)	2・3 後		2		○									兼1
	電気電子工学の数値解析	2・3 後		2		○			1						隔年
	フーリエ・ラプラス解析	2・3 後		2		○									兼2
	データ構造とアルゴリズム	2・3 後		2		○									兼1
	データベース	2・3 後		2		○									兼1
	プログラミング言語論	2・3 後		2		○									兼1
	デジタル信号処理	2・3 後		2		○									兼1
	知的財産権	2・3・4 前		2		○									兼1
	機器分析化学	2 前		2		○									兼2 メディア
	電気通信法規	3・4 後		2		○									兼1
	TECHNOLOGY & INNOVATION - CAREER DEVELOPMENT -	2・3・4 前		2		○									兼4
	ATMOSPHERIC CHEMISTRY	3 ④		2		○									兼1 隔年
	小計(74科目)	—	0	146	0	—	—	—	18	6	0	1	0	兼52	
学科コア科目	必修科目	機能創造理工学1	1 後	2		○				1					
		機能創造理工学2	1 後	2		○			1			1			
		機能創造理工学3	2 前	2		○			1			1			
		機能創造理工学実験・演習1	1 後	1		○			5	1		1			
		機能創造理工学実験・演習2	2 前	1		○			9	2		3			
		卒業研究Ⅰ	4 前	1				○		23	7		3		
	卒業研究Ⅱ	4 後	1				○		23	7		3			兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目1群	機械工学論講	2 後		2		○			7	3			2		兼1 合同 合同 合同 合同 合同 合同 合同 合同 合同
	基礎工業力学	2・3 後		2		○			1						
	量子力学1	2 後		2		○			1						
	量子力学2	3 前		2		○			1						
	光電子デバイス	3 前		2		○						1			
	発電・送電工学	3 前		2		○			1						
	TOPICS OF GREEN ENGINEERING 1	2 ①		2		○				1					
	TOPICS OF GREEN ENGINEERING 2	3 後		2		○									
	物理学実験演習 I	2 後		1			○		1	2					
	電気電子工学実験 I	2 後		1			○		3	1			2		
	機械システム設計演習 I	2 後		1			○		2	1					
	物理学実験演習 II	3 前		1			○		2						
	電気電子工学実験 II	3 前		1			○		4	1			1		
	機械創造工学実験	3 前		1			○		4	1					
物理学実験演習 III	3 後		1			○		4							
電気電子工学実験 III	3 後		1			○		4							
機械システム設計演習 II	3 後		1			○		1	2						
GREEN ENGINEERING LAB. 1	3 後		1			○						1			
自由科目	リサーチトリアル春	3 前			1		○		8	3					
	リサーチトリアル秋	3 後			1		○		7	1					
	小計(27科目)	—		10	26	2	—		24	7	0	4	0	兼1	
学科専門科目	共通科目	偏微分方程式	3・4 後		2		○							兼1	隔年
		物理における固有値問題	3・4 後		2		○							兼1	隔年
		電磁気学Ⅲ	3・4 前		2		○		1						
		光学システムと応用	3・4 後		2		○			1					
		NUCLEAR ENERGY ENGINEERING SIMULATION ENGINEERING	1・2・3・4 後		2		○		2	1				兼5 兼1	隔年
		TOPICS OF GREEN ENGINEERING 3	1・2・3・4 前		2		○					1			
		AIRCRAFT DESIGN WITH MECHANICS OF FLIGHT	1・2・3・4 ①		2		○			1					
		PHYSICS AND ENGINEERING OF ELECTRONIC DEVICES	1・2・3・4 後		2		○						1		
		OPTICS	1・2・3・4 前		2		○						1		
	ENVIRONMENTAL SCIENCE	1・2・3・4 ①③		2		○								兼1	
	SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 ①③		2		○								兼1	
系1	A群	流体エネルギー変換	3・4 前		2		○			1					
		熱エネルギー変換	3・4 後		2		○			1					
		伝熱工学概論	3・4 前		2		○			1					
		数値伝熱工学 I	3・4 ③		1		○			2					合同
		数値伝熱工学 II	3・4 ④		1		○			1					合同
	B群	連続体力学	3・4 前		2		○			1					
		応用材料力学	3・4 前		2		○				1				
		振動工学	3・4 後		2		○								兼1
		フラクチャメカニクス	3・4 後		2		○			1					
		エネルギーと材料	3・4 後		2		○			1					
	C群	システム解析の基礎	3・4 後		2		○						1		
		設計工学	3・4 後		2		○						1		隔年
		応用機構学	3・4 後		2		○			1					隔年
		システムモデリングと制御	3・4 後		2		○			1					
		有限要素法の基礎	3・4 後		2		○			1					
	ロボット工学	3・4 後		2		○						1			
	福祉・人間工学	3・4 後		2		○			1					メディア	
	精密加工と工作機械	3・4 前		2		○				1					
系2	A群	電気機器学	3・4 前		2		○			1					
		モータドライブシステム I	3・4 ①		1		○			1					
		モータドライブシステム II	3・4 ②		1		○				1				
		電力系統工学	3・4 後		2		○				1				
		パワーエレクトロニクス	3・4 後		2		○				2				

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
系3	B群	電磁波伝搬の基礎	3・4	前	2		○			1							
		電子デバイス	3・4	前	2		○			1							
		光電磁波伝送工学	3・4	後	2		○			1							
		光エレクトロニクスⅠ	3・4	③	1		○			1							
		光エレクトロニクスⅡ	3・4	④	1		○			1							
		電子量子力学	3・4	後	2		○			1							
		量子情報エレクトロニクス	3・4	後	2		○			1							
	C群	計測と制御	3・4	前	2		○									兼1	
		信号基礎論	3・4	前	2		○									兼1	
		情報通信工学	3・4	後	2		○									兼1	
		通信ネットワークシステム	3・4	前	2		○									兼5 オムニバス	
	A群	燃焼科学と環境	3・4	後	2		○									兼1	
		機能性高分子	3・4	前	2		○									兼1	
		レーザー科学	3・4	前	2		○									兼1	
		原子衝突物理学	3・4	後	2		○									兼1	
	B群	数理物理	3・4	前	2		○			1							
		量子統計力学	3・4	前	2		○			1							
		物質科学入門	3・4	前	2		○			1							
		量子光学	3・4	後	2		○			1							
		低温電子物性	3・4	後	2		○			1							
		量子力学3	3・4	後	2		○			1							
		量子物理及び演習	3・4	後	2			○		2						オムニバス	
	C群	低温・超伝導物性学	3・4	後	2		○			1							
		ライフサイクルアセスメント	3・4	前	2		○			1						隔年	
		放射線科学	3・4	前	2		○									兼1	
		電磁材料科学	3・4	前	2		○			1						隔年	
	小計(61科目)		—	0	116	0	—	—	—	21	5	0	1	0		兼17	
全学共通科目	必修科目	キリスト教人間学「他者のために、他者とともに」	1	②③④	1		○									兼12	
		身体のリベラルアーツ	1	②③④	1			○								兼9	
		思考と表現	1	前・後	2			○								兼7	
		データサイエンス概論	1	前・後	2			○								兼5	
		課題・視座・立場性を考える	1	前・後	2			○								兼12 オムニバス メディア	
	小計(9科目)	—	8	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼28		
選択必修科目	キリスト教人間学	キリスト教人間学(キリスト教と人権)	2	前・後	2		○									兼1	
		キリスト教人間学(環境教育)	2	前・後	2		○									兼1	
		キリスト教人間学(倫理学入門)	2	前	2		○									兼1	
		STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: PHILOSOPHY OF THE HUMAN PERSON	2	前	2		○										兼1
		STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: THE LIGHT OF CHRIST:AN INTRODUCTION TO CATHOLICISM	2	前・後	2		○										兼1
		キリスト教人間学(聖書と戦争)	2	前・後	2		○										兼1
		キリスト教人間学(旧約聖書入門)	2	前・後	2		○										兼1
		キリスト教人間学(福音としてのキリスト教)	2	前・後	2		○										兼1
		キリスト教人間学(新約聖書入門)	2	前・後	2		○										兼1
		キリスト教人間学(死生学入門)	2	前	2		○										兼1
		キリスト教人間学(キリスト教と哲学)	2	前	2		○										兼1
		キリスト教人間学(哲学の根本問題)	2	後	2		○										兼1
		STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: PHILOSOPHY OF RELIGIOUS LANGUAGE	2	後	2		○										兼1
		キリスト教人間学(哲学的人間論)	2	後	2		○										兼1
		キリスト教人間学(かかわりの人間学)	2	後	2		○										兼1
キリスト教人間学(現代倫理の諸問題)	2	後	2		○										兼1		
小計(16科目)		—	0	32	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼15		

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
高学年向け科目	カトリック社会教説とキリスト教ヒューマニズム	3・4 前		2		○									兼1
	イエズス会教育とIGNATIAN LEADERSHIP養成 I	3・4 前		2		○									兼1
	イエズス会教育とIGNATIAN LEADERSHIP養成 II	3・4 後		2		○									兼1
	グローバリゼーションの倫理学	3・4 前		2		○									兼1
	ケアの臨床哲学	3・4 後		2		○									兼7 オムニバス
	東西宗教芸術の伝統と今日的な宗教的霊性	3・4 前		2		○									兼3 オムニバス
	宗教的人間論	3・4 後		2		○									兼1
	科学技術の哲学	3・4 前		2		○									兼1 メディア
	比較宗教史	3・4 前		2		○									兼1
	宗教的共生論	3・4 後		2		○									兼1
	CATHOLIC SOCIAL THOUGHT AND THE CATHOLIC CHURCH TODAY	3・4 前・後		2		○									兼1
	死生学の展開	3・4 前・後		2		○									兼1
	ヒューマンケアサイエンス	3・4 前		2		○				1	1				兼10 オムニバス
	交渉学入門	3・4 前		2		○									兼1
	情報フルエンシー (Pythonによるアルゴリズムと問題解決の技法)	3・4 前		2		○									兼1
	ビジネスデータ分析理論 (データサイエンス基礎)	3・4 後		2		○									兼1
	現代社会における情報	3・4 前		2		○									兼7 オムニバス
	データ加工入門	3・4 前		1		○									兼1 集中
	データサイエンス実践: 実践型データ分析演習	3・4 後		2		○									兼7 オムニバス メディア
	データエンジニアリング	3・4 前		2		○									兼2 オムニバス
	AIのセオリーから (ビジネス) プロダクションへ	3・4 後		2		○									兼1
	地理的境界と人々の暮らし	3・4 前・後		2		○									兼1 メディア
	出産と子育てに関する情報と意思決定	3・4 後		2		○									兼2 オムニバス
	ポスト・コロナ危機の経済	3・4 前		2		○									兼4 オムニバス メディア
	資本市場の役割と証券投資	3・4 前		2		○									兼3 オムニバス
	多文化共生社会におけるESD・市民教育	3・4 前		2		○									兼7 オムニバス
	地球環境学への招待	3・4 前		2		○									兼11 オムニバス
	SDGs実現における森林の役割	3・4 後		2		○									兼1 集中
	平和構築とメディア	3・4 前		2		○									兼1
	SDGsとグローバルリスク	3・4 後		2		○									兼3 オムニバス
	ものづくり企業論-グローバル企業の実例に学ぶ-	3・4 前		2		○									兼1
	SDGsの課題と可能性: 企業と投資家の視点から	3・4 前		2		○									兼3 オムニバス
	国際社会と法	3・4 後		2		○									兼1
	科学技術と国際関係	3・4 前		2		○									兼1 メディア
	FOREIGN AND SECURITY POLICY OF JAPAN	3・4 後		2		○									兼1 メディア
	総合的戦略論の展開	3・4 後		2		○									兼5 オムニバス
	ジェンダーと法	3・4 前		2		○									兼7 オムニバス メディア
	グローバル・ビジネスのフロンティア	3・4 前		2		○									兼5 集中
	HOSPITALITY BUSINESS IN ASIA	3・4 後		2		○									兼1 集中
	GENERAL MANAGEMENT IN ACTION	3・4 後		2		○									兼1 集中
	大学マネジメント	3・4 後		2		○									兼1 オムニバス
	社会の中の数学	3・4 後		2		○									兼5 オムニバス
生命倫理の諸問題と現代社会	3・4 前		2		○									兼9	
生と死の哲学	3・4 前・後		2		○									兼1	
国家と主権: 歴史、現代、未来	3・4 後		2		○									兼1 メディア	
医療における対人関係	3・4 後		1		○									兼1 集中	
経済法・社会法の現代的課題	3・4 後		2		○									兼3 オムニバス	
科学技術の倫理	3・4 前		2		○									兼1	
持続可能な社会に向けたものづくり: 自動車技術	3・4 ④		2		○				2			1		オムニバス	
現代日本の生活変容	3・4 ④		1		○									兼1	
現代社会と福祉的課題	3・4 ②		2		○									兼6 オムニバス	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	アメリカ小説と村上春樹	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	UNDERSTANDING PICTUREBOOKS	3・4 前		2		○									兼1	
	シェイクスピアのソネット	3・4 後		2		○									兼1	
	歴史学Ⅰ(日本史)	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅱ(東洋史)	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅲ(西洋史)	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	JAPANESE AMERICAN HISTORY	3・4 後		2		○									兼1	
	宗教思想の伝統と現代	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	応用倫理の世界	3・4 前		2		○									兼1	
	ケアと依存——自助グループの世界観	3・4 前・後		2		○									兼1	
	開発経済学	3・4 後		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論(理論と課題)	3・4 前		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論(事例研究)	3・4 後		2		○									兼1	
	KEY GLOBAL ECONOMIES	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	心理学の最前線Ⅰ	3・4 前		2		○									兼1	隔年
	心理学の最前線Ⅱ	3・4 前		2		○									兼4	集中/隔年
	社会学のフロンティア	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス メディア
	音声資料から読み解く日本近代史	3・4 前		2		○									兼1	
	4大陸に広がるポルトガル語圏社会で生きる・働く	3・4 ④		2		○									兼9	オムニバス
	イスパニア語圏で暮らす・働く・活動する	3・4 後		2		○									兼8	オムニバス
	つくるⅡ(キャリア形成Ⅱ)	3・4 後		2		○				1						共同
	キャリアデザイン演習	3・4 前・後		2			○								兼2	
	キャリアデザイン演習1(外国人留学生対象)	3・4 前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン演習2(外国人留学生対象)	3・4 後		2			○								兼1	
	キャリアワークショップ「問題解決のための思考法」	3・4 前・後		2		○									兼2	共同 メディア
	グローバルインターンシップ(長期)	3・4 前・後		6				○							兼2	
	グローバルインターンシップ(短期・高学年)	3・4 前・後		2				○							兼4	
	グローバルインターンシップ(中期・高学年)	3・4 前		6				○							兼1	
	UDトラックスインターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-(高学年)	3・4 前・後		2				○		1					兼1	
	小計(80科目)	—	0	165	0	—	—	—	—	5	1	0	1	0	兼180	
選択科目	上智大学(ソフィア)のルーツとアイデンティティ	1・2・3・4 後		2		○									兼6	オムニバス
	グローバル・コンサーンと平和の促進	1・2・3・4 後		2		○									兼12	隔年 オムニバス
	諸宗教における自然と人間	1・2・3・4 後		2		○									兼5	オムニバス
	‘GOD, MAN AND THE WORLD’: INTERDISCIPLINARY PERSPECTIVES ON SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	東アジアの諸問題とイエズス会教育(上智・西江共同開講科目)	1・2・3・4 後		2				○							兼1	共同
	変わりゆく世界における舞台芸術	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	脳とホルモンの行動学	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	EXPERIENCING THE MIRACLE OF LIFE	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	
	共生社会創生論	1・2・3・4 前		2		○									兼6	オムニバス
	知としての身体を考える	1・2・3・4 後		2		○									兼10	オムニバス
	オリンピック・パラリンピック概論	1・2・3・4 前		2		○									兼9	オムニバス
	共生する社会と身体・スポーツ	1・2・3・4 前		2		○									兼10	オムニバス
	パラアスリートと考える障がい者スポーツと共生社会	1・2・3・4 前		2		○									兼4	オムニバス
	スポーツ心理学	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	レクリエーション・ニュースポーツ	1・2・3・4 前		1				○							兼1	
	救急法の理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	スキースポーツの理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼3	オムニバス
	スキューバ・ダイビングの理論と実践	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	人間と運動・スポーツ	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	テニス初級	1・2・3・4 前		1						○					兼1	
	テニス	1・2・3・4 後		1						○					兼1	
	バスケットボール	1・2・3・4 前・後		1						○					兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	水泳	1・2・3・4 前		1				○							兼1
	サッカー	1・2・3・4 前・後		1				○							兼1
	フットサル	1・2・3・4 前・後		1				○							兼1
	卓球	1・2・3・4 後		1				○							兼1
	ソフトボール	1・2・3・4 前		1				○							兼2
	バレーボール初級	1・2・3・4 前		1				○							兼1
	バレーボール	1・2・3・4 前		1				○							兼1
	フライングディスク入門	1・2・3・4 前		1				○							兼1
	フライングディスク	1・2・3・4 前・後		1				○							兼2
	バドミントン入門	1・2・3・4 前		1				○							兼1
	バドミントン	1・2・3・4 前・後		1				○							兼2
	エアロビクス	1・2・3・4 前・後		1				○							兼1
	日本の身体技法の理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	ヨーガの理論と実践 ラーჯヨガからヨーガの 日本的展開	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	エアロビクス&トータルフィットネス	1・2・3・4 前		1				○							兼1
	身体知演習 ボディーワーク	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1
	身体知演習 ヨガ	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	ダンスパフォーマンス	1・2・3・4 前・後		1				○							兼2
	ソマティック(身心)教育入門	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	自己変容のための神経生理学 I	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	自己変容のための神経生理学 II	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	食から見た、ウエルネスと身体	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	アダプテッド・スポーツ	1・2・3・4 後		1				○							兼1
	女性のヘルスケアとフィットネス	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	バスケットボールの理論と実践	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	ダンスパフォーマンスの理論と実践	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	健康づくりの科学	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	現代文化としてのスポーツ I	1・2・3・4 前		2			○								兼8 オムニバス
	現代文化としてのスポーツ II	1・2・3・4 後		2			○								兼9 オムニバス
	スポーツ人類学概論	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	思考と対話	1・2・3・4 後		2			○								兼1 メディア
	情報リテラシー(情報検索)	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	情報フルエンシー(マルチメディア表現方法)	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	実践英語ライティング -PRACTICAL ENGLISH WRITING-	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	文章構成法 I	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	文章構成法 II	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	文章構成法 III	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	文章構成法 IV	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	国語表現 I	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	国語表現 II	1・2・3・4 後		2			○								兼1 メディア
	国語表現 III	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	国語表現 IV	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	現代数学 A	1・2・3・4 前		2			○								兼1 メディア
	現代数学 B	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	論理の世界	1・2・3・4 後		2			○								兼1 メディア
	質問力を磨く	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	質問力で社会と向き合う	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	クリティカルシンキング実践	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	思考とコミュニケーション	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	知の探求	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	哲学対話	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	データサイエンスと地域コミュニティ	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	情報フルエンシー(Cプログラミング)	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	情報フルエンシー(ウェブ開発のための JavaScriptプログラミング)	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	情報フルエンシー(予測分析)	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	情報フルエンシー(Pythonプログラミング)	1・2・3・4 前		2			○								兼1
	情報リテラシー(データの収集・分析・利用)	1・2・3・4 後		2			○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	情報リテラシー(一般)	1-2-3-4 前・後		2		○			2						兼1
	情報フルエンシー(システム情報処理)	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	情報フルエンシー(プログラミング技法)	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	情報フルエンシー(システムコンサルティング)	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	情報フルエンシー(情報科学と人間)	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	情報リテラシー(統計処理)	1-2-3-4 後		2		○			1						
	データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎	1-2-3-4 前・後		2		○									兼3 オムニバス
	人工知能基礎	1-2-3-4 前・後		2		○									兼2
	データサイエンスと人工知能の実践	1-2-3-4 後		2		○									兼2
	情報フルエンシー (HTMLとCSSを用いたWebページ作成技法)	1-2-3-4 後		2		○			1						メディア
	情報リテラシー(情報学)	1-2-3-4 前		2		○									兼2 オムニバス
	AI革命後の社会と仕事原理	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	データ活用と経営戦略(データサイエンス基礎)	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	アナリティクスによる事業戦略(データサイエンス応用)	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	プロセスマイニング実践講座	1-2-3-4 前		2		○									兼1 集中
	情報化社会と情報倫理	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	マルチメディア情報社会論	1-2-3-4 前		2		○			2						兼10 オムニバス
	情報と職業	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	アナリティクス入門:社会で活用されるアナリティクス	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	ビジュアルデータアナリティクス入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1 集中
	データ分析の基礎	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	データ活用と人間行動	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	データサイエンス概論:日常生活とデータサイエンス	1-2-3-4 前・後		2		○									兼2
	数学入門 I	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	数学入門 II	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	データサイエンスのための数学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	社会統計学-国際的な統計データの解釈-	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	AFRICAN RELIGION: AFRICAN TRADITIONAL BELIEFS AND RITES FROM ANCIENT EGYPT TO THE PRESENT	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	文化復興と民族:北米先住民の現在	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1
	CULTURAL REVITALIZATION AND COMMUNITY BUILDING	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1 メディア
	東南アジアに学ぶA	1-2-3-4 ①		2		○									兼1 メディア
	東南アジアに学ぶB	1-2-3-4 ③		2		○									兼1 メディア
	メディア・対話・レトリック I	1-2-3-4 前		2		○									兼14 オムニバス
	メディア・対話・レトリック II	1-2-3-4 後		2		○									兼15 オムニバス
	メディア・対話・レトリック III	1-2-3-4 後		2		○		○							兼5 オムニバス
	ナショナルリズムと芸術	1-2-3-4 前		2		○									兼2 オムニバス
	赤十字と国際活動	1-2-3-4 後		2		○									兼13 オムニバス
	JAPANESE POP CULTURE	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	経済と環境	1-2-3-4 後		2		○									兼1 メディア
	途上国の人間開発	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	グローバリゼーションの現状と思想	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	REIMAGINING EDUCATION TOWARDS SUSTAINABLE FUTURES	1-2-3-4 ④		2		○									兼1 メディア
	地球環境学 I	1-2-3-4 前		2		○									兼14 オムニバス メディア
	地球環境学 II	1-2-3-4 後		2		○									兼14 オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 I	1-2-3-4 前		2		○									兼11 オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 II	1-2-3-4 後		2		○									兼13 オムニバス メディア
	CONSERVATION	1-2-3-4 ②④		2		○									兼1 メディア

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	グローバルシティズンシップ:アフリカと共に考える未来	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1	メディア
	GLOBALIZATION AND ORGANIZATIONS	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	グローバル社会への招待	1-2-3-4 前		2		○									兼1	
	INTERNATIONAL POLITICS AND PEACEBUILDING 1	1-2-3-4 前		2		○									兼1	
	INTRODUCTION TO CONFLICTS AND HUMAN SECURITY	1-2-3-4 前		2		○									兼1	
	持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ	1-2-3-4 後		2		○									兼1	オムニバス メディア
	ダイバーシティ&インクルージョン:みんなが幸せに暮らせる、課題解決型の社会を生み出す思考	1-2-3-4 後		2		○									兼1	メディア
	DIVERSITY & INCLUSION: IDEAS TO BRING ABOUT EMPOWERING AND THRIVING SOCIETIES	1-2-3-4 前		2		○									兼1	メディア
	現代アジア社会の理解	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	グローバルメディアと日本	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	FUTURE ORIENTED SYSTEMS THINKING FOR SUSTAINABILITY IN TURBULENT TIMES	1-2-3-4 ②		2		○									兼1	
	グローバル企業のリスクとその対応	1-2-3-4 後		2		○									兼11	オムニバス
	ジェンダーの平等 国連・国際協力、世界と日本	1-2-3-4 ④		2		○									兼1	メディア
	GENDER EQUALITY, INTERNATIONAL COOPERATION, UN, GLOBAL COMMUNITIES AND JAPAN	1-2-3-4 ②		2		○									兼1	メディア
	HOW CHANGE HAPPENS: LEADERSHIP THAT HARNESSES AND ADVANCES DIVERSITY & INCLUSION	1-2-3-4 後		2		○									兼1	メディア
	DEBATE ON PEACEBUILDING	1-2-3-4 前		2		○									兼1	
	グローバル企業のビジネス展開 -THE DYNAMICS OF A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1-2-3-4 後		2		○				1					兼14	オムニバス
	アフリカにおける開発援助とビジネス展開	1-2-3-4 後		2		○									兼1	オムニバス
	現代の証券市場と上場会社	1-2-3-4 前		2		○									兼1	
	企業のグローバル人材とリーダーシップ	1-2-3-4 後		2		○									兼1	オムニバス
	グローバルリスクの時代 -目標達成のためのリスク管理と意思決定	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	国際開発金融機関入門	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	グローバル・ベンチャー	1-2-3-4 後		2		○									兼1	メディア
	グローバル化と国際貢献	1-2-3-4 後		2		○									兼1	オムニバス
	教養としてのインテリジェンス-国際情報リテラシーの課題と方法-	1-2-3-4 後		2		○									兼4	オムニバス
	グローバル・リスク論	1-2-3-4 後		2		○									兼15	オムニバス
	グローバル化と言語の多様性	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	グローバル・ビジネスの現状と課題	1-2-3-4 後		2		○									兼10	オムニバス
	企業経営論(エアライン)	1-2-3-4 後		2		○									兼1	オムニバス
	企業と社会	1-2-3-4 後		2		○									兼1	メディア
	経営社会と人間の行動	1-2-3-4 前		2		○									兼1	メディア
	結婚の哲学	1-2-3-4 前		2		○									兼1	
	日本外交政策	1-2-3-4 後		2		○									兼6	オムニバス
	環境問題と科学技術	1-2-3-4 前		2		○					1				兼6	オムニバス
	ナノテクノロジー	1-2-3-4 後		2		○				2						オムニバス
	技術の歴史	1-2-3-4 後		2		○				1						メディア
	社会的価値創出のためのプロジェクト形成論	1-2-3-4 前		2		○									兼1	
	MIXED ROOTS IDENTITY AND TRANSNATIONAL IDENTITY	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	HUMAN BEHAVIOUR AND SOCIAL ENVIRONMENT	1-2-3-4 後		2		○									兼1	
	APPROACHES TO INTERCULTURAL COMPETENCE	1-2-3-4 後		2		○									兼1	メディア
	CULTURAL CONFLICTS AND INTERCULTURAL COMPETENCE	1-2-3-4 前		2		○									兼1	メディア
	文化人類学 I a	1-2-3-4 前		2		○									兼2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	文化人類学 I b	1-2-3-4 後		2		○									兼2
	西洋美術史 I	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	西洋美術史 II	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	[漢文 I]中国古典入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	[漢文 II]中国の文学と文章	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	[漢文 III]中国の詩文を読む	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	[漢文 IV]中国文学と日本文学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	ヨーロッパ文学のアップデートション	1-2-3-4 後		2		○									兼7
	LITERATURE IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH A2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	LITERATURE IN ENGLISH B2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH A2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	HISTORY IN ENGLISH B2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	LAW IN ENGLISH A2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	LAW IN ENGLISH B2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A1	1-2-3-4 前		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B1	1-2-3-4 後		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A2	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B2	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (HISTORY) A1	1-2-3-4 前		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (HISTORY) B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) A1	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) B1	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) A2	1-2-3-4 前		2		○									兼2
	JAPANOLOGY (TOURISM) B2	1-2-3-4 後		2		○									兼2
	フランス文学入門 I	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	フランス文学入門 II	1-2-3-4 前		2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	ドイツ文学案内	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	日本史	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	東洋史	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	西洋史	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	東南アジア史入門Ⅱ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	東南アジア史入門Ⅰ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	音楽の歴史Ⅰ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	音楽の歴史Ⅱ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	国語の歴史Ⅰ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	国語の歴史Ⅱ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	国語の歴史Ⅲ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	日本辞書の歴史	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	日本古典文学入門Ⅰ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	日本古典文学入門Ⅱ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	日本古典文学入門Ⅲ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	日本古典文学とその継承	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	日本近代文学入門Ⅰ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	日本近代文学入門Ⅱ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	マス・コミュニケーション論Ⅰ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	マス・コミュニケーション論Ⅱ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO ENGLISH LINGUISTICS	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	言語と人間Ⅰ	1-2-3-4 前		2		○									兼6
	言語と人間Ⅱ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	生命倫理の世界	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	倫理学入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	宗教学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	簿記会計論	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	会計情報論	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	情報リテラシー(社会調査と社会調査データ分析への入門)	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO WORLD ECONOMIC HISTORY	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	教養としての経済知識	1-2-3-4 前		2		○									兼2
	経済学	1-2-3-4 前		2		○									兼2
	国際高等教育論①(歴史と変遷)	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	国際高等教育論②(国際化と国際協力)	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	ESG概論Ⅰ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	ESG概論Ⅱ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	法律学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	経営学入門	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1
	マーケティング入門	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1
	憲法	1-2-3-4 前・後		2		○									兼3
	政治学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	心理学入門	1-2-3-4 前・後		2		○									兼2
	心理学ⅠA	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	心理学ⅠB	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	立場の心理学1:マジョリティの特権を考える	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1
	立場の心理学2:特権の自覚と行動をつなぐ	1-2-3-4 ②		2		○									兼1
	メディアと情報の社会学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	社会学A	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	社会学	1-2-3-4 前・後		2		○									兼2
	社会学B	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	農村と農業の社会学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	教養としての社会保障	1-2-3-4 前		1		○									兼1
	アフリカ研究入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	THE HISTORIOGRAPHY OF AFRICA	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	AFRICAN CULTURE	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	現代ドイツの政治	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	中東イスラーム研究入門Ⅰ	1-2-3-4 前		2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中東イスラーム研究入門Ⅱ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	ロシア社会	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	COMPARATIVE CULTURAL STUDIES (DISCOVERING RUSSIAN CULTURE)	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	地域研究の最前線	1-2-3-4 前		2		○									兼12 オムニバス
	イスパニア語圏の歴史と今	1-2-3-4 後		2		○									兼7 オムニバス
	南アジア研究入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	東南アジア研究入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	東アジア研究入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	世界文化遺産(ナンマトル遺跡)	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	世界文化遺産(アンコール・ワット遺跡)	1-2-3-4 前		2		○									兼1 メディア
	グローバル社会への招待	1-2-3-4 前		1		○									兼1
	平和構築入門	1-2-3-4 ④		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION THEORY AND PRACTICE	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	国際協力概論-日本による開発援助の潮流と仕組み-	1-2-3-4 後		2		○									兼1 オムニバス
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION -OVERVIEW AND MANAGEMENT METHOD OF JAPAN'S INTERNATIONAL COOPERATION -	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	国際政治史入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	国際機構論	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	発生物学入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	環境分子生物学入門	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	入門毒物学	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	MODERN CHEMISTRY IN LIFE AND SOCIETY	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	化学と生活Ⅲ-環境と生命-	1-2-3-4 前		2		○									兼3 オムニバス
	化学と生活Ⅰ-物質の理解-	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	化学と生活Ⅱ-身のまわりの化学-	1-2-3-4 後		2		○									兼2 オムニバス
	情報フルエンスー(電気回路・電子回路)	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1
	図形の世界	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	数の世界	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	現代物理学の世界A(ノーベル賞のインパクト)	1-2-3-4 前		2		○			1	1					兼1 オムニバス
	現代物理学の世界B(ノーベル賞とテクノロジー)	1-2-3-4 後		2		○			1	1					兼1 オムニバス
	自然科学史Ⅱ	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	自然科学史Ⅰ	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	宇宙の科学	1-2-3-4 前・後		2		○									兼1
	身近な物理	1-2-3-4 後		2		○			4						オムニバス
	アフリカと開発:2030アジェンダと持続可能な社会づくり	1-2-3-4 前		2		○									兼1
	開発教育:開発をめぐる課題を世界はどのように学ぶのか	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	自主研究(グローバル課題研究):人間の安全保障と平和構築	1-2-3-4 前		2		○									兼1 メディア
	国際緊急人道支援と強靱な社会づくり	1-2-3-4 後		2		○									兼12 オムニバス
	留学準備講座	1-2-3-4 ①②③④		1		○									兼4
	つくるⅠ(キャリア形成Ⅰ)	1-2-3-4 後		2		○				1		1			兼2 オムニバス
	LEARNING FROM THE INSIDERS: A FIELD STUDY COURSE ON THE SUSTAINABILITY OF RURAL SOCIETY	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	キャリアディベロップメント	1-2-3-4 前		2		○									兼3
	キャリアディベロップメント(スキルアップ編)	1-2-3-4 後		2		○									兼1
	東南アジアに学ぶ(実践型プログラム) A	1-2-3-4 前		2		○									兼1 集中/メディア
	東南アジアに学ぶ(実践型プログラム) B	1-2-3-4 後		2		○									兼1 集中/メディア
	ジュネーブ国際機関集中研修プログラム	1-2-3-4 前		2		○									兼1 集中/メディア
	GLP グローバルリーダーシップ・プログラム	1-2-3-4 前		2		○									兼1 集中
	国連の役割と機能(国連集中研修プログラム)	1-2-3-4 後		2		○									兼1 集中
	インド・サービスラーニング・プログラム	1-2-3-4 前		4		○									兼1 集中
	AJCU-AP サービスラーニング・プログラム	1-2-3-4 前		4		○									兼1 集中/メディア
	エストニア・スタディツアー:持続可能な社会構築に向けた教育の可能性	1-2-3-4 後		2		○									兼1 集中

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	インドの社会経済・人間開発に学ぶ:南インドのケララ州を実例に	1-2-3-4 前		2				○							兼1 集中
	国際公務員をめざして(実務型国連集中研修)	1-2-3-4 前		2				○							兼1 集中/メディア
	ミャンマー・スタディーツアー	1-2-3-4 後		2				○							兼1 集中
	多文化共生社会のリーダーシップ	1-2-3-4 後		2				○							兼1 集中
	インド・サービスマーケティング・プログラム	1-2-3-4 後		2				○							兼1 集中
	アフリカに学ぶA	1-2-3-4 前		2				○							兼1 集中
	アフリカに学ぶB	1-2-3-4 後		2				○							兼1 集中
	グローバルインターンシップ(中期)	1-2-3-4 前		6				○							兼1 集中
	グローバルインターンシップ(短期)	1-2-3-4 前・後		2				○							兼4 集中
	経済同友会連携インターンシップ	1-2-3-4 前・後		2				○							兼1 集中
	UDトラックスインターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1-2-3-4 前・後		2				○		1					兼1 集中
	身体のリベラルアーツ(教職課程履修者用)	1-2-3-4 後		1				○							兼1
	DEVELOPMENT OF JAPANESE CIVILIZATION 1	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	DEVELOPMENT OF JAPANESE CIVILIZATION 2	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	HISTORY OF CHINESE CIVILIZATION	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO SOCIOLOGY	1-2-3-4 前		4				○							兼1 メディア
	INTRODUCTION TO JAPANESE SOCIETY	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	THE GOOD LIFE: FROM SELF TO SOCIETY	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO CULTURAL AND SOCIAL ANTHROPOLOGY	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	ANTHROPOLOGY OF JAPAN	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	NATURE AND CULTURE	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO ART HISTORY / VISUAL CULTURE 1	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO ART HISTORY / VISUAL CULTURE 2	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	LITERARY GENRES	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	REPRESENTATIONS OF JAPAN IN POPULAR CULTURE AND LITERATURE	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO JAPANESE LITERATURE	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO PHILOSOPHY	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	FUNDAMENTALS OF RELIGION	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	PRINCIPLES OF MICROECONOMICS	1-2-3-4 前・後		4				○							兼1
	PRINCIPLES OF MACROECONOMICS	1-2-3-4 前・後		4				○							兼1
	THEORIES AND THEMES OF CONTEMPORARY POLITICS	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL RELATIONS	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	INTRODUCTION TO COMPARATIVE POLITICS	1-2-3-4 後		4				○							兼1
	CONTROVERSIES IN GLOBALIZATION	1-2-3-4 前		4				○							兼1
	COMPUTER STUDIES 1	1-2-3-4 前・後		2				○							兼1
	COMPUTER STUDIES 2	1-2-3-4 前・後		2				○							兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部機能創造理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ENVIRONMENTAL ISSUES 1	1・2・3・4 後		4		○									兼1
	GEOGRAPHY	1・2・3・4 前		4		○									兼1
	COLLEGE MATHEMATICS	1・2・3・4 前		4		○									兼1
	MATHEMATICS AND STATISTICS FOR BUSINESS AND ECONOMICS	1・2・3・4 前・後		4		○									兼1
	HUMAN ECOLOGY: RIVERS 1	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	HUMAN ECOLOGY: RIVERS 2	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	小計(374科目)	—	0	785	0	—	—	—	15	2	0	2	0		兼493
語学科目	ACADEMIC COMMUNICATION 1	1 前	2			○									兼26
	ACADEMIC COMMUNICATION 2	1 後	2			○									兼26
	小計(2科目)	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼27
合計(1094科目)			—	38	1292	18	—	—	24	7	0	5	0		兼835
学位又は称号		学士(理工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
学科科目から94単位以上、全学共通科目から26単位以上(必修科目8単位、選択必修6単位(キリスト教人間学2単位、高学年向け科目4単位以上)、選択科目12単位以上)、及び語学科目から必修科目4単位以上を修得し合計124単位以上を修得すること。 なお、学科科目については、①理工共通科目Ⅰ群から必修科目16単位、選択必修2単位以上、②理工共通科目Ⅱ群から選択必修科目16単位以上、選択科目11単位以上、③学科コア科目から必修科目10単位、選択必修科目7単位(選択必修科目1群から4単位以上、選択必修科目2群から3単位以上)以上、④学科専門科目から選択科目32単位(学科専門科目から系を選択した場合は同一の系から、群を選択した場合は同一の群から22単位以上、それ以外は自学科あるいは物質生命理工学科、情報理工学科の学科専門科目から)以上の合計94単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限: 半期27単位、年間49単位)							1学年の学期区分		2学期4クォーター						
							1学期の授業期間		学期14週 クォーター7週						
							1時限の授業時間		100分						

教育課程等の概要																	
(理工学部情報理工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学 科 科 目	理 工 共 通 科 目 I 群	理工学概説(情報理工)	1	前	2			○			4	3		1		オムニバス	
		数学A I (線型代数)	1	前	2			○				1					
		数学B I (微分積分)	1	前	2			○			1						
		数学演習I	1	前	1			○			1	1				オムニバス	
		基礎物理学	1	前	2			○			1						
		基礎化学	1	前	2			○								兼1	
		基礎生物学	1	前	2			○			1					兼1	
		基礎情報学	1	後	2			○			1			1			
		理工基礎実験・演習	1	前	1				※	○	2	1			1		兼20 合同/演習
	選 択 必 修 科 目	科学技術英語(数学)	2	前		2			○			1					兼1
		科学技術英語(応用数学)	2	前		2			○								兼6
		科学技術英語(物理)	2	前		2			○								オムニバス
		科学技術英語(化学)	2	前		2			○								兼2
		科学技術英語(生物)	2	前		2			○								兼1
		科学技術英語(情報)	2	前後		2			○		1						
		ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH A	2	前		2			○								兼1
		ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH B	2	後		2			○								兼1
		海外短期研修(ノースカロライナ大学)	1・2・3・4	後		2				○		1					集中
	海外短期研修(カリフォルニア大学デービス校)理工系英語コース	1・2・3・4	前		2				○		1					集中	
	自 由 科 目	科学技術英語(PRESENTATION I)	2・3・4	前			2		○			1					隔年
		科学技術英語(COMMUNICATION SKILLS I)	2・3・4	前			2		○			1					隔年
		電気法規と施設管理	3・4	後			2		○								兼1 隔年
		電力工学設計および製図	3・4	後			2		○								兼1 隔年
		電気電子工学実験IV	3・4	前			1			○							兼2 隔年/集中
		電気電子工学実験V	3・4	前			1			○							兼2 隔年/集中
		生物学実験	2・3・4	②			1			○							兼4 隔年/集中
小計(26科目)			—		16	20	11			—	8	6	0	2	0	兼36	
理 工 共 通 科 目 II 群	選 択 必 修 科 目	数学A II (線型空間論)	1	後		2			○			1					
		数学B II (多変数微積)	1・2	後		2			○				1				
		微分方程式の基礎	1・2	後		2			○			1					
		電気回路 I	1・2	後		2			○			1					
		数学C I (統計データ解析)	2	前		2			○					1			
		情報通信工学の基礎	1・2	後		2			○			5	1				オムニバス
		複素関数論	2・3	前		2			○			1					
		情報生物学の基礎	2・3	前		2			○			1					兼1
		数値計算法	2・3	前		2			○								兼1
		デジタル回路	2・3	前		2			○			1					
		オペレーションズリサーチ	2・3	前		2			○			1					
		電子回路	2・3	前		2			○			1					
		コンピュータネットワーク	2・3	前		2			○			1					
		電磁気測定	2・3	後		2			○				1				
		集積回路の基礎	2・3	後		2			○			1					兼1
		フーリエ・ラプラス解析	2・3	後		2			○			1					
		データ構造とアルゴリズム	2・3	後		2			○				1				
		データベース	2・3	後		2			○			1					
プログラミング言語論	2・3	後		2			○				1						
デジタル信号処理	2・3	後		2			○			1							
選 択 科 目	分子生物学	1	後		2			○								兼2	
	無機化学(分析化学)	1	後		2			○								兼1	
	有機化学(有機分子)	1	後		2			○								兼1	
	基礎物理学 II	1	後		2			○								兼1	
	数学演習 II	1	後		1			○			1						
	プログラミング演習	1・2	後		1			○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	現代物理の基礎	1・2 後		2		○									兼1
	自然科学のための数学	2 前		2		○									兼1
	物理化学(平衡・速度論)	2 前		2		○									兼1
	分子遺伝学	2 前		2		○									兼1
	原子・分子科学	2 前		2		○									兼1
	無機化学(無機元素化学)	2 前		2		○									兼1
	有機化学(有機反応)	2 前		2		○									兼1
	生物化学	2 前		2		○									兼1
	解析力学	2 前		2		○									兼1
	身近な物理学	2 前		2		○									兼1
	数学CⅡ(確率統計)	2 後		2		○						1			
	細胞生物学	2 後		2		○									兼1
	物理標準と精密計測	2 後		2		○									兼1
	電磁気学ⅡA	2 後		2		○									兼1
	量子物理化学	2 後		2		○									兼1
	物理化学(分子科学)	2 後		2		○									兼1
	動物生理学	2 後		2		○									兼1
	有機化学(有機合成)	2 後		2		○									兼1
	地球科学	2 後		2		○									兼1
	熱力学	2・3 前		2		○									兼1
	力学(質点と剛体の力学)	2・3 前		2		○									兼1
	代数学基礎	2・3 前		2		○				1					
	幾何学基礎	2・3 前		2		○				1					
	機械システム設計の基礎	2・3 前		2		○									兼3 合同
	マテリアルサイエンス	2・3 前		2		○									兼1
	電磁気学Ⅰ	2・3 前		2		○									兼1
	電気回路Ⅱ	2・3 前		2		○									兼1
	工業熱力学	2・3 前		2		○									兼1
	流体力学	2・3 前		2		○									兼1
	量子力学入門	2・3 前		2		○									兼1
	アナログ電子回路	2・3 前		2		○									兼1
	テンソル解析の基礎	2・3 後		2		○									兼1
	代数学Ⅰ(群論)	2・3 後		2		○						1			
	幾何学Ⅰ(微分幾何)	2・3 後		2		○				1					
	電気電子工学の数値解析	2・3 後		2		○									兼1 隔年
	制御基礎	2・3 前		2		○									兼1
	電磁気学ⅡB	2・3 後		2		○									兼1
	材料力学の基礎	2・3 後		2		○									兼1
	機械力学	2・3 前		2		○									兼1
	電子物性工学	2・3 後		2		○									兼1 隔年
	統計力学	2・3 後		2		○									兼1
	半導体物理の基礎	3 前		2		○									兼1
	知的財産権	2・3・4 前		2		○									兼1
	機器分析化学	2 前		2		○									兼1 メディア
	電気通信法規	3・4 後		2		○									兼1
	小計(71科目)	—	0	140	0	—				13	5	0	2	0	兼48
学 科 コ ア 科 目	情報理工学Ⅰ(コンピュータアーキテクチャ)	1 後	2			○				1					
	基礎プログラミング	1 後	1			○					2				合同
	情報理工学Ⅱ(コンピュータソフトウェア)	2 前	2			○					1				オムニバス
	情報理工学Ⅲ(計算と情報の理論)	2 後	2			○				1	1				オムニバス
	情報学演習Ⅰ	2 前	1				○			2	1				オムニバス
	情報数理演習Ⅰ	2 前	1				○			2					オムニバス
	情報理工学実験Ⅰ	2 後	1					○		7	2		1		兼1 オムニバス
	情報学演習Ⅱ	2 後	1				○			1	1		1		オムニバス
	情報数理演習Ⅱ	2 後	1				○			1	1				オムニバス
	情報理工学実験Ⅱ	2 前	1					○		6	2				オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	情報学演習Ⅲ	3 前	1				○		2	1		2			兼1 オムニバス
	ゼミナールⅠ	3 前	1				○		14	8					
	ゼミナールⅡ	3 後	1				○		8	4					
	卒業研究Ⅰ	4 前	1					○	18	8		3			
	卒業研究Ⅱ	4 後	1					○	18	8		3			
	小計(15科目)	—		18	0	0	—		17	8	0	3	0	兼1	
【A群】 人間情報 学 科 専 門 科 目	感覚情報処理	3・4 後		2		○			1						隔年 兼1 オムニバス 隔年 兼1 隔年 オムニバス 隔年 兼1 兼2 オムニバス
	音声・音響工学	3・4 前		2		○			1						
	画像処理工学	3・4 後		2		○					1				
	学習・記憶・認知	3・4 前		2		○			1						
	ニューラルネットワーク	3・4 前		2		○				1					
	教育情報工学	3・4 前		2		○			1						
	福祉情報学	3・4 後		2		○			1	1					
	脳科学	3・4 後		2		○			1						
	神経情報薬理学	3・4 後		2		○									
	細胞神経科学	3・4 後		2		○			1						
	生体医学	3・4 前		2		○				1					
	言語情報学入門	3・4 前		2		○			3	2					
	実験心理学	3・4 後		2		○									
	ヒューマンコミュニケーション	3・4 後		2		○			2	1					
【B群】 情報通 信	情報通信工学	3・4 後		2		○			1						兼1 兼1 兼1 隔年
	電磁波伝搬の基礎	3・4 前		2		○									
	光電磁波伝送工学	3・4 後		2		○									
	電子デバイス	3・4 前		2		○									
	信号基礎論	3・4 前		2		○			1						
	通信ネットワークシステム	3・4 前		2		○			1						
	光通信工学	3・4 前		2		○			1						
	リモートセンシング信号処理	3・4 前		2		○				1					
	コンピューティングアーキテクチャ	3・4 前		2		○			1						
	計測と制御	3・4 前		2		○			1						
【C群】 社会情 報	情報システム工学	3・4 前		2		○				1					隔年 隔年 メディア 兼14 オムニバス オムニバス
	シミュレーション工学	3・4 後		2		○			1						
	人工知能入門	3・4 前		2		○			1						
	ビジネスデータ分析	3・4 ④		2		○				1					
	生産工学	3・4 後		2		○			1						
	メディア工学	3・4 ③		2		○				1					
	ロジスティクス工学	3・4 後		2		○				1					
	メディア情報論	3・4 前		2		○				1					
	経営情報学	3・4 後		2		○			1						
	社会情報学	3・4 後		2		○			3	4					
物流産業論	3・4 前		2		○			1							
【D群】 数理情 報	計算機数学	3・4 前		2		○			1						兼1 隔年 隔年 隔年 隔年
	離散数学	3・4 後		2		○			1						
	暗号・符号理論と情報セキュリティ	3・4 前		2		○			1						
	多変量解析	3・4 前		2		○				1					
	数理ファイナンス基礎	3・4 後		2		○									
	代数学Ⅱ(環と加群)	3・4 前		2		○			1						
	代数学Ⅲ(ガロア理論)	3・4 ③		2		○			1						
	幾何学Ⅱ(多様体論)	3・4 後		2		○			1						
	幾何学Ⅲ(位相不変量)	3・4 後		2		○				1					
	測度論	3・4 後		2		○						1			
	常微分方程式	3・4 前		2		○						1			
	小計(46科目)	—		0	92	0	—		14	6	0	2	0	兼19	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通科目	必修科目	キリスト教人間学「他者のために、他者とともに」	1 ①②③④	1			○									兼12	
		身体のリベラルアーツ	1 ①②③④	1				○								兼9	
		思考と表現	1 前・後	2				○								兼7	
		データサイエンス概論	1 前・後	2				○								兼5	
		課題・視座・立場性を考える	1 前・後	2				○								兼12	
	小計(5科目)		—	8	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼44	
	選択必修科目	キリスト教人間学	キリスト教人間学(キリスト教と人権)	2 前・後		2		○									兼1
			キリスト教人間学(環境教育)	2 前・後		2		○									兼1
			キリスト教人間学(倫理学入門)	2 前		2		○									兼1
			STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: PHILOSOPHY OF THE HUMAN PERSON	2 前		2		○									兼1
			STUDIES IN CHRISTIAN HUMANISM: THE LIGHT OF CHRIST:AN INTRODUCTION TO CATHOLICISM	2 前・後		2		○									兼1
			キリスト教人間学(聖書と戦争)	2 前・後		2		○									兼1
			キリスト教人間学(旧約聖書入門)	2 前・後		2		○									兼1
			キリスト教人間学(福音としてのキリスト教)	2 前・後		2		○									兼1
			キリスト教人間学(新約聖書入門)	2 前・後		2		○									兼1
			キリスト教人間学(死生学入門)	2 前		2		○									兼1
			キリスト教人間学(キリスト教と哲学)	2 前		2		○									兼1
キリスト教人間学(哲学の根本問題)			2 後		2		○									兼1	
小計(16科目)		—	0	32	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼15		
高学年向け科目	カトリック社会教説とキリスト教ヒューマニズム	イエズス会教育とIGNATIAN LEADERSHIP養成 I	3・4 前		2		○									兼1	
		イエズス会教育とIGNATIAN LEADERSHIP養成 II	3・4 後		2		○									兼1	
		グローバル化の倫理学	3・4 前		2		○									兼1	
		ケアの臨床哲学	3・4 後		2		○									兼7	
		東西宗教芸術の伝統と今日的な宗教的霊性	3・4 前		2		○									兼3	
		宗教的人間論	3・4 後		2		○									兼1	
		科学技術の哲学	3・4 前		2		○									兼1	
		比較宗教史	3・4 前		2		○									兼1	
		宗教的共生論	3・4 後		2		○									兼1	
		CATHOLIC SOCIAL THOUGHT AND THE CATHOLIC CHURCH TODAY	3・4 前・後		2		○									兼1	
		死生学の展開	3・4 前・後		2		○									兼1	
		ヒューマンケアサイエンス	3・4 前		2		○			5	1					兼6	
		交渉学入門	3・4 前		2		○									兼1	
		情報フルエンシー(Pythonによるアルゴリズムと問題解決の技法)	3・4 前		2		○				1					兼1	
		ビジネスデータ分析理論(データサイエンス基礎)	3・4 後		2		○									兼1	
		現代社会における情報	3・4 前		2		○			4	2		1			兼1	
		データ加工入門	3・4 前		1		○									兼7	
		データサイエンス実践:実践型データ分析演習	3・4 後		2		○									兼2	
		データエンジニアリング	3・4 前		2		○									兼1	
		AIのセオリーから(ビジネス)プロダクションへ	3・4 後		2		○									兼1	
地理的境界と人々の暮らし	3・4 前・後		2		○									兼2			
出産と子育てに関する情報と意思決定	3・4 後		2		○									兼4			
ポスト・コロナ危機の経済	3・4 前		2		○									兼3			
資本市場の役割と証券投資	3・4 前		2		○									兼3			

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	多文化共生社会におけるESD・市民教育	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	地球環境学への招待	3・4 前		2		○									兼11	オムニバス
	SDGs実現における森林の役割	3・4 後		2		○									兼1	集中
	平和構築とメディア	3・4 前		2		○									兼1	
	SDGsとグローバルリスク	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	ものづくり企業論-グローバル企業の実例に学ぶ-	3・4 前		2		○									兼1	
	SDGsの課題と可能性:企業と投資家の視点から	3・4 前		2		○									兼3	オムニバス
	国際社会と法	3・4 後		2		○									兼1	
	科学技術と国際関係	3・4 前		2		○									兼1	メディア
	FOREIGN AND SECURITY POLICY OF JAPAN	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	総合的戦略論の展開	3・4 後		2		○									兼5	オムニバス
	ジェンダーと法	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス メディア
	グローバル・ビジネスのフロンティア	3・4 前		2		○									兼5	集中
	HOSPITALITY BUSINESS IN ASIA	3・4 後		2		○									兼1	集中
	GENERAL MANAGEMENT IN ACTION	3・4 後		2		○									兼1	集中
	大学マネジメント	3・4 後		2		○									兼1	オムニバス
	社会の中の数学	3・4 後		2		○			2	2		1			兼1	オムニバス
	生命倫理の諸問題と現代社会	3・4 前		2		○									兼9	
	生と死の哲学	3・4 前・後		2		○									兼1	
	国家と主権:歴史、現代、未来	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	医療における対人関係	3・4 後		1		○									兼1	集中
	経済法・社会法の現代的課題	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	科学技術の倫理	3・4 前		2		○									兼1	
	持続可能な社会に向けたものづくり:自動車技術	3・4 ④		2		○									兼3	オムニバス
	現代日本の生活変容	3・4 ④		1		○									兼1	
	現代社会と福祉的課題	3・4 ②		2		○									兼6	オムニバス
	アメリカ小説と村上春樹	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	UNDERSTANDING PICTUREBOOKS	3・4 前		2		○									兼1	
	シェイクスピアのソネット	3・4 後		2		○									兼1	
	歴史学Ⅰ(日本史)	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅱ(東洋史)	3・4 前		2		○									兼1	
	歴史学Ⅲ(西洋史)	3・4 後		2		○									兼1	メディア
	JAPANESE AMERICAN HISTORY	3・4 後		2		○									兼1	
	宗教思想の伝統と現代	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス
	応用倫理の世界	3・4 前		2		○									兼1	
	ケアと依存——自助グループの世界観	3・4 前・後		2		○									兼1	
	開発経済学	3・4 後		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論(理論と課題)	3・4 前		2		○									兼1	
	国際教育開発・協力論(事例研究)	3・4 後		2		○									兼1	
	KEY GLOBAL ECONOMIES	3・4 前		2		○									兼7	オムニバス
	心理学の最前線Ⅰ	3・4 前		2		○									兼1	隔年
	心理学の最前線Ⅱ	3・4 前		2		○									兼4	集中 隔年
	社会学のフロンティア	3・4 後		2		○									兼3	オムニバス メディア
	音声資料から読み解く日本近代史	3・4 前		2		○									兼1	
	4大陸に広がるポルトガル語圏社会で生きる・働く	3・4 ④		2		○									兼9	オムニバス
	イスパニア語圏で暮らす・働く・活動する	3・4 後		2		○									兼8	オムニバス
	つくるⅡ(キャリア形成Ⅱ)	3・4 後		2		○									兼1	共同
	キャリアデザイン演習	3・4 前・後		2				○							兼2	
	キャリアデザイン演習1(外国人留学生対象)	3・4 前		2				○							兼1	
	キャリアデザイン演習2(外国人留学生対象)	3・4 後		2				○							兼1	
	キャリアワークショップ「問題解決のための思考法」	3・4 前・後		2				○							兼2	共同 メディア
	グローバルインターンシップ(長期)	3・4 前・後		6											兼2	
	グローバルインターンシップ(短期・高学年)	3・4 前・後		2											兼4	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	グローバルインターンシップ(中期・高学年)	3・4 前		6				○							兼1
	UDトラックスインターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-(高学年)	3・4 前・後		2				○							兼1
	小計(80科目)	—	0	165	0	—			10	5	0	2	0	兼170	
選 択 科 目	上智大学(ソフィア)のルーツとアイデンティティ	1・2・3・4 後		2				○							兼6 オムニバス
	グローバル・コンサーンと平和の促進	1・2・3・4 後		2				○							兼12 隔年 オムニバス
	諸宗教における自然と人間	1・2・3・4 後		2				○							兼5 オムニバス
	‘GOD, MAN AND THE WORLD’: INTERDISCIPLINARY PERSPECTIVES ON SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	東アジアの諸問題とイエズス会教育(上智・西 江共同開講科目)	1・2・3・4 後		2						○					兼1 共同
	変わりゆく世界における舞台芸術	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	脳とホルモンの行動学	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	EXPERIENCING THE MIRACLE OF LIFE	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1
	共生社会創生論	1・2・3・4 前		2				○							兼6 オムニバス
	知としての身体を考える	1・2・3・4 後		2				○							兼10 オムニバス
	オリンピック・パラリンピック概論	1・2・3・4 前		2				○							兼9 オムニバス
	共生する社会と身体・スポーツ	1・2・3・4 前		2				○							兼10 オムニバス
	パラアスリートと考える障がい者スポーツと共生 社会	1・2・3・4 前		2				○							兼4 オムニバス
	スポーツ心理学	1・2・3・4 後		2				○							兼1
	レクリエーション・ニュースポーツ	1・2・3・4 前		1							○				兼1
	救急法の理論と実践	1・2・3・4 後		2					○						兼1
	スキースポーツの理論と実践	1・2・3・4 後		2					○						兼3 オムニバス
	スクーバ・ダイビングの理論と実践	1・2・3・4 前		2					○						兼1
	人間と運動・スポーツ	1・2・3・4 前		2				○							兼1
	テニス初級	1・2・3・4 前		1							○				兼1
	テニス	1・2・3・4 後		1							○				兼1
	バスケットボール	1・2・3・4 前・後		1							○				兼1
	水泳	1・2・3・4 前		1							○				兼1
	サッカー	1・2・3・4 前・後		1							○				兼1
	フットサル	1・2・3・4 前・後		1							○				兼1
	卓球	1・2・3・4 後		1							○				兼1
	ソフトボール	1・2・3・4 前		1							○				兼2
	バレーボール初級	1・2・3・4 前		1							○				兼1
	バレーボール	1・2・3・4 前		1							○				兼1
	フライングディスク入門	1・2・3・4 前		1							○				兼1
フライングディスク	1・2・3・4 前・後		1							○				兼2	
バドミントン入門	1・2・3・4 前		1							○				兼1	
バドミントン	1・2・3・4 前・後		1							○				兼2	
エアロビクス	1・2・3・4 前・後		1							○				兼1	
日本の身体技法の理論と実践	1・2・3・4 後		2					○						兼1	
ヨーガの理論と実践ラージャヨーガからヨーガ の日本的展開	1・2・3・4 前		2					○						兼1	
エアロビクス&トータルフィットネス	1・2・3・4 前		1							○				兼1	
身体知演習 ボディーワーク	1・2・3・4 前・後		2					○						兼1	
身体知演習 ヨガ	1・2・3・4 後		2					○						兼1	
ダンスパフォーマンス	1・2・3・4 前・後		1							○				兼2	
ソマティック(身心)教育入門	1・2・3・4 前		2					○						兼1	
自己変容のための神経生理学 I	1・2・3・4 前		2					○						兼1	
自己変容のための神経生理学 II	1・2・3・4 後		2					○						兼1	
食から見た、ウェルネスと身体	1・2・3・4 後		2					○						兼1	
アダプテッド・スポーツ	1・2・3・4 後		1							○				兼1	
女性のヘルスケアとフィットネス	1・2・3・4 後		2					○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	バスケットボールの理論と実践	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ダンスパフォーマンスの理論と実践	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	健康づくりの科学	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	現代文化としてのスポーツ I	1・2・3・4 前		2		○									兼8 オムニバス
	現代文化としてのスポーツ II	1・2・3・4 後		2		○									兼9 オムニバス
	スポーツ人類学概論	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	思考と対話	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	情報リテラシー(情報検索)	1・2・3・4 後		2		○			1						
	情報フルエンシー(マルチメディア表現方法)	1・2・3・4 前		2		○			1						
	実践英語ライティング -PRACTICAL ENGLISH WRITING-	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	文章構成法 I	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	文章構成法 II	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	文章構成法 III	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	文章構成法 IV	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	国語表現 I	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	国語表現 II	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	国語表現 III	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	国語表現 IV	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	現代数学 A	1・2・3・4 前		2		○			1						兼1 メディア
	現代数学 B	1・2・3・4 後		2		○			1						兼1
	論理の世界	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	質問力を磨く	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	質問力で社会と向き合う	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	クリティカルシンキング実践	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	思考とコミュニケーション	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	知の探求	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	哲学対話	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	データサイエンスと地域コミュニティ	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	情報フルエンシー(Cプログラミング)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	情報フルエンシー(ウェブ開発のためのJavaScriptプログラミング)	1・2・3・4 前		2		○			1						
	情報フルエンシー(予測分析)	1・2・3・4 後		2		○			1						
	情報フルエンシー(Pythonプログラミング)	1・2・3・4 前		2		○					1				
	情報リテラシー(データの収集・分析・利用)	1・2・3・4 後		2		○				1					
	情報リテラシー(一般)	1・2・3・4 前・後		2		○									兼3
	情報フルエンシー(システム情報処理)	1・2・3・4 後		2		○				1					
	情報フルエンシー(プログラミング技法)	1・2・3・4 前		2		○				1					
	情報フルエンシー(システムコンサルティング)	1・2・3・4 後		2		○			1						
	情報フルエンシー(情報科学と人間)	1・2・3・4 前		2		○			1						
	情報リテラシー(統計処理)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎	1・2・3・4 前・後		2		○			2						兼1 オムニバス
	人工知能基礎	1・2・3・4 前・後		2		○			1						兼1
	データサイエンスと人工知能の実践	1・2・3・4 後		2		○				2					
	情報フルエンシー(HTMLとCSSを用いたWebページ作成技法)	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	情報リテラシー(情報学)	1・2・3・4 前		2		○				2					兼1 オムニバス
	AI革命後の社会と仕事原理	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	データ活用と経営戦略(データサイエンス基礎)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	アナリティクスによる事業戦略(データサイエンス応用)	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	プロセスマイニング実践講座	1・2・3・4 前		2		○									兼1 集中
	情報化社会と情報倫理	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	マルチメディア情報社会論	1・2・3・4 前		2		○			1	1					兼10 オムニバス
	情報と職業	1・2・3・4 後		2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	アナリティクス入門:社会で活用されるアナリティクス	1・2・3・4 前		2		○									兼1	集中
	ビジュアルデータアナリティクス入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	データ分析の基礎	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	データ活用と人間行動	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	データサイエンス概論:日常生活とデータサイエンス	1・2・3・4 前・後		2		○									兼2	
	数学入門 I	1・2・3・4 後		2		○							1			
	数学入門 II	1・2・3・4 前		2		○										
	データサイエンスのための数学	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	社会統計学-国際的な統計データの解釈-	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	AFRICAN RELIGION: AFRICAN TRADITIONAL BELIEFS AND RITES FROM ANCIENT EGYPT TO THE PRESENT	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	文化復興と民族:北米先住民の現在	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	
	CULTURAL REVITALIZATION AND COMMUNITY BUILDING	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	メディア
	東南アジアに学ぶA	1・2・3・4 ①		2		○									兼1	メディア
	東南アジアに学ぶB	1・2・3・4 ③		2		○									兼1	メディア
	メディア・対話・レトリック I	1・2・3・4 前		2		○									兼14	オムニバス
	メディア・対話・レトリック II	1・2・3・4 後		2		○									兼15	オムニバス
	メディア・対話・レトリック III	1・2・3・4 後		2		○		○							兼5	オムニバス
	ナショナリズムと芸術	1・2・3・4 前		2		○									兼2	オムニバス
	赤十字と国際活動	1・2・3・4 後		2		○									兼13	オムニバス
	SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1・2・3・4 ①③		2		○									兼1	
	JAPANESE POP CULTURE	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	経済と環境	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	途上国の人間開発	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	グローバルイゼーションの現状と思想	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	REIMAGINING EDUCATION TOWARDS SUSTAINABLE FUTURES	1・2・3・4 ④		2		○									兼1	メディア
	地球環境学 I	1・2・3・4 前		2		○									兼14	オムニバス メディア
	地球環境学 II	1・2・3・4 後		2		○									兼14	オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 I	1・2・3・4 前		2		○									兼11	オムニバス メディア
	地球環境と科学技術 II	1・2・3・4 後		2		○									兼13	オムニバス メディア
	CONSERVATION	1・2・3・4 ②④		2		○									兼1	メディア
	ENVIRONMENTAL SCIENCE	1・2・3・4 ①③		2		○									兼1	メディア
	グローバルシテズンシップ:アフリカと共に考える未来	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1	メディア
	GLOBALIZATION AND ORGANIZATIONS	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	グローバル社会への招待	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	INTERNATIONAL POLITICS AND PEACEBUILDING 1	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	INTRODUCTION TO CONFLICTS AND HUMAN SECURITY	1・2・3・4 前		2		○									兼1	
	持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ ダイバーシティ&インクルージョン:みんなが幸せに暮らせる、課題解決型の社会を生み出す思考	1・2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス メディア
	DIVERSITY & INCLUSION: IDEAS TO BRING ABOUT EMPOWERING AND THRIVING SOCIETIES	1・2・3・4 後		2		○									兼1	メディア
	現代アジア社会の理解	1・2・3・4 前		2		○									兼1	メディア
	グローバルメディアと日本	1・2・3・4 後		2		○									兼1	
	FUTURE ORIENTED SYSTEMS THINKING FOR SUSTAINABILITY IN TURBULENT TIMES	1・2・3・4 ②		2		○									兼1	
	グローバル企業のリスクとその対応	1・2・3・4 後		2		○									兼11	オムニバス
	ジェンダーの平等 国連・国際協力、世界と日本	1・2・3・4 ④		2		○									兼1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	GENDER EQUALITY, INTERNATIONAL COOPERATION, UN, GLOBAL COMMUNITIES AND JAPAN	1・2・3・4 ②		2		○								兼1	メディア
	HOW CHANGE HAPPENS: LEADERSHIP THAT HARNESSES AND ADVANCES DIVERSITY & INCLUSION	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	DEBATE ON PEACEBUILDING	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	グローバル企業のビジネス展開 -THE DYNAMICS OF A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1・2・3・4 後		2		○								兼15	オムニバス
	アフリカにおける開発援助とビジネス展開	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス
	現代の証券市場と上場会社	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	企業のグローバル人材とリーダーシップ	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス
	グローバルリスクの時代 -目標達成のためのリスク管理と意思決定	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	国際開発金融機関入門	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	グローバル・ベンチャー	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	グローバル化と国際貢献	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス
	教養としてのインテリジェンス-国際情報リテラシーの課題と方法-	1・2・3・4 後		2		○								兼4	オムニバス
	グローバル・リスク論	1・2・3・4 後		2		○								兼15	オムニバス
	グローバル化と言語の多様性	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	グローバル・ビジネスの現状と課題	1・2・3・4 後		2		○								兼10	オムニバス
	企業経営論 (エアライン)	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス
	企業と社会	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	経営社会と人間の行動	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	結婚の哲学	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	日本外交政策	1・2・3・4 後		2		○								兼6	オムニバス
	環境問題と科学技術	1・2・3・4 前		2		○								兼7	オムニバス
	ナノテクノロジー	1・2・3・4 後		2		○								兼2	オムニバス
	技術の歴史	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	社会的価値創出のためのプロジェクト形成論	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	MIXED ROOTS IDENTITY AND TRANSNATIONAL IDENTITY	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	HUMAN BEHAVIOUR AND SOCIAL ENVIRONMENT	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	APPROACHES TO INTERCULTURAL COMPETENCE	1・2・3・4 後		2		○								兼1	メディア
	CULTURAL CONFLICTS AND INTERCULTURAL COMPETENCE	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	文化人類学 I a	1・2・3・4 前		2		○								兼2	
	文化人類学 I b	1・2・3・4 後		2		○								兼2	
	西洋美術史 I	1・2・3・4 前		2		○								兼1	メディア
	西洋美術史 II	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	[漢文 I] 中国古典入門	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	[漢文 II] 中国の文学と文章	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	[漢文 III] 中国の詩文を読む	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	[漢文 IV] 中国文学と日本文学	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	ヨーロッパ文学のアダプテーション	1・2・3・4 後		2		○								兼7	オムニバス
	LITERATURE IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	LITERATURE IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	LITERATURE IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	LITERATURE IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	HISTORY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	HISTORY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	HISTORY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
	HISTORY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○								兼1	
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	PSYCHOLOGY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH A2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	PHILOSOPHY IN ENGLISH B2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	ECONOMICS IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	LAW IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	LAW IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	INTERNATIONAL RELATIONS IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	CULTURAL STUDIES IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	CROSS-CULTURAL COMMUNICATION IN ENGLISH B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	ENVIRONMENTAL ISSUES IN ENGLISH B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A1	1・2・3・4 前		2		○								兼2
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B1	1・2・3・4 後		2		○								兼2
	JAPANOLOGY (LITERATURE) A2	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	JAPANOLOGY (LITERATURE) B2	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	JAPANOLOGY (HISTORY) A1	1・2・3・4 前		2		○								兼2
	JAPANOLOGY (HISTORY) B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) A1	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) B1	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	JAPANOLOGY (TOURISM) A2	1・2・3・4 前		2		○								兼2
	JAPANOLOGY (TOURISM) B2	1・2・3・4 後		2		○								兼2
	フランス文学入門 I	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	フランス文学入門 II	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	ドイツ文学案内	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	日本史	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	東洋史	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	西洋史	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	東南アジア史入門 II	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	東南アジア史入門 I	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	音楽の歴史 I	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	音楽の歴史 II	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	国語の歴史 I	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	国語の歴史 II	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	国語の歴史 III	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	日本辞書の歴史	1・2・3・4 前		2		○								兼1
	日本古典文学入門 I	1・2・3・4 後		2		○								兼1
	日本古典文学入門 II	1・2・3・4 前		2		○								兼1

メディア

隔年
隔年

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	日本古典文学入門Ⅲ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	日本古典文学とその継承	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	日本近代文学入門Ⅰ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	日本近代文学入門Ⅱ	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	マス・コミュニケーション論Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	マス・コミュニケーション論Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO ENGLISH LINGUISTICS	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	言語と人間Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○									兼6 オムニバス
	言語と人間Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス
	生命倫理の世界	1・2・3・4 前		2		○									兼1 集中
	倫理学入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	宗教学	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	簿記会計論	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	会計情報論	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	情報リテラシー(社会調査と社会調査データ分析への入門)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO WORLD ECONOMIC HISTORY	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	教養としての経済知識	1・2・3・4 前		2		○									兼2 メディア
	経済学	1・2・3・4 前		2		○									兼2 メディア
	国際高等教育論①(歴史と変遷)	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	国際高等教育論②(国際化と国際協力)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ESG概論Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	ESG概論Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	法律学	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	経営学入門	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1
	マーケティング入門	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1 メディア
	憲法	1・2・3・4 前・後		2		○									兼3
	政治学	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	心理学入門	1・2・3・4 前・後		2		○									兼2
	心理学ⅠA	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	心理学ⅠB	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	立場の心理学1:マジョリティの特権を考える	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1 メディア
	立場の心理学2:特権の自覚と行動をつなぐ	1・2・3・4 ②		2		○									兼1
	メディアと情報の社会学	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	社会学A	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	社会学	1・2・3・4 前・後		2		○									兼2 メディア
	社会学B	1・2・3・4 後		2		○									兼1 メディア
	農村と農業の社会学	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	教養としての社会保障	1・2・3・4 前		1		○									兼1
	アフリカ研究入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	THE HISTORIOGRAPHY OF AFRICA	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	AFRICAN CULTURE	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	現代ドイツの政治	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	中東イスラーム研究入門Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	中東イスラーム研究入門Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	ロシア社会	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	COMPARATIVE CULTURAL STUDIES (DISCOVERING RUSSIAN CULTURE)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	地域研究の最前線	1・2・3・4 前		2		○									兼12
	イスパニア語圏の歴史と今	1・2・3・4 後		2		○									オムニバス
	南アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○									兼7
	東南アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	東アジア研究入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	世界文化遺産(ナンマトル遺跡)	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	世界文化遺産(アンコール・ワット遺跡)	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	グローバル社会への招待	1・2・3・4 前		1		○									兼1
	平和構築入門	1・2・3・4 ④		2		○									兼1
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION THEORY AND PRACTICE	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	国際協力概論-日本による開発援助の潮流と仕組み-	1・2・3・4 後		2		○									兼1 オムニバス
	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION -OVERVIEW AND MANAGEMENT METHOD OF JAPAN'S INTERNATIONAL COOPERATION -	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	国際政治史入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	国際機構論	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	発生物学入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	環境分子生物学入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	入門毒物学	1・2・3・4 後		2		○			1						
	MODERN CHEMISTRY IN LIFE AND SOCIETY	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	化学と生活Ⅲ-環境と生命-	1・2・3・4 前		2		○									兼3 オムニバス
	化学と生活Ⅰ-物質の理解-	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	化学と生活Ⅱ-身のまわりの化学-	1・2・3・4 後		2		○									兼2 オムニバス
	情報フルエンシー(電気回路・電子回路)	1・2・3・4 前・後		2		○			1						
	図形の世界	1・2・3・4 前		2		○				1					
	数の世界	1・2・3・4 後		2		○			1						
	現代物理学の世界A(ノーベル賞のインパクト)	1・2・3・4 前		2		○									兼3 オムニバス
	現代物理学の世界B(ノーベル賞とテクノロジー)	1・2・3・4 後		2		○									兼3 オムニバス
	自然科学史Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	自然科学史Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	宇宙の科学	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1
	身近な物理	1・2・3・4 後		2		○									兼4 オムニバス
	アプリカと開発:2030アジェンダと持続可能な社会づくり	1・2・3・4 前		2		○									兼1
	開発教育:開発をめぐる課題を世界はどのように学ぶのか	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	自主研究(グローバル課題研究):人間の安全保障と平和構築	1・2・3・4 前		2		○									兼1 メディア
	国際緊急人道支援と強靱な社会づくり	1・2・3・4 後		2		○									兼12 オムニバス
	留学準備講座	1・2・3・4 ①②③④		1		○									兼4
	つくるⅠ(キャリア形成Ⅰ)	1・2・3・4 後		2		○				1					兼3 オムニバス
	LEARNING FROM THE INSIDERS: A FIELD STUDY COURSE ON THE SUSTAINABILITY OF RURAL SOCIETY	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	キャリアディベロップメント	1・2・3・4 前		2		○									兼3
	キャリアディベロップメント(スキルアップ編)	1・2・3・4 後		2		○									兼1
	東南アジアに学ぶ(実践型プログラム) A	1・2・3・4 前		2				○							兼1 集中/メディア
	東南アジアに学ぶ(実践型プログラム) B	1・2・3・4 後		2				○							兼1 集中/メディア
	ジュネーブ国際機関集中研修プログラム	1・2・3・4 前		2				○							兼1 集中/メディア
	GLP グローバルリーダーシップ・プログラム	1・2・3・4 前		2				○							兼1 集中
	国連の役割と機能(国連集中研修プログラム)	1・2・3・4 後		2				○							兼1 集中
	インド・サービスマーケティング・プログラム	1・2・3・4 前		4				○							兼1 集中
	AJCU-AP サービスラーニング・プログラム	1・2・3・4 前		4				○							兼1 集中/メディア
	エストニア・スタディツアー:持続可能な社会構築に向けた教育の可能性	1・2・3・4 後		2				○							兼1 集中
	インドの社会経済・人間開発に学ぶ:南インドのケララ州を実例に	1・2・3・4 前		2				○							兼1 集中
	国際公務員をめざして(実務型国連集中研修)	1・2・3・4 前		2				○							兼1 集中/メディア

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	ミャンマー・スタディーツアー	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	多文化共生社会のリーダーシップ	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	インド・サービスラーニング・プログラム	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	アフリカに学ぶA	1・2・3・4 前		2				○							兼1	集中
	アフリカに学ぶB	1・2・3・4 後		2				○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ(中期)	1・2・3・4 前		6				○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ(短期)	1・2・3・4 前・後		2				○							兼4	集中
	経済同友会連携インターンシップ	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1	集中
	UDトラックスインターンシップ -A DOOR TO A WORLD LEADER IN SUSTAINABLE TRANSPORT SOLUTIONS-	1・2・3・4 前・後		2				○							兼1	集中
	身体のリベラルアーツ(教職課程履修者用)	1・2・3・4 後		1				○							兼1	
	小計(346科目)	—	0	677	0			—	12	7	0	2	0	兼461		
語学科目	必修科目															
	ACADEMIC COMMUNICATION 1	1 前	2				○								兼23	
	ACADEMIC COMMUNICATION 2	1 後	2				○								兼23	
	小計(2科目)	—	4	0	0			—	0	0	0	0	0	兼24		
合計 (607 科目)		—	46	1126	11			—	17	9	0	3	0	兼795		
学位又は称号		学士(理工学)		学位又は学科の分野				理学関係、工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
学科科目から94単位以上、全学共通科目から26単位以上(必修科目8単位、選択必修6単位(キリスト教人間学2単位、高学年向け科目4単位以上)、選択科目12単位以上)、及び語学科目から必修科目4単位以上を修得し合計124単位以上を修得すること。 なお、学科科目については、①理工共通科目Ⅰ群から必修科目16単位、選択必修2単位以上、②理工共通科目Ⅱ群から選択必修科目22単位以上、選択科目12単位以上、③学科コア科目から必修科目18単位以上、④学科専門科目から選択科目24単位(A群、B群、C群、D群のうちの1群から10単位以上、上記の10単位を修得した群以外の群、及び物質生命理工学科、機能創造理工学科の「学科専門科目」から6単位以上を含む)以上の94単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:半期27単位、年間49単位)								1学年の学期区分			2学期4クォーター					
								1学期の授業期間			学期14週 クォーター7週					
								1時限の授業時間			100分					

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

今般の本学神学部神学科及び理工学部物質生命化学科、機能創造理工学科、情報理工学科の收容定員変更は、本学に対する受験生ニーズに応えること、並びに人材の養成に係る社会的な需要に応えることにより、「他者のために、他者ととともに(For Others, With Others)」という本学の教育の精神を実践する人材の養成を目指している。

増員する学科と定員は表1のとおりであるが、定員を定めるにあたっては①一般的な大学受験年齢層である18歳前後の人口動態、②首都圏の大学等進学状況、③本学科の入学志願者実績、④他大学における志願及び定員充足状況を参考にした。

以上のデータを基に、学生指導とカリキュラム運用ができる教員組織であるか、收容定員の増加に対応できる施設・設備であるか、私立大学としての競争力があるかなどについて総合的に勘案した結果、変更後の入学定員を確実に確保できると考えている。

表1 收容定員を増加する学科一覧

学部名	学科名	入学定員	收容定員		変更後 入学定員	変更後 收容定員
神	神	40名	176名※		50名	216名※
理工	物質生命理工	125名	500名	⇒	137名	548名
	機能創造理工	125名	500名		137名	548名
	情報理工	130名	520名		136名	544名
	計	380名	1,520名		410名	1,640名
学部の合計		2,801名	11,220名※		2,841名	11,380名※

※編入学の收容定員16名を含む

イ 定員充足の根拠となるデータ概要

1) 上智大学の志願動向

18歳人口が減少する中、多くの大学が志願者数の減少に直面しているが、本学では大学全体の入学試験受験者に関しては、過去5年では入学定員に対して9.3倍～12.5倍の志願者を集めてきた。(表2参照)

本学は、2021年度入学試験から入試制度改革を行い、一般入試においてはより理解力、考察力を求めるために、①事前に受験したTEAP又はTEAP CBTのスコア及び上智大学独自の教科・科目試験の結果で総合的に合否判定を行う「TEAPスコア利用型(全学統一日程入

試)」、②大学入学共通テスト(任意提出した外国語外部検定試験結果含む)及び上智大学独自の学部学科試験結果で総合的に合否判定を行う「学部学科試験・共通テスト併用型」、③大学入学共通テストのみで合否判定を行う「共通テスト利用型」の3方式に変更した。なお、近年3万人以上の志願者を集めていたものの、2022年度入試においては、入試制度改革と経済不況や少子化といった社会情勢に加えて新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き残ったため、全学的に受験生数が減少した。

表2 上智大学の過去5年間の志願倍率

年度	入学定員	志願者数	志願倍率
2018	2,801	35,234	12.58
2019	2,801	32,250	11.51
2020	2,801	30,259	10.80
2021	2,801	30,295	10.82
2022	2,801	26,018	9.29

2) 地域の優位性

18歳人口の減少は大学にとって避けられない問題である。しかし、2040年の都道府県別総人口の将来推計によれば【資料1】、本学が所在する東京都の総人口は24万人の増加が見込まれており、収容定員に対して十分な数の受験者数を確保している本学の現状から判断する限り、影響は軽微と考えている。

また、東京の中心地にキャンパスが立地しているという本学の優位性は、学生確保において大いにプラスに働くと考えられる。特に、本学の多くの学生が在学中にインターンシップを経験するが、その際に情報の集積量や交通アクセスなどに鑑みると、東京の中心にあるキャンパスを機軸に活動を展開できることは、学内での学びを更に充実させる効果がある。更に、官公庁、駐日国際機関、また国立国会図書館をはじめとする研究に欠かせない施設の多くがキャンパスから電車で15分以内にアクセス可能であることは、本学での学びを活かした国際的な活躍を志向する学生にとって魅力的に映ると思われる。

また、後述するように留学生の確保にも力を入れているが、この観点で見た場合も、日本の首都・東京にキャンパスがあるという立地で学べるということは、大きなアピール材料になると考えられる。

3) 大学進学者数の推移

本学の一般選抜試験の過去5年間の都道府県別志願者数、合格者数、手続者数で確認すると、どの分類においても約8割が本学のある東京都と近県の神奈川県、埼玉県、千葉県、1都3県の在住者である。

表3 一般選抜試験における1都3県の志願者・合格者・手続者の割合

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者	志願者合計 (A)	31,181	27,916	26,156	26,270	22,503
	1都3県志願者合計 (B)	25,063	22,655	21,023	21,058	17,755
	1都3県志願者率 (B/A)	80.4%	81.2%	80.4%	80.2%	78.9%
合格者	合格者合計 (C)	5,085	4,765	5,476	6,776	7,153
	1都3県合格者合計 (D)	4,231	4,056	4,559	5,613	5,694
	1都3県合格者率 (D/C)	83.2%	85.1%	83.3%	82.8%	79.6%
手続者	手続者合計 (E)	1,277	1,222	1,243	1,213	1,268
	1都3県手続者合計 (F)	1,035	1,022	1,001	970	996
	1都3県手続者率 (F/E)	81.0%	83.6%	80.5%	80.0%	78.5%

本学の主な志願者・入学者の主な出身地である1都3県の人口動態(表3参照)を、国立社会保障・人口問題研究所の「『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』将来の地域別男女5歳階級別人口」で確認した。

東京都は、2020年度を100とした場合、2030年度101.1、2040年100.2と20年後においても総人口は増加する。一方、神奈川県は、2020年100とした場合、2030年97.7、2040年は93.4と7.6ポイントの減少。埼玉県は、2030年97.3、2040年92.4と7.6ポイントの減少。千葉県は、2030年96.5、2040年91.0と9.0ポイントの減少となる。1都3県の合計は、2020年100とした場合、2030年98.7、2040年95.4と4.6ポイントの減少に留まる(表4参照)。

表4 1都3県の総人口と指数

	東京都		神奈川県		埼玉県		千葉県		平均	
	千人	指数	千人	指数	千人	指数	千人	指数	千人	指数
2020年	13,733	100.0	9,141	100.0	7,273	100.0	6,205	100.0	9,088	100.0
2025年	13,846	100.8	9,070	99.2	7,203	99.0	6,118	98.6	9,059	99.7
2030年	13,883	101.1	8,933	97.7	7,076	97.3	5,986	96.5	8,970	98.7
2035年	13,852	100.9	8,751	95.7	6,909	95.0	5,823	93.8	8,834	97.2
2040年	13,759	100.2	8,541	93.4	6,721	92.4	5,646	91.0	8,667	95.4

指数(2020年=100)

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所

日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)ー平成27(2015)～57(2045)年

次に、1都3県の一般的な受験年齢層の15歳～19歳の人口動態を、上記と同様に国立社会保障・人口問題研究所資料で確認した。

東京都は、2020年度を100とした場合、2030年度102.3、2040年94.0と20年後は6ポイントの減少となる。神奈川県は、2020年100とした場合、2030年90.9、2040年79.3と20.7ポイントの減少。埼玉県は、2030年90.4、2040年79.7と20.3ポイントの減少。千葉県は、2030年88.6、2040年77.7と22.3ポイントの減少となる。1都3県の合計は、2020年100とした場合、2030年94.4、2040年84.4と15.6ポイントの減少となる。（表5参照）

表5 1都3県の15歳～19歳の将来人口

	東京都		神奈川県		埼玉県		千葉県		合計	
	人	倍	人	倍	人	倍	人	倍	千人	指数
2020年	552,167	100.0	418,685	100.0	335,397	100.0	279,703	100.0	1,585,952	100.0
2025年	557,895	101.0	402,909	96.2	322,194	96.1	267,574	95.7	1,550,572	97.8
2030年	564,674	102.3	380,774	90.9	303,238	90.4	247,831	88.6	1,496,517	94.4
2035年	550,194	99.6	363,551	86.8	290,843	86.7	237,075	84.8	1,441,663	90.9
2040年	518,774	94.0	334,653	79.9	267,354	79.7	217,320	77.7	1,338,101	84.4

指数（2020年＝100）

（出典）国立社会保障・人口問題研究所

「『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』_将来の地域別男女5歳階級別人口」

1都3県の大学進学率について、平成30年2月21日開催の中央教育審議会将来構想部会資料「大学への進学者数の将来推計について」を確認すると、東京都は72.8%の高進学率が2040年まで維持される。神奈川県は2020年を100とすると2030年101.5、2040年103.1と増加。埼玉県は2020年を100とすると2030年108.0、2040年111.9と1割強増加。千葉県も2020年を100とすると2030年105.9、2040年105.9と増加する。（表6参照）

表6 1都3県の大学進学率の将来推計

	東京都		神奈川県		埼玉県		千葉県	
	%	指数	%	指数	%	指数	%	指数
2020年度	72.8	100.0	54.6	100.0	53.6	100.0	54.4	100.0
2025年度	72.8	100.0	55.0	100.7	55.6	103.7	56.8	104.4
2030年度	72.8	100.0	55.4	101.5	57.9	108.0	57.6	105.9
2035年度	72.8	100.0	55.9	102.4	59.5	111.0	57.6	105.9
2040年度	72.8	100.0	56.3	103.1	60.0	111.9	57.6	105.9

指数（2020年＝100）

（出典）中央教育審議会 将来構想部会 平成30年2月21日開催（第13回）

大学への進学者数の将来推計について

上記のとおり、本学の一般選抜試験の志願者の多くが在住する1都3県においては、大学の一般的な受験年齢層は減少するものの、大学進学率については、高止まりする東京都及び神奈川県、埼玉県、千葉県大学の進学率は上昇する。よって、今後も本学に対する志願者数の大きな減少は予測しておらず、選考を行うに十分な志願者は確保することができると考えている。

4) 神学部及び理工学部の志願動向

続いて、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願者動向」の「主な学部別の志願者・入学者動向学部系統別の動向」で私立大学の神学部と理工学部の志願者と入学者の動向を確認した。(表7、8参照)

神学部は全国の私立大学に6学部あり、過去5年間の志願倍率は4.0倍から7.1倍で平均5.7倍の志願倍率が確保されている。入学者定員充足率は、90.2%から98.9%で平均は96.2%である。

理工学部は全国の私立大学に29学部あり、過去5年間の志願倍率は13.9倍から15.7倍で平均14.6倍の高い志願倍率が確保されている。入学者定員充足率は、99.3%から104.2%で平均100.5%である。

ちなみに、工学部の過去5年間の志願倍率は8.9倍から14.3倍で平均12.4倍、理学部の過去5年間の志願倍率は10.0倍から11.4倍で平均10.6倍となっており、理工学部が高い志願倍率となっている。

私立大学の神学部と理工学部への志願者と入学者の動向を確認しても、今般本学が設定する入学定員は十分に満たせると考えている。

表7 神学部の入学者及び志願者の動向

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
集計学部数	6	6	6	6	6
入学定員 (A)	180	183	183	181	181
志願者数 (B)	1,101	1,052	1,298	1,030	728
入学者数 (C)	186	165	181	177	164
志願倍率 (B/A)	6.1	5.7	7.1	5.7	4.0
入学定員充足率% (C/A)	103.3%	90.2%	98.9%	97.8%	90.6%

(出典) 日本私立学校振興・共済事業団

私立大学・短期大学等入学志願動向

表 8 理工学部の入学者及び志願者の動向

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
集計学部数	30	30	29	30	29
入学定員 (A)	18,545	18,681	18,441	18,581	18,040
志願者数 (B)	258,262	265,201	275,555	292,296	253,201
入学者数 (C)	19,333	18,570	18,318	18,496	18,055
志願倍率 (B/A)	13.9	14.2	14.9	15.7	14.0
入学定員充足率% (C/A)	104.2%	99.4%	99.3%	99.5%	100.1%

(出典) 日本私立学校振興・共済事業団

私立大学・短期大学等入学志願動向

5) 神学部神学科及び理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科の過去5年間の志願者状況

上述のとおり、本学の一般選抜入試は①TEAP スコア利用型 (全学統一日程入試)、②学部学科試験・共通テスト併用型、③共通テスト利用型の3方式がある。他の入試方法としては、推薦入学試験 (指定校)、推薦入学試験 (公募制)、カトリック高等学校対象特別入試、海外就学経験者入試、外国人入学試験、国際バカロレア入学試験などがある。

今般、収容定員変更を行う神学部神学科、及び理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科の過去5年間の志願者状況を確認した。(表9～12参照)

まず、神学部神学科は、志願倍率は3.38倍から4.20倍で平均は3.81倍であり、歩留率は82%から89.4%で平均は83.9%であり、定員超過率は1.03から1.05で平均は1.04である。

次に、理工学部物質生命理工学科は、志願倍率は9.80倍から12.24倍で平均は10.67倍であり、歩留率21.9%から39.8%で平均は32.5%であり、定員超過率は0.96から1.04で平均は0.99である。機能創造理工学科は、志願倍率は9.06倍から11.98倍で平均は10.61倍であり、歩留率23.7%から43.9%で平均は35.3%であり、定員超過率は0.98から1.05で平均は1.02である。情報理工学科は、志願倍率は10.62倍から13.99倍で平均は12.67倍であり、歩留率23.3%から46.3%で平均は34.5%であり、定員超過率は1.01から1.04で平均は1.02である。

上記のとおり、収容定員変更を行う4学科は、志願倍率、歩留率並びに定員超過率からしても、安定して志願者を集めることができると考えている。

表 9 神学部神学科の志願者倍率及び入学者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入学定員(A)	40	40	40	40	40
志願者数(B)	137	168	161	135	160
受験者数(C)	131	161	156	133	160
合格者数(D)	50	49	47	50	51
辞退者(E)	1	1	0	0	0
入学者数(F)	41	41	42	41	42
志願倍率(B/A)	3.43	4.20	4.03	3.38	4.00
歩留率%(F/D)	82.0%	83.7%	89.4%	82.0%	82.4%
定員超過率(F/A)	1.03	1.03	1.05	1.03	1.05

表 10 入学試験状況（物質生命理工学科）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入学定員(A)	125	125	125	125	125
志願者数(B)	1530	1236	1225	1381	1296
受験者数(C)	1432	1167	1140	1290	1255
合格者数(D)	333	324	340	467	538
辞退者(E)	15	23	12	17	19
入学者数(F)	120	129	130	123	118
志願倍率(B/A)	12.24	9.89	9.80	11.05	10.37
歩留率%(F/D)	36.0%	39.8%	38.2%	26.3%	21.9%
定員超過率(F/A)	0.96	1.03	1.04	0.98	0.94

表 11 入学試験状況（機能創造理工学科）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入学定員(A)	125	125	125	125	125
志願者数(B)	1498	1242	1132	1369	1203
受験者数(C)	1447	1191	1074	1281	1154
合格者数(D)	294	292	336	519	478
辞退者(E)	10	9	8	18	21
入学者数(F)	129	127	128	123	131
志願倍率(B/A)	11.98	9.94	9.06	10.95	9.62
歩留率%(F/D)	43.9%	43.5%	38.1%	23.7%	27.4%
定員超過率(F/A)	1.03	1.02	1.02	0.98	1.05

表 12 入学試験状況（情報理工学科）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入学定員(A)	130	130	130	130	130
志願者数(B)	1791	1571	1380	1819	1677
受験者数(C)	1709	1493	1292	1709	1603
合格者数(D)	283	326	352	562	553
辞退者(E)	11	11	11	13	18
入学者数(F)	131	134	131	131	135
志願倍率(B/A)	13.78	12.08	10.62	13.99	12.90
歩留率%(F/D)	46.3%	41.1%	37.2%	23.3%	24.4%
定員超過率(F/A)	1.01	1.03	1.01	1.01	1.04

6) 他大学の状況

①比較大学の志願状況

・神学部神学科

神学部神学科については、総合大学でキリスト教系学科がある次の 5 大学を対象とし志願状況を調査した。（表 1 3 参照）

過去 3 年間の各校の状況は、5 倍程度の倍率を確保してきているが、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響からかすべての大学において志願倍率は落ちているが、入学者の選抜を行うには各校とも問題ない志願者数である。

・理工学部

理工学部については、「THE 世界大学ランキング日本版 2022」総合順位 50 位内【資料 2】で、首都圏にある私立大学の理工学部を調査対象とした。（表 1 4 参照）

過去 3 年間の各校の状況は、10 倍程度を超えた倍率を確保しているが、2021 年度入試において 30 倍を超過する志願者があった大学もある。理工学部についても、神学部と同様であるが 2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響からか志願倍率が落ちている大学が殆どであるが、入学者の選抜を行うには各校とも問題ない志願倍率があり、理工学部の根強い志願動向を示している。

表 13 神学科及びキリスト教学科の志願倍率

大学	学部	学科	A入学定員			B志願者数			志願倍率(B/A)		
			2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
同志社大学	神学部	神学科	63	63	63	646	417	353	10.3	6.6	5.6
関西学院大学	神学部	—	30	30	30	251	205	133	8.4	6.8	4.4
西南学院大学	神学部	神学科	10	10	10	98	171	68	9.8	17.1	6.8
立教大学	文学部	キリスト教学科	49	49	49	456	525	413	9.3	10.7	8.4
南山大学	人文学部	キリスト教学科	20	20	20	217	170	131	10.9	8.5	6.6

（出典）各校のホームページ

表 14 理工学部の志願倍率

大学	学科	A入学定員			B志願者数			志願倍率(B/A)		
		2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
青山学院大学 理工学部	物理・数理学科	130	130	-	1,957	2,041	-	15.1	15.7	-
	物理科学科	-	-	105	-	-	1,158	-	-	11.0
	数理サイエンス学科	-	-	55	-	-	691	-	-	12.6
	化学・生命科学科	115	115	115	1,520	1,801	1,348	13.2	15.7	11.7
	電気電子工学科	120	120	120	1,417	1,622	1,111	11.8	13.5	9.3
	機械創造工学科	95	95	95	1,620	1,820	1,062	17.1	19.2	11.2
	経営システム工学科	95	95	95	1,332	1,303	1,177	14.0	13.7	12.4
情報テクノロジー学科	95	95	95	1,892	1,747	1,635	19.9	18.4	17.2	
慶応義塾大学 理工学部	全学部	932	932	932	8,536	7,774	8,178	9.2	8.3	8.8
中央大学 理工学部	数学科	70	70	70	765	800	880	10.9	11.4	12.6
	物理学科	70	70	70	1,579	1,616	1,560	22.6	23.1	22.3
	都市環境学科	90	90	90	1,702	1,671	1,497	18.9	18.6	16.6
	精密機械工学科	145	145	145	2,564	2,123	1,871	17.7	14.6	12.9
	電気電子情報通信工学科	135	135	135	2,554	2,404	2,536	18.9	17.8	18.8
	応用化学科	145	145	145	2,426	2,341	2,451	16.7	16.1	16.9
	経営システム工学科	115	115	115	1,633	1,814	1,576	14.2	15.8	13.7
	情報工学科	100	100	100	2,906	3,032	2,755	29.1	30.3	27.6
	生命科学科	75	75	75	1,158	1,432	1,060	15.4	19.1	14.1
	人間総合理工学科	75	75	75	859	735	567	11.5	9.8	7.6
東京理科大学 理工学部	数学科	120	120	120	1,849	1,619	1,134	15.4	13.5	9.5
	物理学科	120	120	120	1,949	1,800	1,644	16.2	15.0	13.7
	情報科学科	120	120	120	2,285	2,316	2,102	19.0	19.3	17.5
	応用生物科学科	120	120	120	2,050	2,210	1,661	17.1	18.4	13.8
	建築学科	120	120	120	2,085	1,759	1,306	17.4	14.7	10.9
	先端化学科	120	120	120	2,021	1,869	1,080	16.8	15.6	9.0
	電気電子情報工学科	160	160	160	2,688	2,408	2,056	16.8	15.1	12.9
	経営工学科	120	120	120	1,692	1,951	1,411	14.1	16.3	11.8
	機械工学科	120	120	120	2,995	2,777	2,284	25.0	23.1	19.0
	土木工学科	120	120	120	1,616	1,549	1,323	13.5	12.9	11.0
	電気電子生命学科	236	236	236	3,138	3,746	3,199	13.3	15.9	13.6
明治大学 理工学部	機械工学科	138	138	138	3,150	3,143	2,973	22.8	22.8	21.5
	機械情報工学科	138	138	138	1,990	1,685	1,578	14.4	12.2	11.4
	建築学科	173	173	173	3,529	3,048	2,929	20.4	17.6	16.9
	応用化学科	127	127	127	2,432	2,502	2,258	19.1	19.7	17.8
	情報科学科	127	127	127	3,333	3,329	3,916	26.2	26.2	30.8
	数学科	63	63	63	1,063	980	1,092	16.9	15.6	17.3
	物理学科	63	63	63	1,432	1,308	1,172	22.7	20.8	18.6

(出典) 各校のホームページ

②学生確保に向けた具体的な取り組み状況

ア 入試制度について

本学では、カトリシズムの精神を基盤に、次の4つを柱とする人材養成を教育の目標としており、それらを高めたいと望む学生を受け入れるべく、以下の通り大学としてのアドミッション・ポリシーを定めている。

【上智大学のアドミッション・ポリシー】

1. キリスト教ヒューマニズム精神の涵養

本学の建学の理念であるキリスト教ヒューマニズムに触れてこれを理解すること、他者や社会に奉仕する中で自己の人格を陶冶すること、真理の探究と真の自由を得るために自らを高めること。

2. 他者に仕えるリーダーシップの涵養

他者のために、他者とともに生きる精神-” For Others, With Others” を育むこと、社会から受ける恩恵を自覚し、それにともなう責任感を抱くこと、リーダーシップに必要な基礎能力を培うこと。

3. グローバル・コンピテンシーの養成

グローバル・イシューへの関心を抱くこと、複数の言語でコミュニケーションできること、さまざまな文化の違いを理解し、その違いを肯定的に受け止め、それらのかけ橋となれること。

4. 幅広い教養と専門分野の知識・能力の修得

幅広い教養やコミュニケーション能力など社会人としての基礎能力、専攻する学問分野における専門的知識・能力を修得すること。

上記を学力の3要素に対比させると、1・2に関連して、「主体性・対話性・協働性」を高めていこうとする人、3に関連して、「思考力・判断力・表現力」を深めていこうとする人、4に関連して、「知識・教養・技能」の獲得を目指そうとする人を本学は求めています。

このアドミッション・ポリシーに基づき、本学では複数の入試制度を設けているが、その中で受験者数が最も多い一般入学試験、今回定員変更を行う2学部において入学者の多い特別入学試験、推薦入学試験について説明する。

1) 一般入学試験の実施

本学の一般入学試験制度は、「高大接続改革」をより一層推進するために、「学則の変更の趣旨等を記載した書類」でも説明した通り、2021年度入学者選抜試験より学部一般選抜（以下、一般入試）の制度を一新した。（入試制度の異なる国際教養学部を除く全学部・全学科）。新制度の柱としては、英語4技能を測定する外部検定試験結果を活用（TEAP のスコア利用方式、CEFR レベルに応じた得点換算方式）すること、「大学入学共通テスト」（英語外部検定試験含む）を導入した選抜方式の新設が挙げられる。

本学の一般入学試験制度は、「高大接続改革」をより一層推進するために、2021年度入学者選抜試験より、学部一般選抜（以下、一般入試）の制度を一新した。（入試制度の異なる国際教養学部を除く全学部・全学科）。新制度の柱としては、英語4技能を測定する外部検定試験結果を活用（TEAP のスコア利用方式、CEFR レベルに応じた得点換算方式）すること、「大学入学共通テスト」（英語外部検定試験含む）を導入した選抜方式の新設が挙げられる。

現行の高等学校学習指導要領では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能のバランスの取れたコミュニケーション力を重視した英語の習得を目指す方向性が示されていることから、大学入試においても4技能を正確に測定するような試験問題の質的向上を図ることが

求められている。本学ではこれまでも 2015 年度入試における「TEAP 利用型一般入学試験」の導入など、この 4 技能測定には早くから取り組んできた。新制度の入試においても、高等学校学習指導要領に則った確かな英語運用能力を擁する学生の確保に努めていく。

2) 学生の多様性を意識した入試の実施

学生の多様性を確保するためには、一般入学試験に偏らない学生選抜方法を構築することは欠かせない。本学では入学者のうち過半数を一般入学試験で選抜しているが、これに加えて多様な入試制度を設けることで、確かな基礎学力や教養を身に付け、さまざまな個性や文化的背景をもった学生の募集を行なっている。

中でも、特に関わりのある 3 つの入試制度について詳述する。

i) カトリック高等学校対象特別入学試験

本学は附属校を有していないものの、カトリック系の高等学校を対象に、「カトリック高等学校対象特別入学試験」として、中等教育においてカトリックの精神を学び、本学の教育理念に共感を持ち、グローバルキャンパスの構成に資する人材の多面的、多角的評価を機軸にした入学試験を実施している。本入試制度により、キリスト教ヒューマニズムに十分な理解を持つ学生を一定数確保することをグローバルキャンパスの構成要件の一端とする旨、平成 26 年度に採択を受けた「スーパーグローバル大学創成支援」調書にも記載を行なった。カトリックの高等学校は歴史的に強い繋がりがあり、本学の教育研究内容についても深い理解を有していることから、以下表 15 に示す通り、安定的に受験者を集めている。

表 15 カトリック高等学校対象特別入学試験受験者数・合格者数

入試年度	神学科		物質生命理工学科		機能創造理工学科		情報理工学科	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
2018	4	4	7	7	3	2	6	5
2019	13	11	6	5	2	1	8	6
2020	4	2	8	5	5	4	7	4
2021	17	14	6	5	5	3	7	1
2022	12	9	11	6	2	0	10	6

ii) 指定校推薦入学試験

1 回限りの学力試験では評価しがたい資質・能力を総合的に判断するとともに、学科試問や面接によって志望動機の強さや学力到達度、学科への適性を判定する試験制度だが、学部学科が求める人材像との整合性を意識した上で、指定校枠付与については毎年見直しを行なっている。指定校付与枠に対する入学率は以下表 16 に示す通り、神学部・理工学部ともに近 5 年平均では 70% 台後半であり、比較的高い状況で推移している。

表 16 指定校付与枠に対する入学率

入学年度	神学科			物質生命理工学科			機能創造理工学科			情報理工学科			理工学部小計		
	指定人数	志願者数	入学率(%)	指定人数	志願者数	入学率(%)	指定人数	志願者数	入学率(%)	指定人数	志願者数	入学率(%)	指定人数	志願者数	入学率(%)
2018	7	6	86	65	43	66	70	48	69	60	47	78	195	138	71
2019	10	7	70	65	45	69	70	45	64	60	48	80	195	138	71
2020	10	8	80	65	53	82	70	56	80	60	48	80	195	157	81
2021	4	2	50	64	55	86	65	51	78	60	53	88	189	159	84
2022	7	7	100	63	44	70	64	52	81	67	53	79	194	149	77

iii) 公募制推薦入学試験

本学の各学部・学科が求める優秀かつ個性的な人材に対して、本学固有の入学者選抜制度をもって広く門戸を開き、入学者の多様化を図ることを目的としている。高等学校在学中の学習成績、課外活動、社会活動など、1 回限りの学力試験では評価しがたい資質・能力を調査書や自己推薦書、レポート等特定課題などで判断するとともに、学科ごとの個別テストや面接によって、志望動機の強さならびに学力到達度や学科への適性を判定しており、推薦を受ける高校を特定しないことで、全国から幅広く優秀かつ個性的な人材を募っている。すべての学部・学科で募集するものの、1 学科しか出願できないこと、他大学との併願を認めていないことから、志望度の高い受験者を神学部、理工学部ともに集めており、受験者数も高めで安定している。(表 17 参照)

表 17 公募制推薦入学試験受験者数・合格者数

入試年度	神学科		物質生命理工学科		機能創造理工学科		情報理工学科	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
2018	17	12	11	7	10	6	11	4
2019	16	11	15	7	10	5	18	3
2020	25	18	9	3	13	4	14	5
2021	11	8	12	3	13	6	22	5
2022	19	12	11	6	10	4	23	6

イ 学問内容の広報

本学ではいち早くオープンコースウェア (OCW) のシステムを導入し、大学で開講されている講義の動画配信を積極的に行なってきた。

(URL : <https://ocw.cc.sophia.ac.jp/>)

大学の教育・研究活動の集積である「講義」の公開によって、教育課程の内容を深く理解してもらうことに繋げて行く努力を引き続き進めて行く。

また、入試広報を主管する本学入学センターでは独自の YouTube チャンネルを設け、入試制度の紹介のみならず全学部全学科の紹介動画を公開しており、学部長・学科長から当該学部・学科の学びの特徴を直接伝えるコンテンツを 2021 年度より展開している。【資料 3】

ウ 入試広報の強化

入試広報に関しては、管轄する部署の教職員のみで対応することなく、若手・中堅職員を中心に、全職員の約3分の1が入試広報活動に関わる「アドミッション・アドバイザー」制度を導入し、全国規模で進学相談会への参画・高等学校訪問を行なうことで、大学の教育・研究内容の情報発信を続けている。一部のアドバイザーに関しては、担当校を持つシステムを導入し、進路担当教員との定期的なコミュニケーション機会の確保や、高校オーダーメイドによる説明会や授業の実施企画も行う「アドバンスド・アドミッション・アドバイザー（AAA）」として任命をしている。毎年度積極的な広報活動に従事している。

さらに、本学では2011年に大阪市北区に「上智大学大阪サテライトキャンパス」を開設しており、専任職員および常勤職員を配置して、関西を中心とした西日本地区において重点的に入試広報活動を展開している。【資料4】

対面型のオープンキャンパスに関しては、2020年度・2021年度は中止もしくは大規模な人数制限による実施を余儀なくされていたが、2022年度は人数規模を拡大して開催予定である。その際、上述のオンライン上で公開している動画と組み合わせて、対面ならではの企画に特化したプログラムを組んでいる。【資料5】

こうした情報発信を継続的かつ効率的に行なうことで、教育課程の内容を正しく、わかりやすく、かつ継続的に伝えることにしている。

エ 学生納付金の設定について

神学部について、日本国内の総合大学5大学の神学科及びキリスト教学科を比較対照校として調査したが、初年度納付額の平均額は1,220,910円であった。本学の初年度納付額は、平均額よりも若干高く1,252,630円となっている。（表18参照）

理工学部についても、「THE世界大学ランキング日本版2022」総合順位50位内の近隣の5校を比較対照校として調査した。その平均額は1,755,150円であったが、理工学部も平均額より若干高い1,794,650円である。（表19参照）

上記のとおり、本学の初年度納付金は平均額よりも若干高くなっているが、志願者の確保に学費が障害となるとは考えていない。

表18 神学部神学科の初年度納付金

（単位：円）

大学	学部	学科	2022年度 初年度納付金
同志社大学	神学部	神学科	1,222,000
関西学院大学	神学部	—	1,136,000
西南学院大学	神学部	神学科	1,172,050
立教大学	文学部	キリスト教学科	1,334,500
南山大学	人文学部	キリスト教学科	1,240,000
平均			1,220,910

（出典）各校のホームページ

表 19 理工学部の新年度納付金

大学	学部	学科	2022年度 初年度納入金
青山学院大学	理工学部	全学科	1,906,000
慶応義塾大学	理工学部	全学科	1,873,350
中央大学	理工学部	全学科	1,838,000
東京理科大学	理工学部	数学科	1,595,000
		物理学科	1,645,000
		応用生物科学科	1,677,000
		上記3学科以外の学科	1,660,000
明治大学	理工学部	数学科	1,791,000
		数学科以外の学科	1,811,000
平均			1,755,150

(出典) 各校のホームページ

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的 (概要)

今回収容定員を増加する神学部、理工学部および各学科が定める「教育研究上の目的」「人材養成の目的」は以下の通りであり、本学公式サイトにおいても公開している。(URL: https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_index.html)

神学部

[教育研究上の目的]

神学を中核とし、キリスト教倫理並びにキリスト教文化を包括するカトリシズムをその歴史の変遷を踏まえて教育し、キリスト教的価値観の創造的発展に寄与すること

[人材養成の目的]

カトリック教会と国際社会に貢献するために、キリスト教的価値観に基づく教養を備えた地球市民的人材や聖職者・教職者を養成すること

理工学部

[教育研究上の目的]

基盤となる専門分野の知識を習得するとともに、多様化した現代社会が抱える諸問題の解決に資するため、文理融合教育によって異分野を客観的に見ることのできる幅広い教養、すなわち「複合知」を身につけること

[人材養成の目的]

専門分野とともに「複合知」を習得し、多様化した現代社会が抱える諸問題を解決するために、幅広い視野から「科学・技術の発展」に貢献できる人材を養成すること物質生命物理学、化学、生物学、環境学、材料科学などの学問分野を融合的に学び、原子・分子から高分子、生命現象にわたる物質の基礎を理解し、応用・展開する能力を養うこと

物質生命理工学科

[教育研究上の目的]

物理学、化学、生物学、環境学、材料科学などの学問分野を融合的に学び、原子・分子から高分子、生命現象にわたる物質の基礎を理解し、応用・展開する能力を養うこと

[人材養成の目的]

新しい概念の物質や技術の創成に貢献するために、新しい物質観と生命観を備え、かつ、地球環境と科学技術の永続的な融和を担える人材を養成すること

機能創造理工学科

[教育研究上の目的]

物理学、数学への深い理解を基礎に、材料、デバイス、エネルギー、機械、システムに関する知識を習得することによって、まったく新しい価値や機能を生み出す能力を養うこと

[人材養成の目的]

科学技術上の諸問題の解決に貢献するために、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを応用・発展させることのできる人材を養成すること
情報理工情報科学，電子情報学，数学，生物学を基礎とし，人間・通信・社会・数理の情報分野を学び，文理の学際的視点も併せもち，情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養うこと

情報理工学科

[教育研究上の目的]

情報科学，電子情報学，数学，生物学を基礎とし，人間・通信・社会・数理の情報分野を学び，文理の学際的視点も併せもち，情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養うこと

[人材養成の目的]

人間や社会に役立つ情報の体系やシステム、新しい情報技術の創成に貢献するために、人間、社会が築いてきた情報、知識、概念を理解・蓄積し、これらを情報技術の活用により発展させることのできる人材を養成すること

- ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠
上智大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づく隣人性と国際性を教育と研究の根幹に

置き、「他者のために、他者とともに生きる人」(For Others, With Others)の育成を教育精神として掲げ、設立時よりこの精神に基づく人間教育を中心に据えている。世界の人々と共に歩む「隣人性」と「国際性」を貫く大学として、特にグローバル教育に関して高い評価を得てきている。大学全体としては、「基盤教育センター」の設置により、大学で得た知識と実社会の繋がりへの理解を深め、学生が自ら学びをデザインするカリキュラムによる全学共通教育の刷新を2022年度から展開している。【資料6】

上智大学に対する社会的評価の代表的なものとしては、Times Higher Education 社が実施する「THE 世界大学ランキング日本版」がある。本調査には開始初年度の2017年度より5年連続で参加しており、最新2022年度版では総合20位(私大では4位)の評価を受けており、私大4位は5年連続である。【資料2】本調査は、評判調査関連の評価割合が全体の46%と比重が大きく、評判調査が含まれる「教育充実度」「教育成果」のスコアと総合スコアとの相関が高いため、学生・企業・高校教員と広いステークホルダーからの評判獲得が得られていると考えられる。また、教育・研究力や就職力といった指標で構成される、『週刊東洋経済 臨時創刊 本日に強い大学2022』の「総合ランキング」においても、私立大学でこちらも日本国内4位の評価を受けている。

人材需要に込んでいる根拠のひとつとして、就職者/就職希望者(就職者+就職活動継続者)により算出される「就職率」が挙げられるが、本学は大学全体での就職率は高いレベルで推移しており、これについては日本経済新聞社による「企業ごとの大学別就職者数」調査においても全国4位の評価を受けている。【資料7】今回収容定員を増加させる学部における就職動向については詳細を後述する。

また、2022年1月に卒業生に対して実施した「卒業生調査」では、「上智大学を家族や同僚に薦める可能性はどれくらいでしょうか?」という顧客ロイヤリティを測る指標であるNPSを測定する設問において、32という数値を計上している。【資料8】これは首都圏他大学と比べてもきわめて高い数値である。調査年度は異なるものの、株式会社 Emotion Tech 社が2018年度に広く都市部大学に対して実施した調査では、マイナスの結果になっている大学も多く、この32という数値は極めて高いと考えられる。【資料9】

(神学部)

神学部の就職状況については、すでに「学則の変更の趣旨等を記載した書類」でも説明した通り、近10年平均で93.8%となっており、100%を記録した年度もあって、高いレベルにあると評価できる。就職先の業種・業界も特定分野によらず多岐にわたっており、多くの分野からのニーズにこたえている。(表20参照)

表 20：神学部卒業生業種別就職状況

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	総計
運輸・郵便			3	5	3	6	2	1	1		21
卸・小売	3	3	4	4	3	4	3	3	2	5	34
教育	5	5	9	4	7	2	3	6	4	7	52
金融	4	3	1	5	4	4	2	3	2	1	29
建設・不動産		1		4	1		2	3		1	12
公務員					1		1	1	1		4
情報・通信	1	4	3	4	5	4	5	6	6		38
情報通信										2	2
製造	6	1	5	4	1	5	5	2	3	4	36
調査・専門サービス	1	2	3			5	2	2	3	2	20
その他	5	3	7		6	2	4	9	4	4	44

神学部固有の進路状況としては、教員を毎年複数名輩出している点が挙げられる。10年間で36名が卒業後すぐに教員免許を取得し教員として就職しており、そのうち約8割はカトリック学校を就職先としている点はきわめて特徴的で、日本で最大のカトリック大学としての役割を果たしていると言える。【資料10】

カトリック司祭養成、修道者・修道女養成の伝統的な役割も有しており、たとえば本学で専任教員職をつとめるイエズス会司祭教員のうち、18名中17名は本学神学部、神学研究科の出身である。

また、本学の人文科学系学部である文学部、外国語学部と比べて大学院進学率が高く、上述の聖職者としてのキャリア形成を志す者は進学するケースが多い。

このように、本学神学部はカトリック教会の聖職者志願と宗教教育に携わることを目指す学生への教育という伝統的な役割を担いつつ、キリスト教的価値観に裏付けられた倫理的判断力により人間の尊厳を追求できる人材養成、現代社会のために貢献できる人材養成という取り組みが、上述の就職実績にあらわれていると考える。

（理工学部）

理工学部の就職状況については、すでに「学則の変更の趣旨等を記載した書類」でも説明した通り、近10年平均で97.9%というきわめて高い数値となっているほか、内部進学が多い理工学研究科理工学専攻博士前期課程でも近10年平均で98.3%を記録しており、本学の理工学教育に対する高い評価の表れと言える。特に、近10年平均で算出される旧東証一部上場企業への就職率は44.7%、従業員数5千名以上の企業への入社率は43.9%といずれも本学が擁する9学部の中でトップであり、いわゆる「就職力」が高いことを示している。

（表21参照）

表 21：過去 10 年間に於ける旧東証一部上場企業・従業員数 5000 人以上企業への入社数

○過去10年間に於ける旧東証一部上場企業・従業員数5000人以上企業への入社数 *進路届出時点の情報を元に算出

学部名	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	計	割合
一部上場企業就職者数	70	65	82	67	70	85	97	104	104	80	824	44.7%
従業員数5000人以上企業への入社数	56	55	73	52	63	72	87	78	79	78	693	43.9%

また、技術職ではなく、いわゆる文系就職でも理系出身者のニーズが高まっていると言われており、その背景には、企業における業務の複雑化が進み、多くの仕事で統計や分析スキルが必要になるケースが多くなってきたことがあって、科学的な知識を活用できる理系学生は文系就職でも有利に就職活動を進めることができるとの評価もある。理系であることのメリットを活かして活躍している人も多く、具体的には、法務部で契約や特許などを担当したり、総務部でシステム管理を行ったり、広告制作などのクリエイティブ職、経営コンサルタントでも理系出身者の進出が目立つと言われている。本学部理工学部の就職実績においても、こうした要素が含まれていると考えられる。【資料 1 1】

社会的な動向としては、内閣府が 2016 年に策定した「第 5 期科学技術基本計画」において提唱された、IoT・ロボット・人工知能等に代表される先端技術を利用し社会の発展と社会課題解決の両立を目指す「Society 5.0」が、産官学どの組織体においても強く意識され、本学においてもその対応を進めてきた。さらに、コロナ禍を経て加速度を増すデジタルトランスフォーメーション化も踏まえ、Society 5.0 時代においてこれまでの工業化社会とは違う「思考・発想」が必要になると言われている中、本学理工学部が提唱する「複合知」は、これに対応しうる特徴を持ち合わせていると言えるだろう。【資料 1 2】

また、現代日本社会の課題として浮き彫りになっている経済的格差、社会的格差、地域間格差といった問題への対応として、2022 年 6 月 7 日に公開された「デジタル田園都市国家構想」においてもデジタル人材の育成が掲げられているが、情報理工学科を中心に本学の理工教育はこうした点についても応えうると考える。【資料 1 3】

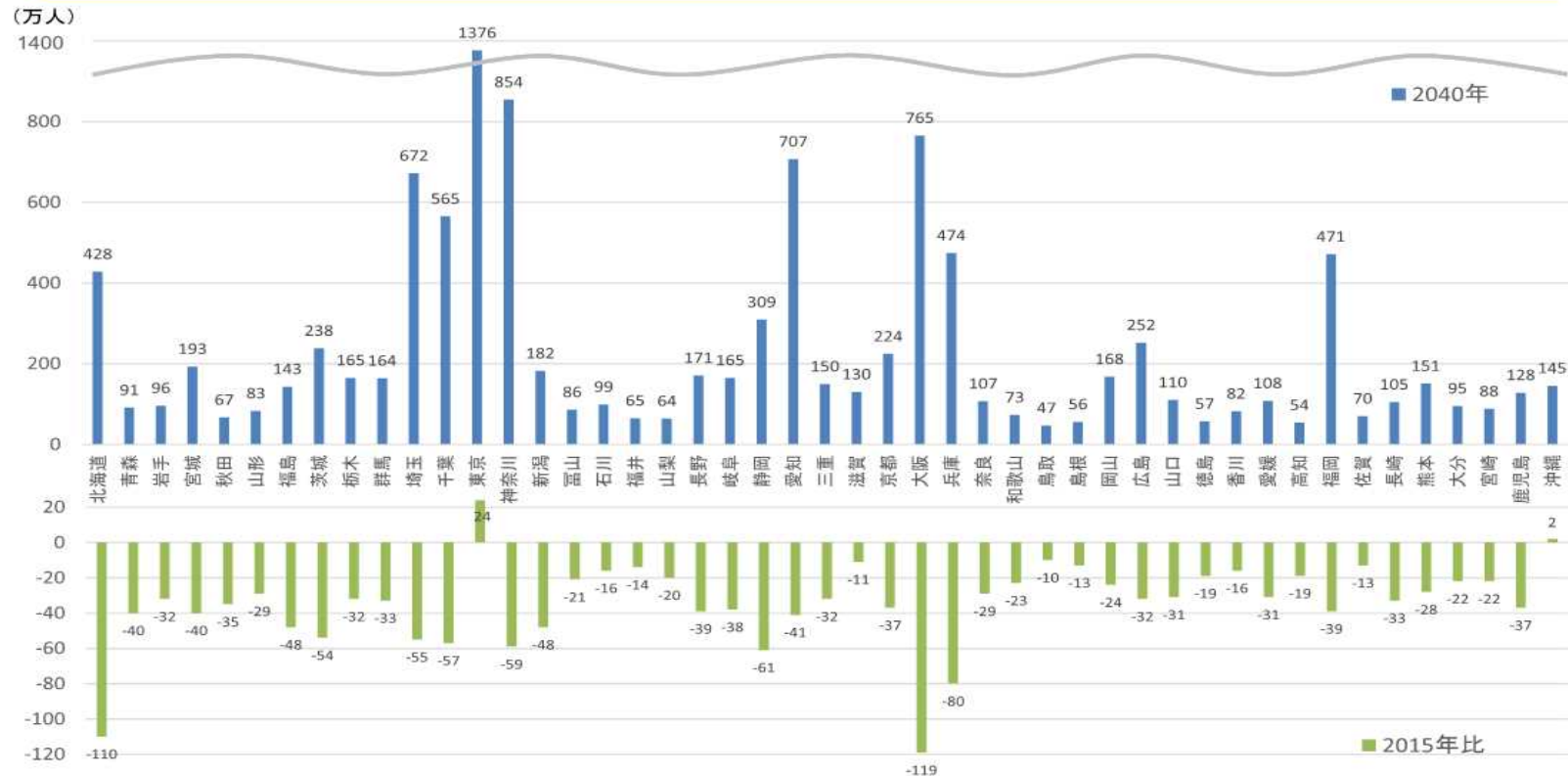
以 上

資料目次

- 資料1 都道府県別総人口の将来推計
- 資料2 THE 世界大学ランキング日本版 2022
- 資料3 上智大学入学センターYouTube チャンネル
- 資料4 上智大学大阪サテライトキャンパス紹介
- 資料5 2022 年度上智大学オープンキャンパス
- 資料6 上智大学の全学教育の刷新
- 資料7 2021 年企業ごとの大学別就職者数
- 資料8 「上智大学卒業生調査 2021」の NPS 結果
- 資料9 全国大学 NPS[®]調査結果
- 資料10 神学部卒業者の教育機関就職状況
- 資料11 ニーズが高まる理系学生の文系就職
- 資料12 社会構造の変化・必要となる思考・発想の変化
- 資料13 デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像

都道府県別総人口の将来推計

2015年と比べて、2040年は東京都と沖縄県を除く全ての道府県で総人口が減少することが見込まれる。



(出典)国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」を基に作成

令和 3 年 12 月 15 日開催 中央教育審議会大学分科会 (第 164 回) 資料

【資料2】THE世界大学ランキング日本版2022

順位	大学名	設置	総合	教育リソース	教育充実度	教育成果	国際性
1	東北大学	国立	85.6	78.6	84.5	98.6	88.6
2	東京大学	国立	81.7	81.3	82.7	96.9	69.0
=3	大阪大学	国立	81.6	72.2	83.7	96.6	82.7
=3	東京工業大学	国立	81.6	72.9	84.1	95.9	81.2
5	京都大学	国立	80.7	76.8	78.0	98.8	76.6
6	北海道大学	国立	79.0	67.6	81.2	98.7	79.1
7	九州大学	国立	78.8	69.4	81.9	96.2	76.1
8	名古屋大学	国立	78.1	71.4	80.5	97.2	70.8
9	筑波大学	国立	77.5	68.2	83.7	92.0	72.3
10	広島大学	国立	72.3	60.2	81.1	77.3	75.9
11	慶應義塾大学	私立	71.7	56.4	78.6	93.2	70.1
12	国際基督教大学	私立	71.3	44.8	91.3	57.9	97.1
13	早稲田大学	私立	71.1	45.6	78.8	94.6	84.1
14	神戸大学	国立	70.4	60.3	78.3	77.6	70.0
15	東京医科歯科大学	国立	69.0	80.7	61.5	56.6	70.3
16	一橋大学	国立	68.3	43.6	81.0	78.0	83.8
17	国際教養大学	公立	67.6	44.0	92.1	43.2	90.6
18	会津大学	公立	65.8	57.7	81.1	38.0	78.6
19	金沢大学	国立	64.6	59.8	74.9	49.9	69.3
20	上智大学	私立	64.3	37.1	82.7	56.1	89.4
=21	千葉大学	国立	64.0	57.4	76.5	57.4	61.8
=21	岡山大学	国立	64.0	57.0	73.3	56.4	68.1
23	東京農工大学	国立	63.5	61.3	71.9	50.4	65.1
24	立命館アジア太平洋大学	私立	63.4	20.3-29.0	86.5	49.3	99.8
25	お茶の水女子大学	国立	63.1	57.7	79.8	41.7	64.5
26	横浜国立大学	国立	62.7	47.1	74.4	58.7	74.9
27	東京外国語大学	国立	62.5	35.6	84.5	47.0	87.6
28	芝浦工業大学	私立	61.5	43.7	78.3	49.6	76.3
29	東京理科大学	私立	61.2	49.2	81.6	68.8	44.9
30	長崎大学	国立	60.9	57.0	69.8	49.1	63.8
=31	熊本大学	国立	60.2	56.8	69.1	48.4	62.1
=31	長岡技術科学大学	国立	60.2	54.2	67.0	36.8	78.8
=31	立命館大学	私立	60.2	34.2	81.6	54.2	76.9
34	横浜国立大学	公立	59.2	65.9	72.5	39.4	43.8
35	京都工芸繊維大学	国立	58.5	52.0	62.5	41.6	77.4
36	豊橋技術科学大学	国立	58.4	60.2	49.3-56.1	41.4	79.8
=37	電気通信大学	国立	58.0	56.2	65.2	42.4	62.8
=37	九州工業大学	国立	58.0	48.0	75.6	46.7	57.6
39	東京海洋大学	国立	57.9	57.2	64.1	44.5	60.7
40	東京都立大学	公立	57.8	53.2	68.6	53.2	53.3
=41	同志社大学	私立	56.8	33.4	76.9	52.4	70.1
=41	明治大学	私立	56.8	36.0	79.6	52.6	61.1
43	神田外語大学	私立	56.0	20.3-29.0	82.7	35.0	79.6
=44	関西学院大学	私立	55.9	33.3	75.7	46.1	72.7
=44	立教大学	私立	55.9	31.0	80.2	38.4	75.6
46	福岡女子大学	公立	54.8	38.7	74.5	-	87.8
47	信州大学	国立	54.0	52.1	70.3	49.7	28.7-38.8
=48	青山学院大学	私立	53.9	33.8	76.6	44.6	61.4
=48	中央大学	私立	53.9	36.8	76.6	44.0	57.1
=50	新潟大学	国立	53.8	50.2	72.3	41.0	42.4
=50	大阪市立大学	公立	53.8	61.5	62.2	45.0	28.7-38.8

出典：株式会社ベネッセコーポレーション「『THE世界大学ランキング日本版』ランキングページ」(<https://japanuniversityrankings.jp/rankings/>)をもとに作成。

※2022年6月10日閲覧

【資料3】上智大学 入学センター Youtube チャンネル

2023年度 入試説明 ▶ すべて再生

- 【上智大学】2023年度 入試説明 (一般選抜・公募制) 24:08
- 【上智大学】2023年度 一般選抜制度概要 (3方式説明) 7:56
- 【上智大学】2023年度 一般選抜3方式説明 (TEAPスコア利用方式) 8:39
- 【上智大学】2023年度 一般選抜3方式説明 (学部学科試験・共通テスト併用方式) 11:26
- 【上智大学】2023年度 一般選抜3方式説明 (共通テスト) 8:34
- 【Sophia University】 Admissions information for... English-taught programs 20:53

大学説明・学部紹介 ▶ すべて再生

- 【上智大学】2023年度 大学説明 13:56
- 【学部紹介】神学部 15:23
- 【学部紹介】文学部 14:49
- 【学部紹介】総合人間科学部 26:31
- 【学部紹介】法学部 25:23
- 【学部紹介】経済学部 (経済学科・経営学科) 28:21

学科紹介 ▶ すべて再生

- 【学科紹介】文学部 史学科 17:06
- 【学科紹介】文学部 英文学科 11:32
- 【学科紹介】文学部 新聞学科 「1分間のテレビ番組を作...」 25:03
- 【学科紹介】総合人間科学部 教育学科 19:29
- 【学科紹介】総合人間科学部 心理学部 29:18
- 【学科紹介】総合人間科学部 社会学科 16:32

トップページ

<https://www.youtube.com/channel/UCFhL8pprI6XV0MT4IkjoKPKQ>

神学部紹介動画

<https://www.youtube.com/watch?v=DJqoSf6XaaU>

理工学部紹介動画

<https://www.youtube.com/watch?v=rmMfrP8IybU>

※以上すべて2022年6月10日閲覧

【資料4】上智大学大阪サテライトキャンパス紹介

上智大学大阪サテライトキャンパス

大阪の拠点からSOPHIAをより身近に

大阪の中心・梅田からほど近いサクラファミリア（大阪梅田教会）2階に上智大学大阪サテライトキャンパスがあります。本学スタッフが常駐し、関西地域における情報発信の拠点として、受験生・在学生・保護者・卒業生、そして地域の方々との「知的出会いの場」の機能を有し、さまざまなサービスを提供します。大学案内をはじめとしたパンフレットの配布や過去問題の閲覧・コピーも可能。受験生向けの進学相談会や公開講座、講演会等も実施しております。お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

特別入学試験過去問題の閲覧・コピーサービス

これまで東京の四谷キャンパスでしか閲覧できなかった特別入試の過去問題（3年分）が閲覧・コピーできます。

《閲覧・コピーできる入試過去問題》

○公募制推薦入試 ○海外就学経験者入試 ○編入学試験 ○外国人入試

※一般入試は神学部2次試験のみ公開

※一部の学科においては非公表となっている場合があります。

原本証明サービス

出願に必要な証明書などは、原則として原本（オリジナル）の提出が求められます。

事情により原本を提出できない場合は、コピーをとり、出身・在籍校の証明印をもらってください（原本証明を行ってください）。

大阪サテライトキャンパスにおきましても、原本をお持ちになれば、コピーを作成し証明印を押印します。事前にお電話もしくはメールでご来室の日時をお知らせください。

個別相談

事前に電話・メールにてご来室日をお知らせいただくとスムーズにご案内ができます。



●アクセス

上智大学大阪サテライトキャンパス

・地下鉄御堂筋線「中津駅」3番出口より徒歩3分

・阪急「梅田駅」茶屋町口より徒歩4分

・JR「大阪駅」御堂筋北口より徒歩10分

※駐車場はございません。公共交通機関でお越しください。

●お問い合わせ先

上智大学大阪サテライトキャンパス事務センター

〒531-0072 大阪市北区豊崎3丁目12番8号

サクラファミリア（カトリック大阪梅田教会）2階

電話：06-6450-8741 開室時間：平日10：00～18：00

※土曜日の開室状況についてはお電話にてご確認ください
大阪サテライトWEBサイト <http://www.sophia-osaka.jp/>



【資料5】2022 年度上智大学オープンキャンパス

8/2

火

体験授業テーマ

CHECK!

体験授業に
参加される際の
注意点

- 着室に入室前に必ず事前予約システム マイページの「受取証」をご準備ください。(スマートフォン画面、紙に印刷したもの、いずれも可)
- 授業開始5分前までに入室ください。
- 一人でも多くの受験生にご参加いただくために、保護者の方のご予約・ご入場はお断りしております。
- 同じタイトルの授業は各回とも同一の内容です。



事前予約制の体験授業 テーマ一覧

以下の体験授業へ参加するには事前Web予約が必要です。

学部学科	タイトル	教員名	開催場所	時間	
神学部	神学科	いのちとケアリング	竹内 修一	6号館 4F 404	11:15~12:00
		神と悪	ホアン・アイダル	6号館 4F 404	13:45~14:30
文学部	哲学科	哲学と言語	杉尾一	12号館 5F 502	10:00~10:45
		悪について	萩野 弘之	12号館 3F 302	13:45~14:30
	史学科	中国復讐兵士たちの戦後経験	笹川 裕史	6号館 4F 401	12:30~13:15
				6号館 3F 301	15:00~15:45
	国文学科	洋学と近代日本語 ― 学術用語はどのように翻訳されたか	齋藤 隆	6号館 2F 201	12:30~13:15
		『源氏物語』を読んで表景の豊かさを味わおう	本廣 陽子	6号館 3F 302	15:00~15:45
	英文学科	Language, Gender and LGBTQ Inclusivity	リチャード・ビナー	6号館 3F 302	10:00~10:45
		Poetry in Children's Literature	ドミニク・チータム	6号館 3F 301	12:30~13:15
	ドイツ文学科	グリム童話と魔女	佐藤 昭之	6号館 3F 304	10:00~10:45
		ドイツ中世英雄叙事詩「ニーベルングの歌」	中井 真之	6号館 3F 304	12:30~13:15
フランス文学科	フランス語と出会う、フランスを発見する	ミカエル・アブレ	12号館 4F 402	10:00~10:45	
	シンデレラはどう変わっていったか	博多 かおる	12号館 4F 402	12:30~13:15	
新聞学科	「メディアとして発信する」を体験する授業	水島 宏明	6号館 3F 301	10:00~10:45	
		斎藤 清治	6号館 3F 302	12:30~13:15	
外国語学部	英語学科	Reading 'A Bear Called Paddington' in Historical Context	ローレンス・ウィリアムズ	6号館 2F 205	11:15~12:00
		日本人と北米人は心理学的にどう違うのか	出口 真紀子	6号館 2F 205	13:45~14:30
	ドイツ語学科	ことばと世界、ことばの世界	斎藤 亮介	12号館 1F 102	11:15~12:00
		はじめてのドイツ語	佐藤 友紀子	12号館 1F 102	13:45~14:30
	フランス語学科	世界の中のフランス：現代フランス外交を学ぼう！	小島 真智子	6号館 4F 402	11:15~12:00
		フランス語で話そう！	シモン・アユシェ 原田 早苗	6号館 4F 401	15:00~15:45
	イスパニア語学科	建築から外国を知る ― スペイン建築に見る異文化共存の歴史	松原 典子	6号館 4F 401	10:00~10:45
		¡Buenas tardes! スペイン語で話しましょう！	アントニオ・ドニヤス	6号館 4F 402	13:45~14:30
	ロシア語学科	ロシア語を体験しよう！	ヴァルグアフ・ムヒナ	6号館 2F 201	10:00~10:45
		ロシア語の基本の「き」	阿出川 修憲	6号館 2F 201	15:00~15:45
ポルトガル語学科	ポルトガル語ははじめの一歩	ルシーラ・エツコ・ギボ	12号館 3F 302	11:15~12:00	
	ポルトガル語圏世界の魅力と学ぶ醍醐味	矢澤 達宏	12号館 2F 202	15:00~15:45	
総合 グローバル学部	総合 グローバル学科	コーヒーと牛：文化人類学から見た東南アジア・東ティモールの人々の暮らし	權武 慎太郎	12号館 5F 502	12:30~13:15
		オスマン帝国イスタンブルでコーヒーを飲む	山口 昭彦	12号館 5F 502	15:00~15:45
生命倫理研究所	高校生のための生命倫理入門	浅見 昇基	6号館 3F 304	15:00~15:45	

8/3

水 体験授業テーマ

CHECK!

体験授業に参加される際の注意

- 教室に入場前に必ず事前予約システムマイページの「受取証」をご準備ください。(スマートフォン画面、紙に印刷したもの、いずれも可)
- 授業開始5分前までにご着席ください。
- 一人でも多くの受験生にご参加いただくために、保護者の方のご予約・ご入場はお断りしております。
- 同じタイトルの授業は各回とも同一の内容です。



事前予約制の体験授業 テーマ一覧

以下の体験授業へ参加するには事前Web予約が必要です。

学部学科	タイトル	教員名	開催場所	時間	
総合人間科学部	教育学科	「人間の尊厳」から教育を考える	鈴木 宏	6号館 2F 205	10:00~10:45
		SDGsから考える日本社会の格差と教育	相澤 真一	6号館 4F 401	15:00~15:45
	心理学科	快楽を見つめる自己	徳口 匠貴	6号館 2F 205	12:30~13:15
		子どもたちとともに関わりたいのために：病気の子どもに対する心理学の視点とは	横山 恭子	6号館 2F 205	15:00~15:45
	社会学科	くつながりへの戦後史と社会学	中澤 秀雄	12号館 4F 402	12:30~13:15
		食文化の社会学・事始め	芳賀 学	12号館 5F 502	15:00~15:45
	社会学科	当事者から学ぶ社会福祉とは？	並原 千絵	6号館 2F 201	11:15~12:00
社会学科	ワークライフバランスの重要性とその効果	丸山 恭	6号館 2F 201	13:45~14:30	
看護学科	がんとともに生きる人を支えるケアリング	三宅 真理	6号館 4F 402	10:00~10:45	
	世界で通用する日本の看護の知とアート(技)	吉野 八重	6号館 4F 401	12:30~13:15	
法学部	法律学科	裁判官は誰のもの？	豊崎 重夫	6号館 4F 401	10:00~10:45
		行政法って何？	大橋 真由美	6号館 4F 402	12:30~13:15
	国際関係法学科	障害者権利条約の日本への影響	永野 仁美	6号館 3F 301	10:00~10:45
		EU法の国際法との違い — EU法の国内法に対する優越性 —	東 史彦	6号館 3F 301	12:30~13:15
地球環境法学科	環境をどう保護するか — 環境法政策手法のタイプと特徴		6号館 4F 404	12:30~13:15	
			6号館 4F 402	15:00~15:45	
経済学部	経済学科	Introduction to Macroeconomics	マティアス・シュレーゲル	12号館 3F 302	11:15~12:00
		ゼミの活動紹介：ゲーム理論と行動経済学を使った課題解決学習	川西 裕	12号館 3F 302	13:45~14:30
	経営学科	企業経営におけるリスクとそのデザイン	石井 昌宏	12号館 5F 502	12:30~13:15
		Invitation to Accounting	瀧西 敦子	12号館 4F 402	15:00~15:45
人間の安全保障研究所 (経済学部共催)	開発経済学入門：経済学は貧困問題の解決に役立つのか？	徳口 裕誠	12号館 5F 502	10:00~10:45	
Faculty of Liberal Arts (国際教養学部)	Faculty of Liberal Arts (国際教養学科)	A Closer Look at Poverty In the Developing World	Gabriel Fuentes Cordoba	6号館 4F 404	10:00~10:45
		Refugees, Japan and You	David Slater	6号館 3F 301	15:00~15:45
理工学部	物質生命理工学科	プラズマを使ったものづくり	田中 邦敏	6号館 3F 302	10:00~10:45
		植物の柔軟な環境適応能力	鈴木 伸洋	6号館 3F 304	13:45~14:30
	機能創造理工学科	原子を見て、操る	坂間 弘	6号館 3F 304	11:15~12:00
		電気自動車(EV)は、本当にCO2削減に寄与するのか？	一柳 浩久	6号館 3F 302	12:30~13:15
情報理工学科	Wi-Fiセンシング	小川 将克	12号館 1F 102	10:00~10:45	
	あみだくじの数理	後藤 源史	12号館 1F 102	12:30~13:15	
Sophia Program for Sustainable Futures (SPSF共催科目)	Learning for Sustainable Futures	Hideki Maruyama	2号館 4F 414	10:00~10:45	
			2号館 4F 414	15:00~15:45	

FREE 理工学部 ラボツアー・研究紹介

普段は一般公開していない理工学部の研究室や研究内容、施設や設備をご案内します。

物質生命理工学科 ラボツアー

10:00~15:30(最終出発) 1号館 3F 302(集合)

20~30分程度に化学系・物理系・生物系の研究室をめぐるラボツアーを行います。奮ってご参加ください。(標準所要時間40分程度。多少前後いたします。)

- 火山と温泉の化学
- ナチュラル分子を追い求めて
- 微生物の世界を覗いてみよう



機能創造理工学科 ラボツアー

10:00~15:30(最終出発) 3号館 1F 125(集合)

今年も機械工学系・電気・電子工学系・物理工学系の研究室をご紹介します。3つのコースを設けています。要予約だけでなく保護者の方も是非ご参加ください。(標準所要時間30分程度)

- Aコース(物理学→電気・電子工学)
- Bコース(電気・電子工学→機械工学)
- Cコース(機械工学→物理学)

コース内容に関しては、下記の学科ホームページで確認ください。



<http://www.eas.sophia.ac.jp/>

情報理工学科 ラボツアー

10:50~15:00(最終出発) 1号館 3F 305(集合)

30分ごとにツアーがあります(所要時間50分程度)。ツアーにつき定員は10人程度。先着順となります。画像認識、Wi-Fi AL、光ファイバ通信、音響・音響、脳神経、デジタル書体など多彩な研究室を見学できます。ツアーの詳細は下記のQRコードからご覧ください。

情報理工学部ホームページ



情報理工学科 オープンラボ

10:00~16:00

【公開研究室】

以下の研究室では随時、見学を受け付けています。研究内容をじっくり聞くことができます。詳細は右上のQRコードからご覧ください。

- 音声コミュニケーション(音声研究室) 3号館 3F 347
- 光ファイバ通信(情報研究室) 3号館 3F 340
- 言語・教育・人間に関する情報処理 3号館 1F 147
- ブロックチェーンの原理について(総合研究室) 8号館 4F 464 [1日2回のみ]

情報理工学科 研究展示コーナー

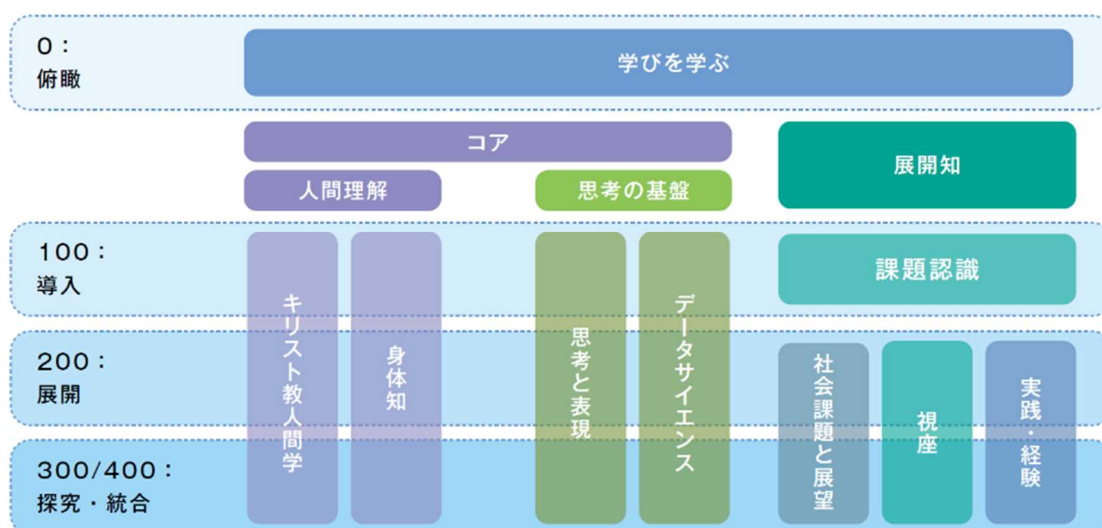
10:50~16:00 4号館 3F 395A

全研究室の研究をポスターで紹介し、気軽に話しかけられます。学生が質疑形式で質問にもお答えします。また、数学教員と協働できるコーナー[Math Ubiquitous II ~どこにも数学~]もあります。

【資料6】上智大学の全学教育の刷新

「入学前準備教育として、上智大学での学びをイメージし、入学後の学修への動機付けを行う科目「学びを学ぶ」をオンデマンドで提供。そして入学後は、大きく「コア」と「展開知」に分けられた科目群からなる全学共通科目を提供し、語学科目や所属学科の専門科目と連携させて学べるようにする。」

全学共通科目基本コンセプト(レベルと科目群イメージ)



* 出典 :

リクルート進学総研「全学共通教育を刷新し、学生が自ら学びをデザインするカリキュラムを作る／上智大学」

(<https://souken.shingakunet.com/higher/2022/04/post-3268-1.html>)

※2022年6月10日閲覧

【資料7】2021年 企業ごとの大学別就職者数

順位	設置	大学名	所在地	就職者数
1	◎	早稲田大*	東京	12
2	※	東京大*	東京	10
	◎	慶應義塾大*	東京	10
4	◎	上智大*	東京	5
5	※	京都大*	京都	3
6	※	東京外国語大*	東京	2
	※	一橋大	東京	2
	※	横浜国立大*	神奈川	2
	※	大阪大*	大阪	2
10	※	北海道大*	北海道	1
	※	東北大*	宮城	1
	※	筑波大*	茨城	1
	※	東京工業大*	東京	1
	※	名古屋大*	愛知	1
	※	神戸大*	兵庫	1
	※	九州大*	福岡	1
	◎	学習院大	東京	1
	◎	中央大*	東京	1
	◎	明治大*	東京	1
	◎	同志社大*	京都	1
	◎	同志社女子大	京都	1

【表の見方】

医科・歯科の単科大等を除く全国738大学に2021年春の就職状況を調査。573大学から得た回答を基にランキングを作成した。就職者数にグループ企業を含む場合がある。

設置の※印は国立、◎印は私立、無印は公立。大学名横の*印は大学院修了者を含むことを表す。大学により、一部の学部・研究科を含まない場合がある。東京大学は「東京大学新聞」、京都大学は「京都大学新聞」より集計。

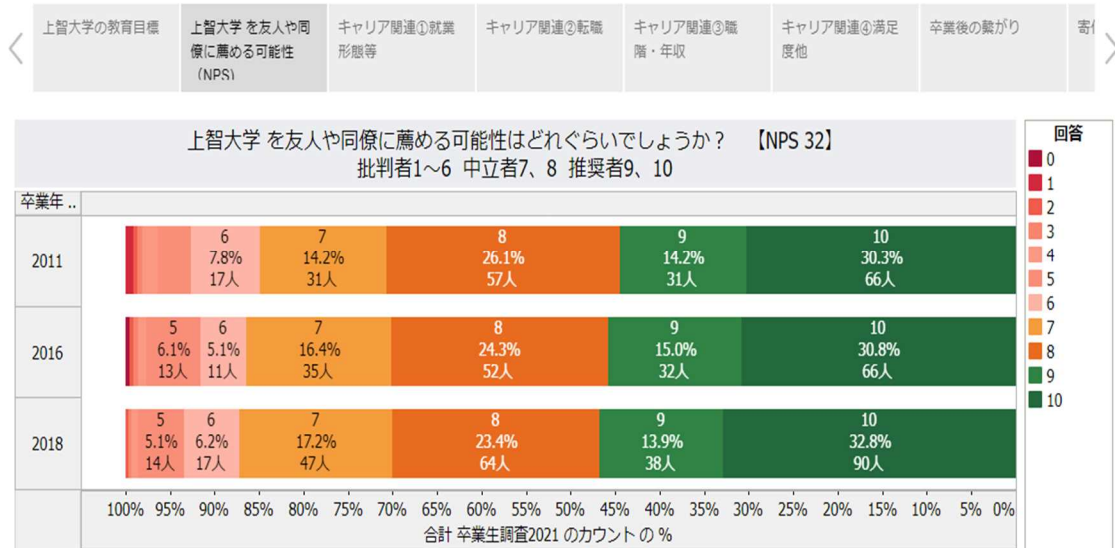
出典: 大学通信 ONLINE「2021年 企業ごとの大学別就職者数」

<https://univ-online.com/rank3/y2021/newspaper/r1930353/>

※2022年6月10日閲覧

【資料8】「上智大学卒業生調査 2021」の NPS 結果

卒業生調査



『NPS®とは「Net Promoter Score(ネットプロモータースコア)」の略で、顧客ロイヤルティを測る指標です。今まで計測が難しかった「企業やブランドに対してどれぐらいの愛着や信頼があるか」を数値化することで、企業の顧客との接点における顧客体験の評価・改善に生かされています。さらに、NPSは事業の成長率との高い相関があることから、欧米の公開企業では3分の1以上が活用しているとも言われており、日本でも顧客満足度に並ぶ新たな指標として注目を浴びています。

NPS®を測るには、「あなたはこの企業(製品/サービス/ブランド)を友人や同僚に薦める可能性は、どのくらいありますか?」という質問を行い、0~10の11段階で評価してもらいます。NPS®アンケートではこの非常にシンプルな聞き方でスコアを把握します。

NPS®スコアの計算方法は非常にシンプルで、9~10点を付けた顧客を「推奨者」、7~8点を「中立者」、0~6点を「批判者」と分類し、回答者全体に占める推奨者の割合(%)から、批判者の割合(%)を引いて出てきた数値がNPSの値となります。』

NTTコム オンライン「NPS(ネットプロモータースコア)とは?」より引用

引用元: Sophia Facts「上智大学卒業生調査 2021」

<https://dept.sophia.ac.jp/ir/graduate-survey/#page-content>

※2022年6月10日閲覧

【資料 9】

1 (書類等の題名)

株式会社エモーションテックによる「全国大学 NPS®調査結果」(【資料 9】
11 ページ)

2 (出典)

株式会社エモーションテックのホームページ

3 (引用範囲)

2018 年 12 月 25 日付プレスリリース「偏差値だけでは量れない! OB や OG による『入って良かった大学』とは ～あなたは母校をどの程度おすすめしますか?～」
ランキング
<https://www.emotion-tech.co.jp/news/2018/1225>

4 (その他の説明)

ホームページにおける、ランキング図表と NPS®の説明事項について資料とした。

【資料10】神学部卒業者の教育機関就職状況

採用年度 (進路決定)	学校名 ※はカトリック教育機関
2013	学校法人田園調布雙葉中学校・高等学校※
2013	八代白百合学園※
2013	聖園女学院※
2013	学校法人目黒星美学園※
2014	大阪信愛女学院※
2014	カリタス女子中学高等学校※
2014	会津若松ザベリオ中学校・高等学校※
2014	サレジオ学院中学・高等学校※
2015	札幌光星学園※
2015	静岡サレジオ小学校※
2015	学校法人田園調布雙葉中学校・高等学校※
2015	アレセイア湘南中学校・高等学校
2015	光塩女子学院※
2016	聖パウロ学園高等学校※
2016	学校法人六甲学院 六甲中学校・六甲高等学校※
2016	横浜栄高等学校
2016	聖ドミニコ学園中・高等学校※
2017	学校法人明治学院(明治学院高等学校・大学)
2017	和歌山信愛中学校・高等学校※
2017	海星中学校・海星高等学校(海星学園)※
2017	共愛学園
2017	明光学園中高等学校※
2018	広島学院※
2019	学校法人仙台育英学園高等学校
2019	京都聖母学院中学校・高等学校※
2019	井荻聖母幼稚園(教員)※
2020	北見富士高等学校
2020	東星学園中学校・高等学校※
2020	聖ドミニコ学院小学校※
2020	学校法人萩光塩学院中学・高等学校※
2020	東京都(教員)
2021	聖ヨゼフ学園※
2021	聖ヨゼフ学園※
2022	学校法人北海道カトリック学園 旭川藤星高等学校※
2022	星美学園小学校※
2022	鹿児島純心中学校※

【資料11】ニーズが高まる理系学生の文系就職

(引用開始)製品の高度化やあらゆる業種でのIT化が進んだために技術営業や企画専門職といった職種のニーズがあらゆる業界で高まっているのが現状です。さらに文系の代表格と言われているような職種にもたくさん理系出身者が就いている例はたくさんあります。こうした人に共通するのは、文系就職という畑違いの職種で苦労しているというのではなく、むしろ、理系であることのメリットを活かして活躍している人が多いということです。法務部で契約や特許などを担当したり、総務部でシステム管理を行ったり、広告制作などのクリエイティブ職、経営コンサルタントなどにも、理系出身者が進出しています。(引用終わり)

出典: 沢井製薬「サイエンスシフト」(2019年2月26日付) “理系学生の文系シフト。業界は理系学生を待っている”

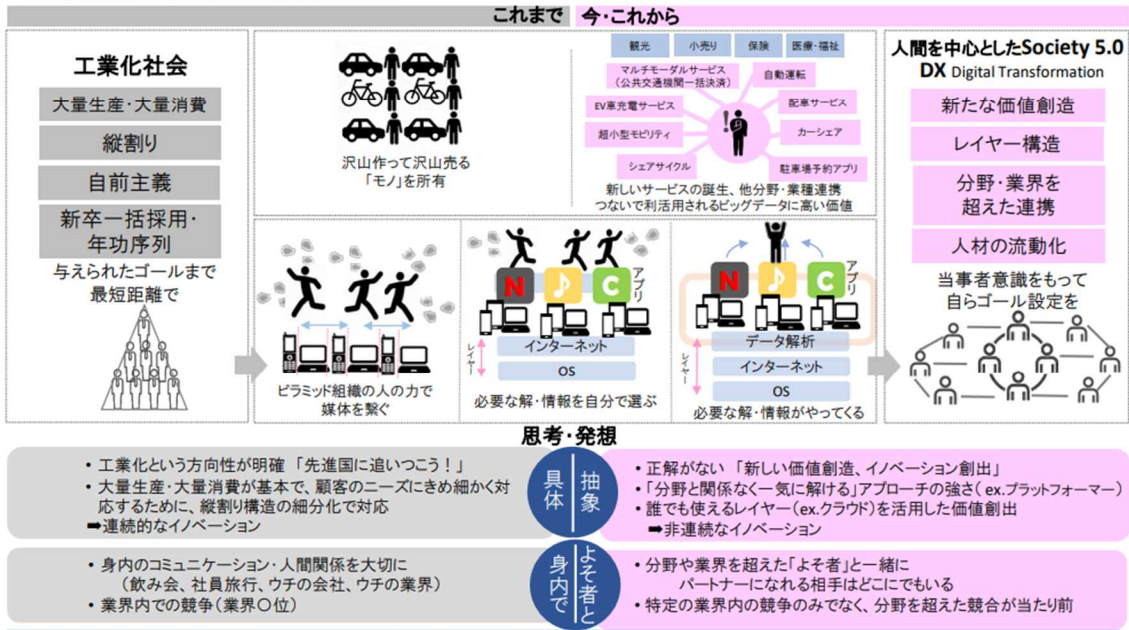
<https://www.scienceshift.jp/blog/liberal-arts-shift>

※2022年6月10日閲覧

【資料12】社会構造の変化・必要となる思考・発想の変化

1. 社会構造と子供たちを取り巻く環境の変化 (1) 社会構造の変化・必要となる思考・発想の変化

2016年に「第5期科学技術基本計画」において、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会として「Society 5.0」を提示。さらに2021年の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」において、「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」としてのSociety 5.0を再定義し、その実現を目指している。また昨今、必ずしも多くの人は実感していなかったデジタル化の波も、コロナ禍において広まったオンライン環境の急速な普及によってその影響力を目的に及ぼした。それに加えて、AIの飛躍的進化等により、我々の生活もDX(デジタルトランスフォーメーション)による変化が始まっている。人間中心のSociety 5.0時代において、人としての強みを活かしていく上では、一人ひとりが当事者意識を持ち、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出すことが求められ、これまでの工業化社会とは違う「思考・発想」が求められている。



出典: 総合科学技術・イノベーション会議「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」(2022年6月2日)

https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/saishu_1.pdf

※2022年6月10日閲覧

【資料13】デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像

「デジタル人材の育成・確保」

デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像

【基本的な考え方～「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して～】
 デジタルは地方の社会課題を解決するための鍵であり、新しい価値を生み出す源泉。今こそデジタル田園都市国家構想の旗を掲げ、デジタルインフラを急速に整備し、官民双方で地方におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を積極的に推進。

- デジタル田園都市国家構想は「**新しい資本主義**」の重要な柱の一つ。地方の社会課題を成長のエンジンへと転換し、持続可能な経済社会の実現や新たな成長を目指す。
- 構想の実現により、地方における仕事や暮らしの向上に資する新たなサービスの創出、持続可能性の向上、Well-beingの実現等を通じて、**デジタル化の恩恵を国民や事業者が享受できる社会**、いわば「**全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会**」を目指す。これにより、東京圏への一極集中の是正を図り、**地方から全国へとボトムアップの成長**を推進する。
- 国は、基本方針を通じて、**構想が目指すべき中長期的な方向性を提示し、地方の取組を支援**。特に、データ連携基盤の構築など**国が主導して進める環境整備に積極的に取り組む**。地方は、**自らが目指す社会の姿を描き、自主的・主体的に構想の実現に向けた取組を推進**。

【取組方針】

★解決すべき地方の社会課題

- 人口減少・少子高齢化
※出生率 1.45(2015年)→1.33(2020年)
※生産年齢人口 7,667万人(2016年)→7,450万人(2021年)
- 過疎化・東京圏への一極集中
※東京圏転入超過数 80,441人(2021年)
- 地域産業の空洞化
※都道府県別労働生産性格差 最大1.5倍(2018年)

デジタル活用を通じて、地域の社会課題解決・魅力向上の取組を、より高度・効率的に推進

(2024年度末までにデジタル実験に取り組む地方公共団体1000団体達成)

- ①地方に仕事をつくる
スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）、スマート農林水産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出等
- ②人の流れをつくる
「転機なき移住」の推進（2024年度末までにサテライトオフィス等を地方公共団体1000団体に設置）、オンライン関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、サテライトキャンパス等
- ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる
母子オンライン相談、母子健康手帳アプリ、子どもの見守り支援等
- ④魅力的な地域をつくる
GIGAスクール・遠隔教育（教育DX）、遠隔医療、ドローン物流、自動運転、MaaS、インフラ分野のDX、3D都市モデル整備・活用、文化芸術DX、防災DX等
- ⑤地域の特色を活かした分野横断的な支援
デジタル田園都市国家構想交付金による支援、スマートシティ関連施策の支援（地域づくり・まちづくりを推進するハブとなる経営人材を国内100地域に展開）等

➢ **デジタル田園都市国家構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備**
 2030年度末までの5Gの人口カバー率99%達成、全国各地で十数か所の地方データセンター拠点を5年程度で整備、2027年度末までに光ファイバの世帯カバー率99.9%達成、日本全国の高速ケーブル（デジタル田園都市スーパーハイウェイ）を2025年度末までに完成など、「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」の実行等を通じてデジタル基盤整備を推進。

①デジタルインフラの整備 ②マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大 ③データ連携基盤の構築
 ④IoTの活用による持続可能性と利便性の高い公共交通ネットワークの整備 ⑤エネルギーインフラのデジタル化

➢ **デジタル人材の育成・確保**
 デジタル推進人材について、2026年度末までに230万人育成。「デジタル人材地域交流戦略パッケージ」に基づき、人材の地域への交流を促進。
 「女性デジタル人材育成プラン」に基づく取組を推進。
 ①デジタル人材育成プラットフォームの構築 ②職業訓練のデジタル分野の重点化 ③高等教育機関等におけるデジタル人材の育成 ④デジタル人材の地域への交流促進

➢ **誰一人取り残されないための取組**
 2022年度に2万人以上で「デジタル推進委員」の取組をスタートし、今後更なる拡大を図るなど、誰もがデジタルの恩恵を享受できる「取り残されない」デジタル社会を実現。
 ①デジタル推進委員の展開 ②デジタル共生社会の実現 ③経済的事情等に基づくデジタルデバイドの是正 ④利用者視点でのサービスデザイン体制の確立
 ⑤「誰一人取り残されない」社会の実現に資する活動の展開・視察

（構想の実現に向けた地域ビジョンの提示） 地方の取組を促すため、構想を通じて実現する地域ビジョンを提示。


スマートシティ・スーパーシティ


「デジ活」中山間地域


産学官協創都市


SDGs未来都市


脱炭素先行地域


MaaS実装地域

【今後の進め方】
 ○デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）の策定（まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂）
 ・国は、2024年度までの地方創生の基本的方向を定めたまち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、構想の中長期的な基本的方向を提示するデジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）を策定。
 ・地方公共団体は、新たな状況下で目指すべき地域像を再構築し、地方版総合戦略を改訂し、具体的な取組を推進。国は、様々な施策を活用して地方の取組を支援。

1

出典：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局「デジタル田園都市国家構想基本方針について」（令和4年6月7日閣議決定）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/pdf/20220607_gaiyou.pdf

※2022年6月10日閲覧

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	テルミチ ヨシアキ 暉道 佳明 <平成29年4月>		工学博士		上智大学学長 (平成29年4月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。